

工 事 設 計 書

所 属 部 課 名	工務課								
管理者	課長	補佐	主査	主査	主査	班	班	設計者	設計審査
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事								
工事場所	松戸市幸田5丁目16番地 他1ヶ所								
事業年度	令和 8,9 年度								
工事価格	円								
請負工事費計	円								

設
計
説
明

- ・電気設備工事
非常用発電設備×一式（新設）
地下タンク×一式（新設）
- ・建築改修工事
発電機室改修工事×一式（改修）
発電機室建築電気設備改修工事×一式（改修）
発電機室建築機械設備改修工事×一式（改修）

本 工 事 内 訳 書

費目	工種	種別	細別	単位	数量	単価	金額	摘要
		電気設備工事		式	1			第 1 号内訳書参照
		土木工事		式	1			第 2 号内訳書参照
		建築改修工事		式	1			第 3 号内訳書参照
		建築電気設備改修工事		式	1			第 4 号内訳書参照
		建築機械設備改修工事		式	1			第 5 号内訳書参照
	直接工事費計			式	1			
		共通仮設費		式	1			
		共通仮設費計		式	1			
	純工事費			式	1			
		現場管理費		式	1			
	工事原価			式	1			

本 工 事 内 訳 書

費目	工種	種別	細別	単位	数量	単価	金額	摘要
		一般管理費等		式	1			
	工事価格			式	1			
		消費税及び地方消費税 相当額		式	1			
工事費計				式	1			

第 1 号内訳書 電気設備工事

1式

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
機器費		式	1			第 1 号単価表参照
材料費		式	1			第 2 号単価表参照
労務費		式	1			第 3 号単価表参照
複合工費	電気設備工事	式	1			第 4 号単価表参照
仮設費	電気設備工事	式	1			第 5 号単価表参照
計						

第 2 号内訳書 土木工事

1式

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
地下タンク新設工事		式	1			第 6 号単価表参照
場内整備工事		式	1			第 7 号単価表参照
計						

第 3 号内訳書 建築改修工事

1 式

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
直接仮設		式	1			第 8 号単価表参照
外壁改修		式	1			第 9 号単価表参照
建具改修		式	1			第 10 号単価表参照
内装改修		式	1			第 11 号単価表参照
塗装改修		式	1			第 12 号単価表参照
耐震（躯体）改修		式	1			第 13 号単価表参照
環境配慮改修		式	1			第 14 号単価表参照
発生材処理		式	1			第 15 号単価表参照
計						

第 4 号内訳書 建築電気設備改修工事

1式

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電灯設備	電灯幹線	式	1			第 16 号単価表参照
電灯設備	電灯分岐	式	1			第 17 号単価表参照
電灯設備	コンセント分岐	式	1			第 18 号単価表参照
撤去工事		式	1			第 19 号単価表参照
廃材処分費		式	1			第 20 号単価表参照
計						

第 5 号内訳書 建築機械設備改修工事

1式

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
衛生器具設備工事		式	1			第 21 号単価表参照
給水設備工事		式	1			第 22 号単価表参照
排水設備工事		式	1			第 23 号単価表参照
換気設備工事		式	1			第 24 号単価表参照
廃材処分費		式	1			第 25 号単価表参照
計						

第 1 号 単価表

機器費

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
自家発電装置	屋内キュービクル式 ディーゼル機関200kVA、420V	式	1			
排気消音器	三連構造 50dB以下	式	1			
排風消音器	縦型消音器 換気能力：227m ³ /min以上	式	1			
給気消音器	縦型消音器 給気能力：252m ³ /min以上	式	1			
給油口ボックス	屋外壁掛型 SUS製	面	1			
燃料移送ポンプ	安全防爆形	台	2			
地下タンク液位計	フロート式（防爆形）	台	1			
地下タンク	地下貯蔵タンク式 タンク容量：4000L	基	1			
補機盤	屋内自立型	面	1			
400V動力盤機能増設	幸田配水場	式	1			
高圧受電盤機能増設	幸田配水場	式	1			

第 1 号 単価表

機器費

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コントローラ盤(1)(2)機能増設	幸田配水場	式	1			
TM(子局)盤機能増設	幸田配水場	式	1			
TM(親局)盤機能増設	小金浄水場	式	1			
HIS1,2操作卓機能増設	小金浄水場	式	1			
Webサーバ機能増設	小金浄水場	式	1			
計	1 式 当り					

第 2 号 単価表

材料費

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
低圧ケーブル	600V EM-CET 325 sq	m	45.7			
低圧ケーブル	600V EM-CE 5.5 sq- 3 c	m	43.7			
低圧ケーブル	600V EM-CE 3.5 sq- 3 c	m	32.1			
低圧ケーブル	600V EM-CE 2 sq- 3 c	m	39.8			
低圧ケーブル	600V EM-CE 2 sq- 2 c	m	118			
制御ケーブル	EM-CEE 2 sq- 20 c	m	9.9			
制御ケーブル	EM-CEE 2 sq- 15 c	m	6.6			
制御ケーブル	EM-CEE 2 sq- 10 c	m	30.6			
制御ケーブル	EM-CEE 2 sq- 5 c	m	46.8			
制御ケーブル	EM-CEE 2 sq- 2 c	m	14.1			
制御ケーブル	EM-CEE-S 2 sq- 2 c	m	149			

第 2 号 単価表

材料費

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
制御ケーブル	EM-CPEE-S 0.65 mm- 3 p	m	39.6			
その他電線	EM-IE 60 sq	m	41.4			
その他電線	EM-IE 22 sq	m	38.5			
その他電線	EM-IE 14 sq	m	64.7			
その他電線	EM-IE 3.5 sq	m	96.1			
ケーブル付属材料費		式	1			
端末処理材	600V EM-CET 325 sq	組	2			
電線管類	FEP 50 mm (埋込)	m	64.6			
電線管類	FEP 30 mm (埋込)	m	126			
電線管類	GP 22 mm (露出)	m	82.5			
電線管付属材料費		式	1			

第 2 号 単価表

材料費

1 式 当り

3 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
接地装置	接地銅板 900*900*1.5t	枚	4			
接地装置	接地棒 φ14*1500	本	3			
接地装置	接地棒用リード端子 φ14用	本	3			
接地装置	接地埋設標 140*90*1.5t黄銅製	枚	6			
電線管類	接地埋設標 コンクリート製	本	6			
電線管類	ベルマウス FEP 50φ用	個	5			
電線管類	ベルマウス FEP 30φ用	個	10			
電線管類	異種管接続材 H型FEP 50φ用	個	1			
電線管類	異種管接続材 H型FEP 30φ用	個	2			
電線管類	プルボックス (SUS-WP) 150*150*100	個	2			
電線管類	ケーブル埋設シート	m	70.4			

第 2 号 単価表

材料費

1 式 当り

4 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート製品	ケーブル埋設標 コンクリート製	本	3			
コンクリート製品	鉄筋コンクリート側溝 (3種)500A	個	11			
コンクリート製品	鉄筋コンクリート側溝蓋 (3種)500A用	枚	44			
鋼材カバー	鋼板 3.2t	kg	11.6			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP 200 (屋内)	m	6.2			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP 200 (屋外)	m	0.8			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP PLC 65 (屋外)	m	11.2			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP 40 (屋内)	m	11.9			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP PLC 40 (屋外)	m	17.9			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP PLC 32 (屋外)	m	15.2			
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP 25 (屋内)	m	26.8			

第 2 号 単価表

材料費

1 式 当り

5 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
小配管, 弁類	炭素鋼鋼管 SGP PLC 25 (屋外)	m	17.5			
小配管付属材料費		式	1			
小配管, 弁類	仕切弁 JIS 10K40A	個	1			
小配管, 弁類	仕切弁 JIS 10K25A	個	7			
小配管, 弁類	逆止弁 JIS 10K25A	個	2			
小配管, 弁類	Y形ストレーナー JIS 10K25A	個	3			
小配管, 弁類	フレキシブル継手 JIS 10K200A	個	2			
小配管, 弁類	フレキシブル継手 JIS 10K65A	個	2			
小配管, 弁類	フレキシブル継手 JIS 10K40A	個	4			
小配管, 弁類	フレキシブル継手 JIS 10K25A	個	6			
小配管, 弁類	通気先端金具 32A	個	1			

第 2 号 単価表

材料費

1 式 当り

6 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
小配管, 弁類	燃料用緊急遮断弁 仕切弁 単相電動弁 (AC100V) φ25	個	1			
小配管, 弁類	燃料給油弁 仕切弁 単相電動弁 (AC100V) φ25	個	1			
小配管, 弁類	断熱材 ロックウール75mm	m2	4.21			
	小計行					
雑材料		式	1			
計	1 式 当り					

第 3 号 単価表

労務費

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
電工		人				夜間
配管工		人				
電気通信技術者		人				
計	1 式 当り					

第 4 号 単価表

複合工費

電気設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
防火区画処理補修 壁 300*1000		箇所	1			
防火区画処理補修 壁 300*300		箇所	1			
コア抜き 100φ		箇所	2			
コア抜き 75φ		箇所	15			
コア抜き 50φ		箇所	1			
床掘り		m3	92.2			第 26 号単価表参照
埋戻し	改良土	m3	72.1			第 27 号単価表参照
土砂運搬工		m3	72.1			第 28 号単価表参照
発生土処理		m3	20.1			第 29 号単価表参照
埋戻し	川砂	m3	8.26			第 30 号単価表参照
コンクリート		m3	1.25			第 31 号単価表参照

第 4 号 単価表

複合工費

電気設備工事

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
基礎碎石		m2	20.9			第 32 号単価表参照
一般型砕工	均しコンクリート	m2	2.75			第 33 号単価表参照
ナゲット処理		kg	127			
処分 1 号銅線		kg	57.4			
処分 2 号銅線		kg	16.8			
処分混合廃棄物		m3	0.02			
処分廃棄物運搬費		回	2			
計	1 式 当り					

第 5 号 単価表

仮設費

電気設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
取り卸しクレーン	ラフテレーンクレーン運転 油圧伸縮ジブ型20t吊	日				
敷鉄板賃料		枚	26			第 34 号単価表参照
敷鉄板設置・撤去		m2	121			第 35 号単価表参照
H鋼	300型	t・日	6.36			
H鋼運搬費	12m以内 片道10km	t	2.12			
交通誘導警備員B		人				
計	1 式 当り					

第 6 号 単価表

地下タンク新設工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土留め工事	鋼矢板打込み 鋼矢板Ⅲ型 L=6.00m	枚	62			第 36 号単価表参照
バイブロハンマ施工による	鋼矢板引抜き	枚	62			第 37 号単価表参照
床掘り		m3	103			第 26 号単価表参照
発生土処理		m3	33.7			第 29 号単価表参照
埋戻し	改良土	m3	69.3			第 27 号単価表参照
土砂運搬工		m3	69.3			第 28 号単価表参照
基礎砕石		m2	13.8			第 32 号単価表参照
コンクリート		m3	15.7			第 31 号単価表参照
一般型枠工	均しコンクリート	m2	0.9			第 33 号単価表参照
型枠		m2	73.6			第 38 号単価表参照
鉄筋工	鉄筋加工組立工 SD345、D13	t	1.777			第 39 号単価表参照

第 6 号 単価表

地下タンク新設工事

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
単管足場工	油圧伸縮ジャブ型 25t吊	掛m2	40			第 40 号単価表参照
乾燥砂		m3	10.8			
PHC杭	φ500、L=11m	本	4			
コンクリート		m3	0.5			第 41 号単価表参照
鉄筋工	鉄筋加工組立工 SD345、D16	t	0.041			第 42 号単価表参照
敷鉄板設置・撤去		m2	162.6			第 35 号単価表参照
敷鉄板賃料		枚	17			第 43 号単価表参照
敷鉄板賃料		枚	1			第 34 号単価表参照
水替え工		式	1			第 44 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 7 号 単価表

場内整備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
舗装工(人力施工)	車道及び路肩 仕上り厚50mm 大型車 再生粗粒度アスコン(20)	m ²	107.3			第 45 号単価表参照
下層路盤工(施工幅1.8m未満)	全仕上り厚20cm 転圧回数1層 RC-40	m ²	107.3			第 46 号単価表参照
歩車道境界ブロック		m	7.9			第 47 号単価表参照
舗装版切断		m	142			第 48 号単価表参照
バックホウによる舗装版直接掘削・積込工	舗装厚0cmを超え10cm以下 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)	m ²	124.4			第 49 号単価表参照
As塊運搬費	DID区間有り 運搬距離7.5km 良好 ダンプトラック2t積 バックホウ山積0.28m ³	m ³	6.2			第 50 号単価表参照
Asガラ処分費	処分区：東葛	t	14.622			
As切断濁水処分費		m ³	0.2			第 51 号単価表参照
歩車道境界ブロック撤去		m	0.3			第 52 号単価表参照
Co塊(無筋)運搬費	DID区間有り 運搬距離7.5km 良好 ダンプトラック2t積 バックホウ山積0.28m ³	m ³	0.3			第 53 号単価表参照
Coガラ処分費		t	0.588			

第 7 号 単価表

場内整備工事

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
計	1 式 当り					

第 8 号 単価表

直接仮設

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
墨出し	外壁改修	m2	16.6			第 54 号単価表参照
墨出し	内部 複合改修	m2	64			第 55 号単価表参照
養生	外壁改修	m2	20.2			第 56 号単価表参照
養生	内部 複合改修	m2	64			第 57 号単価表参照
整理清掃後片付け	外壁改修	m2	20.2			第 58 号単価表参照
整理清掃後片付け	内部 複合改修	m2	64			第 59 号単価表参照
内部仕上足場	脚立足場4ヵ月	m2	60.7			
ローリング足場	1段 4ヵ月 外壁改修・内部改修補助兼用	台	1			
計	1 式 当り					

第 9 号 単価表

外壁改修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
(撤去)						
カッター入れ	コンクリート面	m3	85.2			
コンクリート撤去	有筋集積共	m3	0.7			
(改修)						
外壁 下地調整材	コンクリート面C-1	m2	11.1			
外壁 可とう型改修塗材RE	シリコン系 ローラー塗り ゆず肌状	m2	11.1			
設備基礎 コンクリート直均し仕上げ	直仕上げ	m2	2			
屋上点検タラップ	アルミ製W400×H5750 安全カゴ付 取付金物・アンカー共	か所	1			
室名札	平付型300×75 アクリル樹脂板 t5 インクジェット印刷	か所	2			
計	1 式 当り					

第 10 号 単価表

建具改修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
(撤去)						
建具周囲はつり	RC W120	m	35.3			
鋼製建具撤去	片開き戸 枠共 集積共	m2	2.9			第 60 号単価表参照
鋼製建具撤去	両開き戸 枠共 集積共	m2	4			第 61 号単価表参照
鋼製建具撤去	ガラスブロック枠 ガラス共 集積共	m2	6.4			第 62 号単価表参照
木建具撤去	片開き戸 扉のみ 集積共	m2	1.1			第 63 号単価表参照
沓摺テラゾブロック撤去	t40 W150 集積共	m	1.5			第 64 号単価表参照
(改修)						
SD-1 片開きフラッシュドア	W900×H2100	か所	1			
SD-2 片開きフラッシュドア	W670×H2100	か所	1			
WD-1 障子のみ新設	ポリ合板 W600×H1800 丁番・錠共	か所	1			第 65 号単価表参照

第 10 号 単価表

建具改修

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
型板ガラス	t6 2.18m2以下	m2	0.1			
ガラスシーリング	シリコーン系 5×5	m	3.3			
ガラス清掃		m2	0.1			
建具周囲シーリング	MS-2 15×10	m	11.5			
建具周囲防水モルタル充填	外部建具	m	11.5			
計	1 式 当り					

第 11 号 単価表

内装改修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
(撤去)						
カッター入れ	コンクリート面	m	22.2			
コンクリート撤去	有筋集積共	m3	10.1			
碎石撤去	集積共	m3	9.9			第 66 号単価表参照
床 タイル撤去	下地モルタル共	m2	1			
配線ピット蓋撤去	CPL-4.5 W300~425 枠共 集積共	m	19.8			第 67 号単価表参照
壁 化粧石綿スレート撤去	t6.3 アスベスト含有 集積共	m2	87.4			
壁 木毛セメント板撤去	t25 集積共	m2	87.4			
壁 下地処理	木毛セメント板撤去跡 サンダー掛	m2	87.4			
壁 タイル撤去	下地モルタル共 集積共	m2	2.1			
天井 化粧石綿スレート撤去	t6.3 アスベスト含有 集積共	m2	77.2			

第 11 号 単価表

内装改修

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
天井 木毛セメント板撤去	t25 集積共	m2	77.2			
天井 下地処理	木毛セメント板撤去跡 サンダー掛	m2	77.2			
鏡撤去	500×600 集積共	か所	1			第 68 号単価表参照
(改修)						
床 モザイクタイル		m2	0.8			
排油溜柵蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 柵穴300角用 400角	か所	2			
排油側溝蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅100用 W150 L1050	か所	1			
排油側溝蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅100用 W150 L2850	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L880	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L1400	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L1795	か所	1			

第 11 号 単価表

内装改修

1 式 当り

3 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L1880	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L2040	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L2230	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L2235	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L3290	か所	1			
配線/配管ピット蓋	スチールメッキ 細目 T-2 受枠共 溝幅300用 W400 L5235	か所	1			
床 コンクリート直均し仕上げ	塗床下地	m2	45.8			
床 モルタル塗り	タイル下地	m2	0.8			
排油側溝 コンクリート直均し仕上げ	塗床下地	m2	0.4			
排油柵、配線/配管ピット モルタル塗り	t30 塗床下地	m2	6.6			
防液堤天端 コンクリート直均し仕上げ	塗床下地 W120	m	5.4			

第 11 号 単価表

内装改修

1 式 当り

4 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
発電機基礎 均し仕上げ コンクリート直	塗床下地	m2	5.8			
床 合成樹脂塗床	エポキシ樹脂塗床 防滑	m2	45.8			
排油側溝・桷、配線/配管ピット 合成樹脂塗床	エポキシ樹脂塗床 防滑 (床・天端)	m2	7.7			
排油側溝・桷、配線/配管ピット 合成樹脂塗床	エポキシ樹脂塗床 防滑 (立上)	m2	21.3			
発電機基礎 合成樹脂塗床	エポキシ樹脂塗床 防滑 (天端)	m2	5.8			
発電機基礎 合成樹脂塗床	エポキシ樹脂塗床 防滑 (立上)	m2	1			
巾木 ケレン		m2	1.4			第 69 号単価表参照
巾木 合成樹脂塗床	エポキシ樹脂塗床 防滑	m2	2.9			
ライニング甲板	メラミンポストフォーム t20 200×1000	か所	1			
シーリング	ライニング甲板取合 SR-1 10×10	m	2.4			
ライニング75角タイル	ボード面	m2	1			

第 11 号 単価表

内装改修

1 式 当り

5 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ライニング軽鉄壁下地	65形@450	m2	2			
ライニングケイカル板	t8 突付	m2	1			
ライニングシーリング石膏ボード	t12.5 下張り	m2	1			
壁 ALC板	t100 取付金物共	m2	31.7			
壁 ALC板定規アングル	上端 L-65×65×6 耐火目地共	m	9.2			
壁 ALC板定規アングル	下端 L-65×65×6	m	9.2			
壁 75角タイル		m2	2.1			
壁 モルタル塗り	タイル下地	m2	2.1			
耐火間仕切	強化石膏ボード t12.5両面スタッド共	m2	2.1			
耐火シール	耐火間仕切～コンクリート取合	m	2			
壁 グラスウールボード	t50 ガラスクロス共	m2	131			

第 11 号 単価表

内装改修

1 式 当り

6 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
天井 グラスウールボード	t50 ガラスクロス共	m2	75.7			
大型消火器		本	1			
計	1 式 当り					

第 12 号 単価表

塗装改修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
(改修)						
DP塗り	1級 鋼製建具面 新規面 錆止め共	m2	9			第 70 号単価表参照
SOP塗り	鋼製建具面 塗替え面 錆止め共 (木製建具枠)	m2	1			第 71 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
(壁開口塞ぎ)						
異形鉄筋	SD295A D10	kg	68.1			
異形鉄筋	SD295A D13	kg	9.2			
スクラップ控除	鉄くず ヘビーH2	kg	2.1			
鉄筋加工組立	壁開口塞ぎ	kg	74.4			
鉄筋運搬	4t車	kg	74.4			
スパイラル鉄筋	鉄筋φ6 スパイラルφ75@50	m	30.4			
差筋アンカー	金属系 D10 下向き打ち	本	30			
差筋アンカー	金属系 D10 横向き打ち	本	97			
差筋アンカー	金属系 D10 上向き打ち	本	30			
差筋アンカー	金属系 D13 下向き打ち	本	3			

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
差筋アンカー	金属系 D13 横向き打ち	本	2			
差筋アンカー	金属系 D13 上向き打ち	本	3			
目あらし	壁	m2	4.6			
普通コンクリート	Fc21M スランプ18cm	m3	1.6			
構造体強度補正	+3N Fc21N スランプ18cm	m3	1.6			
コンクリート打設手間	流し込み工法	m3	1.6			
ポンプ圧送	50m3/回未満 圧送料金含む	回	1			
無収縮モルタル注入	試験費共 Fc=30	m3	0.2			
普通合板型枠	壁開口塞ぎ	m2	9.5			
打放合板型枠	B種 壁開口塞ぎ	m2	11.7			
型枠運搬	4t車	m2	21.2			

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

3 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
打放し面補修	B種 コーン処理共	m2	11.7			第 72 号単価表参照
無収縮モルタル注入用型枠	両面木製	m	6			
(連続繊維補強)						
連続繊維補強	炭素繊維シート工法	m2	8.7			
(床・設備基礎等)						
根切り	人力	m3	37.7			
杭間ざらい		本	4			
埋戻し	人力	m3	9.7			
発生土処理		m3	28			第 29 号単価表参照
砕石地業	RC-40 基礎下	m3	1.2			
砕石地業	RC-40 土間下	m3	7.7			

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

4 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通コンクリート	Fc18N スランプ18cm	m3	0.2			
普通コンクリート	Fc21M スランプ18cm	m3	5.5			
構造体強度補正	+3N Fc21N スランプ18cm	m3	5.5			
コンクリート打設手間	人力打設 捨てコンクリート	m3	0.2			第 73 号単価表参照
コンクリート打設手間	ポンプ打設 コマ基礎均しコンクリート	m3	5.5			
ポンプ圧送	コマ基礎均しコンクリート 50m3/回未満 圧送料金含む	回	1			
P1 先端羽付鋼管杭	STK400 φ139.8 K11.2m 上杭2m+中杭6m+下杭3m+杭先端0.2m	本	4			
杭施工費	機械組立・運搬共	式	1			
杭運搬費	重機組立・解体共	式	1			
杭頭補強	4-D13	組	4			第 74 号単価表参照
コマ基礎	φ330型 6連タイプ	基	62			

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

5 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コマ基礎	φ330型 4連タイプ	基	10			
コマ基礎	φ330型 3連タイプ	基	5			
コマ基礎施工費		式	1			
コマ基礎運搬費		式	1			
スタイロ充填		m3	12.8			第 75 号単価表参照
異形鉄筋	SD295A D10	kg	370			
異形鉄筋	SD295A D13	kg	0.67			
スクラップ控除	鉄くず ヘビーH2	kg	30			
鉄筋加工組立	床・設備基礎等	t	1			
鉄筋運搬	4t車	kg	1,000			
普通コンクリート	Fc21M スランプ18cm	m3	15.1			

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

6 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
構造体強度補正	+3N Fc21N スランブ18cm	m3	15.1			
コンクリート打設手間		m3	4.8			第 76 号単価表参照
コンクリート打設手間	ポンプ打設 土間	m3	9.5			
コンクリート打設手間	人力打設 立上	m3	0.8			第 77 号単価表参照
ポンプ圧送	土間 50m3/回未満 圧送料金含む	回	1			
普通合板型枠	基礎部	m2	13.7			
普通合板型枠	陸上部	m2	1.7			
打放合板型枠	B種 基礎部	m2	21.7			
打放合板型枠	B種 地上部	m2	2.7			
埋殺し枠	既存地中梁部	m2	1.3			
型枠運搬	4t車	m2	41.1			

第 13 号 単価表

耐震（躯体）改修

1 式 当り

7 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
打放し面補修	B種 コーン処理共	m2	24.4			第 72 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 14 号 単価表

環境配慮改修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
外壁 石綿含有複層塗材除去	GSCウェットサンダーケレン工法 産業廃棄物処理共	m2	6.4			
建具周囲シーリング除去	アスベスト含有 産業廃棄物処理共	m	29.6			
計	1 式 当り					

第 15 号 単価表

発生材処理

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
除去石綿処理	密封処理	m3	1			
発生材積込	人力 コンクリート・モルタル類	m3	23.4			
発生材積込	人力 木材・仕上材類	m3	5.3			
発生材運搬	コンクリート塊 有筋 10t車 片道概ね25km程度	台	3			
発生材運搬	がれき類 (碎石) 10t車 片道概ね25km程度	台	2			
発生材運搬	ガラス・陶磁器くず 2t車 片道概ね25km程度	台	1			
発生材運搬	木くず 2t車 片道概ね25km程度	台	1			
発生材運搬	安定型混合廃棄物 10t車 片道概ね25km程度	台	1			
発生材運搬	石綿含有産業廃棄物 4t車 片道概ね25km程度	台	1			
発生材処分	コンクリート塊 有筋	t	29.6			
発生材処分	がれき類 (碎石)	m3	9.9			

第 15 号 単価表

発生材処理

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
発生材処分	ガラス・陶磁器くず	m3	0.6			
発生材処分	木くず	m3	0.1			
発生材処分	安定型混合廃棄物	m3	4.2			
発生材処分	石綿含有産業廃棄物	m3	1			
発生材処分	スチール ヘビーH4	t	0.4			
計	1 式 当り					

第 16 号 単価表

電灯設備

電灯幹線

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
エコケーブル	管内 EM-CE3.5-3C	m	4			
エコケーブル	コロガシ EM-CE3.5-3C	m	9			
エコケーブル	管内 EM-CE3.5-2C	m	8			
エコケーブル	コロガシ EM-CE3.5-2C	m	17			
電線管	露出配管 E39	m	2			
計	1 式 当り					

第 17 号 単価表

電灯設備

電灯分岐

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
照明器具	非常照明 K1-LSS11-3	個	1			
照明器具	LSS1-4-48	個	10			
照明器具	LSS9-2-15	個	2			
エコケーブル	管内 EM-EEF1.6-2C	m	1			第 78 号単価表参照
エコケーブル	コロガシ EM-EEF1.6-2C	m	2			
電線管	露出配管 E31	m	3			
電線管	露出配管 E19	m	3			
エコ電線	管内 EM-IE2.0	m	173			
金属線ぴ	2種金属線ぴ A型 40×30 溶融亜鉛メッキ鋼板製	m	32			
金属線ぴ	2種金属線ぴ A型 ジャンクションボックス	個	10			
金属線ぴ	2種金属線ぴ A型 1個用スイッチボックス	個	1			第 79 号単価表参照

第 17 号 単価表

電灯設備

電灯分岐

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
金属線ぴ	2種金属線ぴ A型 2個用スイッチボックス	個	1			第 80 号単価表参照
金属線ぴ	2種金属線ぴ A型 コーナーボックス	個	1			
金属線ぴ	2種金属線ぴ A型 ブッシング	個	2			
埋込スイッチ	1P15A×1	個	2			第 81 号単価表参照
露出スイッチボックス	1個用 1方出 (19)	個	1			
プルボックス	錆止め塗装 300×300×200 接地端子付	個	1			第 82 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 18 号 単価表

電灯設備

コンセント分岐

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
エコ電線	管内 EM-IE2.0	m	73			
電線管	露出配管 E19	m	24			
埋込コンセント	2P15A×1	個	1			第 83 号単価表参照
埋込コンセント	2P15A (E極)、接地端子付	個	5			第 84 号単価表参照
露出スイッチボックス	1個用 1方出 (19)	個	6			
計	1 式 当り					

第 19 号 単価表

撤去工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
CVケーブル撤去	管内 再使用しない CV3.5-3C	m	22			第 85 号単価表参照
CVケーブル撤去	コロガシ 再使用しない CV3.5-3C	m	38			第 86 号単価表参照
VVFケーブル撤去	管内 再使用しない VVF1.6-3C	m	1			第 87 号単価表参照
VVFケーブル撤去	コロガシ 再使用しない VVF1.6-3C	m	1			第 88 号単価表参照
VVFケーブル撤去	管内 再使用しない VVF1.6-2C	m	2			第 89 号単価表参照
VVFケーブル撤去	コロガシ 再使用しない VVF1.6-2C	m	2			第 90 号単価表参照
IV電線撤去	管内 再使用しない IV2.0	m	254			第 91 号単価表参照
電線管撤去	露出配管 再使用しない E51	m	2			第 92 号単価表参照
電線管撤去	露出配管 再使用しない E25	m	25			第 93 号単価表参照
金属線び撤去	A型 再使用しない 40×30 (溶融亜鉛メッキ)	m	34			第 94 号単価表参照
金属線び撤去	A型 再使用しない ジャンクションボックス	個	8			第 95 号単価表参照

第 19 号 単価表

撤去工事

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
照明器具撤去	再使用しない FL40W-1 (金属線び取付)	個	18			第 96 号単価表参照
照明器具撤去	再使用しない FL20W-1	個	1			第 97 号単価表参照
照明器具撤去	再使用しない FL15W-1	個	1			第 98 号単価表参照
照明器具撤去	再使用しない シーリングライト	個	1			第 99 号単価表参照
埋込スイッチ撤去	1P15A×1 再利用しない	個	1			第 100 号単価表参照
埋込スイッチ撤去	1P15A×2 再利用しない	個	1			第 101 号単価表参照
埋込スイッチ撤去	3W15A×2 再利用しない	個	2			第 102 号単価表参照
埋込コンセント撤去	2P15A×2 再利用しない	個	2			第 103 号単価表参照
プルボックス撤去	錆止め塗装 再利用しない 200×200×200	個	2			第 104 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 20 号 単価表

廃材処分費

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
廃材処分費	金属くず	m3	0.093			
廃材処分費	廃プラスチック類	m3	0.071			
処分廃棄物運搬費		回	1			
計	1 式 当り					

第 21 号 単価表

衛生器具設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
洋風大便器	洗浄タンク大便器 普通便座 二連紙巻器	組	1			第 105 号単価表参照
手洗器	壁掛手洗器 ハンドル水栓	組	1			第 106 号単価表参照
撤去工事	衛生器具設備工事	式	1			第 107 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 22 号 単価表

給水設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管	SGP-VB 機械室・便所 20A	m	1			第 108 号単価表参照
給水管	SGP-VB 屋外配管 20A	m	3			第 109 号単価表参照
給水管	SGP-VD 地中配管 20A	m	2			第 110 号単価表参照
仕切弁	GV 10K 20A	個	1			第 111 号単価表参照
弁柵	B-1	個	1			第 112 号単価表参照
保温工事		式	1			第 113 号単価表参照
土工事		式	1			第 114 号単価表参照
文字標識等	衛生 1000m2	式	1			第 115 号単価表参照
はつり補修	28φ×200L	か所	2			第 116 号単価表参照
配管分岐・切断		式	1			第 117 号単価表参照
撤去工事	給水設備工事	式	1			第 118 号単価表参照

第 22 号 単価表

給水設備工事

1 式 当り

2 頁

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
計	1 式 当り					

第 23 号 単価表

排水設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管	VP 機械室・便所 50A	m	1			第 119 号単価表参照
排水管	VP 屋外配管 50A	m	1			第 120 号単価表参照
排水管	VP 機械室・便所 75A	m	2			第 121 号単価表参照
排水管	VP 屋外配管 75A	m	1			第 122 号単価表参照
排水管	RS-VU 地中配管 50A	m	1			第 123 号単価表参照
排水管	RS-VU 地中配管 75A	m	1			第 124 号単価表参照
保温工事		式	1			第 125 号単価表参照
土工事		式	1			第 126 号単価表参照
はつり補修		式	1			第 127 号単価表参照
撤去工事	排水設備工事	式	1			第 128 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 24 号 単価表

換気設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
EF-1 排気ファン	パイプ用ファン 150φ×60m ³ /h×3Pa	台	1			第 129 号単価表参照
コントロールスイッチ	タイマー付き	個	1			第 130 号単価表参照
スパイラルダクト	低圧ダクト インサート有 150φ	m	1			
ペントキャップ	ステンレス製 150φ	個	2			第 131 号単価表参照
ペントキャップ	ステンレス製 150φ (FD付)	個	2			第 132 号単価表参照
はつり補修	200φ×200L	か所	2			第 133 号単価表参照
スパイラルダクト調整		m	0.6			第 134 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 25 号 単価表

廃材処分費

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
廃材処分費	金属くず	m3	0.003			
廃材処分費	廃プラスチック類	m3	0.031			
発生材処分	ガラス・陶磁器くず	m3	0.025			
処分廃棄物運搬費		回	1			
計	1 式 当り					

第 26 号 単価表

床掘り

1 m3 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
バックホウ（クローラ）〔標準〕	山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	%	K1			
労務構成比		%	R			
運転手（特殊）		%	R1			
材料構成比		%	Z			
軽油		%	Z1			
	1 m3 当り					

第 27 号 単価表

埋戻し

改良土

1 m³ 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
バックホウ（クローラ）〔標準〕	山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	%	K1			
振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式〕	運転質量0.5～0.6t	%	K2			
タンパ及びランマ	質量 60～80kg	%	K3			
労務構成比		%	R			
普通作業員		%	R1			
特殊作業員		%	R2			
運転手（特殊）		%	R3			
材料構成比		%	Z			
軽油		%	Z1			

第 27 号 単価表

埋戻し

改良土

1 m3 当り

2 頁

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
ガソリン	レギュラー	%	Z2			
	1 m3 当り					

第 28 号 単価表

土砂運搬工

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転	4t車	m3	1			第 135 号単価表参照
バックホウ掘削積込	山積0.80m3(平積0.60m3)	m3	1			第 136 号単価表参照
ダンプトラック運搬		m3	1			第 137 号単価表参照
改良土		m3	1.2			
計	1 m3 当り					

第 29 号 単価表

発生土処理

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転	4t車	m3	1			第 135 号単価表参照
バックホウ掘削積込	山積0.80m3(平積0.60m3)	m3	1			第 136 号単価表参照
ダンプトラック運搬		m3	1			第 137 号単価表参照
路盤廃材処分費	処分地区：東葛	t	1			
計	1 m3 当り					

第 30 号 単価表

埋戻し

川砂

1 m3 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
タンパ及びランマ	質量 60～80kg	%	K1			
労務構成比		%	R			
普通作業員		%	R1			
特殊作業員		%	R2			
材料構成比		%	Z			
ガソリン	レギュラー	%	Z1			
	1 m3 当り					

第 31 号 単価表

コンクリート

1 m3 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
バックホウ(クローラ) [標準・クレーン機能付き]	山積0.8m3(平積0.6m3)2.9t吊	%	K1			
労務構成比		%	R			
特殊作業員		%	R1			
普通作業員		%	R2			
運転手(特殊)		%	R3			
土木一般世話役		%	R4			
材料構成比		%	Z			
生コンクリート	24-12-25(20) 高炉 W/C55%以下	%	Z1			
軽油		%	Z2			

第 31 号 単価表

コンクリート

1 m3 当り

2 頁

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
	1 m3 当り					

第 32 号 単価表

基礎砕石

1 m2 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
バックホウ（クローラ）〔標準〕	山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	%	K1			
労務構成比		%	R			
普通作業員		%	R1			
特殊作業員		%	R2			
運転手（特殊）		%	R3			
土木一般世話役		%	R4			
材料構成比		%	Z			
再生クラッシャーラン	RC-40	%	Z1			
軽油		%	Z2			

第 32 号 単価表

基礎碎石

1 m2 当り

2 頁

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
	1 m2 当り					

第 33 号 単価表

一般型枠工

均しコンクリート

1 m2 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
労務構成比		%	R			
型わく工		%	R1			
普通作業員		%	R2			
土木一般世話役		%	R3			
	1 m2 当り					

第 34 号 単価表

敷鉄板賃料

1 枚 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
敷鉄板賃料		枚・日	1			
整備費（敷鉄板）	22×1524×3048mm	枚	1			
諸雑費（まるめ）		式	1			
計	1枚 当り					

第 35 号 単価表

敷鉄板設置・撤去

100 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
とび工		人				
普通作業員		人				
バックホウ（クローラ型）運転		日				第 138 号単価表参照
諸雑費（率+まるめ）		式	1			
計	100 m2 当り					
	1 m2 当り					

第 36 号 単価表

土留め工事

鋼矢板打込み
鋼矢板Ⅲ型 L=6.00m

10 枚 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
パイプロハンマ施工による	鋼矢板打込み	枚	10			第 139 号単価表参照
鋼矢板（賃貸）90日以内		t・日	7.2			
鋼矢板（賃貸）整備費		t	7.2			
計	10 枚 当り					
	1 枚 当り					

第 37 号 単価表

バイブロハンマ施工による

鋼矢板引抜き

10 枚 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
とび工		人				
普通作業員		人				
バイブロハンマ杭打機運転	(陸上施工)	日				第 140 号単価表参照
諸雑費 (率+まるめ)		式	1			
計	10 枚 当り					
	1 枚 当り					

第 38 号 単価表

型枠

1 m2 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
労務構成比		%	R			
型わく工		%	R1			
普通作業員		%	R2			
土木一般世話役		%	R3			
	1 m2 当り					

第 39 号 単価表

鉄筋工

鉄筋加工組立工
SD345、D13

1 t 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工（太径鉄筋 10%未満）	10 t 未満 一般構造物	t	1			第 141 号単価表参照
鉄筋コンクリート棒銅	SD345、D13	t	1.03			
諸雑費		式	1			
計	1 t 当り					

第 40 号 単価表

単管足場工

油圧伸縮ジブ型 25t吊

100 掛m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
とび工		人				
普通作業員		人				
ラフテレンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 25t吊 排出ガス対策型(第1次基準値)	日				
諸雑費		式	1			
計	100 掛m2 当り					
	1 掛m2 当り					

第 41 号 単価表

コンクリート

1 m3 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
労務構成比		%	R			
普通作業員		%	R1			
特殊作業員		%	R2			
土木一般世話役		%	R3			
材料構成比		%	Z			
生コンクリート	21-12-25 (20) 高炉 W/C55%以下	%	Z1			
	1 m3 当り					

第 42 号 単価表

鉄筋工

鉄筋加工組立工
SD345、D16

1 t 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工（太径鉄筋 10%未満）	10 t 未満 一般構造物	t	1			第 141 号単価表参照
鉄筋コンクリート用棒銅	SD345、D16	t	1.03			
諸雑費		式	1			
計	1 t 当り					

第 43 号 単価表

敷鉄板賃料

1 枚 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
敷鉄板賃料		枚・日	1			
整備費（敷鉄板）	22×1524×6096mm	枚	1			
諸雑費（まるめ）		式	1			
計	1枚 当り					

第 44 号 単価表

水替え工

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ポンプ運転工	作業時排水 ポンプ1台 発動発電機	日				第 142 号単価表参照
据付・撤去工(開削水替工)		現場	1			第 143 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 45 号 単価表

舗装工(人力施工)

車道及び路肩 仕上り厚50mm 大型車
再生粗粒度アスコン(20)

100 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
再生アスファルト混合物	再生粗粒度アスコン(20)	t	12.6			100*50/1000*2.35*(1+0.07)
振動ローラ(舗装用)運転	ハットガイト式 運転質量0.5~0.6t 超低騒音型	日				第 144 号単価表参照
振動コンパクタ運転	前進型 機械質量40~60kg	日				第 145 号単価表参照
諸雑費		式	1			
計	100 m2 当り					
	1 m2 当り					

第 46 号 単価表

下層路盤工 (施工幅1.8m未満)

全仕上り厚20cm 転圧回数1層
RC-40

100 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
再生クラッシャーラン	RC-40	m3	25.4			100*0.2*(1+0.27)
タンパ運転	質量60~80kg	日				第 146 号単価表参照
諸雑費		式	1			
計	100 m2 当り					
	1 m2 当り					

第 47 号 単価表

歩車道境界ブロック

1 m 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
バックホウ（クローラ）〔標準〕	山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	%	K1			
労務構成比		%	R			
普通作業員		%	R1			
土木一般世話役		%	R2			
特殊作業員		%	R3			
型わく工		%	R4			
材料構成比		%	Z			
歩車道境界ブロック	片面 150/170×200×600 (A)	%	Z1			
生コンクリート	18-8-25 (20) 高炉 W/C60%以下	%	Z2			

第 47 号 単価表

歩車道境界ブロック

1 m 当り

2 頁

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
再生クラッシャーラン	RC-40	%	Z3			
軽油		%	Z4			
	1 m 当り					

第 48 号 単価表

舗装版切断

1 m 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)]	湿式 切削深20cm級 ブレード径φ56cm	%	K1			
労務構成比		%	R			
特殊作業員		%	R1			
土木一般世話役		%	R2			
普通作業員		%	R3			
材料構成比		%	Z			
コンクリートカッタ (ブレード)	径18インチ	%	Z1			
ガソリン	レギュラー	%	Z2			
	1 m 当り					

第 49 号 単価表

バックホウによる舗装版直接掘削・積込工

舗装厚0cmを超え10cm以下
山積0.28m³(平積0.20m³)

100 m² 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
普通作業員		人				
バックホウ(クローラ型)運転	標準型 山積0.28/平積0.2m ³ 排出ガス対策型(第1次基準値)	h				第 147 号単価表参照
諸雑費		式	1			
計	100 m ² 当り					
	1 m ² 当り					

第 50 号 単価表

As塊運搬費

D I D 区間有り 運搬距離7.5km 良好
 ダンプトラック2 t 積 バック材山積0.28m3

10 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転	オンロード・ディーゼル 2t積級 タイヤ損耗(良好)	日				第 148 号単価表参照
諸雑費		式	1			
計	10 m3 当り					
	1 m3 当り					

第 51 号 単価表

As切断濁水処分費

2 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転	2t積	日				第 149 号単価表参照
濁水処分費		kg	2,260			
計	2 m3 当り					
	1 m3 当り					

第 52 号 単価表

歩車道境界ブロック撤去

1 m 当り

名称	規格	単位	構成比	東京単価	積算単価	摘要
標準単価			P			
機械構成比		%	K			
小型バックホウ（クローラ） [超小旋回型]	山積0.22m ³ （平積0.16m ³ ）	%	K1			
労務構成比		%	R			
普通作業員		%	R1			
土木一般世話役		%	R2			
運転手（特殊）		%	R3			
材料構成比		%	Z			
軽油		%	Z1			
	1 m 当り					

第 53 号 単価表

Co塊（無筋）運搬費

D I D 区間有り 運搬距離7.5km 良好
 ダンプトラック2 t 積 バック材山積0.28m3

10 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転	オンロード・デューゼル 2t積級 タイヤ損耗(良好)	日				第 148 号単価表参照
諸雑費		式	1			
計	10 m3 当り					
	1 m3 当り					

第 54 号 単価表

墨出し

外壁改修

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 55 号 単価表

墨出し

内部 複合改修

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 56 号 単価表

養生

外壁改修

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 57 号 単価表

養生

内部 複合改修

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 58 号 単価表

整理清掃後片付け

外壁改修

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
軽作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 59 号 単価表

整理清掃後片付け

内部 複合改修

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
軽作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 60 号 単価表

鋼製建具撤去

片開き戸 枠共 集積共

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
サッシ工		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 61 号 単価表

鋼製建具撤去

両開き戸 枠共 集積共

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
サッシ工		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 62 号 単価表

鋼製建具撤去

ガラスブロック枠 ガラス共 集積共

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
サッシ工		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 63 号 単価表

木建具撤去

片開き戸 扉のみ 集積共

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 64 号 単価表

沓摺テラゾブロック撤去

t40 W150 集積共

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
タイル撤去	下地モルタル共	m2	0.15			
計	1 m 当り					

第 65 号 単価表

WD-1 障子のみ新設

ポリ合板 W600×H1800
 丁番・錠共

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
片開きフラッシュドア	ポリ合板 W900×H2000 付属金物取付共	か所	1			
丁番	カラー (シルバー) L102	枚	2			
レバーハンドル	表示錠	個	1			
計	1 か所 当り					

第 66 号 単価表

碎石撤去

集積共

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
根切り	人力	m3	1			
計	1 m3 当り					

第 67 号 単価表

配線ピット蓋撤去

CPL-4.5 W300~425
 枠共 集積共

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 68 号 単価表

鏡撤去

500×600 集積共

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 69 号 単価表

巾木 ケレン

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 70 号 単価表

DP塗り

1級 鋼製建具面 新規面
錆止め共

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
錆止め塗装	めっき鋼面 変性エポキシ樹脂プライマー	m2	1			
DP塗り	1級 鋼製建具面	m2	1			
計	1 m2 当り					

第 71 号 単価表

SOP塗り

鋼製建具面 塗替え面
 錆止め共 (木製建具枠)

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
錆止め塗装	めっき鋼・鋼製建具面 A種	m2	1			
SOP塗り	鉄鋼・めっき鋼・鋼製建具面	m2	1			
計	1 m2 当り					

第 72 号 単価表

打放し面補修

B種 コーン処理共

1 m2 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m2 当り					

第 73 号 単価表

コンクリート打設手間

人力打設 捨てコンクリート

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m3 当り					

第 74 号 単価表

杭頭補強

4-D13

1 組 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
異形鉄筋	SD295A D10	kg	1.3			
異形鉄筋	SD295A D13	kg	2.6			
鋼板	PL-3.2	kg	1.6			
スクラップ控除	鉄くず ヘビーH2	kg	0.1			
鉄筋加工組立	床・設備基礎等	kg	5.3			
鉄筋運搬	4t車	kg	5.3			
鉄筋溶接	D13	か所	4			
普通コンクリート	Fc21M スランプ18cm	m3	0.006			
構造体強度補正	+3N Fc21N スランプ18cm	m3	0.006			
コンクリート打設手間	ポンプ打設 土間	m3	0.006			
計	1 組 当り					

第 75 号 単価表

スタイロ充填

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
発砲スチロールブロック		m3	1.05			
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m3 当り					

第 76 号 単価表

コンクリート打設手間

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m3 当り					

第 77 号 単価表

コンクリート打設手間

人力打設 立上

1 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 m3 当り					

第 78 号 単価表

エコケーブル

管内
EM-EEF1.6-2C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
エコケーブル	EM-EEF1.6-2C	m	1.01			
雑材料		式	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 79 号 単価表

金属線び

2種金属線び A型
1個用スイッチボックス

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
金属線び	2種金属線び A型 1個用スイッチボックス	個	1			
雑材料		式	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 80 号 単価表

金属線び

2種金属線び A型
2個用スイッチボックス

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
金属線び	2種金属線び A型 2個用スイッチボックス	個	1			
雑材料		式	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 81 号 単価表

埋込スイッチ

1P15A×1

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
埋込スイッチ	1P15A×1	個	1			
取付枠		個	1			
新金属プレート	1～3穴、1連	個	1			
雑材料		式	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 82 号 単価表

プルボックス

錆止め塗装

300×300×200 接地端子付

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
プルボックス	錆止め塗装 300×300×200 接地端子付	個	0.42			
接地端子		個	1			
計	1 個 当り					

第 83 号 単価表

埋込コンセント

2P15A×1

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
埋込コンセント	2P15A×1	個	1			
取付枠		個	1			
新金属プレート	1～3穴、1連	個	1			
雑材料		式	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 84 号 単価表

埋込コンセント

2P15A (E極)、接地端子付

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
埋込コンセント	2P15A (E極)、接地端子付	個	1			
新金属プレート	1~3穴、1連	個	1			
雑材料		式	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 85 号 単価表

CVケーブル撤去

管内 再使用しない
CV3.5-3C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 86 号 単価表

CVケーブル撤去

コロガシ 再使用しない
CV3.5-3C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 87 号 単価表

VVFケーブル撤去

管内 再使用しない
VVF1.6-3C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 88 号 単価表

VVFケーブル撤去

コロガシ 再使用しない
VVF1.6-3C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 89 号 単価表

VVFケーブル撤去

管内 再使用しない
VVF1.6-2C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 90 号 単価表

VVFケーブル撤去

コロガシ 再使用しない
VVF1.6-2C

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 91 号 単価表

IV電線撤去

管内 再使用しない
IV2.0

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 92 号 単価表

電線管撤去

露出配管 再使用しない
E51

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 93 号 単価表

電線管撤去

露出配管 再使用しない
E25

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 94 号 単価表

金属線ひ撤去

A型 再使用しない
40×30 (溶融亜鉛メッキ)

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 95 号 単価表

金属線ひ撤去

A型 再使用しない
ジャンクションボックス

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 96 号 単価表

照明器具撤去

再使用しない
FL40W-1 (金属線ぴ取付)

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 97 号 単価表

照明器具撤去

再使用しない
FL20W-1

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 98 号 単価表

照明器具撤去

再使用しない
FL15W-1

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 99 号 単価表

照明器具撤去

再使用しない
シーリングライト

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第100号 単価表

埋込スイッチ撤去

1P15A×1
再利用しない

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 101 号 単価表

埋込スイッチ撤去

1P15A×2
再利用しない

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 102 号 単価表

埋込スイッチ撤去

3W15A×2
再利用しない

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第103号 単価表

埋込コンセント撤去

2P15A×2
再利用しない

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第104号 単価表

プルボックス撤去

錆止め塗装 再利用しない
200×200×200

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第105号 単価表

洋風大便器

洗浄タンク大便器 普通便座
二連紙巻器

1 組 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
洋風大便器	洗浄タンク大便器 普通便座 二連紙巻器	組	1			
大便器取付費	タンク式 紙巻器 温水洗浄便座	組	1			
普通便座減算額	普通便座	組	1			
計	1 組 当り					

第106号 単価表

手洗器

壁掛手洗器 ハンドル水栓

1 組 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
手洗器	壁掛手洗器 ハンドル水栓	組	1			
手洗器取付費	壁掛け	組	1			
計	1組 当り					

第107号 単価表

撤去工事

衛生器具設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 式 当り					

第108号 単価表

給水管

SGP-VB
機械室・便所 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管一式	SGP-VB 20A	式	1			
配管工		人				
ハツリ補修費		式	1			
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第109号 単価表

給水管

SGP-VB
屋外配管 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管一式	SGP-VB 20A	式	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第110号 単価表

給水管

SGP-VD
地中配管 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管一式	SGP-VD 20A	式	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 111 号 単価表

仕切弁

GV
10K 20A

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
仕切弁	GV 10K 20A	個	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 112 号 単価表

弁柵

B-1

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
弁柵		個	1			
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 113 号 単価表

保温工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管保温	グラスウール 天井内 アルミガラス化粧筒 20A	m	1.3			
給水管保温	グラスウール 屋外露出 ステンレス鋼板 20A	m	2.8			
計	1 式 当り					

第 114 号 単価表

土工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
根切り		m3	0.28			
埋戻し	改良土	m3	0.21			第 27 号単価表参照
土砂運搬工		m3	0.21			第 28 号単価表参照
発生土処理		m3	0.07			第 29 号単価表参照
埋戻し	川砂	m3	0.07			第 30 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 115 号 単価表

文字標識等

衛生 1000m2

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装工		人				
その他		式	1			
計	1 式 当り					

第116号 単価表

はつり補修

28φ×200L

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 117 号 単価表

配管分岐・切断

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管分岐	鋼管類 保温無 20A	か所	1			第 150 号単価表参照
配管切断	鋼管類 保温有 20A アルミガラス化粧筒	か所	1			第 151 号単価表参照
配管切断	鋼管類 保温有 20A ステンレス鋼板	か所	1			第 152 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 118 号 単価表

撤去工事

給水設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管撤去	SGP-VB 機械室・便所 20A	m	1.4			第 153 号単価表参照
給水管撤去	SGP-VB 屋外配管 20A	m	0.2			第 154 号単価表参照
保温材撤去	グラスウール 天井内 アルミガラス化粧筒 20A	m	1.4			第 155 号単価表参照
保温材撤去	グラスウール 屋外露出 ステンレス鋼板 20A	m	0.2			第 156 号単価表参照
保温材撤去	グラスウール 屋外露出 ステンレス鋼板 20A	m	0.2			第 157 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 119 号 単価表

排水管

VP
機械室・便所 50A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管一式	VP 50A	式	1			
配管工		人				
ハツリ補修費		式	1			
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 120 号 単価表

排水管

VP
屋外配管 50A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管一式	VP 50A	式	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 121 号 単価表

排水管

VP
機械室・便所 75A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管一式	VP 75A	式	1			
配管工		人				
ハツリ補修費		式	1			
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 122 号 単価表

排水管

VP
屋外配管 75A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管一式	VP 75A	式	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 123 号 単価表

排水管

RS-VU
地中配管 50A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管一式	RS-VU 50A	式	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 124 号 単価表

排水管

RS-VU
地中配管 75A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管	RS-VU 地中配管 75A	式	1			
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 125 号 単価表

保温工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管保温	グラスウール 暗渠内 着色アルミガラスクロス 50A	m	0.7			
排水管保温	グラスウール 屋外露出 ステンレス鋼板 50A	m	0.7			
排水管保温	グラスウール 暗渠内 着色アルミガラスクロス 75A	m	1.5			
排水管保温	グラスウール 屋外露出 ステンレス鋼板 75A	m	0.7			
計	1 式 当り					

第 126 号 単価表

土工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
根切り		m3	0.3			
埋戻し	改良土	m3	0.23			第 27 号単価表参照
土砂運搬工		m3	0.23			第 28 号単価表参照
発生土処理		m3	0.07			第 29 号単価表参照
埋戻し	川砂	m3	0.07			第 30 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 127 号 単価表

はつり補修

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
はつり補修	75φ×200L	か所	1			第 158 号単価表参照
はつり補修	100φ×200L	か所	1			第 159 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 128 号 単価表

撤去工事

排水設備工事

1 式 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排水管撤去	VP 地中配管 50A	m	4.9			第 160 号単価表参照
排水管撤去	VP 地中配管 75A	m	2.3			第 161 号単価表参照
排水金物撤去	D-50	個	1			第 162 号単価表参照
計	1 式 当り					

第 129 号 単価表

EF-1 排気ファン

パイプ用ファン
150φ×60m³/h×3Pa

1 台 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
排気ファン	パイプ用ファン 150φ×60m ³ /h×3Pa	台	1			
設備機械工		人				
その他		式	1			
計	1 台 当り					

第 130 号 単価表

コントロールスイッチ

タイマー付き

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コントロールスイッチ	タイマー付き	個	1			
電工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第 131 号 単価表

ペントキャップ

ステンレス製 150φ

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ペイントキャップ	ステンレス製 150φ	個	1			
ペントキャップ取付費	150φ	個	1			
計	1 個 当り					

第132号 単価表

ペントキャップ

ステンレス製 150φ (FD付)

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ペントキャップ	ステンレス製 150φ (FD付)	個	1			
ペントキャップ取付費	150φ	個	1			
防火ダンパー取付費	0.1m2以下	個	1			
計	1 個 当り					

第 133 号 単価表

はつり補修

200φ×200L

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第134号 単価表

スパイラルダクト調整

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダクト工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 135 号 単価表

ダンプトラック運転

4t車

10 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転工	オンロード・ディーゼル 4t積級	日				第 163 号単価表参照
計	10 m3 当り					
	1 m3 当り					

第 136 号 単価表

バックホウ掘削積込

山積0.80m3(平積0.60m3)

100 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
普通作業員		人				
バックホウ(クローラ型)運転	標準型 山積0.8/平積0.6m3 排出ガス対策型(第1次基準値)	h				第 164 号単価表参照
諸雑費		式	1			
計	100 m3 当り					
	1 m3 当り					

第 137 号 単価表

ダンプトラック運搬

100 m3 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダンプトラック運転		日				第 165 号単価表参照
諸雑費 (まるめ)		式	1			
計	100 m3 当り					
	1 m3 当り					

第 138 号 単価表

バックホウ（クローラ型）運転

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手（特殊）		人				
軽油		L	119			
バックホウ（クローラ）[標準・クレーン機能付き]	山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	日				
諸雑費（まるめ）		式	1			
計	1 日 当り					

第 139 号 単価表

バイブロハンマ施工による

鋼矢板打込み

10 枚 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人				
とび工		人				
普通作業員		人				
バイブロハンマ杭打機運転	(陸上施工)	日				第 166 号単価表参照
諸雑費 (率+まるめ)		式	1			
計	10 枚 当り					
	1 枚 当り					

第 140 号 単価表

バイブロハンマ杭打機運転

(陸上施工)

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手 (特殊)		人				
軽油		L	484			
バイブロハンマ(単体) [油圧式・可変 超高周波型]	排ガス型 (第3次) 振り子式 473kN	供用日	1.21			
ラフテレーンクレーン [油圧 伸縮ジブ型]	排出ガス対策型 (第3次基準値) 25t吊	供用日	1.21			
諸雑費 (まるめ)		式	1			
計	1 日 当り					

第 141 号 単価表

鉄筋工 (太径鉄筋 10%未満)

10 t 未満
一般構造物

1 t 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工	加工・組立共 一般構造物 R7月単位現場閉所	t	1			
計	1 t 当り					

全体補正值の算定 (太径鉄筋)

$$\text{補正值} = (1+S/100) * (K1 * K2 * K3 * K4 * K5 \sim 7) * T$$

$$= (1+15/100) * (1 * 1 * 1 * 1 * 1) * 1 = 1.15$$
 S : 施工規模による加算率 = 15 %
 K1 : 時間的制約による補正係数 = 1
 K2 : 夜間作業による補正係数 = 1
 K3 : トンネル内作業による補正係数 = 1
 K4 : 法面作業による補正係数 = 1
 K5~7: 太径鉄筋による補正係数 = 1
 T : 一般構造物による補正係数 = 1

第 142 号 単価表

ポンプ運転工

作業時排水 ポンプ1台
発動発電機

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
工事用水中モータポンプ	普通型(潜水ポンプ) 口径φ50mm全揚程5m	日				
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 定格容量3kVA	日				
諸雑費		式	1			
計	1 日 当り					

第 143 号 単価表

据付・撤去工(開削水替工)

1 現場 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
普通作業員		人				
諸雑費		式	1			
計	1 現場 当り					

第 144 号 単価表

振動ローラ(舗装用)運転

ハンドガイト式 運転質量0.5～0.6t
超低騒音型

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
軽油		L	3			
振動ローラ(舗装用)	ハンドガイト式 運転質量0.5～0.6t 超低騒音型	供用日	1.23			
諸雑費		式	1			
計						1 日 当り

第 145 号 単価表

振動コンパクタ運転

前進型 機械質量40～60kg

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
ガソリン	レギュラー	L	5			
振動コンパクタ	前進型 機械質量40～60kg	供用日	1.4			
諸雑費		式	1			
計	1 日 当り					

第 146 号 単価表

タンパ運転

質量60～80kg

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
ガソリン	レギュラー	L	4			
タンパ 及びランマ賃料	ランマ 質量60～80kg	供用日	1.61			
諸雑費		式	1			
計	1 日 当り					

第147号 単価表

バックホウ(クローラ型)運転

標準型 山積0.28/平積0.2m3
 排出ガス対策型(第1次基準値)

1 h 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手(特殊)		人				
軽油		L	5.9			
バックホウ(クローラ型)	標準型 山積0.28/平積0.2m3 排出ガス対策型(第1次基準値)	h				
諸雑費		式	1			
計	1 h 当り					

第 148 号 単価表

ダンプトラック運転

オンロード・ディーゼル 2t積級
タイヤ損耗(良好)

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手 (一般)		人				
軽油		L	21			
ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 2t積級	供用日	1.29			
タイヤ損耗費	2~3t 良好	供用日	1.29			
諸雑費		式	1			
計	1 日 当り					

第 149 号 単価表

ダンプトラック運転

2t積

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手 (一般)		人				
軽油		L	21			
機械損料		供用日	1.29			
損耗日		供用日	1.29			
諸雑費		式	1			
計	1 日 当り					

第 150 号 単価表

配管分岐

鋼管類 保温無 20A

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管	SGP-VD 地中配管 20A	m	1			第 110 号単価表参照
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 151 号 単価表

配管切断

鋼管類 保温有 20A
アルミガラス化粧筒

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管保温	グラスウール 天井内 アルミガラス化粧筒 20A	m	0.3			
配管工		人				
保温工		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 152 号 単価表

配管切断

鋼管類 保温有 20A
ステンレス鋼板

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
給水管保温	グラスウール 屋外露出 ステンレス鋼板 20A	m	0.3			
配管工		人				
保温工		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 153 号 単価表

給水管撤去

SGP-VB
機械室・便所 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 154 号 単価表

給水管撤去

SGP-VB
屋外配管 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 155 号 単価表

保温材撤去

グラスウール 天井内
アルミガラス化粧筒 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
保温工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 156 号 単価表

保温材撤去

グラスウール 屋外露出
ステンレス鋼板 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
保温工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 157 号 単価表

保温材撤去

グラスウール 屋外露出
ステンレス鋼板 20A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ダクト工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 158 号 単価表

はつり補修

75φ×200L

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 159 号 単価表

はつり補修

100φ×200L

1 か所 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
特殊作業員		人				
その他		式	1			
計	1 か所 当り					

第 160 号 単価表

排水管撤去

VP
地中配管 50A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 161 号 単価表

排水管撤去

VP
地中配管 75A

1 m 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 m 当り					

第 162 号 単価表

排水金物撤去

D-50

1 個 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配管工		人				
その他		式	1			
計	1 個 当り					

第163号 単価表

ダンプトラック運転工

オンロード・ディーゼル 4t積級

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
軽油		L	34.8			5.8*6
運転手（一般）		人				
ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4t積級	h				
諸雑費		式	1			
計	1 日 当り					

第164号 単価表

バックホウ(クローラ型)運転

標準型 山積0.8/平積0.6m3
 排出ガス対策型(第1次基準値)

1 h 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手(特殊)		人				
軽油		L	15			
バックホウ(クローラ型)	標準型 山積0.8/平積0.6m3 排出ガス対策型(第1次基準値)	h				
諸雑費		式	1			
計	1 h 当り					

第 165 号 単価表

ダンプトラック運転

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手 (一般)		人				
軽油		L	62			
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	10 t 積級	供用日	1.25			
タイヤ損耗費	10 t 積級 普通 供用日	供用日	1.25			
諸雑費 (まるめ)		式	1			
計	1 日 当り					

第166号 単価表

バイブロハンマ杭打機運転

(陸上施工)

1日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
運転手 (特殊)		人				
軽油		L	473			
バイブロハンマ(単体)[油圧式・可変 超高周波型]	排ガス型 (第3次) 振り子式 473kN	供用日	1.31			
クローラクレーン[油圧駆動ウイ ンチ・ラチスジブ]	排出ガス対策型(2014年規制)50~55t吊	供用日	1.31			
諸雑費 (まるめ)		式	1			
計	1日 当り					

幸田配水場非常用発電設備新設工事

標 準 仕 様 書

令和 8 , 9 年度

松 戸 市 水 道 部

仕 様 書

(適 用)

第 1 条 この仕様書は、標記工事（以下、「工事」という。）に関し請負者が遵守する請負契約約款及び千葉県県土整備部技術管理課監修の最新版「土木工事共通仕様書・施工管理基準」（以下「共通仕様書」という。令和 6 年 10 月 1 日改訂）のほかに、特に守らなければならない事項を定めたものである。

2 この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。

(工事カルテ作成・登録)

第 2 条 受注者は、受注時または変更時において工事請負代金額が 500 万円以上の工事について、工事实績情報システム（CORINS）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事实績情報として作成した「登録のための確認のお願い」をコリンズから監督職員にメール送信し、監督職員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、完成時は工事完成後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、訂正時は適宜登録機関に登録申請をしなければならない。

登録対象は、工事請負代金額 500 万円以上（単価契約の場合は契約総額）の全ての工事とし、受注・変更・完成・訂正時にそれぞれ登録するものとする。

また、登録機関発行の「登録内容確認書」は、コリンズ登録時に監督職員にメール送信される。

なお、変更時と工事完成時の間が 10 日間（土曜日、日曜日、祝日等を除く）に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できる。

また、本工事の完成後において訂正または削除する場合においても同様に、コリンズから発注者にメール送信し、速やかに発注者の確認を受けた上で、登録機関に登録申請しなければならない。

(建設副産物)

第 3 条 「建設リサイクル推進計画 2020」及び「千葉県建設リサイクル推進計画 2016 ガイドライン」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を「建設副産物情報交換システム（COBRIS）」により作成し、施工計画書に含め各 1 部提出すること。また計画の実施状況（実績）については、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利

用促進実施書」、並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」を入力システムにより作成し、出力した様式を各1部提出するとともに、これらの記録を工事完成後1年間保存しておくこと。

- 2 建設副産物の処分に先立ち、「建設副産物処分承認申請書」を作成し、提出すること。
- 3 建設廃棄物の処理を委託する場合は、運搬あるいは処理について許可業者と各々建設廃棄物処理契約を締結し、「建設廃棄物処理委託契約書」を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを提出すること。
- 4 建設副産物の処理終了後、速やかに「建設副産物処理調書」を作成し、提出するとともに、実際に要した処理費等（受入伝票、写真等）を証明する資料を監督職員に提出し確認を受けること。
- 5 建設廃棄物の処理にあたって、産業廃棄物管理票制度に基づく紙マニフェスト方式による場合は、複写式伝票のD票及びE票の写しを提出すること。

また、電子マニフェスト方式による場合には、建設廃棄物の引渡し時、運搬終了時及び処分終了時に登録した情報をパソコンにより印刷し提出すること。

6 建設発生土

建設発生土のうち、処分するもの（81.9 m³）については、片道運搬距離 13.0km の(株)マツヤ建材に搬出するものとする。また、建設発生土の処分については、仮置きについて考慮するものとする。

7 改良土

発生土のうち、図面等の指示により改良土を埋戻し材として利用する場合は千葉県知事の許可を得た改良プラントに発生土を搬出し、改良土を得るものとする。発生土（142 m³）は片道運搬距離 4 kmの(株)大勝工業に搬出し、処理するものとする。

8 建設廃棄物

本工事により発生する

- 1) アスコン塊（6.20 m³）は、片道運搬距離 18 kmの前田道路(株)に運搬し、処理するものとする。
- 2) コンクリート塊（13.2 m³）は、片道運搬距離 7 kmの石建商事(株)に運搬し、処理するものとする。
- 3) 舗装版切断作業時に発生する排水（0.20 m³）は、片道運搬距離 23km の千葉丸辰道路(株)に運搬し、産業廃棄物の汚泥と廃アルカリ（PH12.5 以上は特別管理産業廃棄物の廃アルカリ）の混合物として処理するものとする。

「建設副産物情報交換システム（COBRIS）」での登録は、「その他の廃棄物」として登録する。

- 9 運搬に先立ち受入条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。工事発注後、事情により上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。
- 10 搬出先において、許可番号を示した看板と現場から搬出したことが明らかとなるように廃棄物を積んだダンプトラックを写した写真を工事写真として監督職員へ提出すること。
- 11 石綿セメントの撤去作業については、「石綿障害予防規則」従うこと。

(建設リサイクル法)

第 4 条 特定建設資材の分別解体等・再資源化等の適正な措置については次の各項によるものとする。

- 2 本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）。以下「建設リサイクル法」という。」に基づく対象建設工事であり、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事として取り扱う。尚、建設工事請負契約書「6. 解体工事に要する費用等」については、契約締結時に発注者と請負者の間で確認される事項であるため、発注者が条件明示した事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。
- 3 請負者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第 18 条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。

- ① 再資源化等が完了した年月日
- ② 再資源化等をした施設の名称及び所在地
- ③ 再資源化等に要した費用

尚、書面に添付する資料は「千葉県建設リサイクル推進計画 2016 ガイドライン」に定めた様式 1〔再生資源利用計画書（実施書）〕及び様式 2〔再生資源利用促進計画書（実施書）〕を使用するものとする。

- 4 請け負おうとする建設業者からの事前説明は、次の各項によるものとする。
 - 1) 法第 12 条で、対象建設工事を請け負おうとする建設業を営むものは、発注者に対し、対象建設工事の届出に関する事項を記載した書面（説明書）を提出し説明を行うこととする。
 - 2) 書面の提出は、契約に先立って行うこととする。
 - 3) 書面は施工計画書に添付するものとする。

(公衆災害)

第 5 条 工事の施工にあたっては、「建設工事公衆災害防止対策要綱」に従

って行わなければならない。

(公害対策)

- 第 6 条 工事着手 7 日前までに松戸市公害防止条例第 37 条に基づき特定建設作業の実施の届出を市長に届けなければならない。
- 2 本工事で使用する建設機械は、仕様書の第 10 条によるものを使用すること。
 - 3 車輪に付着した土砂は必ず場内で落とし、既成市街地の走行で剥離させてはならない。

(施工管理)

- 第 7 条 本工事の施工管理は、共通仕様書及び本部仕様書の基準に及び規格値によるものとする。ただし、工事の種類、規模、施工条件等が当該施工管理基準により難しい場合は、工事着手前の施工打合せ時に指示する。
- 2 工事写真管理は、共通仕様書及び本部仕様書に記載される写真管理基準による。
 - 3 工事記録の信頼性を高めるためにも工事写真に撮影年月日を明記すること。

(工事中の安全確保)

- 第 8 条 工事中の施工にあたっては、最新改訂版の「道路工事保安施設設置基準」(昭和 40 年 10 月 14 日付け建関道管第 756 号 最終改定令和元年 5 月 21 日付け国関整道管第 8 号)に基づき適切な交通管理を行うものとする。工事看板は、最終改定されたものを使用するものとする。ただし、これによりがたい場合は、監督員と協議するものとする。
- 2 工事施工中、又 1 日の作業を終了する際は、現場内の整理整頓を実施し、原則として現場内に重機・材料等を置かないこと。やむを得ず現場内にそれらを置く場合は、通行の支障にならない地点を選定し、バリケード・保安灯等の安全施設を設置し、監督員に報告すること。
 - 3 夜間開放時に段差が生じる箇所については、安全に通行できる様な勾配ですりつけるとともに、予告板や保安灯を設置して安全管理に努める。
 - 4 工事の施工に際し、地下埋設物件等が予想される場合は、その管理者と現地立会いのうえ、当該物件の位置、深さ等を確認し、保安対策について十分打合せを行い、事故の発生を防止しなければならない。
 - 5 請負者の責により地下埋設物物件等に損害を与えた場合は、速やかに監督職員に報告するとともに関係機関に連絡し応急措置をとり、請負者の負担によりこれを補修しなければならない。

- 6 埋設物件等の管理者不明のものがある場合は、監督職員に報告し、その処置について、占有企業者全体の立会を求め、管理者を明確にしなければならない。

(工事現場管理)

第 9 条 請負者は、工事の施工に当たっては、次の事項を遵守するものとする。

- 1) 積載重量制限を越えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- 2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- 3) 過積載車両、さし枠装着者、不表示車等から土砂等の引渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
- 4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- 5) 建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請け事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- 6) 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

(建設機械の使用)

第 10 条 本工事において建設機械を使用する際は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成 3 年 10 月 8 日付け建設省経機発第 249 号最終改正平成 13 年 3 月 30 日付け国総施第 51 号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用すること。

(安全・衛生対策関係)

第 11 条 施工に先立ち作成する施工計画書に、本工事の内容に応じた交通整理員、安全器具等の具体的な配置計画を作成し、監督職員に提出の上、承認後、施工にあたること。

- 2 工事での切削又は消去した路面表示は、その日の作業終了までに必ず復旧すること。復旧方法等については施工に先立ち監督職員と協議するものとする。
- 3 工事看板は、デザインが更新されていることから、「路上工事の新看板」（国土交通省HP参照）を参照し、新看板を設置すること。

(安全・訓練等の実施)

第 12 条 本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工

事着手後、原則として作業員全員の参加により下記の項目から実施内容を選択し安全・訓練等を実施するものとする。

- 1) 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
 - 2) 本工事内容等の周知徹底
 - 3) 土木工事安全施工技術指針等の周知徹底
 - 4) 本工事における災害対策訓練
 - 5) 本工事現場で予測される事故対策
 - 6) その他、安全・訓練等として必要な事項
- 2 施工に先立ち作成する施工計画書に、本工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督職員に提出するものとする。
 - 3 安全・訓練等の実施状況をビデオ等は又は工事報告（工事日報）に記録し報告するものとする。

（環境対策）

- 第 13 条 請負者は、千葉県が請負を開始している環境マネジメントシステムの構成要素をなす「公共事業における環境影響の低減」を推進し、達成をするため施工計画書《環境対策》内に独立した項目として「環境に配慮した工事実施計画」について記載するものとする。
- 2 本工事で使用する建設機械は、騒音防止及び排気ガス対策を施した機械を使用するものとし、関係部署に届出をするとともに届出書の写しを提出するものとする。これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。
 - 3 舗装版掘削作業においては、騒音防止を施した機械を用いるものとする。尚、これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。

（工程管理）

- 第 14 条 工事施工中の工程管理について、月初めに日報及び工程進捗状況を工程表に記載し提出すること。
- 2 他の工事に競合して工事を実施する際、当初作成した工程とのずれが生じた場合、その都度監督職員と打合せを行い工期内完成に努めること。
 - 3 作業時間は、原則として午前 8 時 30 分から午後 5 時までとするが、現場ごとに監督職員、所轄警察署とよく調整を図ること。

（住民への周知）

- 第 15 条 沿線住民に対しては、工事の時期、時間、施工方法、迂回路等

工事内容を十分に説明し、理解と協力を得た上で施工を開始すること。

- 2 工事施工中、沿線住民から要望や質問等があった場合は、必ず現場代理人が対応し、必要がある場合は監督職員に報告すること。

(競合工事の調整)

- 第 16 条 工事箇所が他工事と競合する場合は、事前に十分工程調整を実施し、工事が円滑に進捗するよう努めること。

(週休 2 日制適用工事)

- 第 17 条 本工事は、週休 2 日制適用工事である。
- 2 受注者は、現場閉所による週休 2 日工事として取り組むこと。なお、予定価格には月単位の週休 2 日（4 週 8 休以上）達成相当の経費を補正している。
- 3 週休 2 日制の実施にあたっては、「松戸市水道事業建設工事週休 2 日制適用工事実施要領」に基づき行うこと。

(熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行工事)

- 第 18 条 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正を試行する対象工事とする。
- 2 受注者は、契約後速やかに、本試行の適用について、監督職員と協議すること。
- 3 工事の実施にあたっては、「松戸市水道事業熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行要領」に基づき行うこと。

(情報共有システムの活用)

- 第 19 条 本工事は、情報共有システムの対象工事である。
- 2 受注者は、活用による生産性向上が見込まれないなどと判断される場合は、監督職員との協議により、実施の有無を決定することとする。
- 3 実施にあたっては「松戸市土木工事情報共有システム試行要領」に基づくものとする。

幸田配水場非常用発電設備新設工事

特記仕様書

令和8,9年度

松戸市水道部

目 次

第1章 総則	1
第1節 一般事項.....	1
第2章 非常用発電設備工事.....	5
第1節 概要.....	5
第2節 施工計画書	5
第3節 承諾函及び完成図書.....	6
第4節 材料.....	6
第5節 試験及び検査.....	6
第6節 試運転及び運転指導.....	7
第7節 調査事項、その他	7
第8節 主要機器構成.....	8
第9節 工事範囲.....	8
第10節 機器特記仕様	8
第11節 工事一般仕様	15
第12節 運転操作方案	27

第1章 総則

第1節 一般事項

1 適用範囲

本仕様書は松戸市水道部工務課（以下、発注者という）が発注する下記工事に適用し、特記なき限り本仕様書が優先するものとする。また、本工事は、県土整備部制定「共通仕様書（土木工事共通編）」、日本水道協会制定「水道工事標準仕様書」に準拠するほか、本特記仕様書により施工するものとする。

消防法による非常電源及び建築基準法による予備電源となる発電装置は、消防法及び建築基準法に適合したものまたは、（一社）日本内燃力発電設備協会の認定証票が添付されたものとする。

工事名称：幸田配水場非常用発電設備新設工事

工事場所：松戸市幸田5丁目16番地 他1ヶ所

2 適用規格・準拠基準

電気事業法

建築基準法

消防法

松戸市火災予防条例

電気設備に関する技術基準を定める省令

日本産業規格（JIS）

日本水道協会規格（JWWA）

日本電機工業会規格（JEM）

電気規格調査会標準規格（JEC）

陸用内燃機関協会規格（LES）

日本内燃力発電設備協会（NEGA）

電池工業会規格（SBA）

水道施設設計指針（日本水道協会）

水道施設耐震工法指針・解説（日本水道協会）

労働安全衛生法（厚生労働省）

内線規程

コンクリート標準示方書（土木学会）

騒音規制法

松戸市公害防止条例

公共建築工事標準仕様書 建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編（公共建築協会）

自家用発電設備耐震設計のガイドライン（日本内燃力発電設備協会）
官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説（公共建築協会）
建築設備耐震設計・施工指針（日本建築センター）
その他関連法令、規格及び基準

3 関係法令等の遵守

請負者（以下、受注者という）は、工事請負約款、建設業法、道路交通法、労働基準法、職業安定法、労働災害補償保険法、建設工事公衆災害防止対策要綱、その他関係法規及び発注者の条例、規則、工事の施工に関する諸法令を遵守しなければならない。

4 疑義の解釈

仕様書及び設計図書に疑義を生じた場合は、発注者と受注者の協議による。仕様書及び設計図書以外の細部については、監督職員の指示によるものとする。また、明示されていない軽微なもので、工事施工上当然必要な付帯工事は、受注者の責任において施工する。

5 関係書類の提出

受注者は指定の日までに発注者の定める様式による書類を提出する。
提出した書類に変更を生じたときは、速やかに変更届を提出する。

6 委任及び下請負

受注者は工事の全部または大部分を第三者に委任し、または請け負わせてはならない。ただし、受注者の書面による承諾を得た場合はこの限りでない。

7 現場代理人等

受注者は現場代理人、主任技術者について、書面をもって発注者に届出て、承認を受けなければならない。なお、現場代理人及び主任技術者はこれを兼ねることが出来る。

現場代理人は、工事現場に常駐し、工事に関する一切の事項を処理するとともに常に監督職員と緊密な連絡をとり、工事の円滑、迅速な進行をはかる。ただし、工事現場の常駐について、発注者の承諾を受けた場合には、この限りでない。

安全管理の不備により事故が発生した場合には受注者の責任において処理すること。

8 官公署及び電力会社に対する手続き

工事施工のため、必要な官公署（経済産業省 関東東北産業保安監督部、松戸市消防局及びその他必要なもの）及び電力会社に対する手続きは、受注者が行うものとし、これに要する費用は受注者の負担とする。

なお、受注者はその結果を監督職員に報告しなければならない。

9 費用の負担

材料及び工事の検査並びに工事施工に伴う測量、調査、試験、諸手続に必要な費用は受注者の負担とする。

また、軽微な工事についても受注者の負担とする。

10 契約の変更

工事内容、工期または、請負金額等について変更の必要があるときは、すみやかに発注者と受注者の協議を行う。

11 賠償の義務

受注者は、工事のため発注者または第三者に損害を与えたときは、賠償の責めを負うものとする。ただし、天災、その他不可抗力によると考えられる場合は、契約約款に基づき協議する。

受注者の使用する労働者の行為またはこれに対する第三者からの求償については、発注者は一切その責めを負わない。

前2項の処理は、原則として受注者が行うものとする。

12 工事標識等

工事現場には見えやすい場所で、かつ交通安全上支障とならない場所に工事件名、工事箇所、区間、期間、施工主体名、請負者、同電話番号を記載した工事標示板、その他所定の標識を設置しなければならない。

13 土地使用の承認

受注者は現場事務所、材料置場、機械置場等について、公有地、私有地を使用する場合は、その承認を受けなければならない。

14 安全対策

受注者は工事施工中、交通の妨害となる行為、その他公衆に迷惑を及ぼす行為のないよう関係官公署の指示事項を遵守し、交通保安上十分な措置を講じなければならない。

工事施工中は、地上、地下の既設物に支障をきたさないよう保護工を施し、もし既設工作物に損傷を及ぼしまたは便宜上取外した場合等は、指定の期日内に完全に復旧しそ

の費用は全て受注者の負担とする。

1.5 その他

契約書、設計図及び仕様書に示されていない事項であっても、製作据付工事施工上当然必要と認められる軽微な事項については、受注者の負担で処理するものとする。

請負契約後、工事施工途中において変更が生じる時は、監督職員の指示に基づき実施するものとし、工事完成後速やかに変更図面及び数量計算書を作成し、提出すること。

工事施工途中において、材料納品書・コンクリート強度試験表・品質管理資料・実工程表・工事写真及びその他必要な書類は常に整理し、監督職員より要求があったときは、速やかに提出しなければならない。

工事施工場所において地元関係者より工事に関する要望があった場合には、速やかに監督職員に連絡するとともにその指示を受けること。

1.6 健康診断

水道法第21条による健康診断結果は、幸田配水場に入場するより前に監督職員に提出すること。

第2章 非常用発電設備工事

第1節 概要

本工事は、幸田配水場非常用発電設備工事の新設工事である。

発電機室に、非常用発電設備の新設及び場内屋外に地下タンクを新設する。

また、小金浄水場中央監視設備にて、幸田配水場非常用発電設備の監視操作が可能なように機能増設を行う。

本配水場は稼働中の施設のため、本工事により、他の設備等に影響を与えないように十分注意し、既設の機能を損なうことなく、設備の機能増設を行うこと。既設設備の運用及び他の工事に支障をきたさぬように施工すること。また、水運用に直接影響を与える可能性がある場合、施工方法、施工手順について監督職員と十分協議した上で施工を行うこと。

第2節 施工計画書

1 施工計画書

受注者は、工事着手前に工事目的物を完成されるために必要な手順や工法等についての施工計画書を監督職員に提出しなければならない。提出書類（検討項目）は、以下を参考とし、監督職員と協議のうえ決定する。

工事概要 工事名、工事場所（工場場所を含む）工期、請負代金、発注者、受注者、
工事内容（工事数量総括表と同じ）

実施工程表 工事名、契約年月日、工期、計画工程

現場組織表 現場組織、編成、命令系統、業務分担

安全管理 安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、
安全巡視の実施方法、安全活動方針

指定機械 設計図書で指定のあった機械、監督職員が必要と認めた機械

主要機材 工事に使用する機器及び主要器材（搬出入計画含む）

施工方法 主な工種ごとの作業フロー、施工方法（耐震施工含む）、使用機械、仮設
備計画、工事用地等を含む

施工管理計画 工程管理、出来形管理、品質管理、写真管理、段階確認、品質証明

緊急時の体制及び対応 災害発生時の体制、事故発生時の連絡系統図

交通管理 交通対策、交通処理、過積載防止

環境対策 大気汚染、水質汚濁、振動、騒音等の対策

現場作業環境の整備

再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

諸官庁許認可届出リスト

その他 契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの

第3節 承諾図及び完成図書

1 承諾図

この仕様書並びに添付図書に記載する事項は、主要事項のみを示すものであるため、受注者は承諾図を提出し監督職員の承諾を得てから機器製作に着手しなければならない。

なお、承諾図の提出部数は2部（返却用1部を含む）とする。

2 完成図書

完成図書には、承諾図に下記のことを追加し3部提出するものとする。

完成図書の製本については、金文字黒表紙製本とする。

- (1) 機器性能特性図
- (2) 試験成績書
- (3) 機器取扱説明書
- (4) その他監督職員の指示するもの

第4節 材料

1 材料の規格

主な使用材料はすべて日本産業規格（JIS）、電気規格調査会標準規格（JEC）、日本電機工業会規格（JEM）、内線規程、公共建築工事標準仕様書 建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編（公共建築協会）のいずれかに適用しなければならない。

2 仕様材料の検査及び承諾

工事用材料は、使用前に検査を受け合格したものでなければならない。使用材料については、使用前に承諾されたものでなければならない。

材料検査に際して、受注者はこれに立ち会わなければならない。立ち会わない場合は、受注者は検査に対し異議を申し立てることはできない。

検査及び試験のため、使用に耐えられなくなったものは、所定数量に算定してはならない。

材料検査に合格したものであっても、使用時になって損傷や変質したときは新品と取替え再び検査を受けなければならない。

第5節 試験及び検査

1 試験及び検査

工事完了後は監督職員立会いのうえ、総合試験及び各種検査を実施する。

機器及び付属品の試験は、工場試験と現場試験に区別して行うものとする。工場試験

は機器製作完了後、その製作工場において実施し、現場試験はすべての機器を現場に据付完了後、各種試験を行うものとする。

なお、各種試験は原則として監督職員立会いのうえ実施するものとし、事前に検査日時、検査場所等の必要項目を記入し、監督職員に提出することとする。

工場検査及び試運転は発注者への納入品以外のものであってはならない。

監督職員が必要と認めた場合は、公共または権威ある試験所、その他の機関の材料試験成績書及び検査合格証明書を提出するものとする。

工場検査を省略された機器材料についても監督職員の指定したものについては、試験成績書を提出するものとする。

機器の試験及び検査は原則として監督職員の立会いのもとに行うが、当該機器が公認の規格による汎用品である時はその成績表を提出して承諾を受けるものとする。

試験に要する費用はすべて受注者の負担とする。

第6節 試運転及び運転指導

1 試運転及び運転指導

工事完了後、現場試験を実施する場合には受注者は責任ある専門技術者を現場に派遣し、監督職員と打合せのうえ試運転の実施に当たること。

試運転実施日及び期間については、監督職員の指示によるものとする。

試運転成績書は速やかにまとめて必要部数を発注者に提出すること。

試運転調整に要する費用はすべて受注者の負担とする。

試運転終了後、受注者は直ちに専門技術者を派遣して設備の運転に備え、運転に関する資料を提出すること

期間は原則として10日以内とする。

指導員の派遣費用は受注者の負担とする。

第7節 調査事項、その他

- 1 受注者は設計図書及び数量計算書に示された数量の確認を行い、監督職員の指示がある場合には出来高調書を作成し提出しなければならない。
- 2 産業廃棄物の処理については、関係法令に基づき許可を受けた処分場にて処分を行うこととする。
- 3 処分を証明する下記資料を監督職員に提出することとする。
収集運搬、最終処分業の許可証の写し。
産業廃棄物処理契約書の写し。

産業廃棄物処理業者の許可証の写し。

処分数量を確認できる資料（マニフェスト管理票）。

また、工事の施行に当たり受注者は、既設機材撤去及び建築改修工事前に、石綿（アスベスト）が使用されていないか調査を行い、監督職員に報告を行うこと。石綿（アスベスト）の撤去作業を行う場合は、大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿予防規則、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等を遵守すること。

第8節 主要機器構成

1	非常用発電設備	1 式
2	排気消音器	1 式
3	給気消音器	1 式
4	排風消音器	1 式
5	給油口ボックス	1 面
6	燃料移送ポンプ	2 台
7	地下タンク液位計	1 台
8	地下タンク	1 基
9	補機盤	1 面
10	幸田配水場 400V 動力電源盤機能増設	1 式
11	幸田配水場 高圧受電盤機能増設	1 式
12	幸田配水場 コントローラ盤 (1) (2) 機能増設	1 式
13	幸田配水場 テレメータ送信装置 (子局) 盤機能増設	1 式
14	小金浄水場 テレメータ送信装置 (親局) 盤機能増設	1 式
15	小金浄水場 HIS1、2 操作卓機能増設	1 式
16	小金浄水場 Web サーバ機能増設	1 式

第9節 工事範囲

- 1 第8節記載の機器製作
- 2 第8節記載の機器据付工事
- 3 機器間の配管、配線工事
- 4 試験調整
- 5 その他上記に伴う諸工事

第10節 機器特記仕様

本工事における非常用発電設備の概略仕様について、以下に示す。

発電設備定格出力	200kVA (幸田配水場の配水ポンプ最大2台運転可能とする)
原動機	ディーゼル機関 (長時間形)

始動方式	電気始動
冷却方式	機付ラジエータ式
使用燃料	軽油
燃料タンク	地下タンク (コンクリート製の筐体内にタンクを収納し、空間には乾燥砂を充填)
運転時間	幸田配水場の運用で 72 時間運転可能とする
騒音対策	幸田配水場騒音規制基準 用途地域：第 1 種低層住居専用地域の夜間最小 40dB を遵守
中央監視設備	幸田配水場及び小金浄水場中央監視設備で運転監視可能とする

1 非常用発電設備

- | | |
|---------|-----------|
| (1) 数 量 | 1 式 |
| (2) 型 式 | 屋内キュービクル式 |
| (3) 構 造 | |

本装置は、低圧の発電装置とし、発電機、原動機、発電機盤（自動始動、充電器盤を兼ねる）、始動制御用蓄電池及び付属タンクを共通台床に搭載するものとする。

また防音パッケージ内に収納する。

- | | |
|----------------|----------------|
| (4) 発電機 | |
| 定格出力 | 200kVA |
| 定格電圧 | 420V |
| 周波数 | 50Hz |
| 相数及び線数 | 3 相 3 線 |
| 定格の種類 | 連続 |
| (5) 原動機 | |
| 機 関 | ディーゼル機関 |
| 定格出力 | 発電機に整合すること。 |
| 潤滑方式 | 強制潤滑方式 |
| 周波数 | 50Hz |
| 相数及び線数 | 3 相 3 線 |
| 定格の種類 | 連続 |
| 燃料の種類 | 軽油 |
| (6) 始動及び制御用蓄電池 | |
| 型 式 | 制御弁式 (MSE) |
| 容 量 | 機関の始動、制御に十分なもの |

(7) 充電器	始動 5 回を行った後、制御用を含め使用した電力を 24 時間以内に充電できるものとする
(8) 燃料小出槽 (下部タンク)	
燃 料	軽油
付属品	漏油フロートスイッチ
(9) 防音パッケージ	
防音性能	75dB 以下
(10) 付属装置及び付属品	
冷却水ポンプ(機付)	1 式
潤滑油ポンプ(機付)	1 式
潤滑油冷却器	1 式
潤滑油こし器	1 式
潤滑油圧力計	1 式
燃料こし器	1 式
回転計	1 式
冷却水流水計(接点付)	1 式
冷却水温度スイッチ	1 式
潤滑油温度計	1 式
排気温度計	1 式
調速機	1 式
過給機 (機関形式による)	1 式
燃料噴射ポンプ	1 式
機関直属諸管及び継手	1 式
プライミングポンプ (駆動装置付)	1 式
ターニング装置(始動方式により付属)	1 式
共通台床	1 式
保守用具 (専用工具、特殊工具)	1 式
製作者の標準付属品	1 式
標識類	1 式
その他必要なもの	1 式

2 排気消音器

(1)数 量	1 式
(2)構 造	三連構造
(3)適用原動機	発電装置原動機による
(4)消音性能	50dB 以下
(5)付属装置	ダクト類
(6)その他必要なもの	1 式

3 給気消音器

(1)数 量	1 式
(2)構 造	縦型消音器
(3)給気能力	252m ³ /min 以上
(4)給気ファン	(1.5 kW 参考)
(5)防音性能	50dB 以下
(6)付属装置	防火ダンパ (接点付き) ダクト類
(7)その他必要なもの	1 式

4 排風消音器

(1)数 量	1 式
(2)構 造	縦型消音器
(3)換気能力	227m ³ /min 以上
(4)換気ファン	(1.5 kW 参考)
(5)防音性能	50dB 以下
(6)付属装置	防火ダンパ (接点付き) ダクト類
(7)その他必要なもの	1 式

5 給油口ボックス

(1)数 量	1 面
(2)型 式	屋外壁掛型 SUS 製
(3)盤面取付用品	
名称板	1 式
その他必要なもの	1 式
(4)盤内収納器具	
給油口 65A	1 個
液位タンク液位計変換器スペース	1 式

ローリーアース端子	1 式
その他必要なもの	1 式

6 燃料移送ポンプ

(1)数 量	2 台
(1 台当たり)	
(2)構 造	安全防爆形
(3)絶縁種別	E 種以上
(4)形 式	歯車またはコロイド式
(5)駆動方式	電動機直結 3φ 3W200V 50Hz 0.4kW
(6)口 径	25A
(7)ポンプ吐出量	29L/min 以上
(8)ポンプ揚程	0.25Mpa 以上
(9)付属装置	吐出圧力計
(10)その他必要なもの	1 式

7 地下タンク液位計

(1)数 量	1 台
(2)型 式	フロート式 (防爆型)
(3)取付方法	フランジ取り付け
(4)付属品	変換器 (給油口ボックス内に収納)
(5)その他必要なもの	1 式

8 地下タンク

(1)数 量	1 基
(2)型 式	地下貯蔵タンク式
(3)タンク容量	4、000L
(4)主要材質	鋼板製
(5)付属装置	
注油口金物 (配管共)	1 式
吸油逆止弁 (配管共)	1 式
漏洩検査管口 (配管共)	1 式
油タンク蓋 (配管共)	1 式
通気金物 (配管共)	1 式
保護筒、固定バンドその他必要な付属品	1 式
除水器	1 式
名称板	1 式

10 型消火器（格納箱収納）	2 本
タンク蓋（重耐仕様）	2 枚
標識類	1 式
(6)その他必要なもの（燃料等）	1 式

9 補機盤

(1)数 量	1 面
(2)型 式	屋内自立型
(3)主要盤内機器	
主幹用配線用遮断器 3P50AF	1 台
充電器用電源送り配線用遮断器 3P50AF	1 台
200V 0.4kw 直入れ回路	2 台
200V 1.5kw 直入れ回路	2 台
制御電源 1kVA 及び一次二次遮断器	1 式
その他必要なもの	1 式
(4)主要盤面器具	
交流電圧計	1 式
切換スイッチ	1 式
操作スイッチ	1 式
故障表示灯	1 式
その他必要なもの	1 式

1 0 幸田配水場 400V 動力電源盤機能増設

(1)数 量	1 式
(2)機能増設内容	
発電設備給電時における復電時において、復電自動制御を行わないための機能増設	
停復電制御回路の変更	1 式
非常用発電設備新設に伴う接続端子の変更	1 式
その他必要な機能増設	1 式

1 1 幸田配水場 高圧受電盤機能増設

(1)数 量	1 式
(2)機能増設内容	
発電設備給電時における復電時において、復電自動制御を行わないための機能増設	
保護連絡回路の変更（不足電圧RYによる制御）	1 式
その他必要な機能増設	1 式

1.2 幸田配水場 コントローラ盤 (1) (2) 機能増設

(1) 数 量 1 式

(2) 機能増設内容

非常用発電設備の新設に伴う入出力項目の追加及びLCD画面の変更 1式
 テレメータ送信装置 (子) との信号授受 1式
 発電設備運転時の配水ポンプ運転負荷制限ソフトウェアの追加 1式

(3) 入出力点数

	接点入力 DI	計測入力 AI	パルス入力 PI	制御出力 DO	設定出力 AO	備考
今回増	27 点程度	6 点程度	1 点程度	4 点程度	—	

(4) その他必要なもの 1 式

1.3 幸田配水場 テレメータ送信装置 (子局) 盤機能増設

(1) 数 量 1 式

(2) 機能増設内容

非常用発電設備の新設に伴うテレメータ送信装置 (親局) との伝送信号項目を増設

(3) 入出力点数

	子局側 接点入力 DI	子局側 計測入力 AI	子局側 パルス入力 PI	親局側 制御出力 DO	親局側 設定出力 AO	備考
今回増	27 点程度	6 点程度	1 点程度	4 点程度	—	

(4) その他必要なもの 1 式

1.4 幸田配水場 テレメータ送信装置 (親局) 盤機能増設

(1) 数 量 1 式

(2) 機能増設内容

非常用発電設備の新設に伴うテレメータ送信装置 (子局) との伝送信号項目を増設

(3) 入出力点数

	子局側 接点入力 DI	子局側 計測入力 AI	子局側 パルス入力 PI	親局側 制御出力 DO	親局側 設定出力 AO	備考
今回増	27 点程度	6 点程度	1 点程度	4 点程度	—	

(4) その他必要なもの 1 式

1.5 小金浄水場 HIS1、2 操作卓機能増設

(1) 数量 1 式

(2) 機能増設内容

非常用発電設備の新設に伴う増設する管理項目のプロセス画面、帳票項目を追加

管理項目の増設 1 式

プロセス画面の増設 1 式

帳票項目の増設 1 式

(3) 入出力点数

	表示項目 DI	操作項目 AI	パルス項目 PI	操作項目 DO	設定項目 AO	帳票項目
今回増	27 点程度	6 点程度	1 点程度	—	4 点程度	18 点程度

(4) その他必要なもの 1 式

1.6 小金浄水場 Web サーバ機能増設

(1) 数量 1 式

(2) 機能増設内容

非常用発電設備新設に伴うWebサーバの管理項目の増設

(3) 入出力点数

	表示項目 DI	操作項目 AI	パルス項目 PI	操作項目 DO	設定項目 AO	帳票項目
今回増	1 点程度	—	—	—	—	—

(4) その他必要なもの 1 式

第 1.1 節 工事一般仕様

1 材料

(1) 電線類

ケーブル・電線及び付属品

ア ケーブル・電線の種類

ケーブル・電線は、JIS 及び JCS 製品とし、下記による。

(ア) 高圧ケーブルは、架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル (CE) またはトリプレックス形 (CET) を使用すること。

(イ) 低圧ケーブルは、公称 2.0 mm^2 以上の架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル (CE)、トリプレックス形 (CET) を使用すること。

(ウ) 制御用ケーブルは、原則として公称断面積 1.25 mm^2 以上の制御用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル (CEE) を使用すること。ただし機器盤等の端子がコネクタの場合はこの限りではない。

- (エ) 計装用ケーブルは、専用ケーブル若しくはコネクタ付多心ケーブルを使用する場合を除き公称断面積 1.25 mm²以上の遮へい付ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル (CEE-S) を使用すること。

イ 端末処理材

ケーブルの端末処理材は、原則として JCAA 製品とする。

ウ 圧着端子

圧着端子類は、JIS 製品とする。

エ その他付属品は、原則として JIS 製品とする。

(2) 電線・ケーブル保護材

(引用先：電気設備技術基準、内線規程、公共建築工事標準仕様書 電気設備工事編)

ア 配管及び付属品

材料の名称及び規格は、下記による。

区 分	名 称	規 格	備 考
金属管	鋼製電線管	JIS C 8305	
〃	金属製可とう電線管	JIS C 8309	
合成樹脂管	波付硬質合成樹脂管	JIS C 3653	

注：(ア) 付属品は、配管に適合したものとする。

(イ) 金属製可とう電線管は、MAS 製品を使用できる。

(3) プルボックス

構 造

ア 屋外に取付けるプルボックスは、ステンレス製とし、本体と蓋の間には吸湿性が少なく、かつ劣化しにくいパッキンを設けた防水形とする。

イ プルボックスの下面に、水抜き穴を設ける。

ウ 蓋の止めネジは、ステンレス製とする。

エ ステンレス製プルボックスの板厚さは下記による。

オ ステンレス製プルボックスの板厚は 1.2mm 以上とする。

カ プルボックス内部に接地端子座による、接地端子を設ける。

2 施工

(1) 配電盤等の据付（引用先：電気設備技術基準、内線規程）

ア コンクリート基礎に据付ける盤類は、コンクリートの養生を十分に行った後、堅固に据付けるものとする。なお、アンカーボルトはステンレス製とする。

(2) 配線工事（引用先：電気設備技術基準、内線規程）

ア ケーブル布設

ケーブルを曲げる場合は、被覆が傷まないように行い、その屈折半径（内側半径とする。）は下表によること。

ケーブルの屈折半径

ケーブルの種別	単心以外のもの	単心のもの
低圧ケーブル	仕上り外径の6倍以上	仕上り外径の8倍以上
低圧遮へい付ケーブル	仕上り外径の8倍以上	仕上り外径の10倍以上

〔備考〕トリプレックス形の場合は、より合せ外径をいう

イ 管内配線

(ア) 通線する際には、潤滑材として絶縁被覆をおかすものを使用してはならない。

(イ) 通線は、通線直前に管内を清掃し、ケーブル等の被覆を損傷しないように養生しながら行うこと。

ウ ケーブルラック配線

(ア) ケーブルは整然と布設し、原則として水平部では3m以下、垂直部では1.5m以下の間隔ごとに支持すること。

(イ) 特定の子桁に重量が集中しないように布設すること。

エ 端末処理等及び導電部の接続等

(ア) 公称断面積60mm²以上の低圧ケーブルの端末処理は、規格材料を用いて行うこと。また、60mm²未満の低圧ケーブルは、自己融着テープ及び電気絶縁用ビニールテープ等を用いて、ケーブルの絶縁物及びシースと同等以上の効力を有するように絶縁処理を行うこと。

なお、機器類側の接続端子等の条件から、規格の端末処理材を使用することが困難な低圧ケーブルは、監督職員の承諾を得て他の方法で端末処理することができる。

(イ) ケーブル端末には、ケーブル仕様、太さ、負荷名称等を入力したラベルを貼付けること。

なお、幹線ケーブルの端末には、合成樹脂製またはファイバ製の名札を付け、行き先表示をすること。

- (ウ) 制御ケーブルは、電気絶縁用ビニールテープ等を用いて、端末処理を行うこと。
- (エ) 機器類の各端子へのつなぎ込みは、原則として丸形の圧着端子で行うこと
- (オ) 低圧動力ケーブルの各心線は相色別を行うこと。
- (カ) 制御ケーブルの各心線は、端子記号と同じマークを刻印したマークバンドまたはチューブを取付けること。なお、端末には絶縁カバーを使用すること。
- (キ) 配電盤に引込むケーブルは適切な支持物に堅固に固定し、接続部に過大な応力がかからないようにすること。
- (ク) 配電盤はケーブル引込み後、開口部をパテ等でふさぎ防湿、防虫処理を行うこと。
- (ケ) ケーブルの直線接続は原則として行ってはならない。ただし、やむを得ない場合は、監督職員の承諾を得て行うことができる。

オ 金属管工事

露出配管の布設は下記による。

- (ア) 管を支持する金物は、ステンレス製で管数、管の配列及びこれを支持する箇所
の状況に応じたものとする。
- (イ) 管を支持する金物は、スラブその他の構造体に堅固に取付けること。
- (ウ) 管は天井及び壁面に直接触れないように布設し、2m以下の間隔で支持すること。
なお、支持金物は、その小口で床上 2.5m以下の部分は保護キャップを取
付けること。
- (エ) 管を構造物の伸縮部分を渡って施設する場合は、伸縮を考慮すること。
- (オ) 湿気の侵入するおそれがある場合は、侵入防止処置を施すこと。
- (カ) 原則として、通路となる床面に配管してはならない。やむを得ない場合は、
監督職員の承諾を得て、衝撃及び荷重を直接受けないように防護措置を施す
こと。

(3) コンクリート工事

- ア コンクリート工事は、土木学会『コンクリート標準示方書』（最新版）に準拠
し、水密コンクリートに適した配合、打設方法、養生方法並びに打継目の位置等
に留意して、ひび割れ制御には万全を期すこと。
- イ 本工事に使用するコンクリートは、レディミクストコンクリート（以下レミコン
という）とし、重要度の低いものについては、監督職員の承認を受けて現場機械
練コンクリートを使用することが出来る。
- ウ レミコンは、JIS-A-5308によること。また、JIS 指定工場の製品とする。
- エ 粗骨材は砂利または碎石とし、JIS-A-5005に適合したものとする。
- オ 受注者は、あらかじめ下記の設計条件を考慮して、示方配合案を作成し、監督職
員の承認を得ること。示方配合を現場配合に直す場合は、水密コンクリート（水
セメント比 55%以下を標準）を重視した配合とし、監督職員立ち会い試験により

決定すること。コンクリートの種類は、鉄筋コンクリート、無筋コンクリート、均しコンクリートとし、それらの配合は次のとおりとする。また、混和剤を使用する場合は、監督職員の承認を得ること。

- (ア) 鉄筋コンクリート 設計基準強度 24N/mm² 以上 (24-12-25)
- (イ) 無筋コンクリート・均しコンクリート 設計基準強度 18N/mm² 以上 (18-12-25)

カ テストピースは現場と標準の各3個以上とすること。なお、コンクリートの試験費はすべて受注者の負担とする。

キ 構造物は完全なる水密性を要求している。したがって、施工をするにあたり、コンクリートの打設方法、打継目の処理方法等コンクリート打設計画書を提出し、監督職員の承認を得ること。また、打設計画書には、特に下記事項について検討し、ひび割れ制御に万全を期さなければならない。

- (ア) 打ち込み区画、順序
- (イ) 運搬、打ち込み方法、打ち込み時間（時間あたりの打ち込み量）
- (ウ) 施工目地位置と方法
- (エ) 養生の期間及び方法
- (オ) その他、監督職員が必要と認めたもの

ク コンクリート打設

- (ア) コンクリートの打設は、あらかじめ監督職員より鉄筋、型枠の検査を受け、合格した後とする。
- (イ) コンクリートを受け取るホッパー及び運搬設備、その他工具類は全て清掃し、清掃に用いた水が型枠内に流れ込まないように注意しなければならない。
- (ウ) コンクリートの運搬または打設中に材料の分離を認めたコンクリートは使用してはならない。
- (エ) 施工継目における止水要領については、あらかじめ監督職員の承認を得ること。
- (オ) 一区画内のコンクリートは、これを完了するまで連続して打設しなければならない。また、単体構造物に使用するレミコンは、一社製品を連続して使用すること。

ケ 締固め

コンクリートは打設中またはその直後、振動機で十分これを締固め、コンクリートが鉄筋の周囲、型枠の隅々に行き渡るようにしなければならない。

コ コンクリートの継目

- (ア) 請負人が提出し、監督職員に承認されたコンクリート打設計画書に定められた継目の位置及び構造等はこれを遵守しなければならない。

- (イ) コンクリート打継目は、原則として水平継目とし、RC構造部は止水板を全て設置する。やむを得ず鉛直継目を必要とする場合は、監督職員の承認を得て、止水板を入れなければならない。
- (ウ) 硬化したコンクリートに新しいコンクリートを打ち継ぐ時は、その打ち込み前に型枠を締め直し、硬化したコンクリートの表面を粗にし、ゆるんだ骨材、品質の悪いコンクリート、レイタンス及び雑物等を完全に除き、表面に十分な湿潤を与えなければならない。
- (エ) 次に硬化したコンクリートの面にセメントペーストまたはコンクリート中のモルタルよりも富配合のモルタルを塗りつけ、直ちにコンクリートを打ち、旧コンクリートとよく密着するよう施工しなければならない。
- (オ) 水平打ち継目では、上昇してくる分離水によって品質の悪いコンクリートにならないように特に注意しなければならない。品質の悪いコンクリートが出来た時は、その部分を取り除かなければならない。
- (カ) 施工継目に止水板を用いるときは、幅 150mm、厚 6mm以上の鉄板（ブチルゴム被覆）をコンクリート部材中央に直線状に入れる。

サ 養生

- (ア) コンクリートの打設後、日射、乾燥、荷重、衝撃等の有害な影響を受けないよう十分保護しなければならない。
- (イ) コンクリートの露出面は、むしろ、布、砂等をぬらしたもので、これを覆うかまたは散水して、常に湿潤状態に保たなければならない。
- (ウ) コンクリートの養生期間は、打設後、最低5日間の長期湿潤養生を継続することとし、早期脱枠による隅部の欠損や、セパレータの振動によるゆるみから漏水の原因とならぬよう十分注意すること。

シ 表面仕上げ

- (ア) コンクリート構造物の頂壁、床版で特に仕上げを明示していなくとも、コンクリート打設後一定時間を経た後金ゴテにて表面仕上げを行い、平滑に仕上げなければならない。
- (イ) コンクリート打設後、万一乾燥収縮等によるひび割れが生じた場合は、水密性を確実にするために当該個所をVカットしたのちに、シリコン系シーリング材によるコーキングを施工しなければならない。コーキングは請負人の負担により監督職員の指示する時期に施工しなければならない。

ス 構造部開口部の処理

- (ア) 構造物を管等が貫通する部分は管据付後、コンクリート打設を行うことを原則とするが、コンクリート打設後管を据付けるときは、必要な開口部を設け、また図面に明示していなくても、開口部周囲には補強筋を入れなければならない。

(イ) 管据付後のコンクリート充填に当っては、十分配管周囲に行きわたるよう締めなければならない。

(4) モルタル

ア セメントの計量は1バッチごとに重量で行わなければならない。ただし、監督職員の承認を受けた場合は容量で計算することが出来る。

イ モルタルの練り混ぜは、機械練りを原則とする。

ウ モルタル塗りの施工にあたっては、次のようにしなければならない。

(ア) 下地コンクリートは、型枠の目違いによるはらみ出し、型枠の不揃い、その他起因する突部をはつきり取って整形すること。

(イ) コンクリート面は、ワイヤーブラシ等で引っ掻きながら清水で清掃し、表面に付着しているごみ、セメント等を完全に除去するとともによく吸収させること。

(ウ) コテ塗りは、面、かどに注意し、コテむら、地むら等のないよう塗り付けること。

(エ) 伸縮目地を必要とする場合はあらかじめ目地棒で通りよく仕切り、仕上げ後目地棒を取り去り、目地仕上げを行うこと。

(オ) 床面を施工する場合は、コンクリート打ち込み後なるべく早く取りかかること。打ち込み後日数の経ったコンクリートに施工する場合は入念に清掃し、セメントペーストを十分流し、ほうき類でかきならした後、塗り付けること。

エ その他の事項については、前項(3)のコンクリートの項を準拠する。

(5) 鉄筋

ア コンクリート工事に使用する鉄筋は、JIS-G-3112に規定するSD295熱感圧延異形棒鋼を使用することを原則とする。なお、試験成績表を提出し、監督職員の承認を得ること。

イ 鉄筋は設計図にのっとり正確に、また材質を傷つけないように加工しなければならない。なお、加工に先立って原則として加工図を作成し、承認を受けなければならない。

ウ 鉄筋の組立

(ア) 鉄筋は組立前に清掃し、浮きサビ、その他鉄筋とコンクリートの付着を害するおそれのあるものは取り除かななければならない。

(イ) 鉄筋の交叉点は鉄線、または適当なクリップで緊結しなければならない。

(ウ) 鉄筋と型枠との間隔はスペーサ、うま、吊金具等によって正しく保たなければならない。かぶりについては図面通りとする。

エ 鉄筋の継手

(ア) 鉄筋の継手は、原則として重ね継手とする。ただし設計図に示されたものまたは監督職員の指示したものについては、ガス圧接継手とする。

(イ) 引張鉄筋の継手は相互にずらし、同一断面に集めてはならない。

(ウ) ガス圧接継手をする場合は、建築学会『溶接工作基準』ならびに、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接」によって行うこと。なお、監督職員が必要と認めるときは施工中抜取り試験を行うことがある。

オ 鉄筋の定着長は設計標準図に示す長さ以上とする。

カ やむを得ず臨時的に開口を設ける場合は、あらかじめ監督職員と協議し、その位置、大きさを決め、十分な鉄筋でこれを補強しなければならない。また、これに要する費用は全て請負人の負担とする。

キ 設計図に明示がなくても、当然必要と認められる鉄筋については、請負人の負担でこれを設けなければならない。

ク 検査

(ア) 鉄筋組立後、監督職員の検査を受けなければならない。

(6) 型枠

ア 型枠は鋼製及び合板製とする。仕上げの種類によって最適な型枠の選定を行い、監督職員の承認を受けなければならない。

イ 鋼製型枠パネルは、JIS-A-8652、鋼管支柱はJIS-A-8651による。

ウ 型枠緊結用セパレータは、漏水防止のため止水構造のものを使用する。

エ 特に指定のない場合でも、コンクリートの角に面取りが出来る構造としなければならない。

オ 型枠組立

(ア) 型枠は設計図に示されたコンクリートの位置、形状及び寸法に正しく一致させ、堅固で荷重、乾燥及びバイブレーターの影響によって、狂いのおこらない構造としなければならない。また、型枠は足場、遣方等の仮設物と連結させてはならない。

(イ) 一度使用した型枠は、再びこれを使用する前にコンクリートに接触する面をよく清掃しなければならない。

(ウ) 型枠の内側に塗る油は、汚色を残さない鉱油または監督職員の承認を受けたものを使用し、鉄筋の配置前に塗るものとする。

カ 型枠の取外し

(ア) 型枠の取外しは、必ず監督職員の承認を受けて行い、コンクリートに損傷を与えないように注意して取外さなければならない。

(イ) 型枠の取外しとともに、防水、木コン処理、目違い処理等を行い、監督職員の承認を受けなければならない。

キ 検査

(ア) 型枠は組立後、コンクリート打設前に監督職員の検査を受けなければならない。

(7) 掘削工

ア 地下埋設物等のある場合は、原則として試掘を行って位置を確認する。

- イ 地下水位の高い場合は、水替えを考慮する。
- ウ 市街地においては、特に地域住民の生活環境等に配慮する。
- エ 1.5m を超える掘削工には、土留め工を標準とする。
- オ 地下水位以深の掘削に先立ち、ボーリング、ヒービング対策を検討する。
- (8) 埋戻し工及び締固め工
 - ア 埋戻しに用いる材料は、改良土とする。ただし、地下水位が高い場合には、再生砂を使用すること。
 - イ 埋戻し材料が所定の締固め度を得られる施工方法を採用すること。
- (9) 残土処理
 - ア 運搬車の選定に当たっては、運搬土砂量・運搬期間・運搬経路及び走行頻度等について十分な検討を行わなければならない。
 - イ 建設副産物で再生利用できるものは、でき得る限り再生利用するよう努めなければならない。
 - ウ 産業廃棄物は、その運搬及び処理・処分が適正になされるよう、十分注意しなければならない。
- (10) 土留め工
 - ア 土留めの検討を実施するにあたり、掘削の深さ、掘削を行っている期間、工事区域の地質条件、地下水位の状況、周辺地域の環境条件等を総合的に勘案して、土留め工の必要性和その形式及び全工事(仮設から本工事まで)の工期並びに経済性を十分に考えたうえで、安全かつ確実に工事ができるよう工法を決定すること。
 - イ 工事における作業時間外の転落防止の対策等を監督職員と協議し、対策を行うこと。
- (11) 矢板根入れ長の算定
 - ア 矢板の根入れ長は、次の各項による必要長さを検討し、その最大値を採用しなければならない。
 - (ア) 掘削によって生ずる矢板の土圧に対する安定
 - (イ) ヒービングに対する安定
 - (ウ) ボーリングに対する安定
- (12) 既製杭工
 - ア 施工計画書、施工記録
 - 受注者は、あらかじめ杭の打止め管理方法（ペン書き法による貫入量、リバウンドの測定、柱頭計測法による動的貫入抵抗の測定など）等を定めて、施工計画書に記載し、施工に当たり施工記録を整備及び保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに、検査時まで監督職員へ提出しなければならない。

- イ 既製杭工の杭頭処理
受注者は、既製杭工の杭頭処理に際しては杭本体を損傷させないように行わなければならない。
- ウ 既製杭工の打込み工法の選定
受注者は、既製杭工の打込み方法、使用機械等については、打込み地点の土質条件、立地条件及び杭の種類に応じたものを選ばなければならない。
- エ 打込みキャップ等
受注者は、コンクリート既製杭工の打込みに際し、キャップは、杭径に適したものをを用いるものとし、クッションは、変形のないものをを用いなければならない。
- オ 杭頭損傷の補修
受注者は、既製杭工の施工に当たり、杭頭打込みの打撃等により損傷した場合は、杭の機能を損なわないように補修し、又は取り替えなければならない。
- カ 打込み不能の場合の処置
受注者は、既製杭工の施工に当たり、設計図書に示された杭先端の深度に達する前に打込み不能となった場合は、原因を調査ずるとともに、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。
また、支持力の測定値が、設計図書に示された支持力に達しない場合は、受注者は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。
- キ 中掘り杭工法による既製杭工施工
受注者は、中掘り杭工法で既製杭工を施工する場合、掘削及び沈設中は、土質性状の変化や杭の沈設状況などを観察し、杭先端部及び杭周辺地盤を乱さないように沈設するとともに、必要に応じて所定の位置に保持しなければならない。
また、先端処理については、試験杭等の条件に基づいて、管理を適正に行わなければならない。
- ク 既製コンクリート杭の施工
既製コンクリート杭の施工については、次の事項によるものとする。
(ア) 受注者は、杭の適用範囲、杭の取扱い及び杭の施工法分類は、JIS-A-7201（遠心力コンクリートくい施工標準）の規格によらなければならない。
(イ) 受注者は、杭の打込み及び埋込みは、JIS-A-7201（遠心カコンクリートくいの施工標準）の規定による。
(ウ) 受注者は、杭の継手は、JIS-A-7201（遠心カコンクリートくいの施工標準）の規定による。
- ケ 杭支持層の確認・記録
受注者は、既製コンクリート杭の施工に当たり、JIS-A-7201（遠心カコンクリートくいの施工標準）の8施工8.3 くい施工による施工で、「8.3.2 埋込み工法」を用いる施工の先端処理方法が、セメントミルク噴出攪拌方式又はコンクリート打設方式の場合は、杭先端が設計図書に示された支持層付近に達した時点で支持

層の確認をするとともに、確認のための資料を整備及び保管し、監督職員の請求があった場合は遅滞なく提示するとともに、・検査時まで監督職員へ提出しなければならない。

セメントミルクの噴出攪拌方式の場合は、受注者は、過度の掘削や長時間の攪拌などによって杭先端周辺の地盤を乱さないようにしなければならない。

また、コンクリート打設方式の場合においては、受注者は、根固めを造成する生コンクリートを打ち込むに当たり、孔底沈殿物(スライム)を除去した後、トレミー管などを用いて杭先端部を根固めしなければならない。

コ 既製コンクリート杭の先端処理

既製コンクリート杭の先端処理をセメントミルク噴出攪拌方式による場合は、杭基礎施工便覧に示されている、工法技術又はこれと同等の工法技術によるものとし、受注者は、施工に先立ち当該工法技術について、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。

ただし、最終打撃方式及びコンクリート打設方式については、この限りではない。

サ セメントミルクの水セメント比

受注者は、既製コンクリート杭の施工に当たり、根固め球根を造成するセメントミルクの水セメント比が設計図書に示されていない場合は、60%以上かつ70%以下としなければならない。掘削時及びオーガ引上げ時に負圧を発生させてボーリングを引き起こす可能性がある場合は、杭中空部の孔内水位を常に地下水位より低下させないように十分注意して掘削しなければならない。

また、攪拌完了後のオーガの引上げに際して、吸引現象を防止する必要がある場合には、貧配合の安定液を噴出しながらゆっくりと引き上げるものとする。

3 耐震施工

(1) 非常用発電設備

非常用発電設備における耐震施工について、水道施設耐震工法指針・解説より、以下の関係法令、指針及び対策等を考慮し、施工を行うこと。機器等の固定時の地震力やアンカーボルトの選定等の詳細について、受注者により、機器仕様決定後に、計算を行い、選定し、監督職員の承認を受けなければならない。

ア 関係法令等

非常用発電設備の耐震設計及び施工にあたっては、「自家用発電設備耐震設計のガイドライン」(日本内燃力発電設備協会)、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説」(公共建築協会)、「建築設備耐震設計・施工指針」(日本建築センター)等に準拠すること。

イ 機器等の固定

非常用発電設備及び補機盤は、地震動で破損、転倒、移動等が起これないように据え付ける。

(7) 局部震度法による設備機器の地震力

水平方向および鉛直方向の設計用地震力は以下により算出し、これらの力が設備機器の重心に同時に作用したときに、設備機器の移動、転倒、破損等が起これないように固定する。

(4) アンカーボルトの選定

アンカーボルトの選定については、「建築設備耐震設計・施工指針」((一財)日本建築センター)の第1編、第3章および第4章を参考にして、アンカーボルト1本当当たりの引抜き力 R_b 、せん断応力度 τ 及びせん断力 Q を求めて、許容応力度法により適切な工法と直径を求める。

ウ 漏油対策

燃料貯留槽及び小出槽が地震動で破損した場合、漏油による火災の発生、環境への悪影響が考えられるため、燃料貯留槽及び燃料小出槽の周囲に防油堤を設置する。「危険物の規制に関する規則」を参照

今回は、地下タンクは、消防許可がとられている工法の地下タンクピット式(内部一重殻タンク)で、小出槽は、パッケージ型自家発電装置下部に収納とし、下部が防油堤構造となる。

エ 配管の支持・固定

非常用発電設備、地下燃料タンクの配管は、できるだけ短くし、配管の材質を検討するとともに伸縮可撓管を設けて、地震発生時に支持構造物と共振しないように適切な位置で支持・固定する。特に、壁貫通部や槽付近は、伸縮可撓管を設置する。

オ 給排気ダクト、消音器等の固定

給排気ダクト、消音器等は、破損、落下、移動等が起きないように強固に固定する。

給排気ダクトや消音器等の取付けは、耐震支持や三方向振れ止め等の対策を講じる。また、重量の大きい設備機器は固定支持とし地震動でも破損、落下、移動等が生じないように強固に固定する。

カ 燃料タンク

オイルタンク等の地下式壁構造物は、建築基準及び消防法等の建築物関連規定に適合させる。検証方法は、荷重、材料、応力分析、耐震設計、断面照査、基礎等、すべて建築基準に適合させる。

(2) 発電機室

水道施設耐震工法指針・解説より、発電機室は、すべて建築基準に適合させる。検証方法は、荷重、材料、応力分析、耐震設計、断面照査、基礎等、すべて建築基準に適合させる。

第 1 2 節 運転操作方案

1 運転操作方案

次項に、参考の運転操作方案を示す。詳細は、打合せにより、決定とする。

1 運転操作方案

今回新設する、非常用発電設備の運転操作方案を示す。

本運転操作方案は、標準的に機器の運転操作の概要を示しているものであり、詳細については、打合せにより、決定する。

(1) 運転方式

運転方式の表現は、操作場所、切換方式、条件及び符号で表現する。

ア 操作場所の表し方

該当する操作場所内にある切換スイッチ（COS）、操作スイッチ（CS）を1点鎖線で囲み、操作場所を明記する。

イ 切換方式、操作方式の表し方

切換スイッチ（COS）、操作スイッチ（CS）等の符号にて明記する。

COS		: 切換スイッチ [Z : 操作場所を記入]
Z	Z	

CS		: 操作スイッチ [Z : 操作方式を記入]
Z	Z	

SS+MS		: 2挙動スイッチ [Z : 操作方式を記入]
Z	Z	

PBS		: 押釦スイッチ [Z : 操作方式を記入]
Z	Z	

SSW		: スナップスイッチ [Z : 操作方式を記入]
Z	Z	

ウ 運転条件

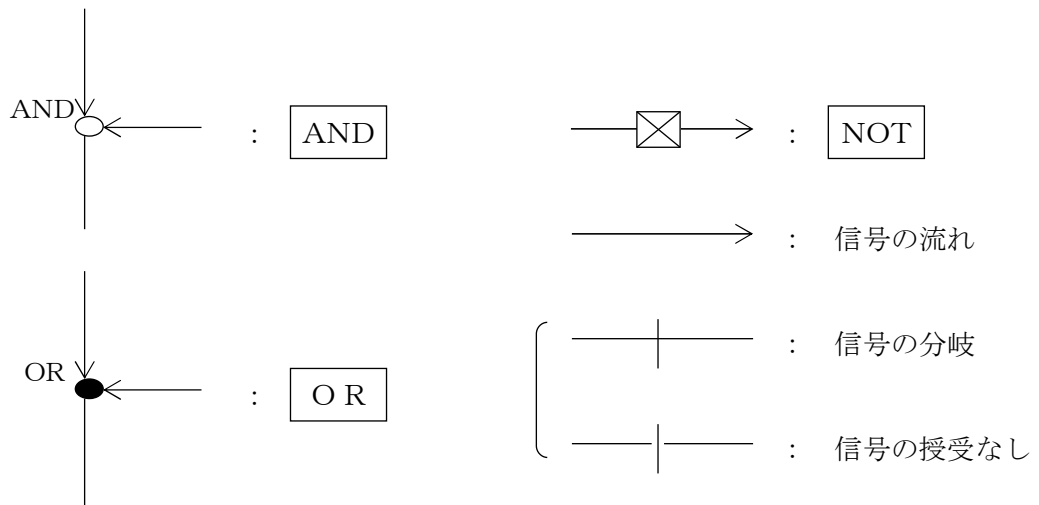
運転に必要な各条件を明記する。

エ 制御機器の表し方

制御機器の制御状態と共に明記する。

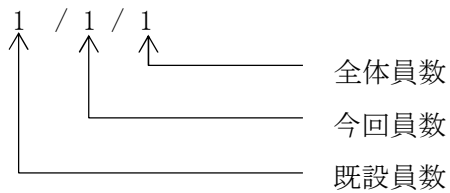
X	: 制御機器 [X : 機器名称 Y : 状態]
Y	

オ 各種条件符号の表し方



カ 員数

CS、COS、SS等の員数については、記入無い場合は1個とする。



(2)表示方式

ア 表示方式の表現は、該当する項目に○印を記入する。

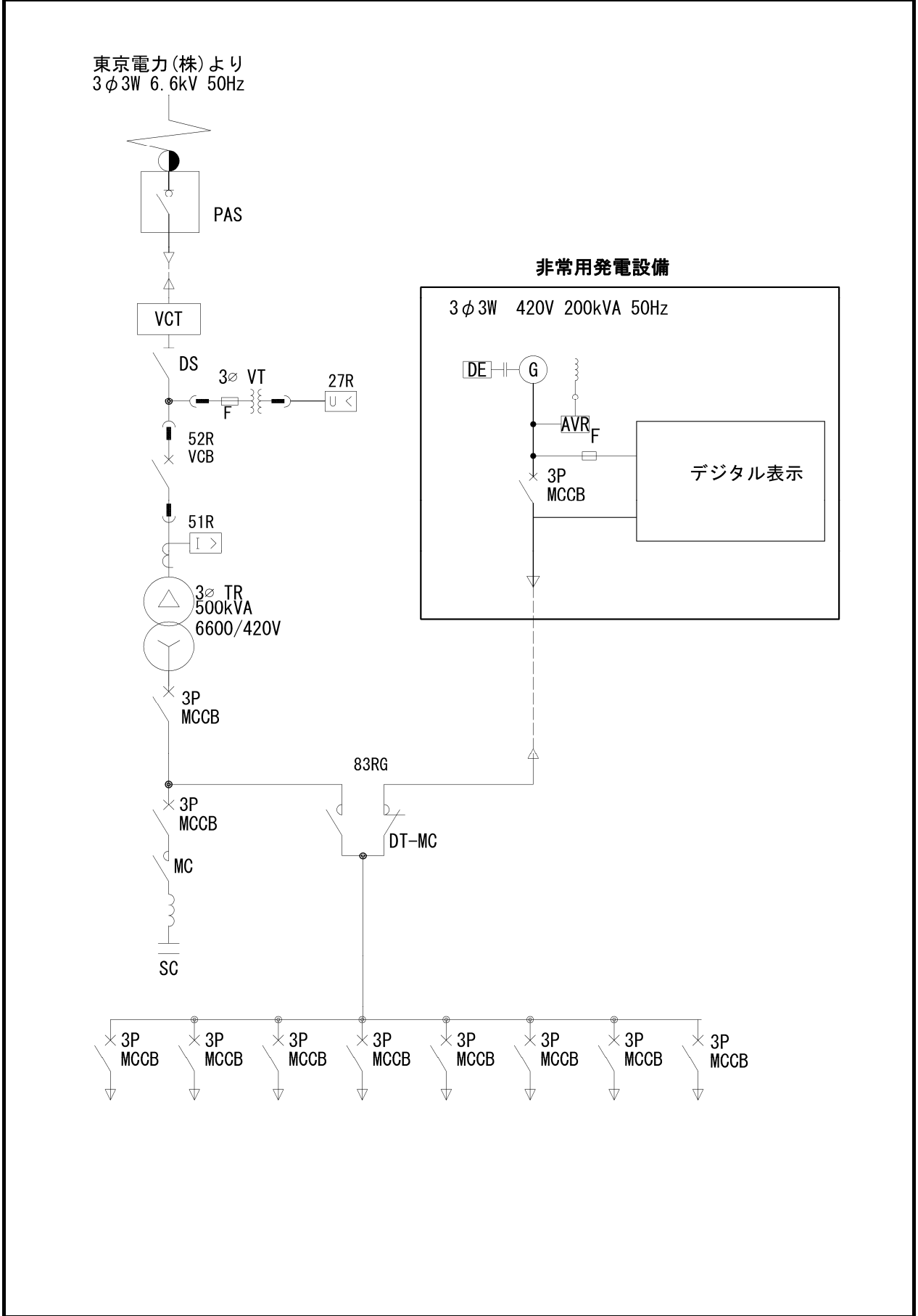
分類は下記の3区分とする。

- (ア) 運転・状態表示
- (イ) 運転操作
- (ウ) 故障・異常表示

イ 停止条件の表し方

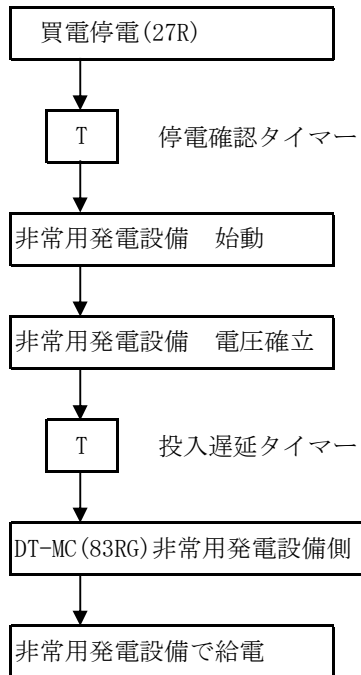
- K : 投入インターロック
- T : 遮断
- S : 遮断不可

設備名称	非常用発電設備	容量	200kVA
機器名称	非常用発電設備	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台

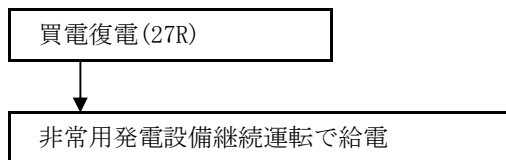


設備名称	非常用発電設備	容量	200kVA
機器名称	非常用発電設備自動運転（買電停電時）	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台

非常用発電設備自動運転（買電停電時）

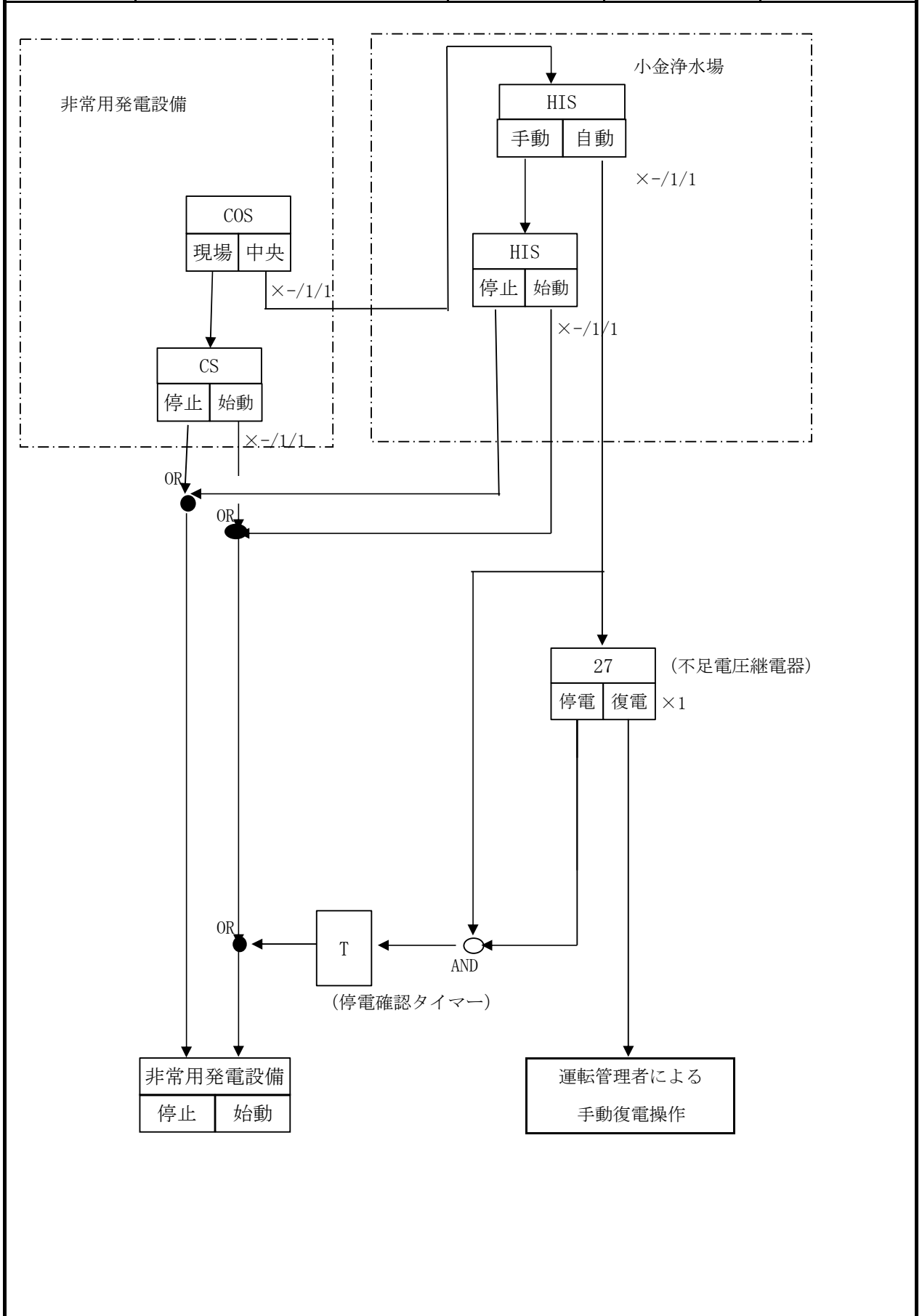


非常用発電設備自動運転（買電復電時）



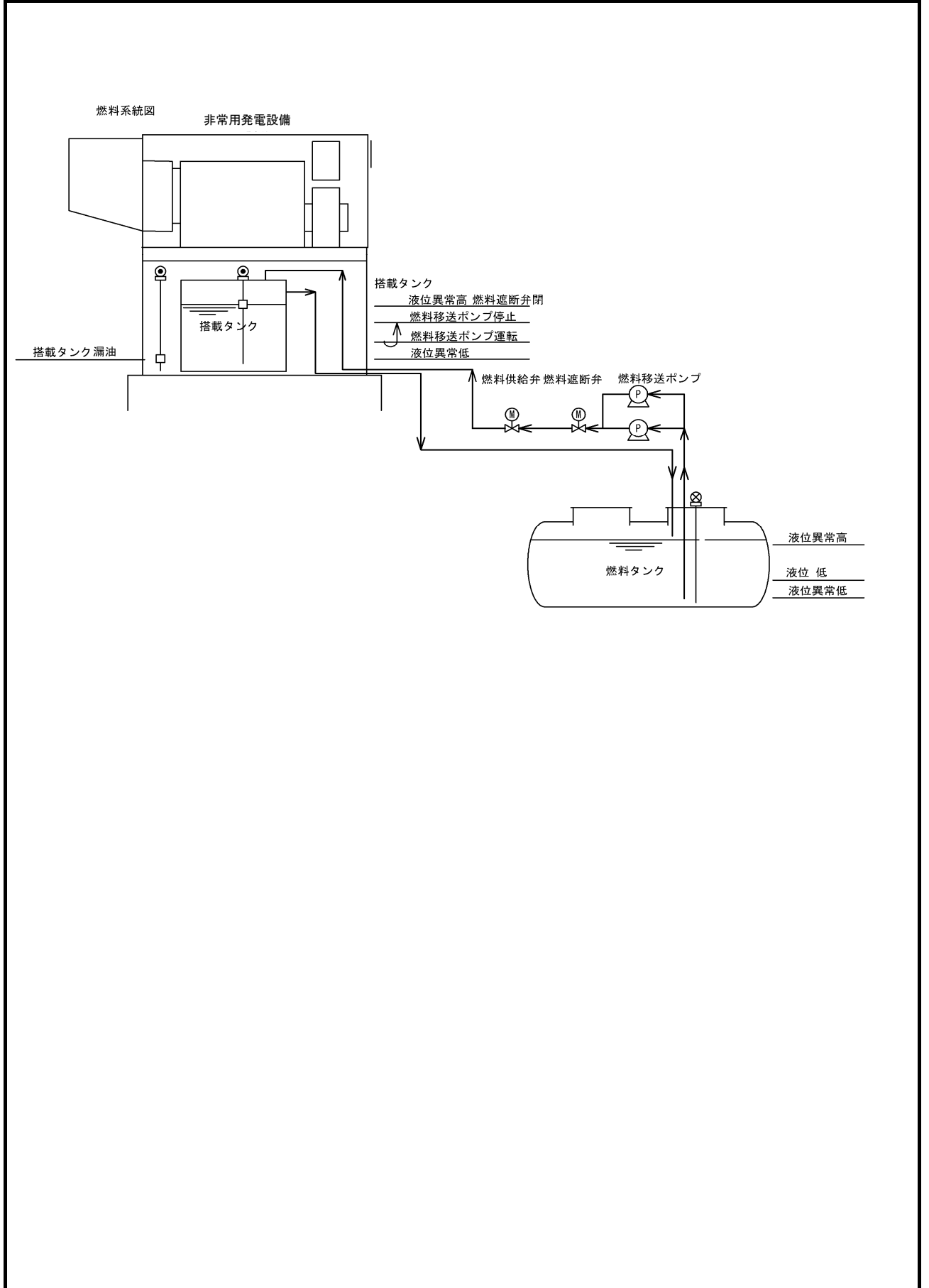
※運転管理者により、手動で復電操作とする。

設備名称	非常用発電設備	容量	200kVA
機器名称	非常用発電設備	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台

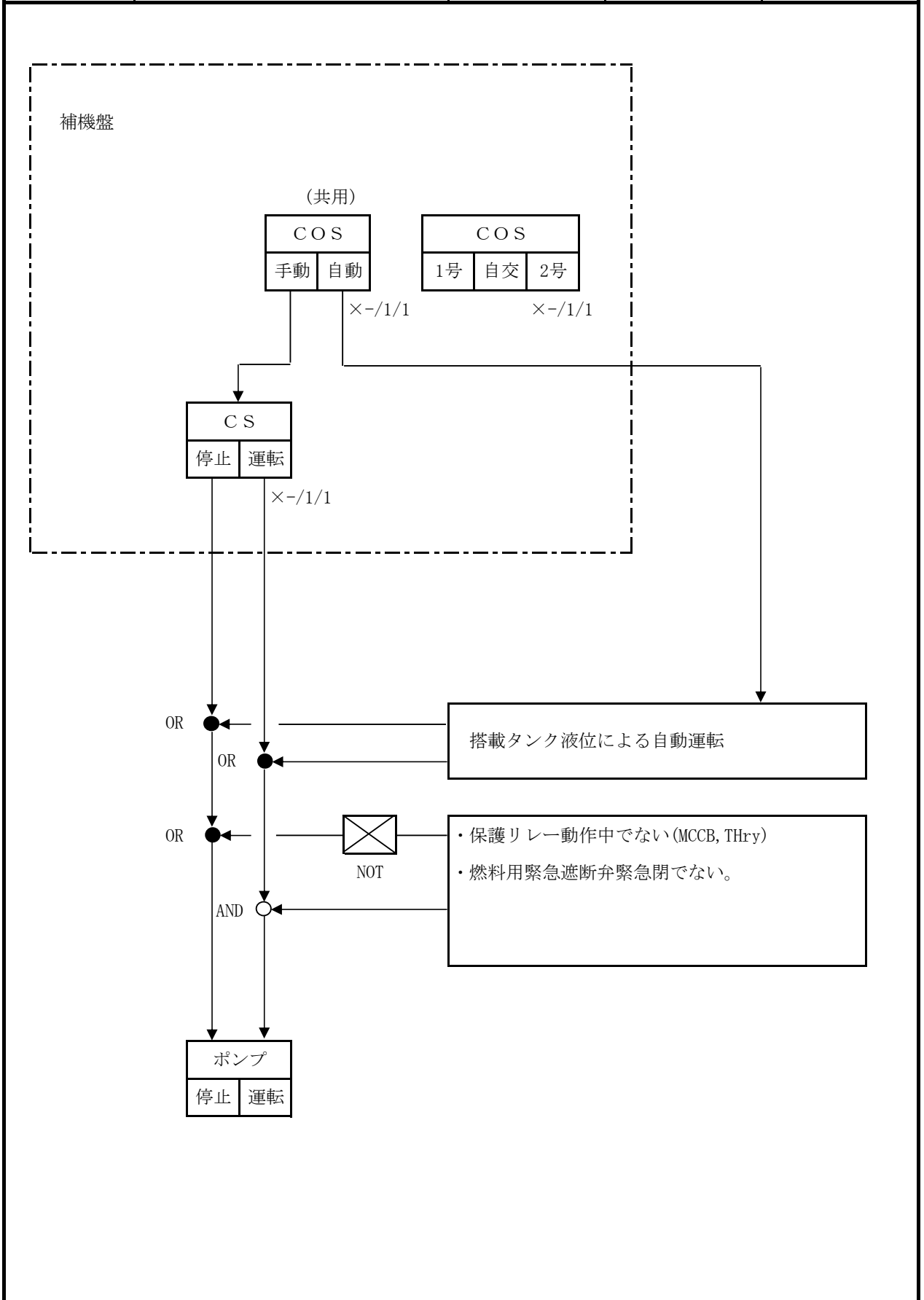


項 目		停止 条件	幸田配水場			小金浄水場								備 考	
			発電 設備	補 機 盤		HIS-1, 2卓				Web端末					
						状態	故障	操作	PRT	状態	故障				
運 転 ・ 状 態 表 示	手動					○									
	自動					○									
	半自動					○									
	現場		○			○									
	中央		○			○									
	準備完了		○			○									
	始動中		○			○									
	始動		○			○									
	停止		○			○									
運 転 操 作	手動-自動 切換SW							○							
	現場-中央 切換SW		○												
	始動-停止 操作SW		○					○							
故 障 ・ 異 常 表 示 計 器 類	過速度	T	○				○		○						
	潤滑油圧低下	T	○				○		○						
	始動渋滞	T	○				○		○						
	過電流	T	○				○		○						
	過電圧	T	○				○		○						
	発電電流		○				○								
	発電電圧		○				○								
	発電電力		○				○								
	発電電力量		○				○								
	発電力率		○				○								
	発電周波数		○				○								

設備名称	非常用発電設備	容量	200kVA
機器名称	燃料系統	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台



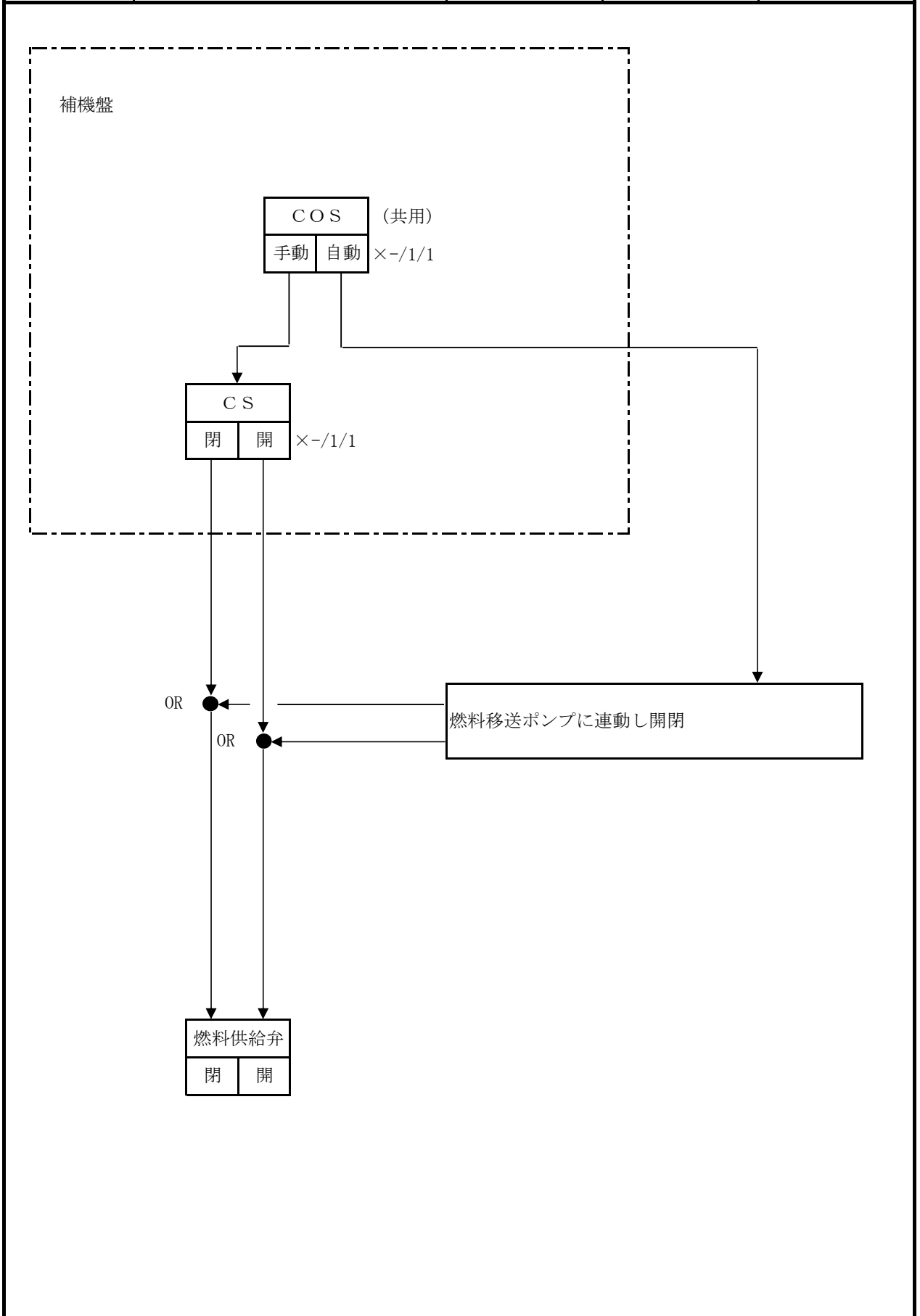
設備名称	非常用発電設備	容量	0.4kW
機器名称	燃料移送ポンプ	既設 - 台	今回 2 台
		全体	2 台



燃料移送ポンプ

項目	停止条件	幸田配水場			小金浄水場								備考	
		発電設備	補機盤	給油BOX	HIS-1,2卓				Web端末					
					状態	故障	操作	PRT	状態	故障				
運転・状態表示	手動													
	自動													
	運転		○		○									
	停止		○		○									
運転操作	手動-自動 切替SW		○											共用
	1号-自動交互-2号 切替SW		○											
	停止-運転 操作SW		○											
故障・異常表示	過負荷	T		○		○		○						
	搭載タンク液位異常高			○		○		○						
	搭載タンク液位低			○		○		○						
	搭載タンク漏液			○		○		○						
	燃料タンク液位異常高			○		○		○						
	燃料タンク液位高			○		○		○						
	燃料タンク液位異常低			○		○		○						
計器類	受電電圧			○										
	地下タンク液位				○	○								

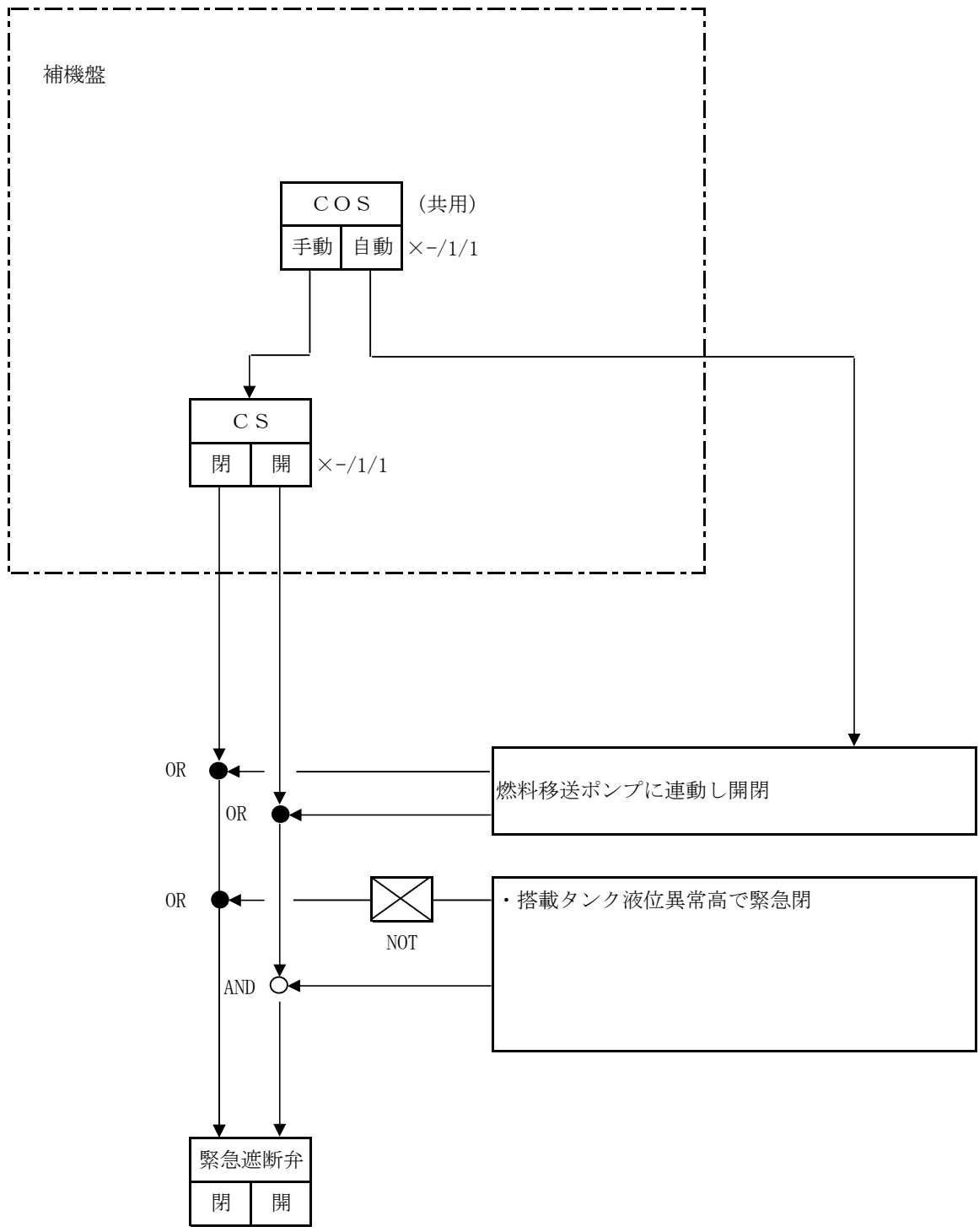
設備名称	非常用発電設備			容量	-
機器名称	燃料供給弁	既設 - 台	今回 1 台	全体	1 台



燃料供給弁

項 目	停止 条件	幸田配水場			小金浄水場								備 考		
		発電 設備	補 機盤	HIS-1, 2卓				Web端末							
				状態	故障	操作	PRT	状態	故障						
運 転 ・ 状 態 表 示	手動														
	自動														
	閉			○	○										
	開			○	○										
運 転 操 作	手動－自動 切替SW		○												共用
	閉－開 操作SW		○												
故 障 ・ 異 常 表 示															
計 器 類															

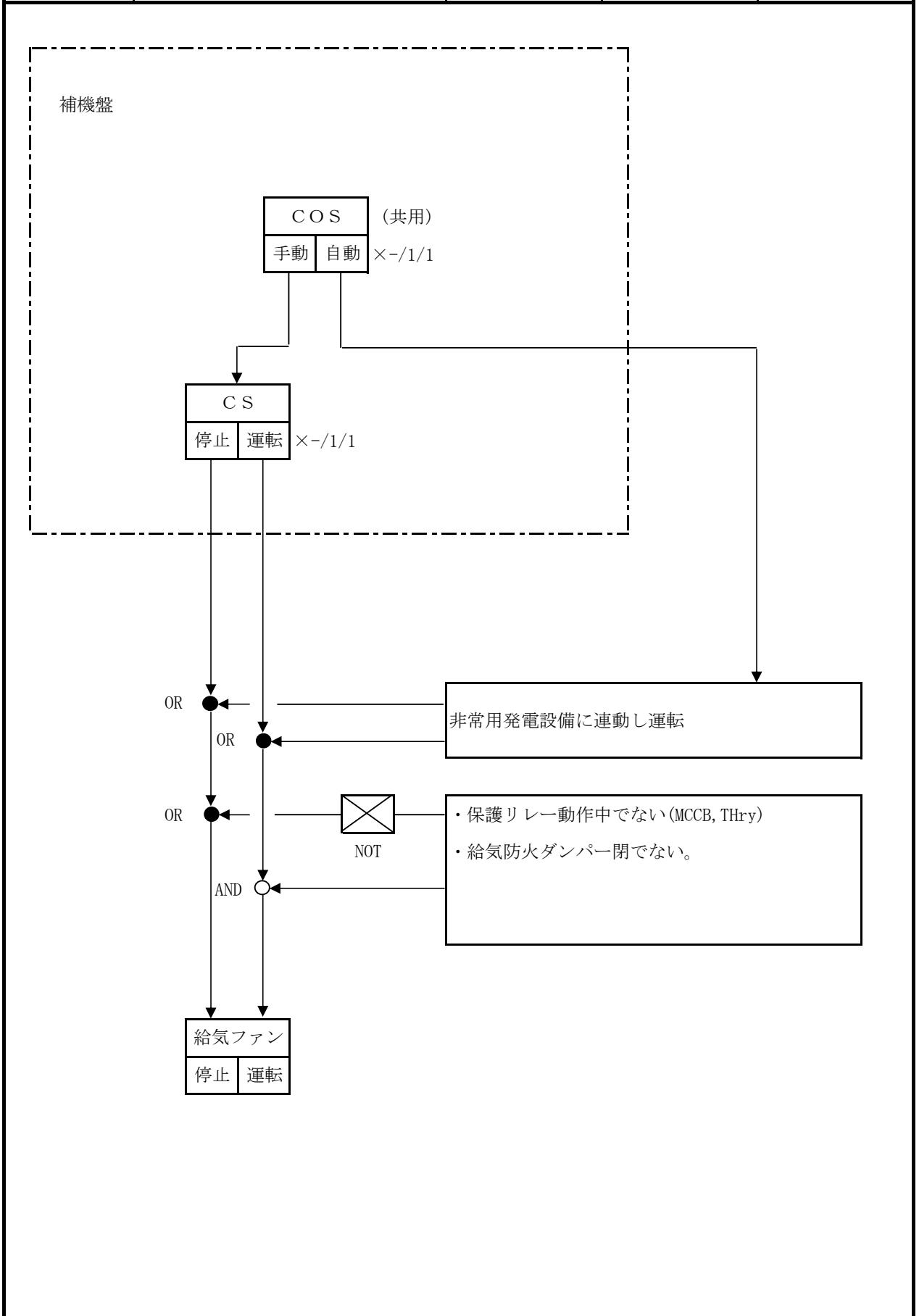
設備名称	非常用発電設備	容量	-
機器名称	燃料用緊急遮断弁	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台



燃料用緊急遮断弁

項 目	停止 条件	幸田配水場			小金浄水場								備 考	
		発電 設備	補 機盤	HIS-1, 2卓				Web端末						
				状態	故障	操作	PRT	状態	故障					
運 転 ・ 状 態 表 示	手動													
	自動													
	閉		○		○									
	開		○		○									
運 転 操 作	手動－自動 切替SW		○											共用
	閉－開 操作SW		○											
故 障 ・ 異 常 表 示	燃料用緊急遮断弁 閉		○		○									
計 器 類														

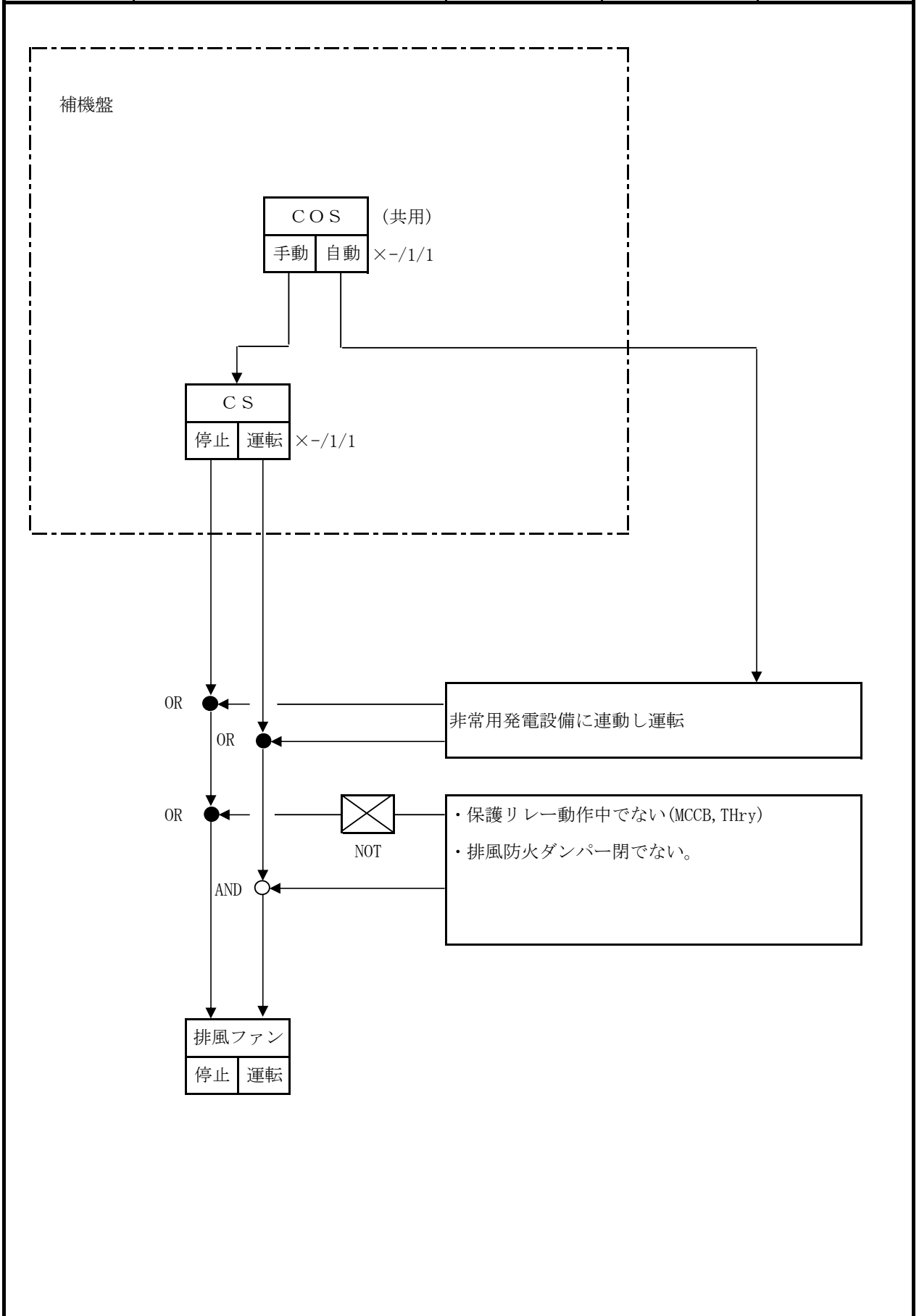
設備名称	非常用発電設備	容量	1.5kW
機器名称	給気ファン	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台



給気ファン

項 目	停止 条件	幸田配水場			小金浄水場								備 考	
		発 電 設 備	補 機 盤		HIS-1,2卓				Web端末					
					状 態	故 障	操 作	PRT	状 態	故 障				
運 転 ・ 状 態 表 示	手動													
	自動													
	運転		○		○			○						
	停止		○		○			○						
運 転 操 作	手動－自動 切替SW	○												共用
	停止－運転 操作SW	○												
故 障 ・ 異 常 表 示	過負荷	T	○			○		○						
	給気防火ダンパー閉	T	○			○		○						
計 器 類														

設備名称	非常用発電設備	容量	1.5kW
機器名称	排風ファン	既設 - 台	今回 1 台
		全体	1 台



排風ファン

項 目	停止 条件	幸田配水場			小金浄水場								備 考	
		発 電 設 備	補 機 盤		HIS-1, 2				Web端末					
					状 態	故 障	操 作	PRT	状 態	故 障				
運 転 ・ 状 態 表 示	手動													
	自動													
	運転		○		○				○					
	停止		○		○				○					
運 転 操 作	手動－自動 切替SW		○											共用
	停止－運転 操作SW		○											
故 障 ・ 異 常 表 示	過負荷	T	○					○	○					
	排風防火ダンパー閉	T	○					○	○					
計 器 類														

設備名称	非常用発電設備			容量	200kVA					
機器名称	機能増設（負荷制限）	既設	-	台	今回	1	台	全体	1	台

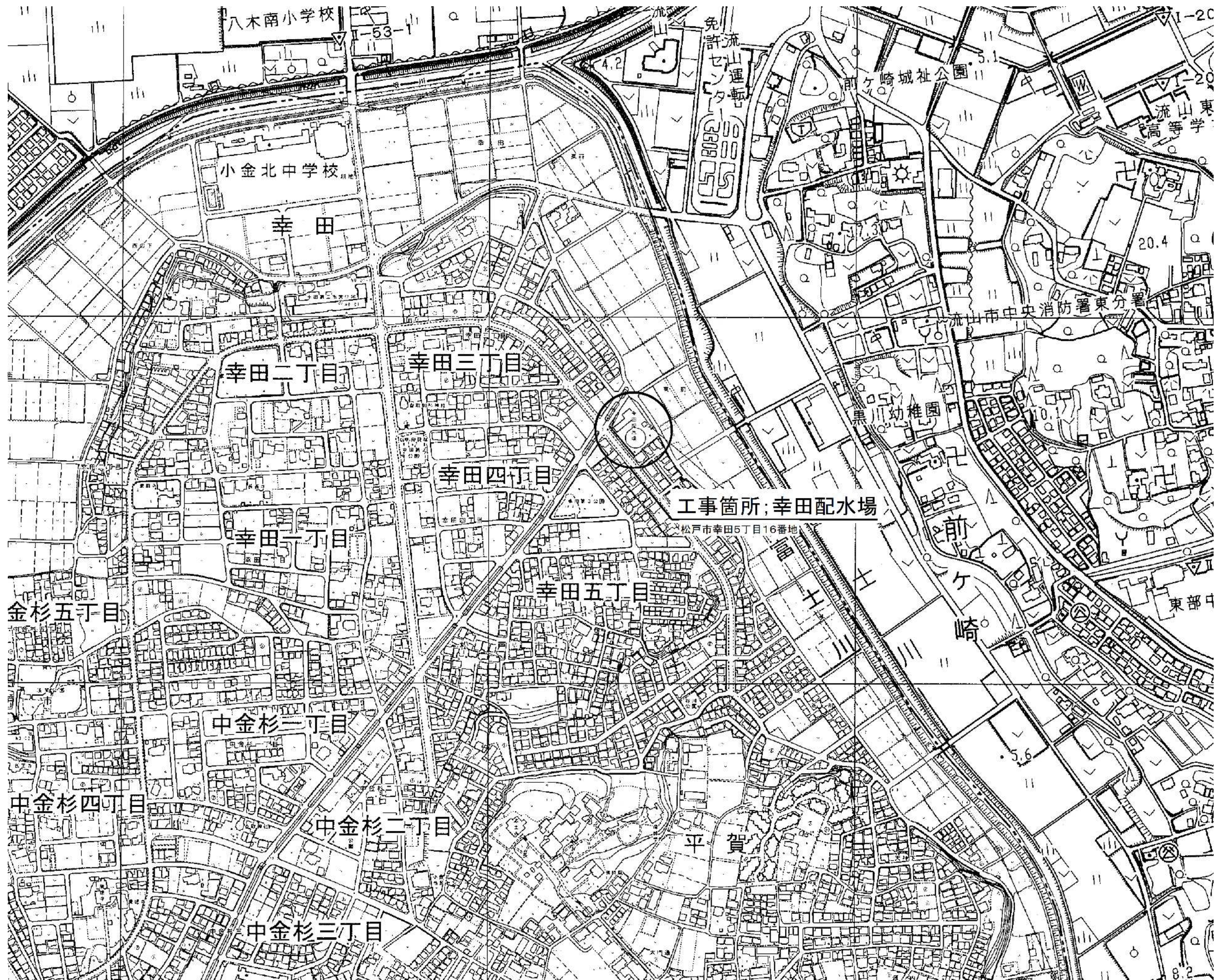
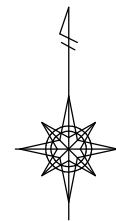
非常用発電設備運転時には、配水ポンプ及び各制御の運転制限を行う。

非常用発電設備運転時の圧力一定制御設定値、流量一定制御設定値は、打ち合わせにより決定する。

配水ポンプの最大運転台数 2台の制限

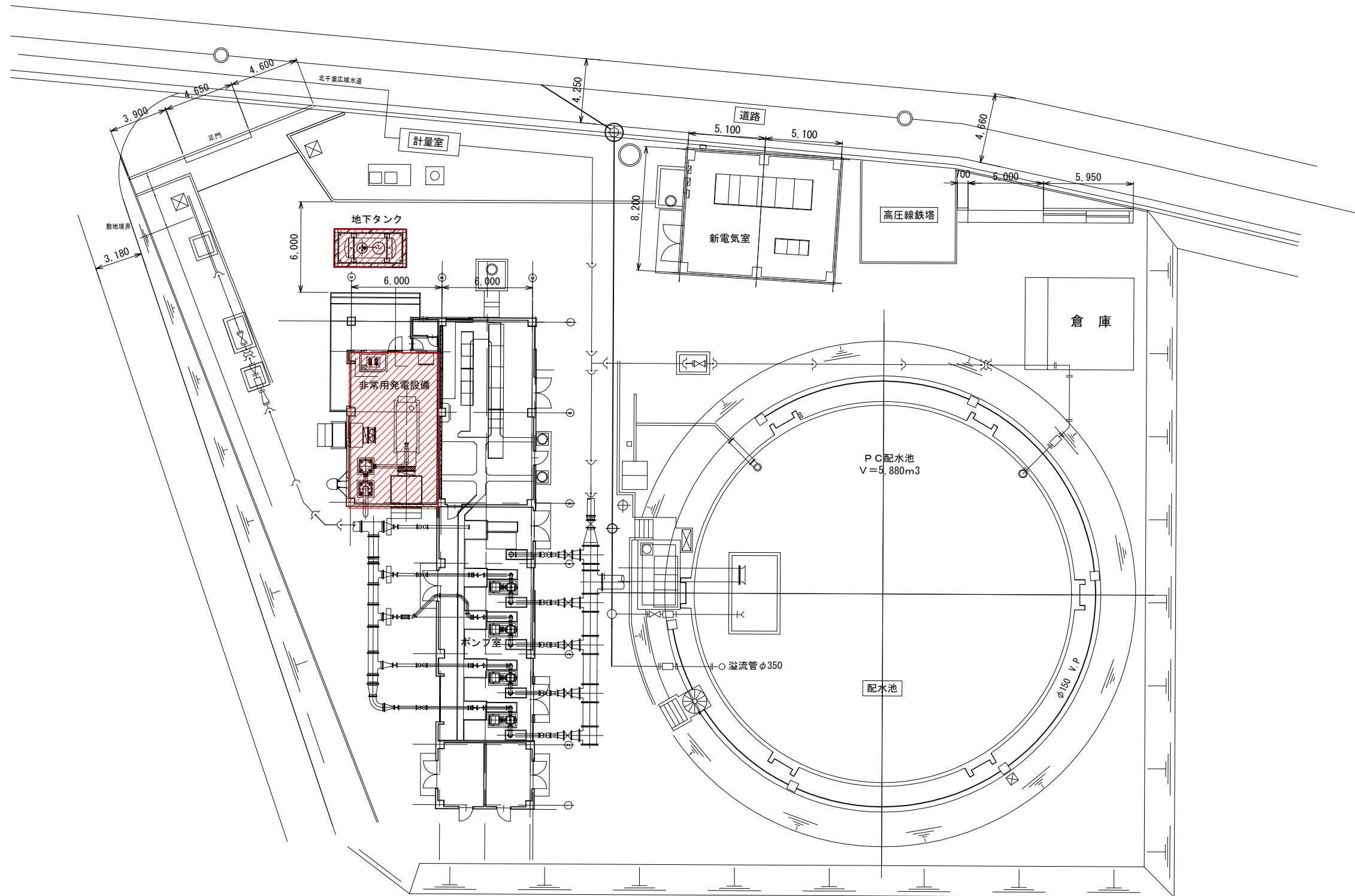
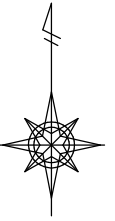
配水ポンプ圧力一定制御の設定値の制限

配水ポンプ流量一定制御設定値の制限



工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	幸田配水場案内図		
縮尺	1/2,500	単位 mm	図面番号 PE-01
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

幸田配水場一般平面図(今回) S=1:150



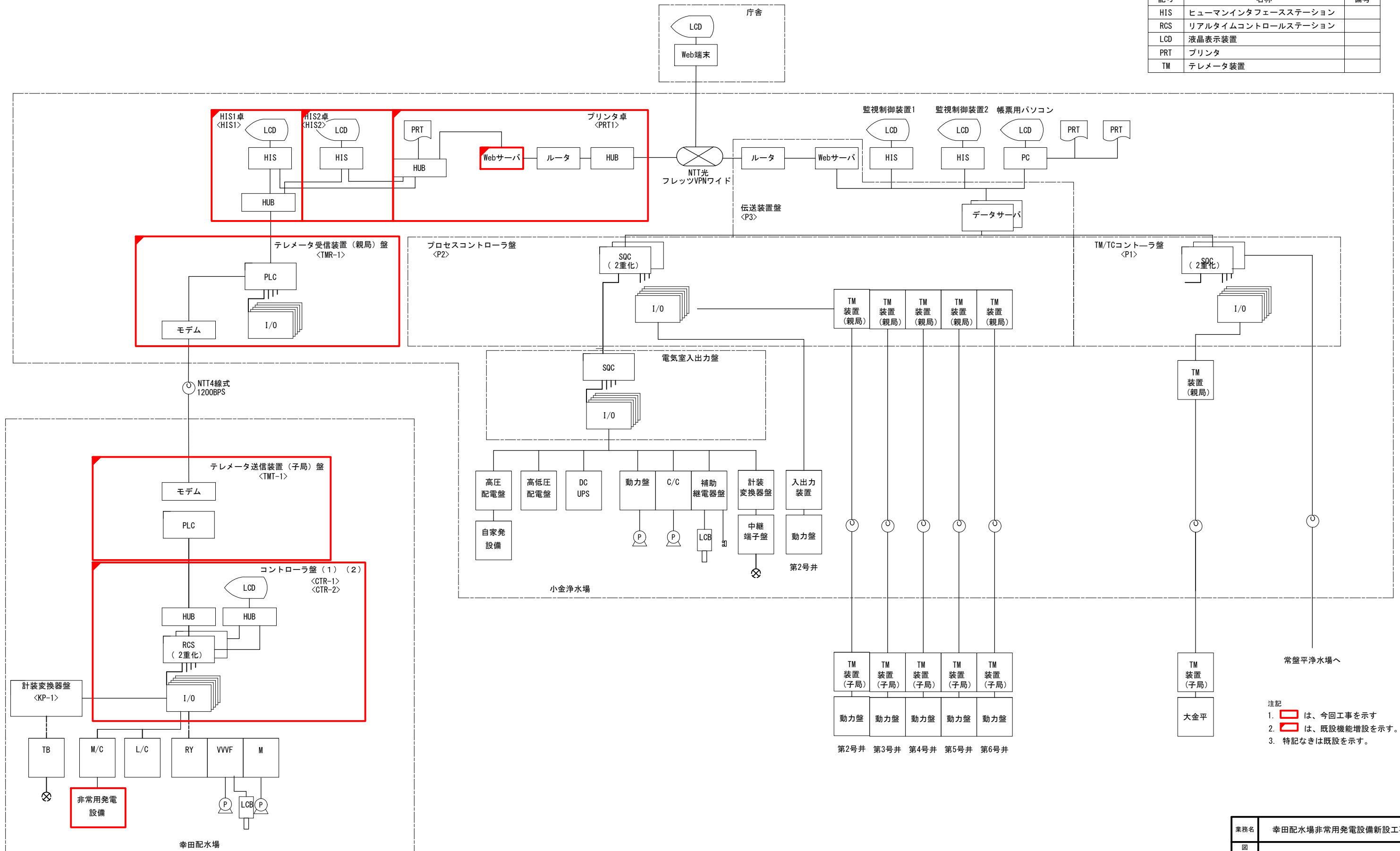
- 注記
1. は、今回主要工事箇所を示す。
 2. 特記なきは既設を示す。

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	幸田配水場一般平面図(今回)		
縮尺	1/150	単位 mm	図面番号 PE-02
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

システム構成図 (今回) S=FREE

凡 例

記号	名称	備考
HIS	ヒューマンインタフェースステーション	
RCS	リアルタイムコントロールステーション	
LCD	液晶表示装置	
PRT	プリンタ	
TM	テレメータ装置	



- 注記
1. は、今回工事を示す
 2. は、既設機能増設を示す。
 3. 特記なきは既設を示す。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	システム構成図 (今回)		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 PE-03
事業主	松戸市水道部	図面番号	PE-17

非常用発電設備計装フローシート(今回) S=FREE

名称	地下タンク油量	
目盛	0~4000L	
数量	既設	0
	今回	1
	全体	1
小金浄水場	HIS卓及びWebサーバ	○
	テレメータ受信装置 <TMT-R>	○
伝送	NTT4線式 1200BPS	
幸田配水場	テレメータ送信装置 <TMT-1>	○
	コントローラ盤 <CTR-1,2>	○
	計装変換器盤 <KP-1>	○
	給油口ボックス	

給油口ボックス

給油口 LI

注油管 65A

検出器 (フロート)

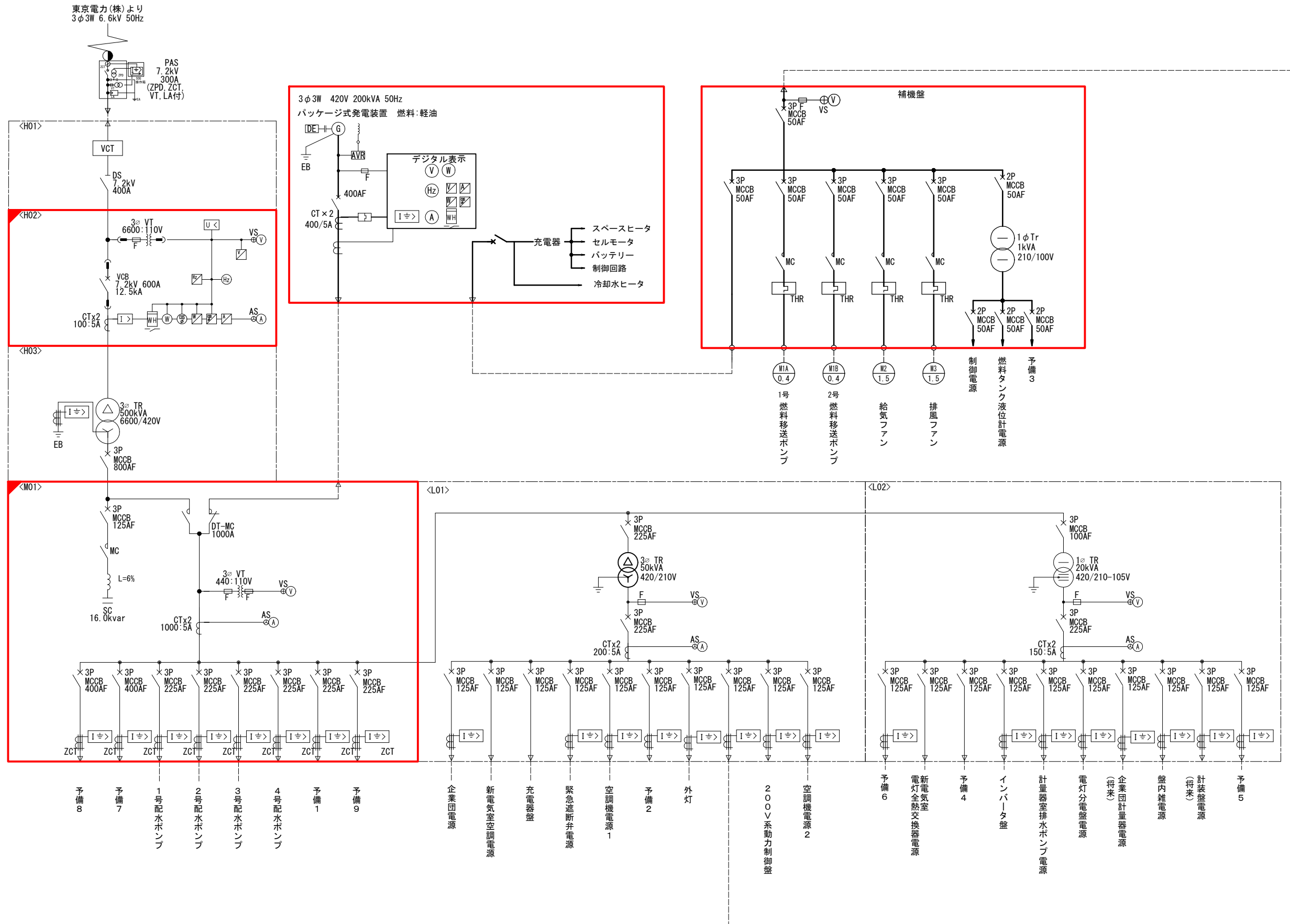
地下タンク 4000L

注記)
1. 本図は全て今回工事を示す。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	非常用発電設備計装フローシート(今回)		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 PE-04
事業主	松戸市水道部		PE-17

単線結線図 (今回)

S=FREE

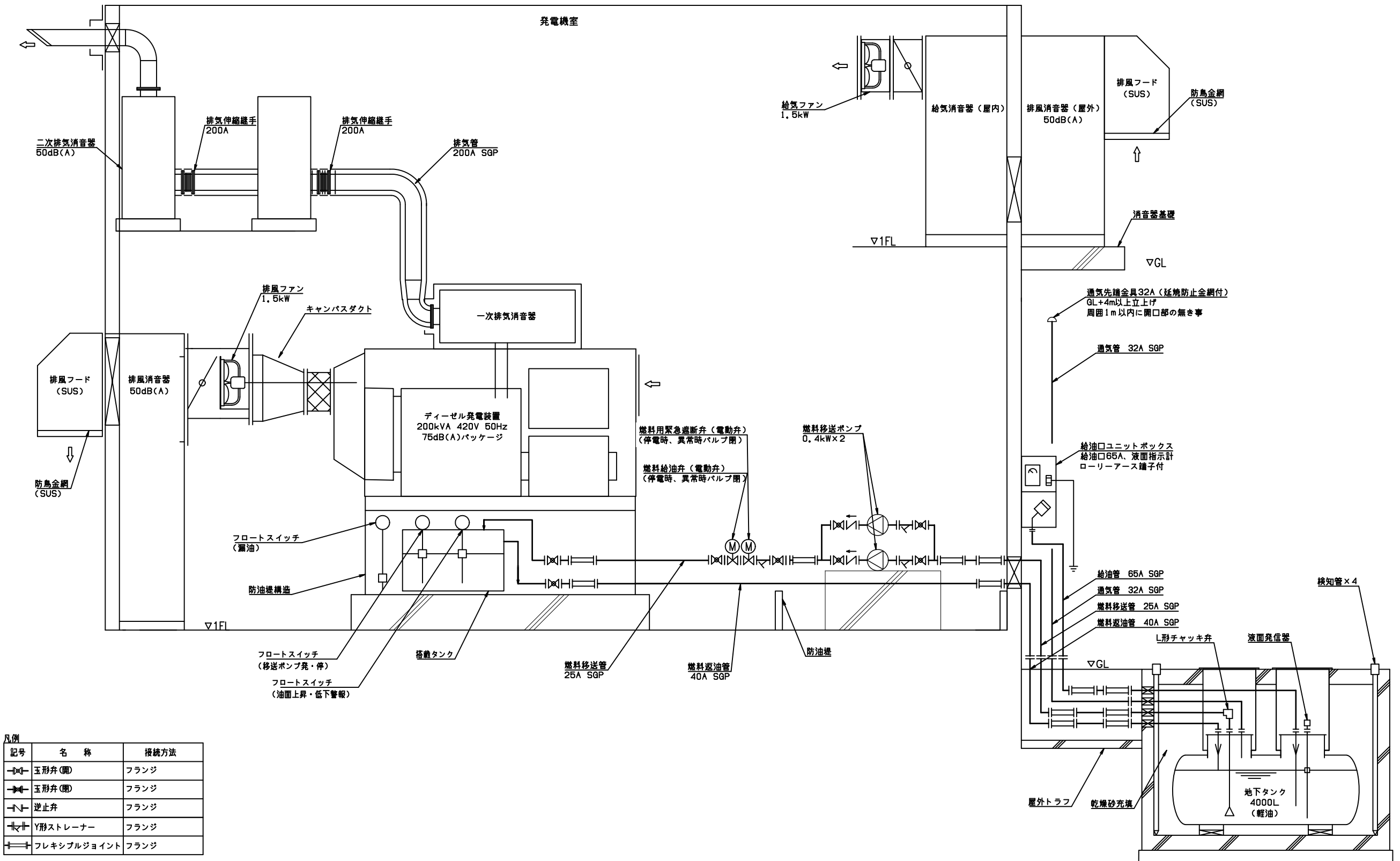


盤記号	盤名称	備考
H01	高压引込盤	既設
H02	高压受電盤	機能増設
H03	主変圧器盤	既設
M01	400V動力電源盤	機能増設
L01	200V動力電源盤	既設
L02	電灯電源盤	既設

- 注記
1. は、今回工事を示す。
 2. は、機能増設工事を示す。
 3. 特記なきは既設を示す。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	単線結線図 (今回)		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 PE-05
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

非常用発電設備配管系統図 S=FREE



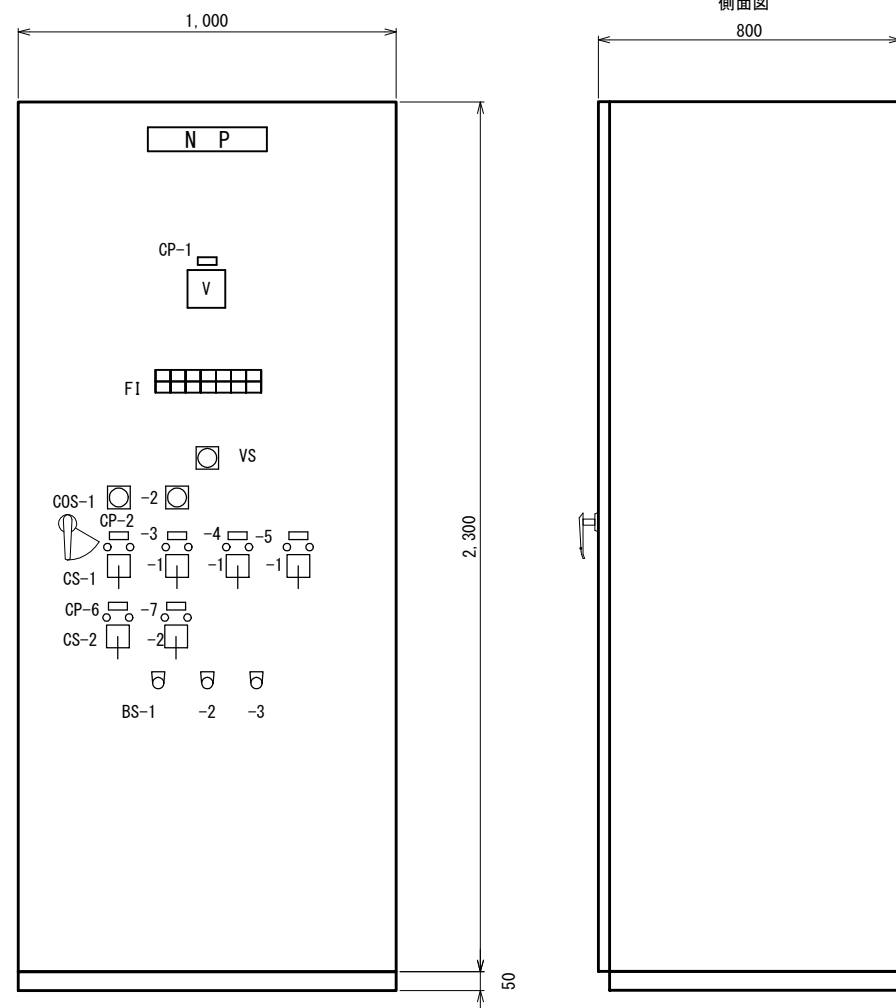
凡例

記号	名称	接続方法
→x←	玉形弁(開)	フランジ
←x→	玉形弁(閉)	フランジ
→ ←	逆止弁	フランジ
Y	Y形ストレーナー	フランジ
≡	フレキシブルジョイント	フランジ

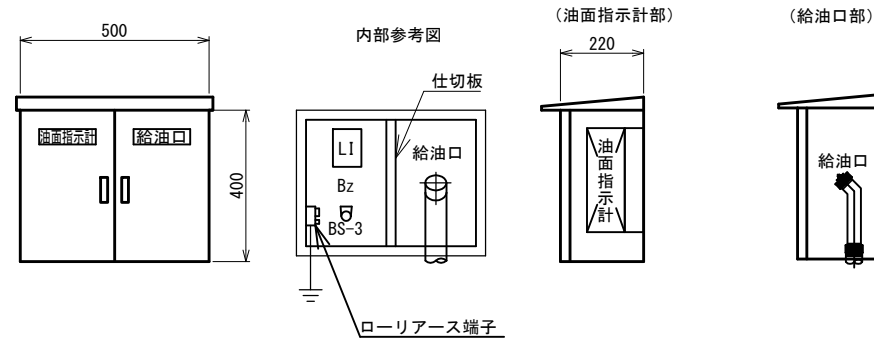
- 注記
1. 本図は、全て今回工事を示す。
 2. 屋外配管は、SGP PLC(密着一層ポリエチレン被覆鋼管)を使用する。
 3. 配管サポート材には、電気防食の発生しない材質を使用する。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	非常用発電設備配管系統図		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 PE-06
事業主	松戸市水道部	図面番号	PE-17

補機盤



給油口ボックス



記号	名称	備考
Bz	フザー	
BS-1	押ボタンスイッチ（警報停止）	

FI

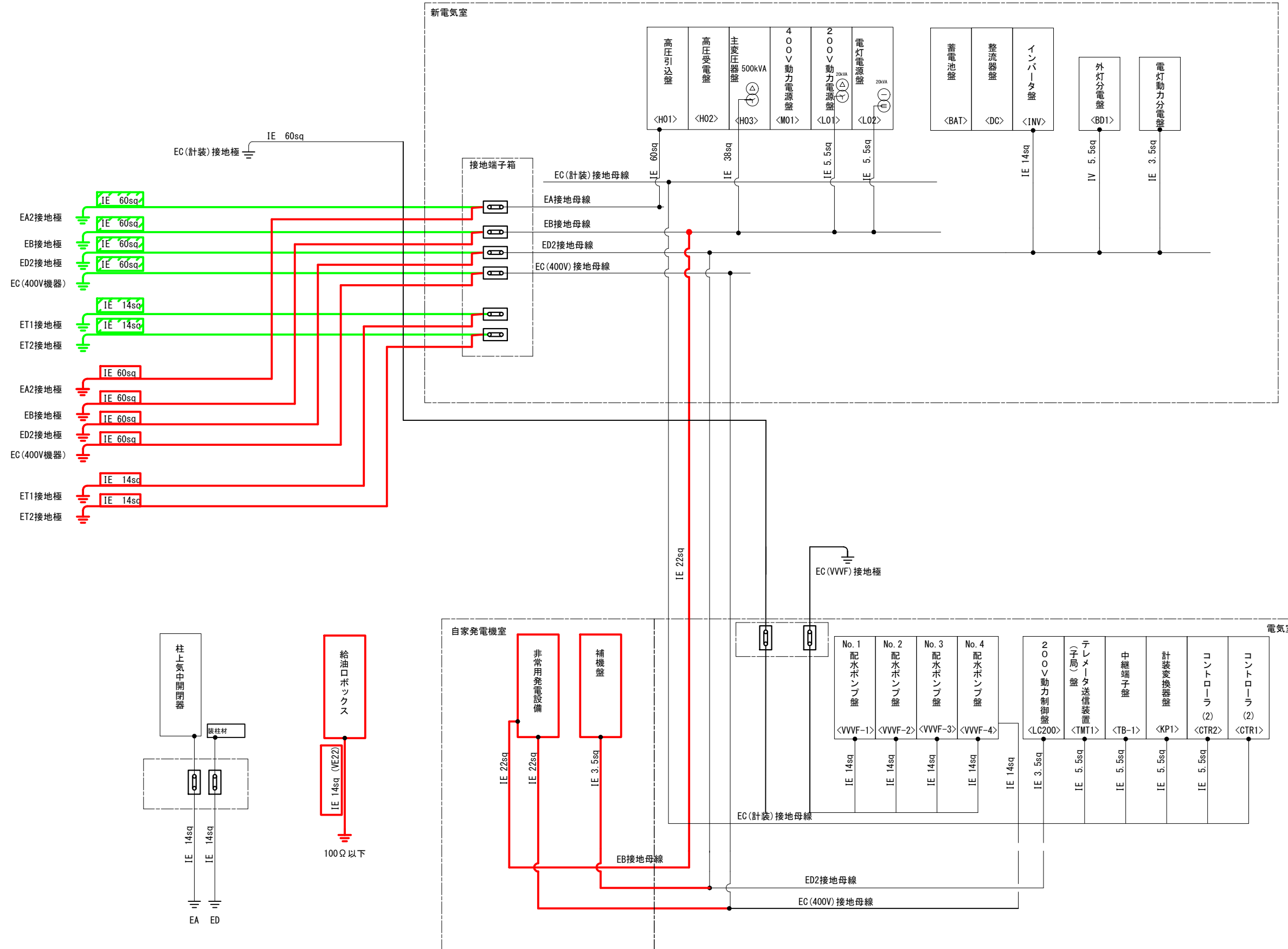
記号	名称	備考
1号	燃料移送ポンプ過負荷	
2号	燃料移送ポンプ過負荷	

記号	名称	備考
CP-1	受電電圧	
-2	1号 燃料移送ポンプ	
-3	2号 燃料移送ポンプ	
-4	給気ファン	
-5	排風ファン	
-6	燃料用緊急遮断弁	
-7	燃料給油弁	
COS-1	切換スイッチ（手動-自動）	
-2	切換スイッチ（1号-自交-2号）	
CS-1	操作スイッチ（閉-開）	
-2	操作スイッチ（停止-運転）	
BS-1	押ボタンスイッチ（警報停止）	
-2	押ボタンスイッチ（表示復帰）	
-3	押ボタンスイッチ（ランプテスト）	

注記
1. 本図は、全て今回工事を示す。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	補機盤等外形図		
縮尺	1/10	単位 mm	図面番号 PE-07
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

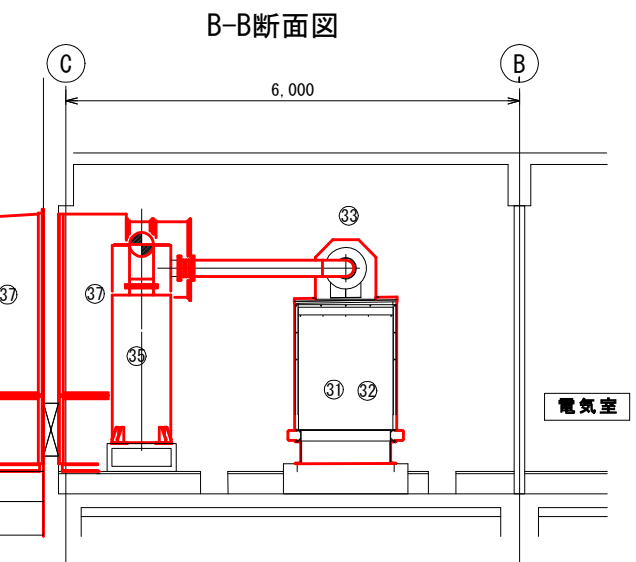
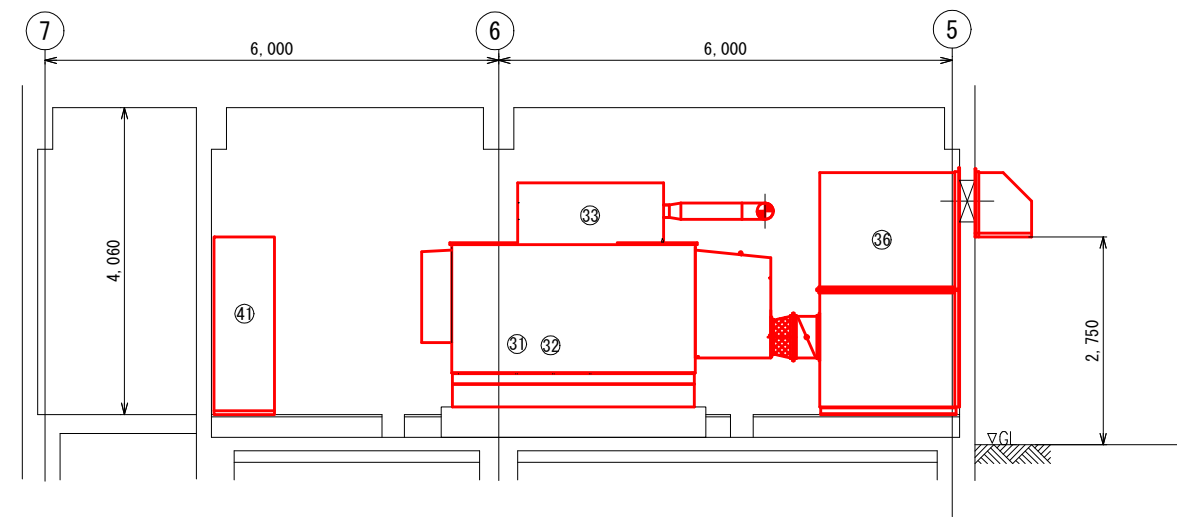
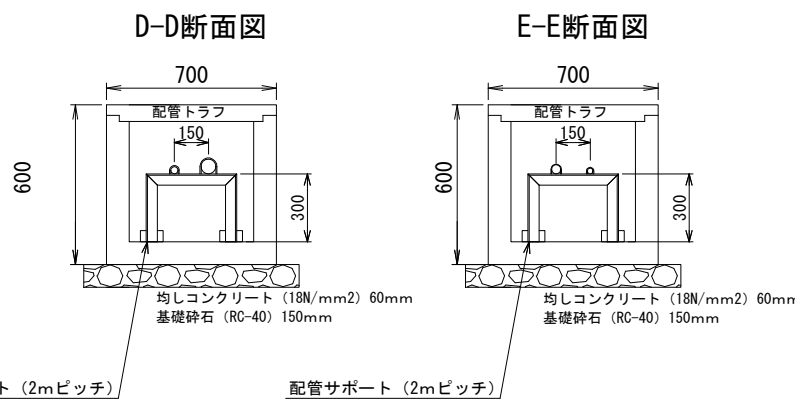
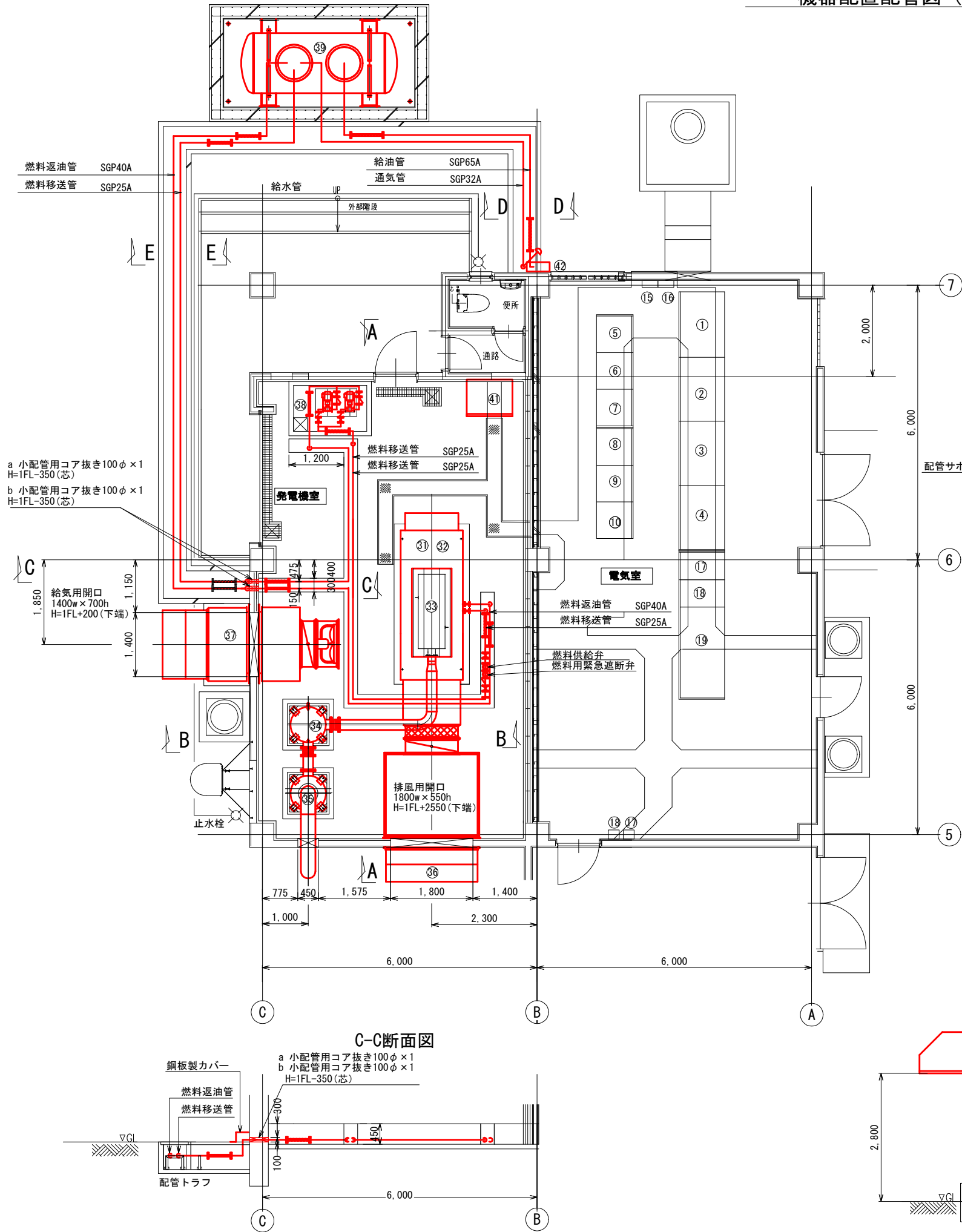
接地系統図 (今回) S=FREE



注記
 1. は、今回工事を示す。
 2. は、撤去工事を示す。
 3. 特記なきは既設を示す。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	接地系統図 (今回)		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 PE-08
事業主	松戸市水道部		PE-17

機器配置配管図 (今回) S=1/50



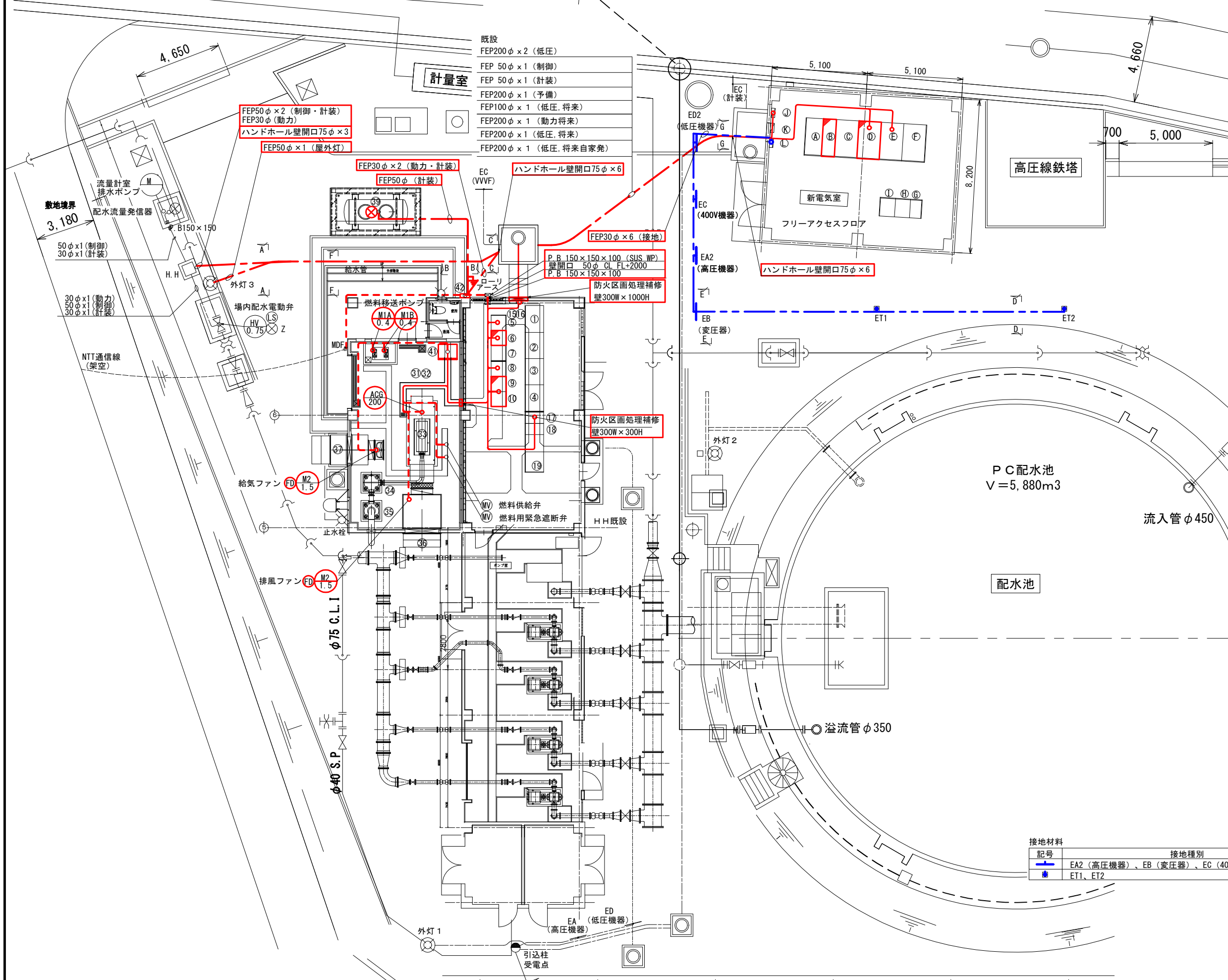
盤名称一覧表

番号	機器番号	名称	備考
[電気室]			
①	VVF-1	No.1配水ポンプ盤	既設
②	VVF-2	No.2配水ポンプ盤	〃
③	VVF-3	No.3配水ポンプ盤	〃
④	VVF-4	No.4配水ポンプ盤	〃
⑤	LC-200	200V動力制御盤	〃
⑥	TMT1	テレメータ送信装置(子局)盤	〃
⑦	TB1	中継端子盤	〃
⑧	KP1	計装変換器盤	〃
⑨	CTR2	コントローラ(2)	〃
⑩	CTR1	コントローラ(1)	〃
⑮	E-TB2	接地端子箱	〃
⑯		照明・シャッタ・排水ポンプ分電盤	〃
⑰		計装盤(北千葉広域水道企業団)	〃
⑱		動力制御盤(北千葉広域水道企業団)	〃
⑲		無停電電源装置(北千葉広域水道企業団)	〃
[発電機室]			
⑳		非常用発電設備	今回
㉑		燃料小出槽(本体下部タンク)	〃
㉒		一次排気消音器	〃
㉓		二次排気消音器	〃
㉔		三次排気消音器	〃
㉕		排風消音器	〃
㉖		給気消音器	〃
㉗		燃料移送ポンプ	〃
㉘		燃料タンク	〃
㉙		補機盤	〃
㉚		給油口ボックス	〃

注記
 1. 屋外配管は、SGP PLC(密着一層ポリエチレン被覆鋼管)を使用する。
 2. 配管サポート材には、電気防食の発生しない材質を使用する。
 3. 便所前屋外には、給水管があるため掘削時には注意すること。
 また、必要であれば給水管の切回しを考慮すること。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	機器配置配管図(今回)		
縮尺	1/50	単位	mm
図面番号	PE-09	図面番号	PE-17
事業主	松戸市水道部		

場内配線図(今回) S=1/100



盤名称一覧表			
番号	機器番号	名称	備考
[新電気室]			
①	H01	高圧引込盤	既設
②	H02	高圧受電盤	機能増設
③	H03	主変圧器盤	既設
④	M01	400V動力電源盤	機能増設
⑤	L01	200V動力電源盤	既設
⑥	L02	電灯電源盤	既設
⑦	BAT	蓄電池盤	既設
⑧	DC	整流器盤	既設
⑨	INV	インバータ盤	既設
⑩	BD1	外灯分電盤	既設
⑪			既設
⑫			既設
⑬	E-TB2	接地端子箱	既設
[電気室]			
⑭	VWF-1	No.1配水ポンプ盤	既設
⑮	VWF-2	No.2配水ポンプ盤	既設
⑯	VWF-3	No.3配水ポンプ盤	既設
⑰	VWF-4	No.4配水ポンプ盤	既設
⑱	LC-200	200V制御盤	既設
⑲	TMT1	テレメータ送信装置(子局)盤	機能増設
⑳	TB1	中継端子盤	既設
㉑	KP1	計装変換器盤	既設
㉒	CTR2	コントローラ(2)	機能増設
㉓	CTR1	コントローラ(1)	既設
㉔			既設
㉕			既設
㉖			既設
㉗			既設
㉘			既設
㉙			既設
[発電機室]			
㉚		非常用発電設備	今回
㉛		燃料小出槽(本体下部タンク)	既設
㉜		一次排気消音器	既設
㉝		二次排気消音器	既設
㉞		三次排気消音器	既設
㉟		排風消音器	既設
㊱		給気消音器	既設
㊲		燃料移送ポンプ	既設
㊳		燃料タンク	既設
㊴		補機盤	今回
㊵		給油口ボックス	既設

注記
 1. 赤線は、今回を示す。
 2. 赤枠は、既設機能増設を示す。
 3. 便所前屋外には、給水管があるため掘削時には注意すること。また、必要であれば給水管の切戻しを考慮すること。
 4. 特記なきは既設を示す。

ケーブル配線凡例

記号	名称
— (赤線)	今回電力・制御等ケーブル類を示す。
— (赤線)	今回接地線を示す。
— (赤線)	ビット・ダクト内配線を示す。
— (赤線)	露出配管内配線を示す。
— (赤線)	FEP内配線を示す。

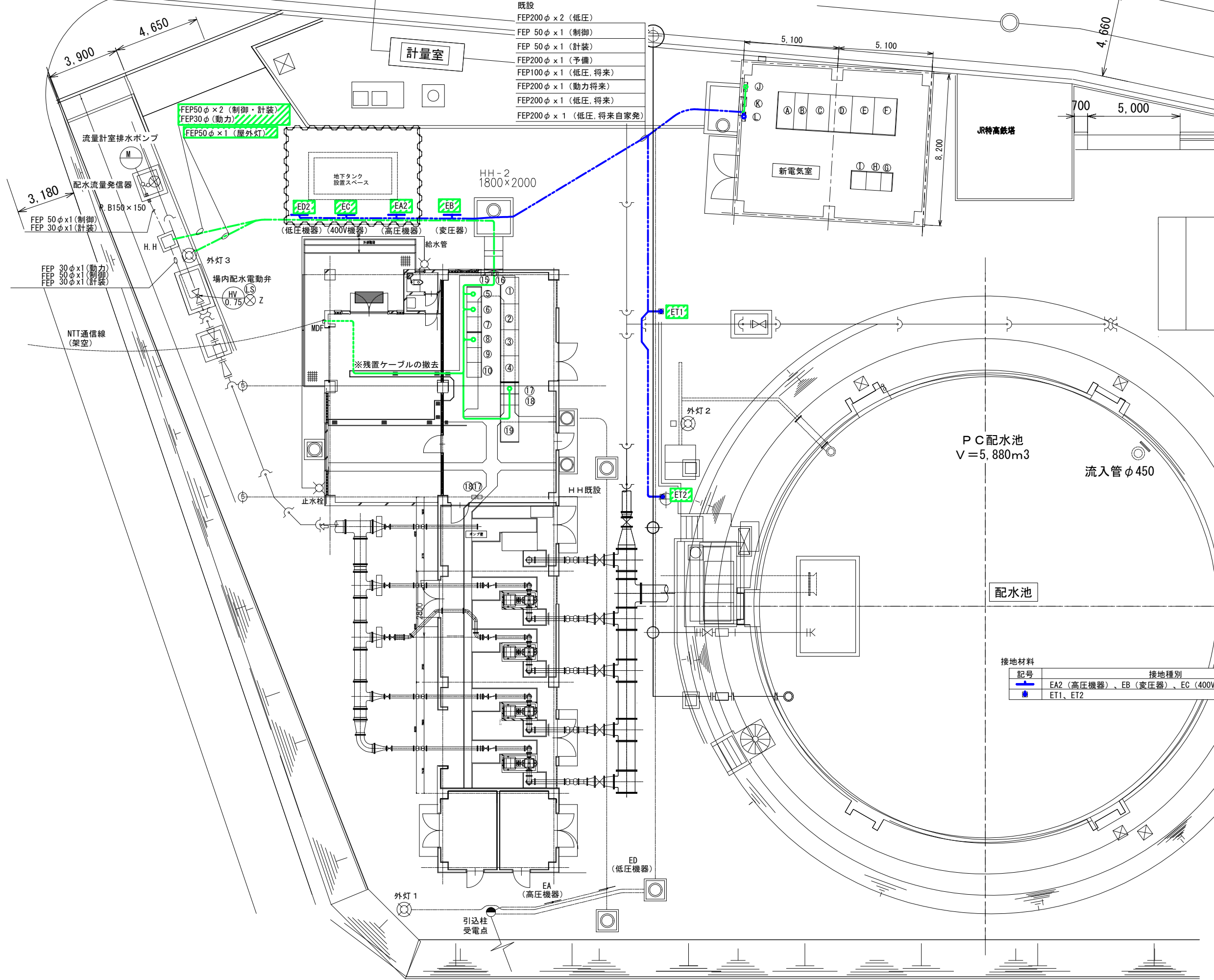
接地材料

記号	接地種別	接地材料
— (赤線)	EA2(高圧機器)、EB(変圧器)、EC(400V機器)、ED2(低圧機器)	接地銅板 900x900x1.5t
— (赤線)	ET1、ET2	接地棒 φ14x1500

業務名	幸田配水池非常用発電設備新設工事		
図面名称	場内配線図(今回)		
縮尺	1/100	単位 mm	図面番号 PE-10
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

場内配線図(撤去)

S=1/100



- 既設
- FEP200φ x 2 (低圧)
 - FEP 50φ x 1 (制御)
 - FEP 50φ x 1 (計装)
 - FEP200φ x 1 (予備)
 - FEP100φ x 1 (低圧, 将来)
 - FEP200φ x 1 (動力, 将来)
 - FEP200φ x 1 (低圧, 将来)
 - FEP200φ x 1 (低圧, 将来自家発)

盤名称一覧表

番号	機器番号	名称	備考
[新電気室]			
Ⓐ	H01	高圧引込盤	既設
Ⓑ	H02	高圧受電盤	〃
Ⓒ	H03	主変圧器盤	〃
Ⓓ	M01	400V動力電源盤	〃
Ⓔ	L01	200V動力電源盤	〃
Ⓕ	L02	電灯電源盤	〃
Ⓖ	BAT	蓄電池盤	〃
Ⓖ	DC	整流器盤	〃
Ⓙ	INV	インバータ盤	〃
Ⓚ	BD1	外灯動力分電盤	〃
Ⓚ		電灯動力分電盤	〃
Ⓛ	E-TB2	接地端子箱	〃
[電気室]			
①	VVVF-1	No. 1 配水ポンプ盤	既設
②	VVVF-2	No. 2 配水ポンプ盤	〃
③	VVVF-3	No. 3 配水ポンプ盤	〃
④	VVVF-4	No. 4 配水ポンプ盤	〃
⑤	LC-200	200V動力制御盤	〃
⑥	TMT1	テレメータ送信装置(子局)盤	〃
⑦	TB 1	中継端子盤	〃
⑧	KP 1	計装変換器盤	〃
⑨	CTR2	コントローラ(2)	〃
⑩	CTR1	コントローラ(1)	〃
⑮		接地端子箱	〃
⑯		照明・シャッタ・排水ポンプ分電盤	〃
⑰		計装盤 (北千葉広域水道企業団)	既設
⑱		動力制御盤 (北千葉広域水道企業団)	〃
⑲		無停電電源装置 (北千葉広域水道企業団)	〃

注記

- 緑色の斜線は、今回撤去を示す。
- ※残置ケーブルの撤去を行う。
(MDFからビット内部 構内ケーブル)
- 便所前屋外には、給水管が地中にあるため掘削時には注意すること。
- 特記なきは既設を示す。

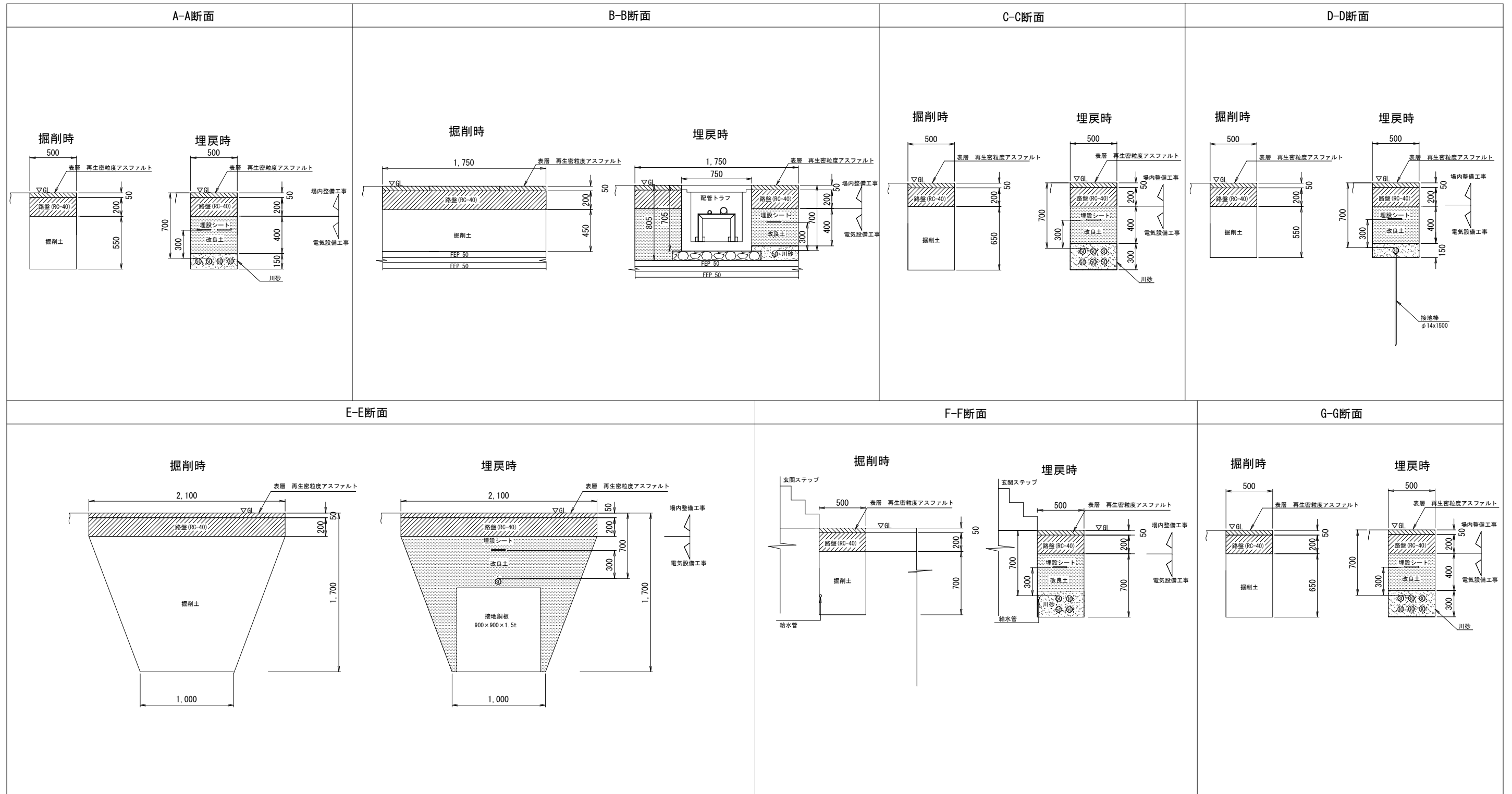
ケーブル配線凡例

記号	名称
緑色の斜線	撤去電力・制御等ケーブル類を示す。
青い破線	撤去接地線を示す。
赤い破線	撤去ビット・ダクト内配線を示す。
緑色の破線	撤去露出配管内配線を示す。
赤色の破線	撤去FEP内配線を示す。

接地材料

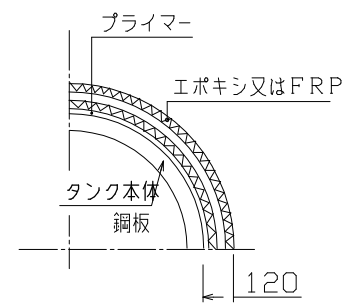
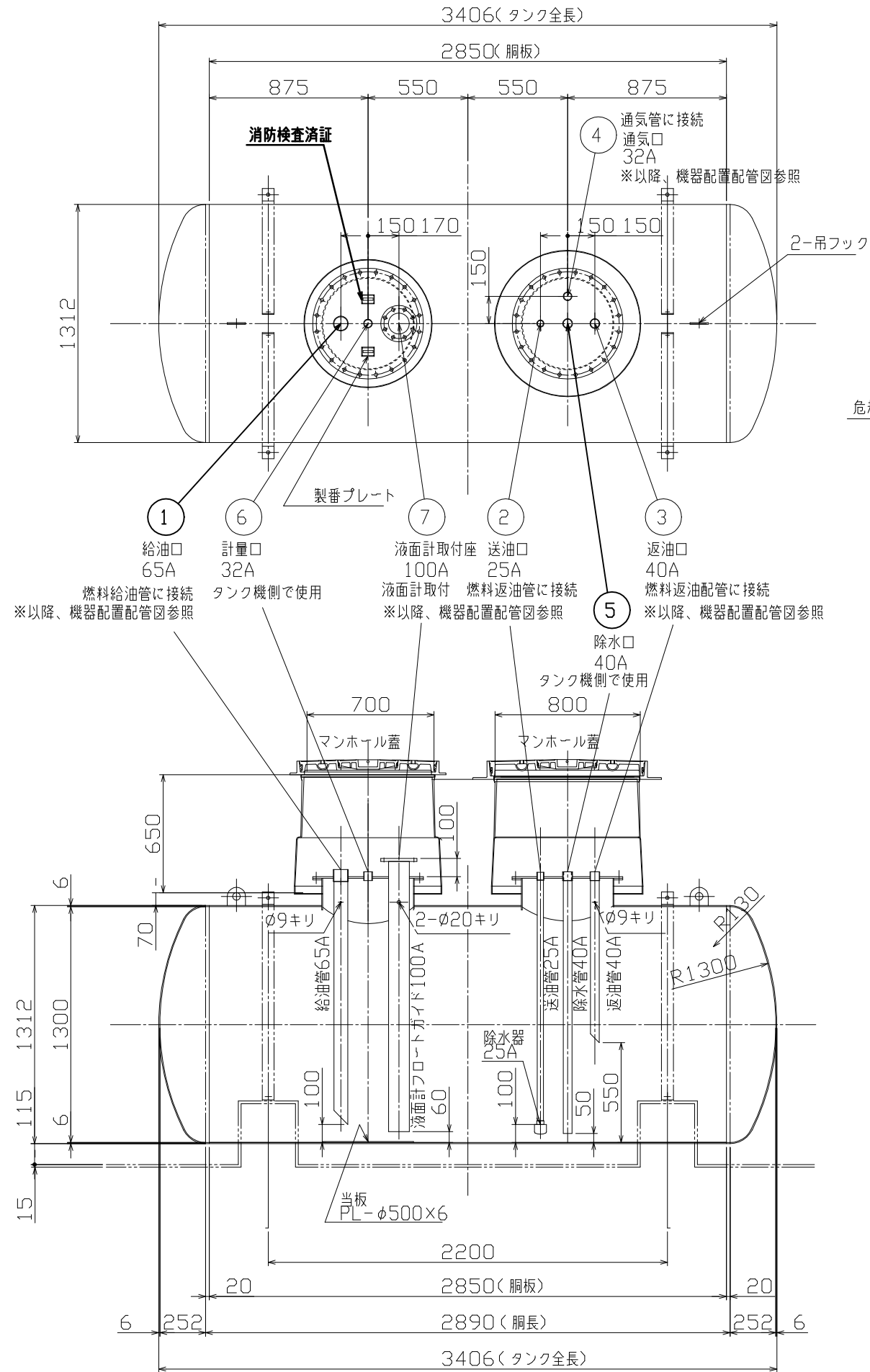
記号	接地種別	接地材料
EA2 (高圧機器)、EB (変圧器)、EC (400V機器)、ED2 (低圧機器)		接地銅板 900x900x1.5t
ET1、ET2		接地棒 φ14x1500

業務名	幸田配水池非常用発電設備新設工事		
図面名称	場内配線図(撤去)		
縮尺	1/100	単位 mm	図面番号 PE-11
事業主	松戸市水道部	図面番号	PE-17



業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地中電路掘削断面図		
縮尺	1/20	単位 mm	図面番号 PE-12
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

地下タンク外形図 S=1:15

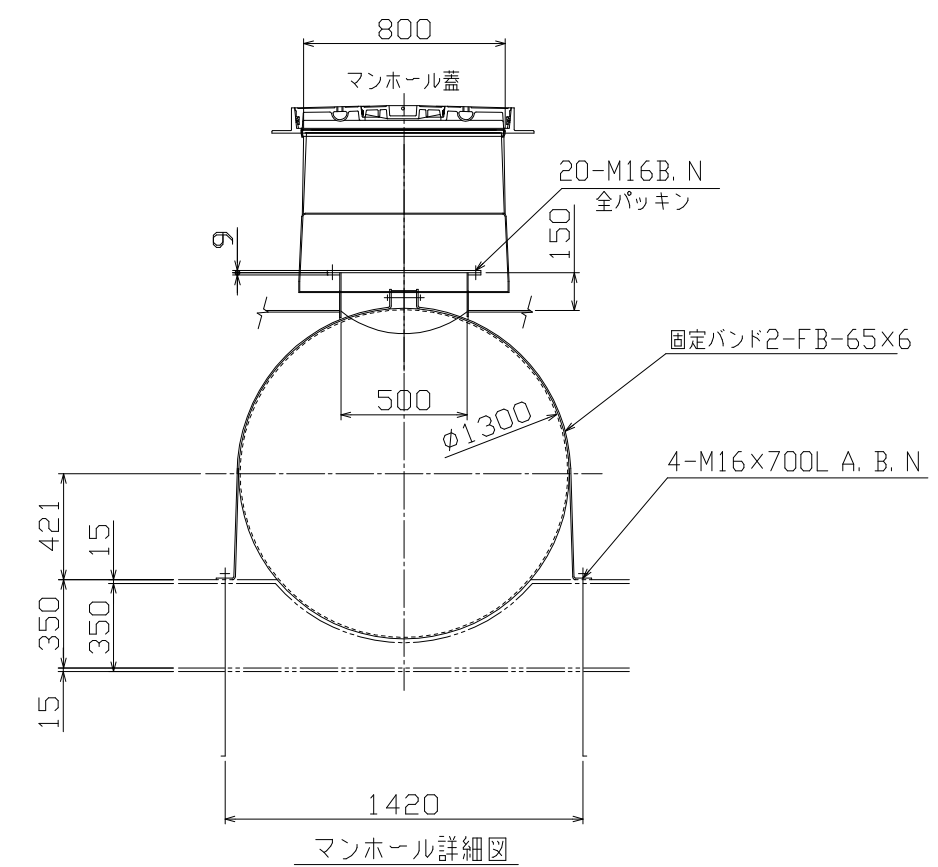


危規則第23条の2、危告示第4条の48による外面保護

NO	名称	サイズ	個数	備考
1	給油口	65A	1	ソケット
2	送油口	25A	1	ソケット
3	返油口	40A	1	ソケット
4	通気口	32A	1	ソケット
5	除水口	40A	1	ソケット
6	計量口	32A	1	ソケット
7	液面計取付座	100A	1	JIS-5Kフランジ

4,000Lタンク容量計算	
寸法	I.D.φ1300X2850(胴板) 2890(胴長)
材質・板厚	SS400 6t
総容量	$(1.3^2 \times 3.14 \times 2.89 / 4 + 1.3^3 \times 0.09896 \times 2) \times 10^3 = 4,269L$
空間容量	$(4269 - 4000) / 4269 \times 100 = 6.3\% \text{ ----- } 269L$
実容量	4,269 - 269 = 4,000L
概算質量	1,060Kg(乾燥)

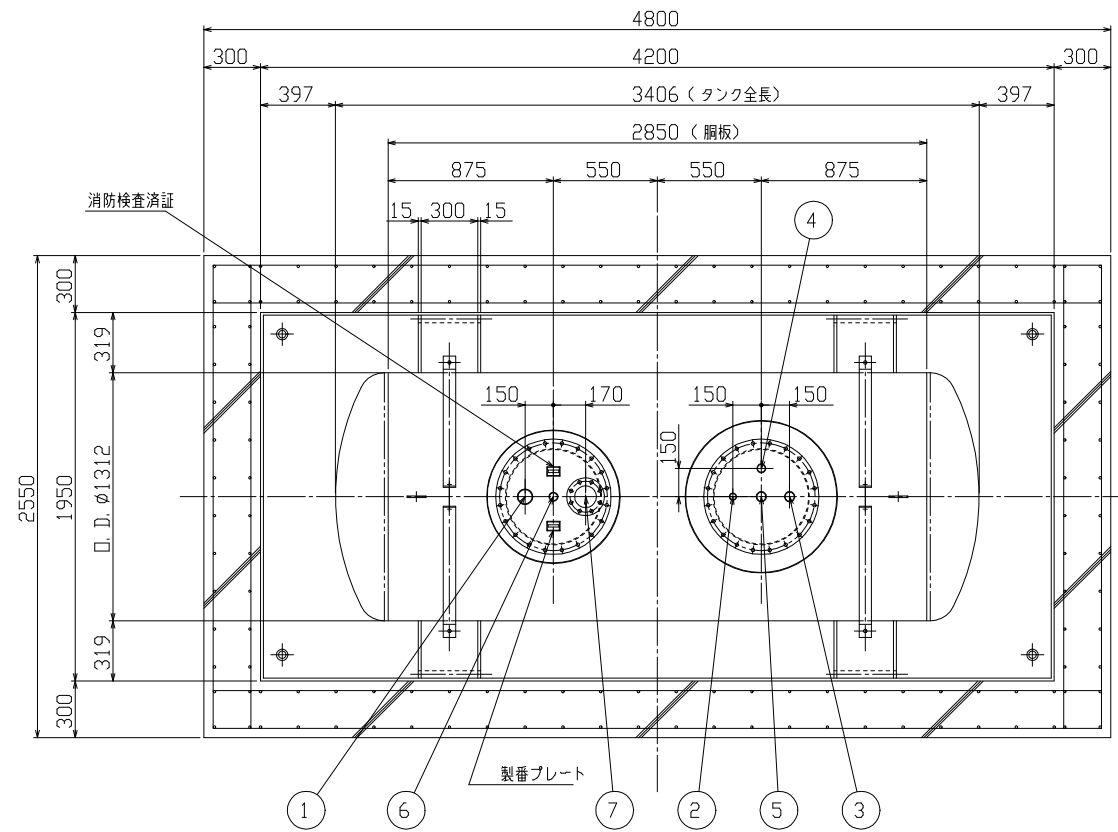
タンク内面油拭き



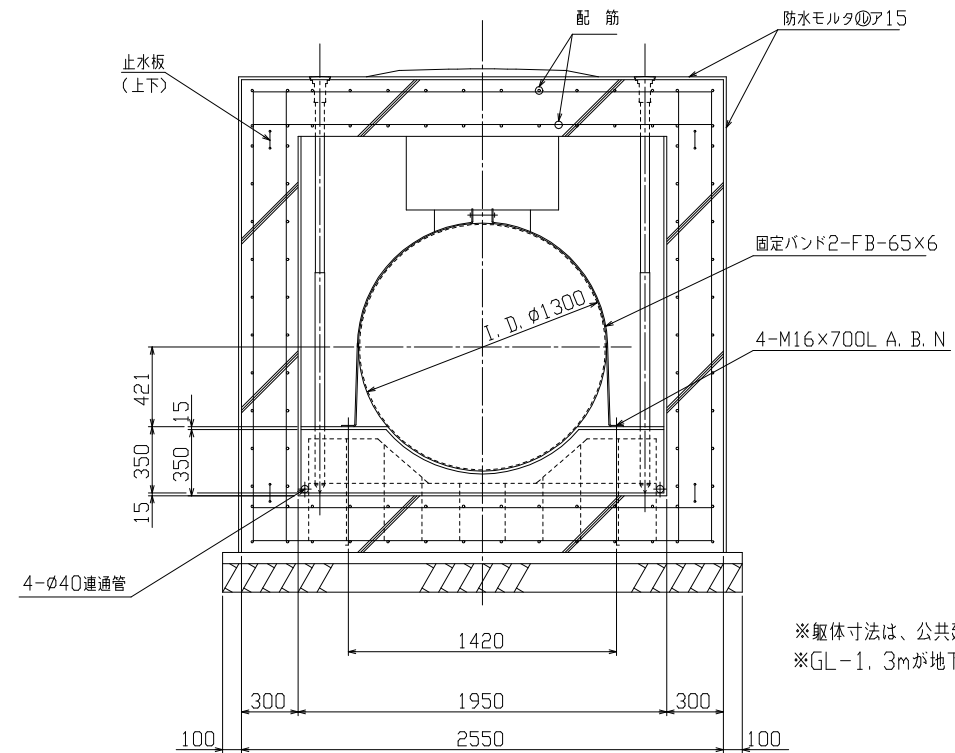
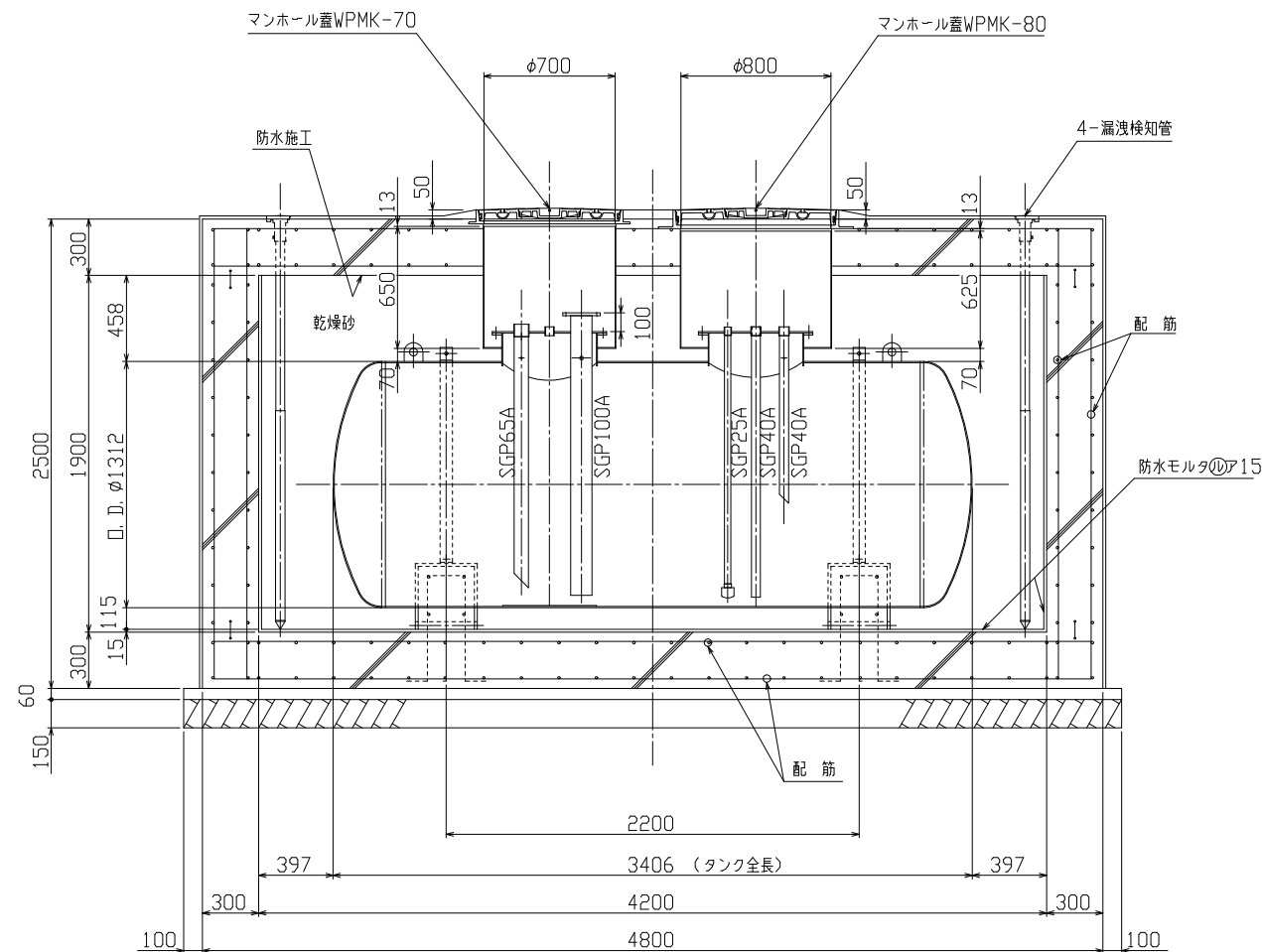
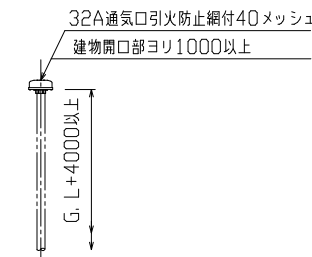
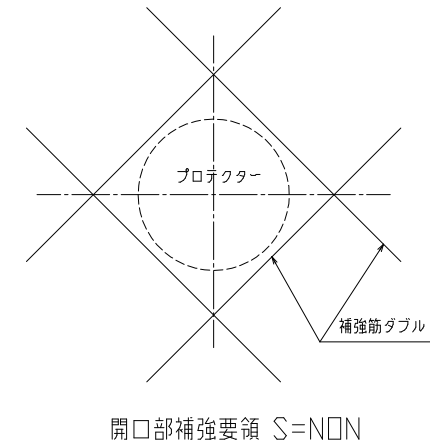
業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下タンク外形図		
縮尺	1/15	単位 mm	図面番号 PE-13
事業主	松戸市水道部	図面番号	PE-17

地下タンク躯体図

S=1:20



NO	名称	サイズ	個数	備考
1	給油口	65A	1	ソケット
2	送油口	25A	1	ソケット
3	返油口	40A	1	ソケット
4	通気口	32A	1	ソケット
5	除水口	40A	1	ソケット
6	計量口	32A	1	ソケット
7	液面計取付座	100A	1	JIS-5Kフランジ



※躯体寸法は、公共建築設備工事標準図(国土交通省仕様)に準ずる。
 ※GL-1.3mが地下水水位なので側壁部の防水処理を行う。

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下タンク躯体図		
縮尺	1/20	単位 mm	図面番号 PE-14
事業主	松戸市水道部	図面番号	PE-17

配線表 (今回・撤去) S=FREE

非常用発電設備 (今回) (1 / 2)

配線表

配線番号	自		至		配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外/屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
	記号	名称	記号	名称					
1000	AG1	非常用発電設備	MD1	400V動力電源盤	600VEM-CET 325 ^φ		2		
1001	#	#	CTR1,2	コントローラ	EM-CEE 2 ^φ -20C				
1002	#	#	#	#	EM-CEE-S 2 ^φ -2C x 5				
1003	LG01	200V動力電源盤	LG01	補機盤	600VEM-CE 5.5 ^φ -3C				
1004	LG01	補機盤	AG1	非常用発電設備	600VEM-CE 3.5 ^φ -3C				
1005	#	#	M1A	1号燃料移送ポンプ	600VEM-CE 2 ^φ -3C		EM-IE 3.5 ^φ	GP 22 ^{mm}	
1006	#	#	M1B	2号燃料移送ポンプ	600VEM-CE 2 ^φ -3C		EM-IE 3.5 ^φ	GP 22 ^{mm}	
1007	#	#	MV1	燃料用緊急遮断弁	EM-CEE 2 ^φ -5C			GP 22 ^{mm}	
1008	#	#	MV2	燃料供給弁	EM-CEE 2 ^φ -5C			GP 22 ^{mm}	
1009	#	#	M2	給気ファン	600VEM-CE 3.5 ^φ -3C		EM-IE 3.5 ^φ	GP 22 ^{mm}	
1010	#	#	M2D	給気ファン防火ダンパ	EM-CEE 2 ^φ -5C			GP 22 ^{mm}	
1011	#	#	M3	排風ファン	600VEM-CE 3.5 ^φ -3C		EM-IE 3.5 ^φ	GP 22 ^{mm}	
1012	#	#	M3D	排風ファン防火ダンパ	EM-CEE 2 ^φ -5C			GP 22 ^{mm}	
1013	#	#	CTR1,2	コントローラ	EM-CEE 2 ^φ -15C				
1014	#	#	BDX	給油口ボックス	600VEM-CE 2 ^φ -2C		EM-IE 3.5 ^φ	GP 22 ^{mm}	
1015	KP1	計装変換器盤	#	#	EM-CEE 2 ^φ -2C			GP 22 ^{mm}	
1016	BDX	給油口ボックス	L1	地下タンク液位計	専用ケーブル			FEP 50 ^{mm}	
1017	#	#	#	ローリーアース	EM-IE 14 ^φ				
1018	E-TB2	新電気室接地端子箱	EA2	EA2接地極	EM-IE 60 ^φ			FEP 30 ^{mm}	
1019	#	#	EB	EB接地極	EM-IE 60 ^φ			FEP 30 ^{mm}	
1020	#	#	ED2	ED2接地極	EM-IE 60 ^φ			FEP 30 ^{mm}	
1021	#	#	EC(400V用)	EC接地極	EM-IE 60 ^φ			FEP 30 ^{mm}	
1022	#	#	ET1	測定極	EM-IE 14 ^φ			FEP 30 ^{mm}	
1023	#	#	ET2	#	EM-IE 14 ^φ			FEP 30 ^{mm}	
1024	AG1	非常用発電設備	E-TB2	新電気室接地端子箱	EM-IE 22 ^φ				
1025	LC200	200V動力制御盤	HV	場内配水電動弁	600VEM-CE 2 ^φ -3C		EM-IE 3.5 ^φ		
1026	#	#	#	場内配水電動弁LS	EM-CEE 2 ^φ -10C				
1027	KP1	計装変換器盤	#	場内配水電動弁開度	EM-CEE-S 2 ^φ -2C				
1028	#	#	F1	配水流量計変換器	600VEM-CE 2 ^φ -2C		EM-IE 3.5 ^φ		
1029	#	#	#	#	EM-CEE-S 2 ^φ -2C x 2				

非常用発電設備 (今回) (2 / 2)

配線表

配線番号	自		至		配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外/屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
	記号	名称	記号	名称					
1030	#	照明シャッタ排水ポンプ分電盤	#	流量計室排水ポンプ	600VEM-CE 2 ^φ -2C		EM-IE 3.5 ^φ		
1031	BD1	外灯分電盤	#	外灯3	600VEM-CE 2 ^φ -2C			FEP 50 ^{mm}	
1032	MDF	電話端子箱	TMT1	テレメータ送信装置(子局)	EM-CPEE-S 0.65 ^{mm} -3P				
1033	#	H, H (電気室)	#	H, H (電動弁室)	#			FEP 50 ^{mm} x 2	
1034	#	#	#	#	#			FEP 30 ^{mm}	
1035	#	#	BDX	給油口ボックス	#			FEP 30 ^{mm} x 2	

非常用発電設備 (撤去) (1 / 1)

配線表

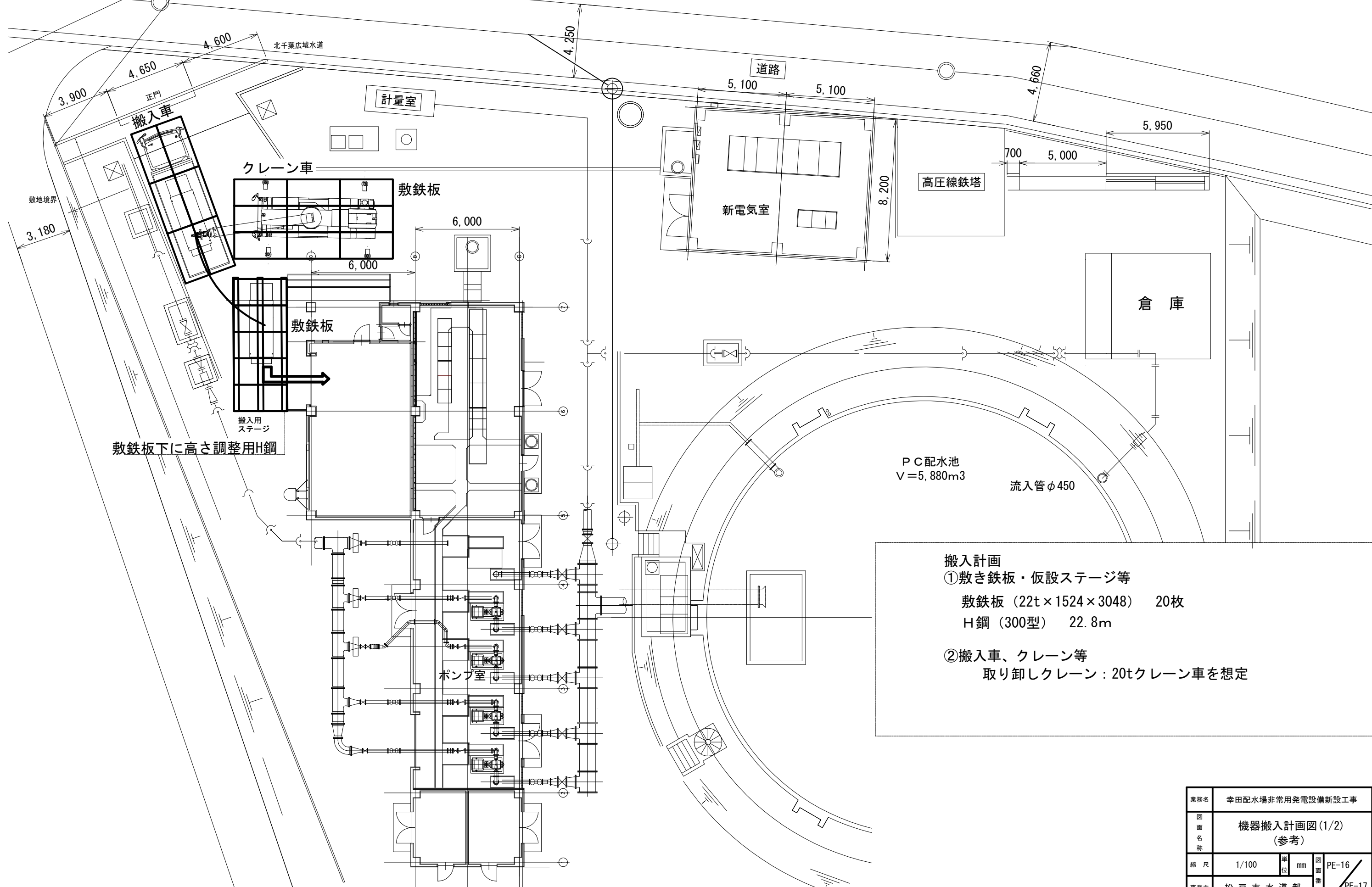
配線番号	自		至		配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外/屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
	記号	名称	記号	名称					
R 1018	E-TB2	新電気室接地端子箱	EA2	EA2接地極	EM-IE 60 ^φ				
R 1019	#	#	EB	EB接地極	EM-IE 60 ^φ				
R 1020	#	#	ED2	ED2接地極	EM-IE 60 ^φ				
R 1021	#	#	EC(400V用)	EC接地極	EM-IE 60 ^φ				
R 1022	#	#	ET1	測定極	EM-IE 14 ^φ				
R 1023	#	#	ET2	#	EM-IE 14 ^φ				
R 1024	LC200	200V動力制御盤	HV	場内配水電動弁	600VEM-CE 2 ^φ -3C		EM-IE 3.5 ^φ		
R 1025	#	#	#	場内配水電動弁LS	EM-CEE 2 ^φ -10C				
R 1026	KP1	計装変換器盤	#	場内配水電動弁開度	EM-CEE-S 2 ^φ -2C				
R 1027	#	#	F1	配水流量計変換器	600VEM-CE 2 ^φ -2C		EM-IE 3.5 ^φ		
R 1028	#	#	#	#	EM-CEE-S 2 ^φ -2C x 2				
R 1029	#	照明シャッタ排水ポンプ分電盤	#	流量計室排水ポンプ	600VEM-CE 2 ^φ -2C		EM-IE 3.5 ^φ		
R 1030	BD1	外灯分電盤	#	外灯3	600VEM-CE 2 ^φ -2C			FEP 50 ^{mm}	
R 1031	MDF	電話端子箱	TMT1	テレメータ送信装置(子局)	EM-CPEE-S 0.65 ^{mm} -3P				
R 1032	MDF	電話端子箱	#	ビット内残量通信ケーブル	EM-CPEE-S 0.65 ^{mm} -3P x 4				
1033	#	H, H (電気室)	#	H, H (電動弁室)	#			FEP 50 ^{mm} x 2	
1034	#	#	#	#	#			FEP 30 ^{mm}	

北千葉広域水道企業団通信回線 (今回・撤去) (1 / 1)

配線表

配線番号	自		至		配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外/屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
	記号	名称	記号	名称					
3000	#	【千葉東広域水道企業団】	#	#	#				
3001	MDF	電話端子箱	#	計装盤 (千葉東広域水道企業団)	EM-CPEE-S 0.65 ^{mm} -3P			GP 22 ^{mm}	
R 3002	#	#	#	#	EM-CPEE-S 0.65 ^{mm} -3P				

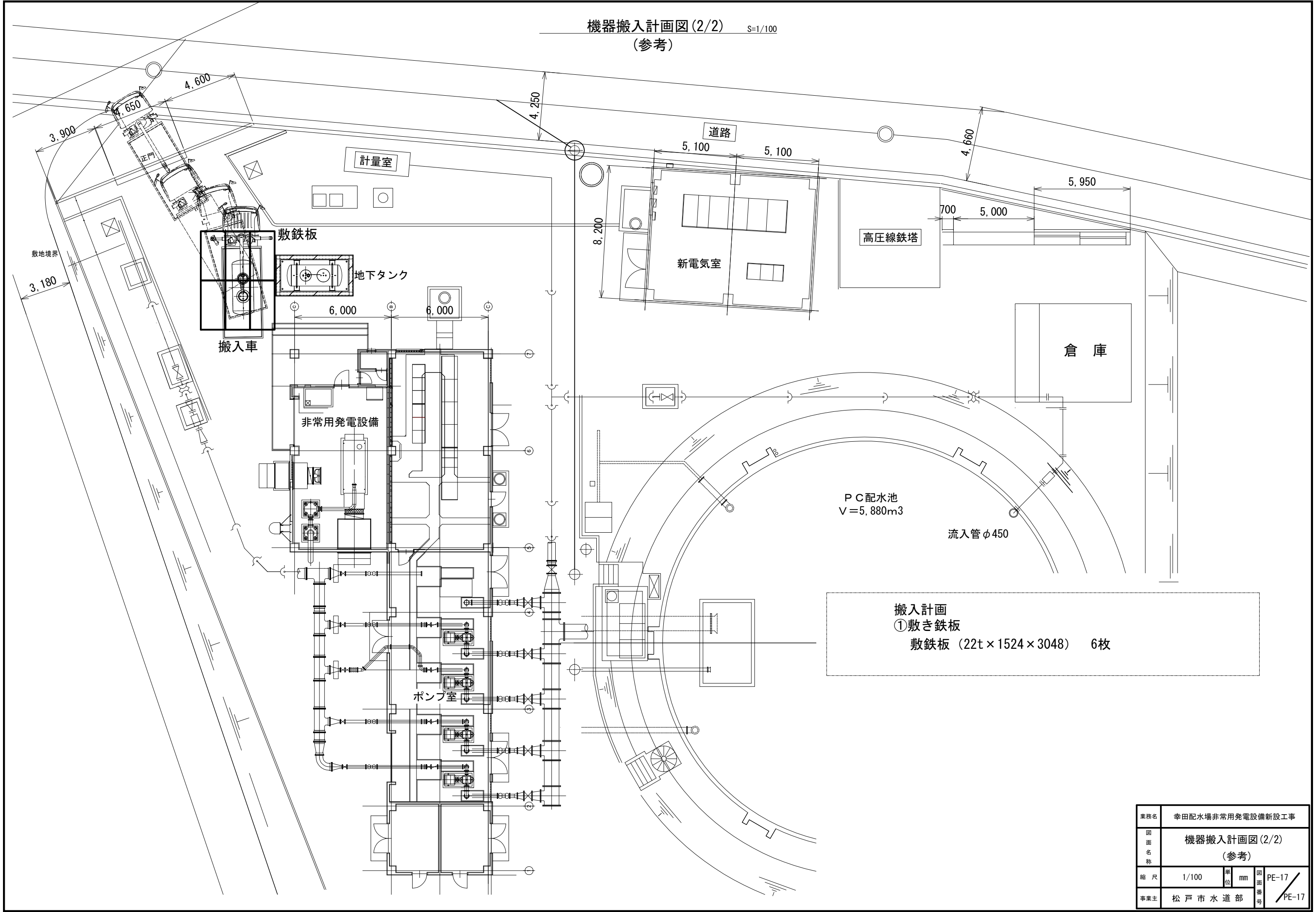
業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事			
図面名称	配線表 (今回・撤去)			
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号	PE-15
事業主	松戸市水道部		図面番号	PE-17



敷鉄板下に高さ調整用H鋼

- 搬入計画
- ①敷き鉄板・仮設ステージ等
 - 敷鉄板 (22t×1524×3048) 20枚
 - H鋼 (300型) 22.8m
 - ②搬入車、クレーン等
 - 取り卸しクレーン：20tクレーン車を想定

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	機器搬入計画図(1/2) (参考)		
縮尺	1/100	単位 mm	図面番号 PE-16
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17



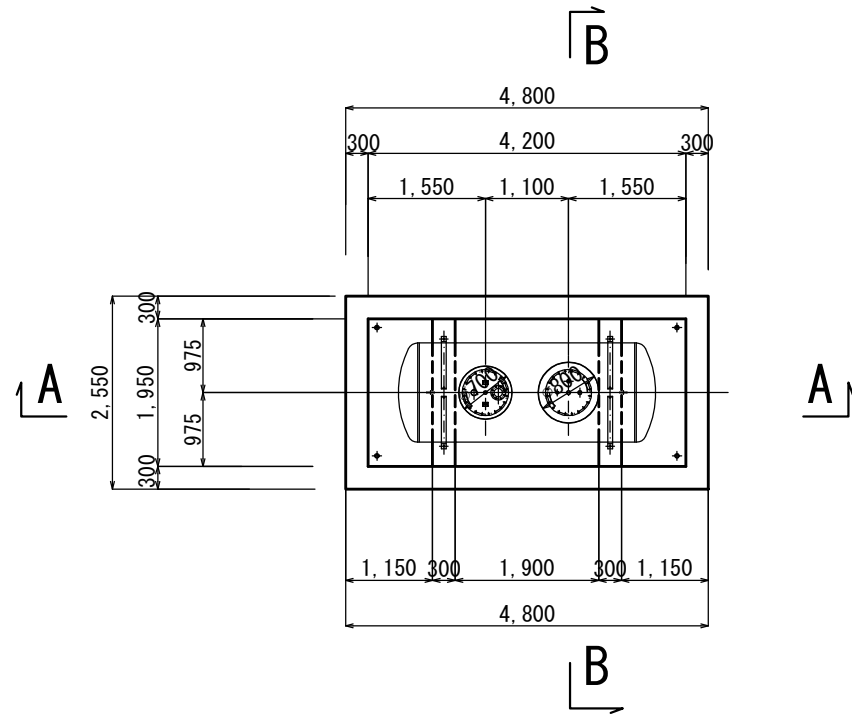
搬入計画
①敷き鉄板
敷鉄板 (22t × 1524 × 3048) 6枚

業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	機器搬入計画図(2/2) (参考)		
縮尺	1/100	単位 mm	図面番号 PE-17
事業主	松戸市水道部		図面番号 PE-17

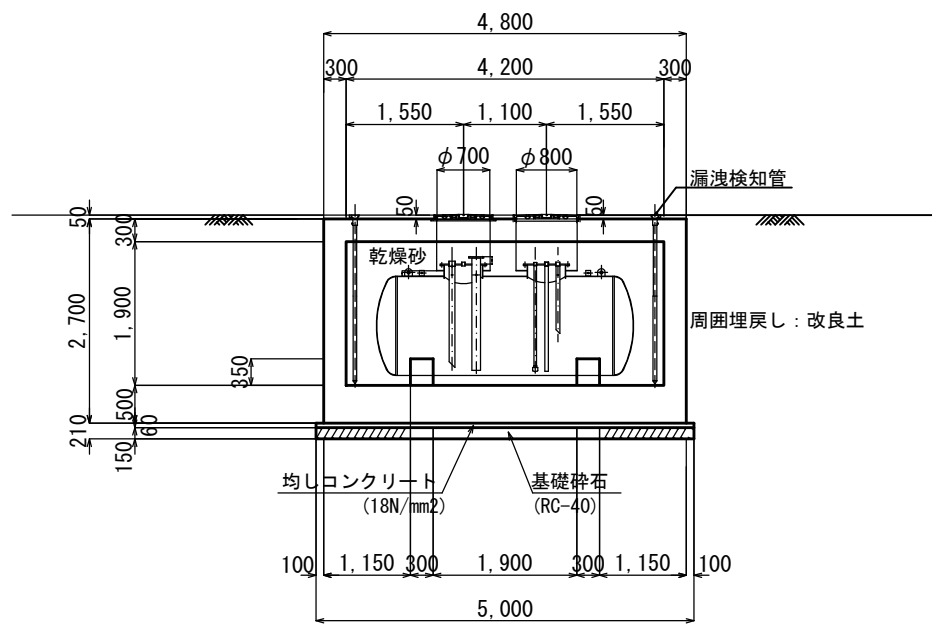
地下燃料タンク構造図 S=1:50

4000L

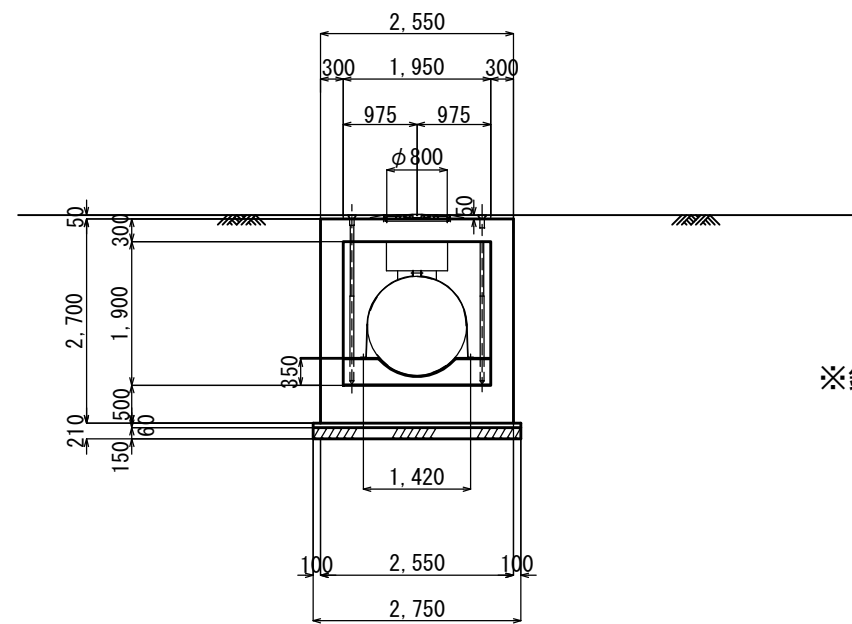
平面図



A-A断面図



B-B断面図

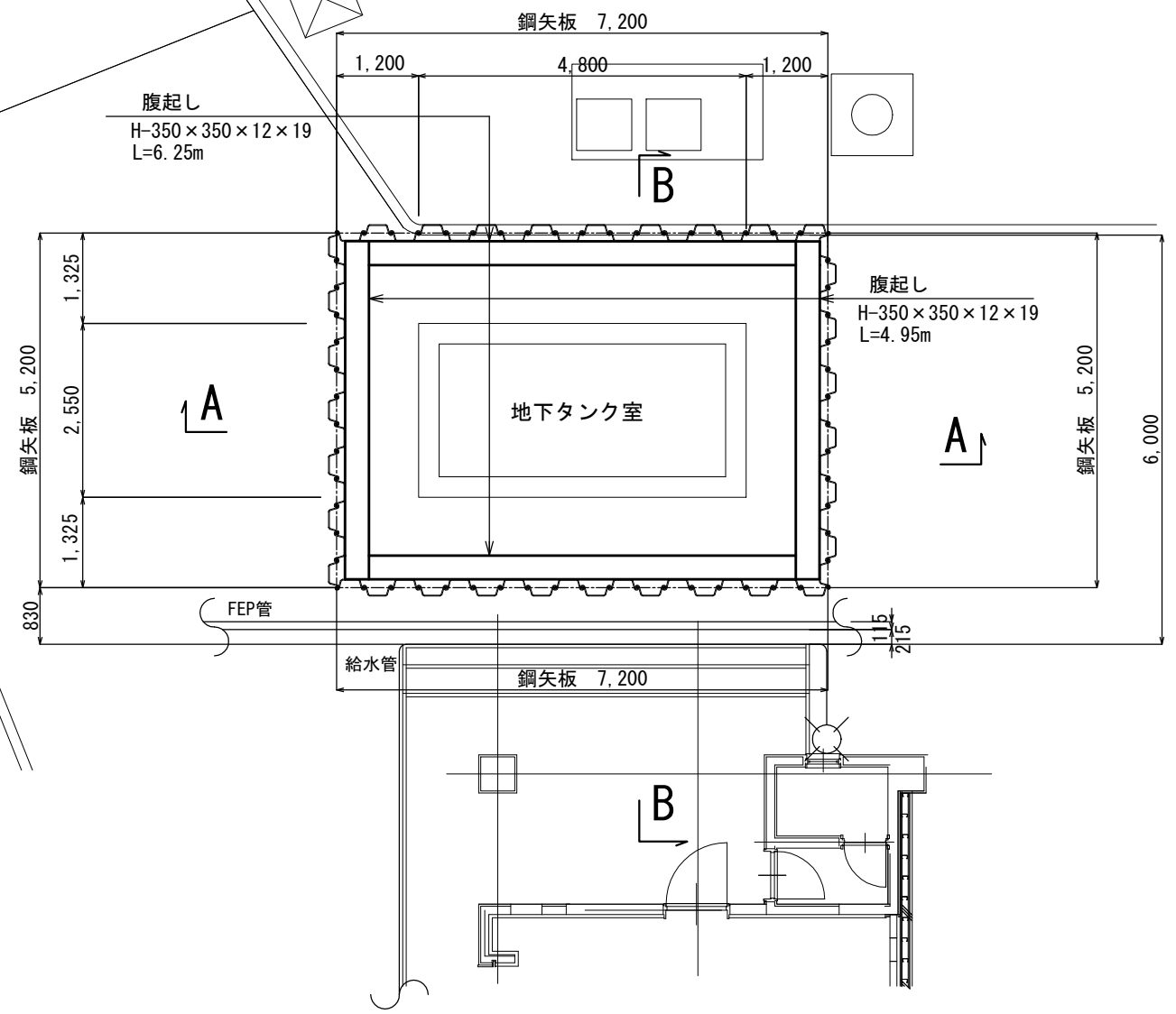


※鉄筋コンクリートは $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ とする。

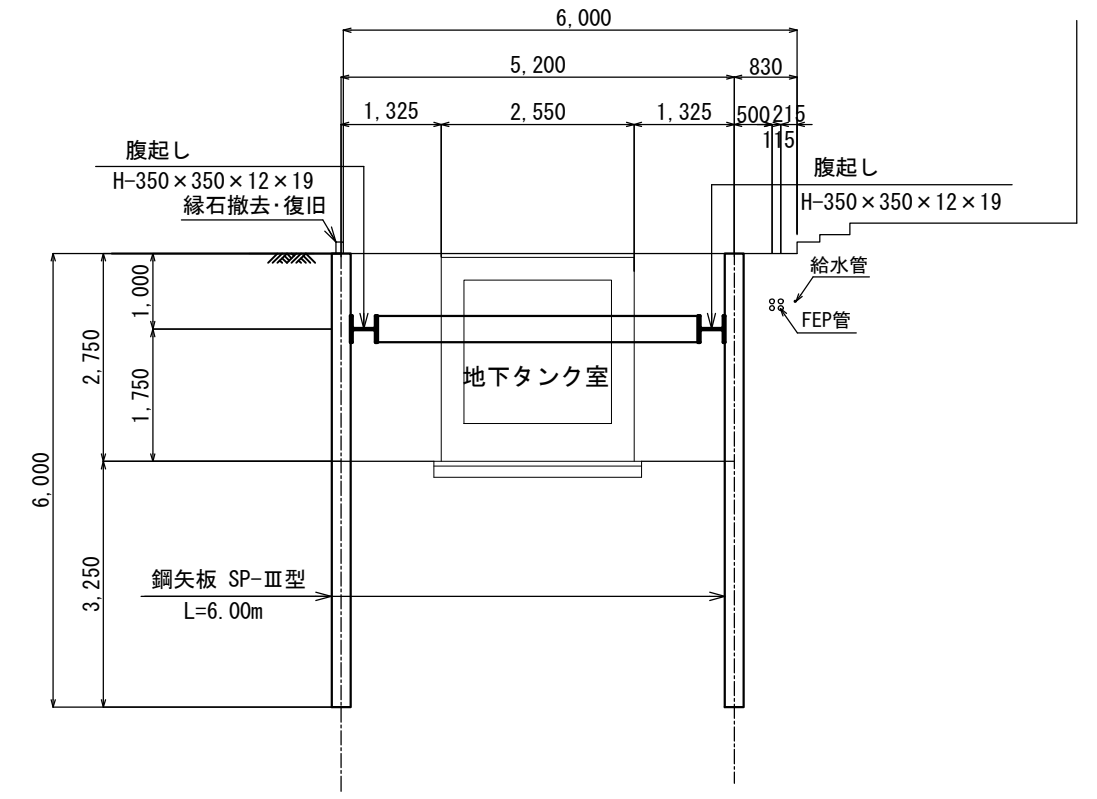
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下燃料タンク構造図		
縮尺	1/50	単位	mm
事業主	松戸市水道部	図面番号	C-01 / C-10

地下燃料タンク土留め工図 S=1:50

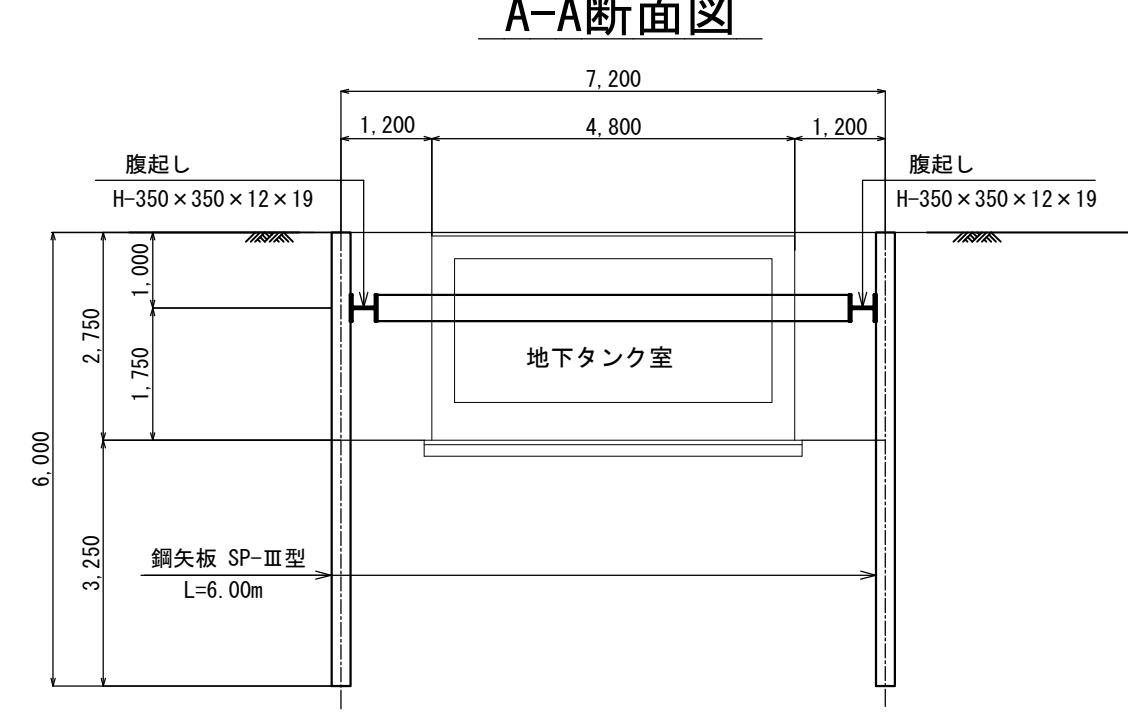
平面図



B-B断面図



A-A断面図



H=7.662m

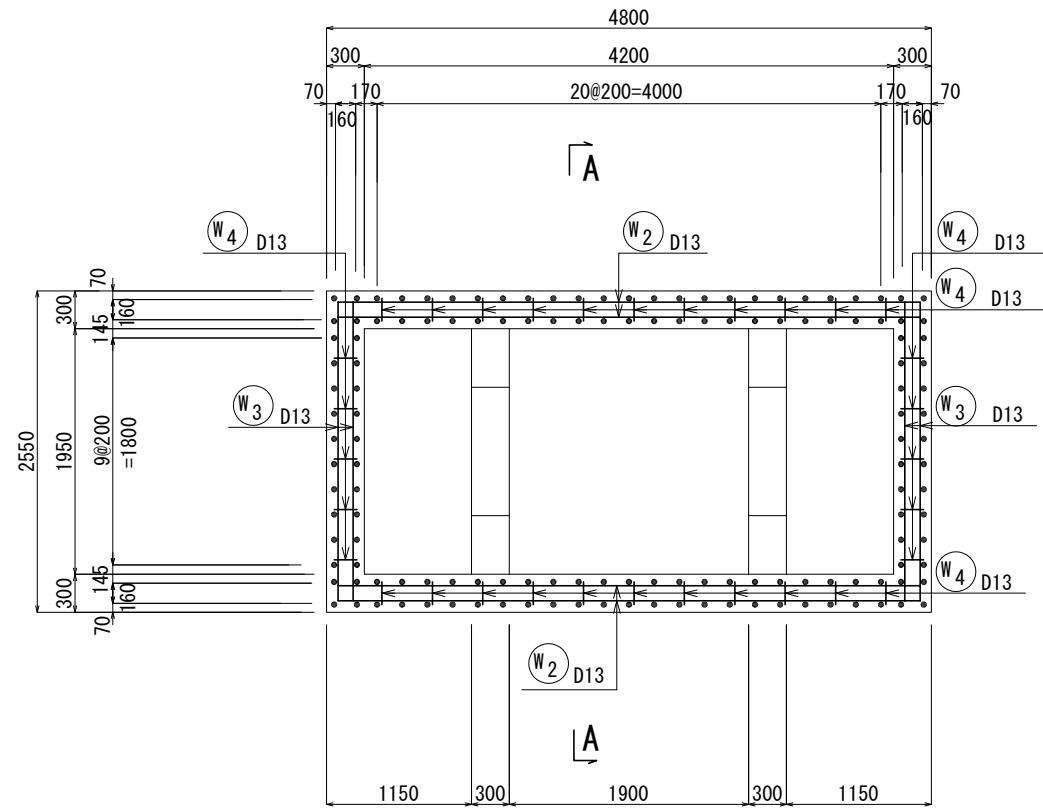
層厚	土質	N 値						
		0	10	20	30	40	50	60
1.40	表土					▽	1.30	
1.35	砂質ローム	1						
2.25	腐植土	1						
	砂混り粘土	0						

※便所前屋外には、給水管が地中にあるため掘削時には注意すること。
 ※足場工は単管足場とする。

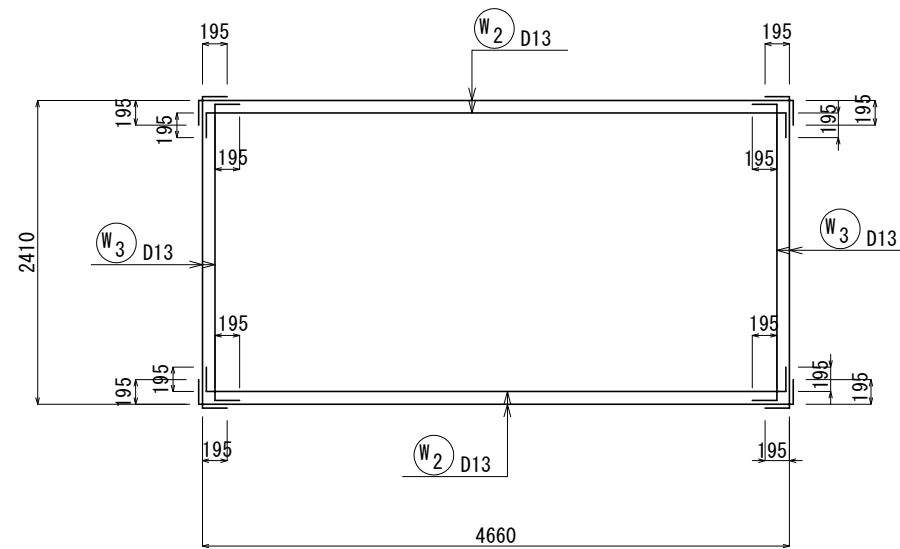
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下燃料タンク土留め工図		
縮尺	1/50	単位 mm	図面番号 C-02
事業主	松戸市水道部		C-10

地下燃料タンク配筋図(1) S=1/30

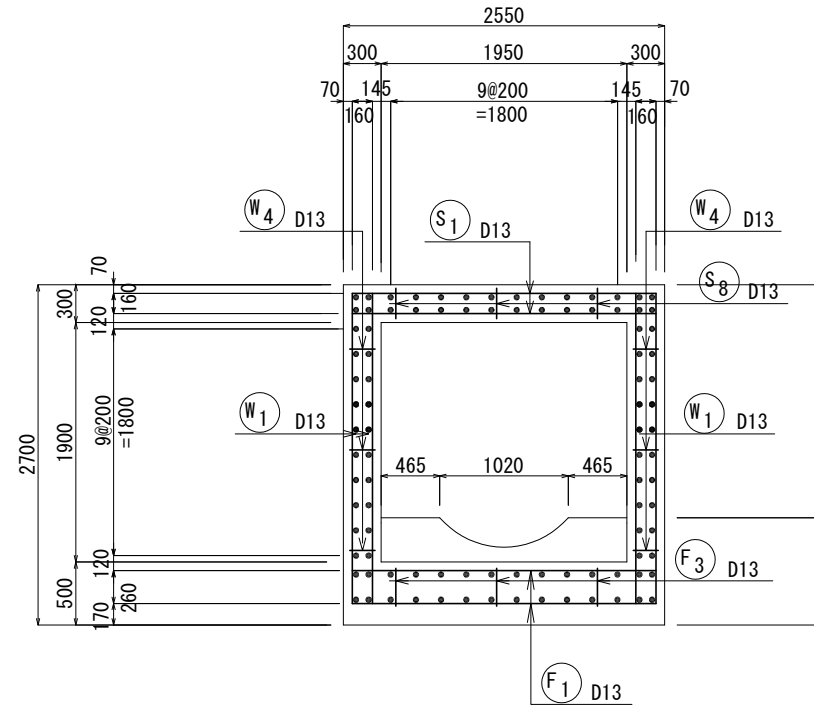
水平断面図



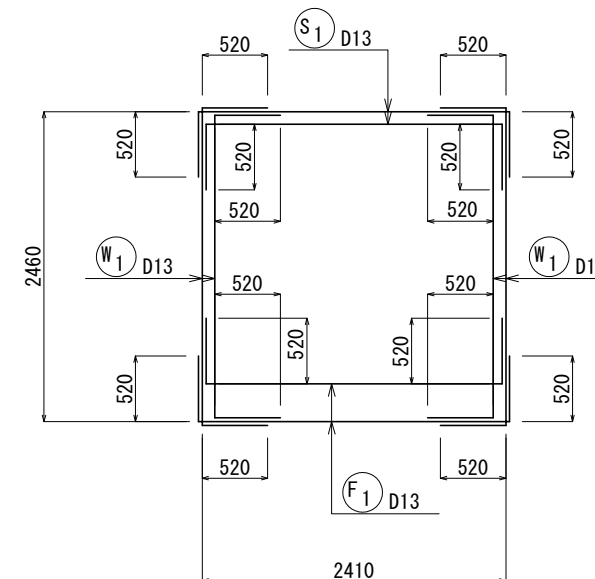
鉄筋組立図



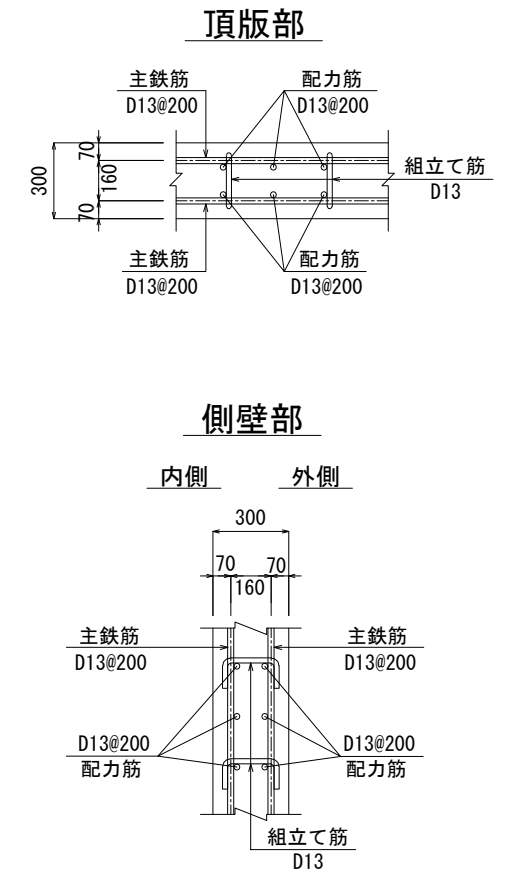
A-A断面図



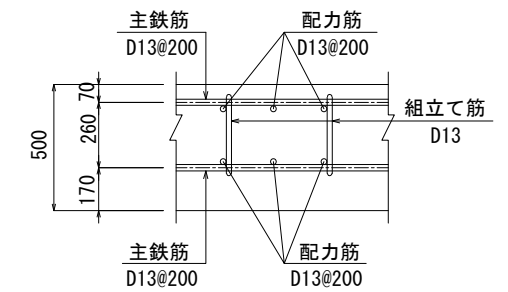
鉄筋組立図



かぶり詳細図



底板部



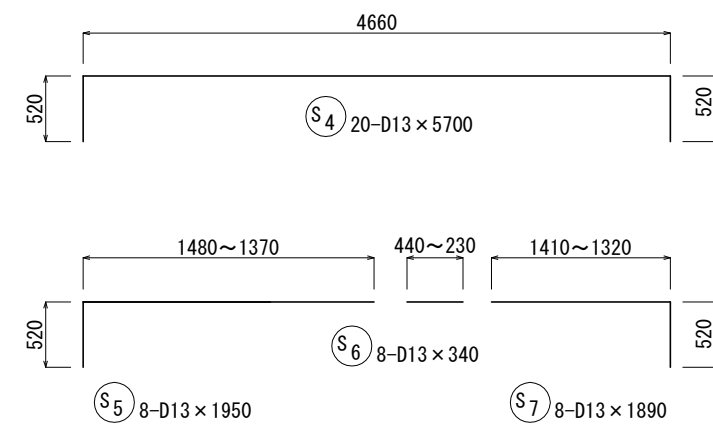
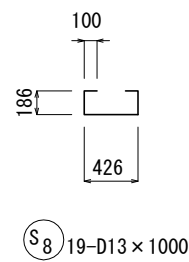
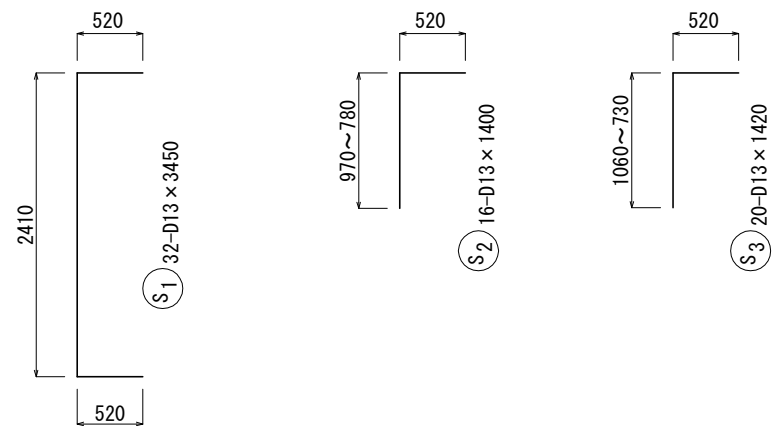
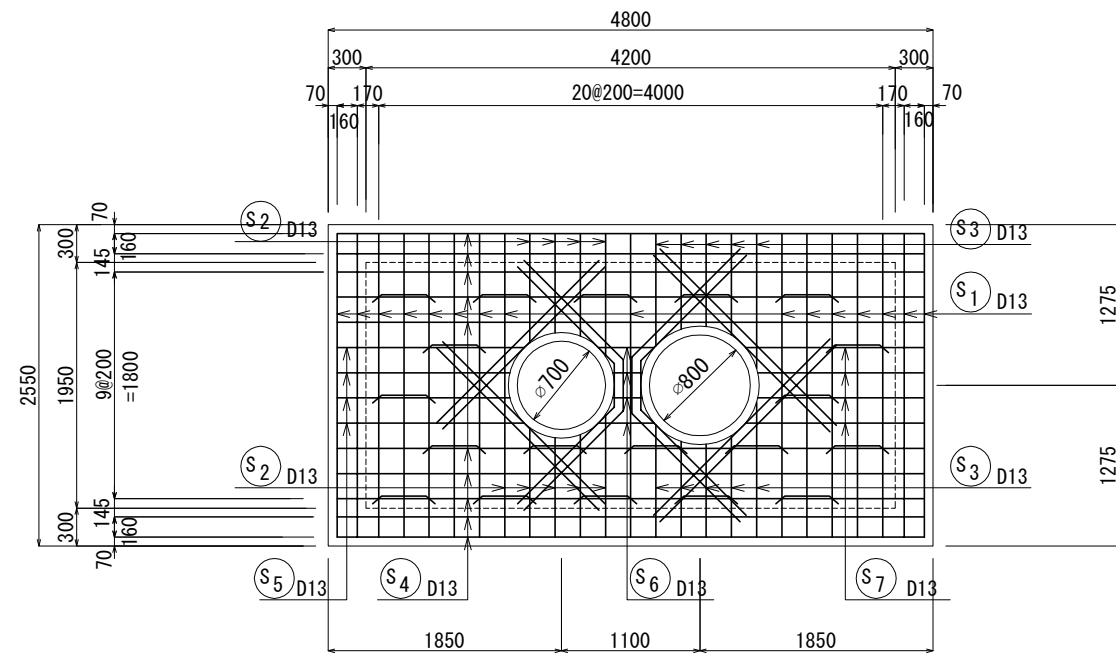
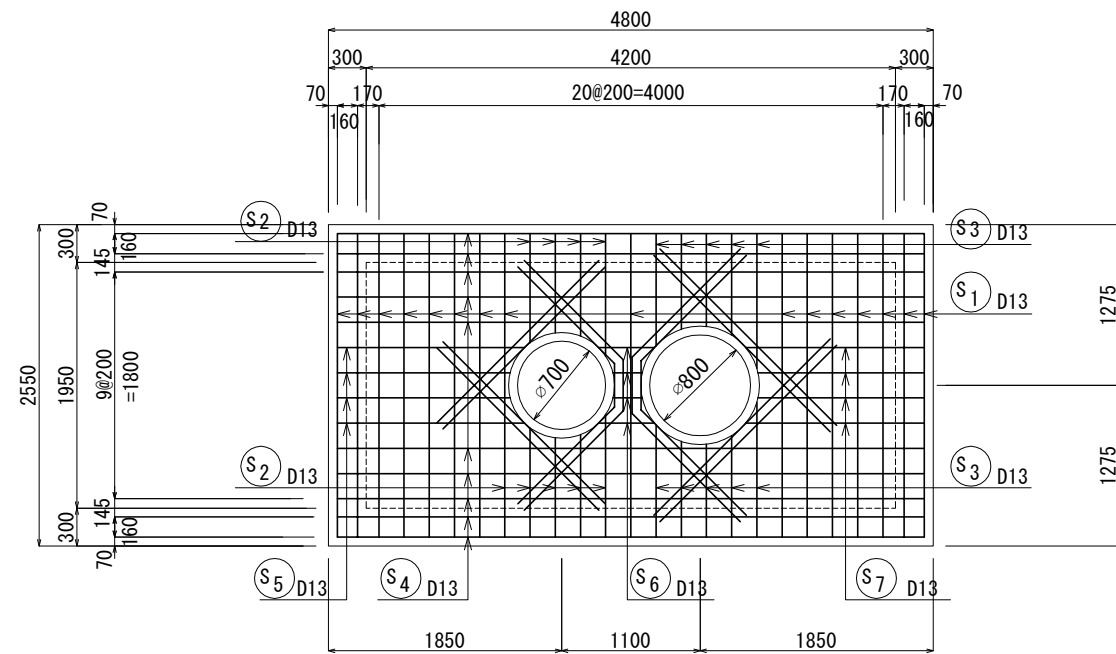
※コンクリートは $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ を用いる
 ※鉄筋はSD295を用いる

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事			
図面名称	地下燃料タンク配筋図(1)			
縮尺	1/30	単位	mm	図面番号
事業主	松戸市水道部			C-04 / C-10

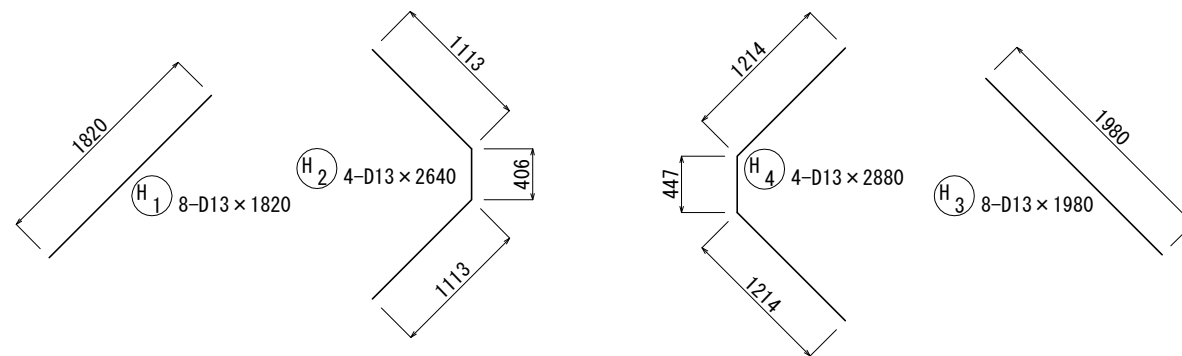
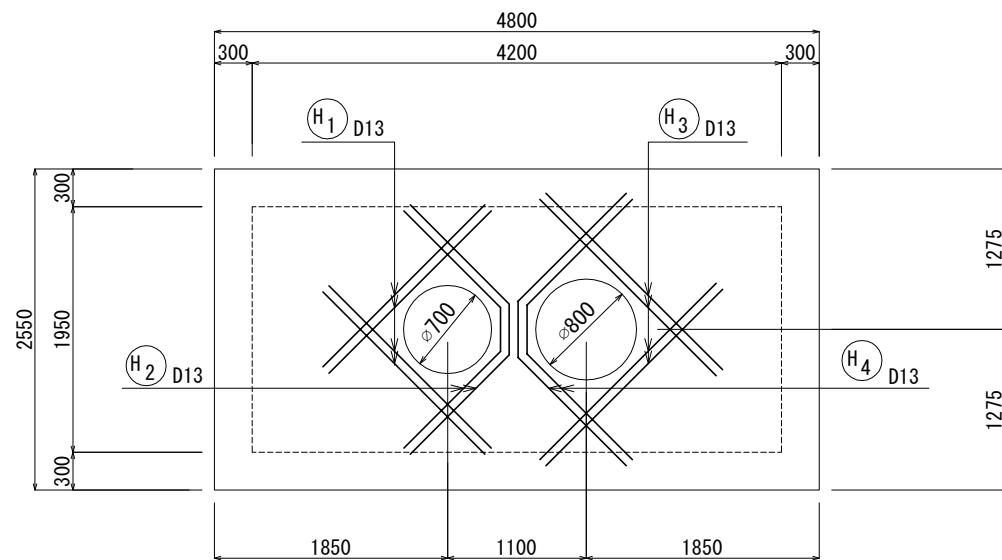
地下燃料タンク配筋図(2) S=1/30

頂版上面図

頂版下面図



開口部補強筋図

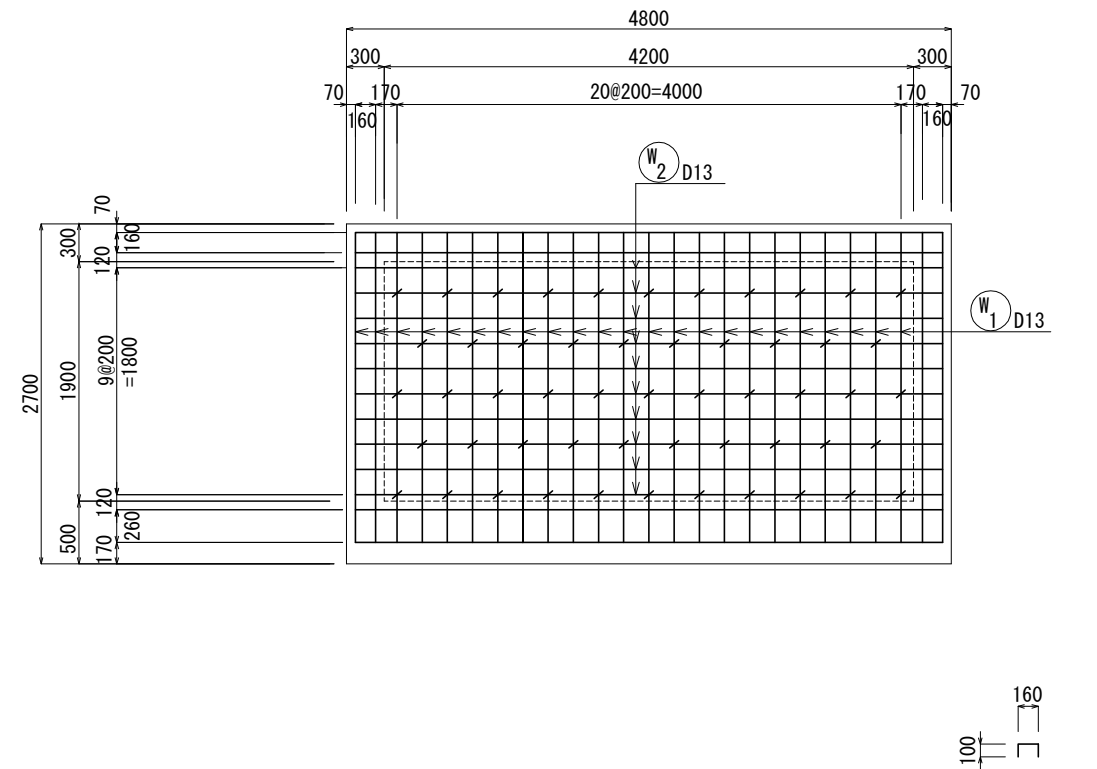
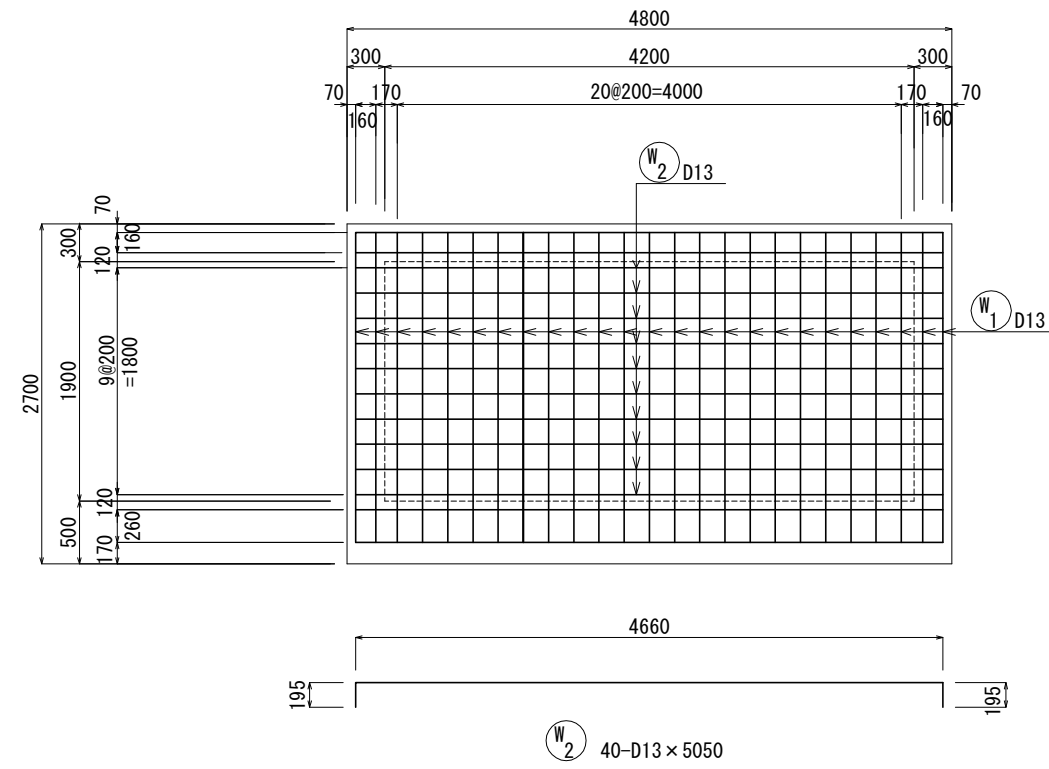


工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下燃料タンク配筋図(2)		
縮尺	1/30	単位 mm	図面番号 C-05
事業主	松戸市水道部		C-10

地下燃料タンク配筋図(3) S=1/30

側壁①外側

側壁①内側

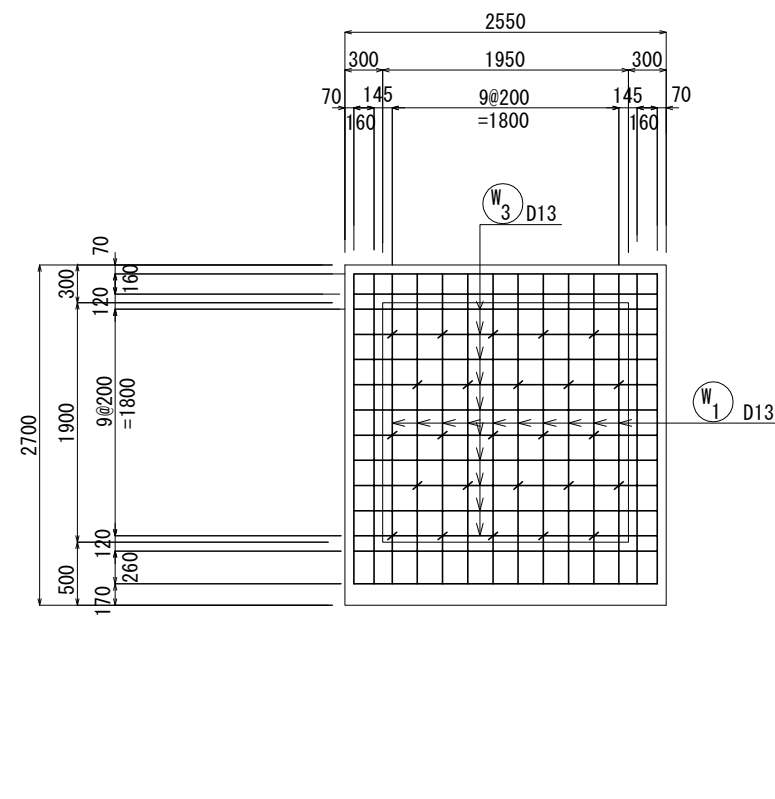
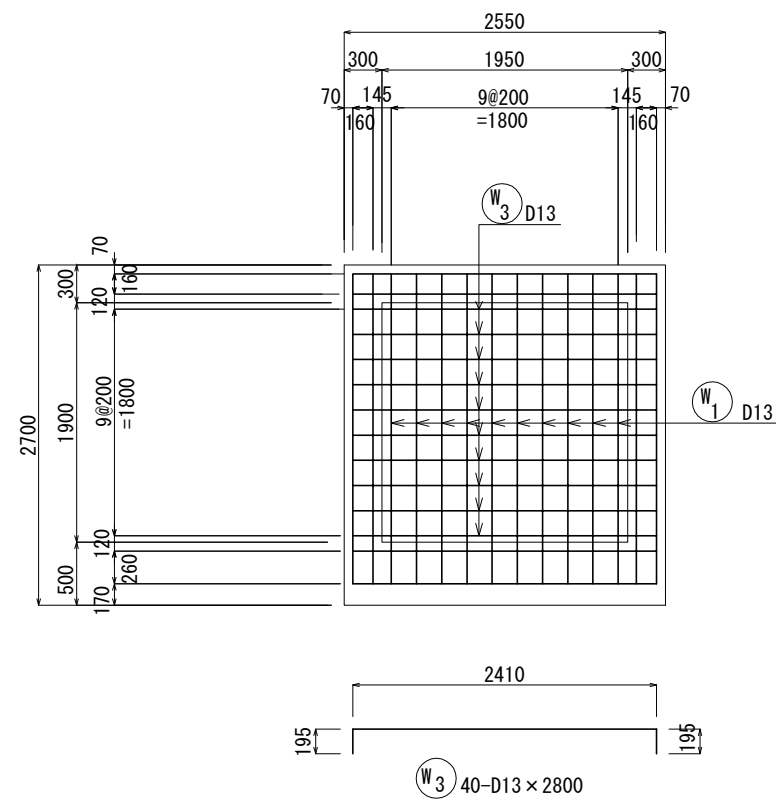
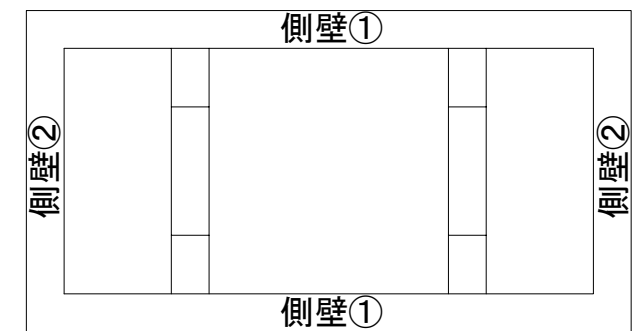


W₄ 156-D13 x 360

側壁②外側

側壁②内側

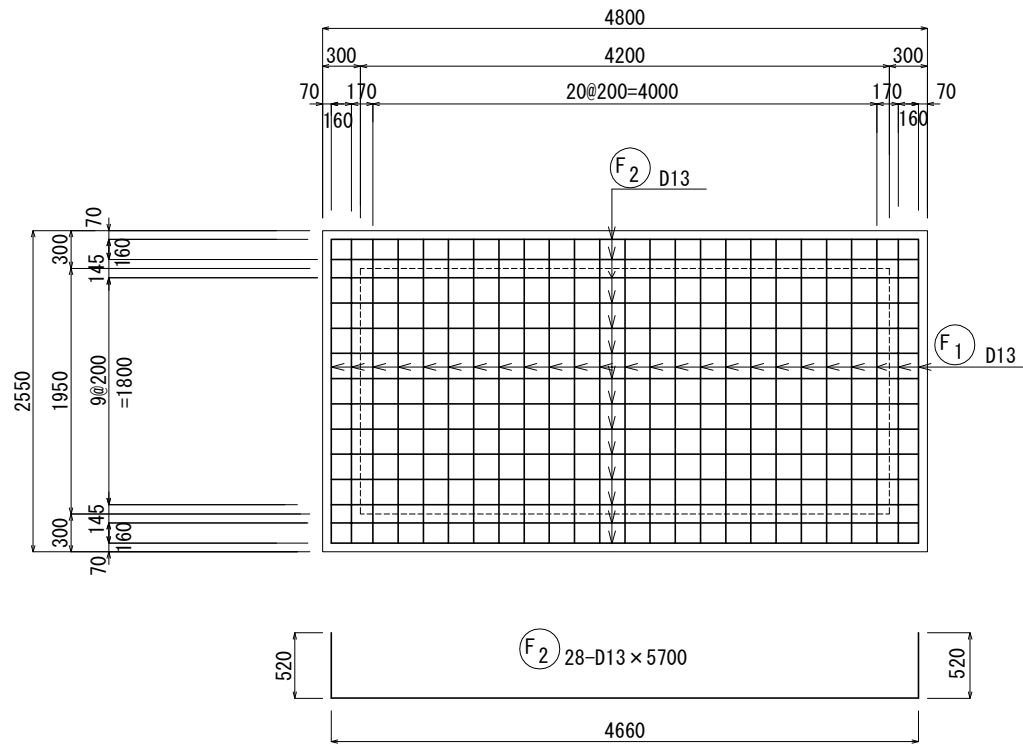
KEY-PLAN



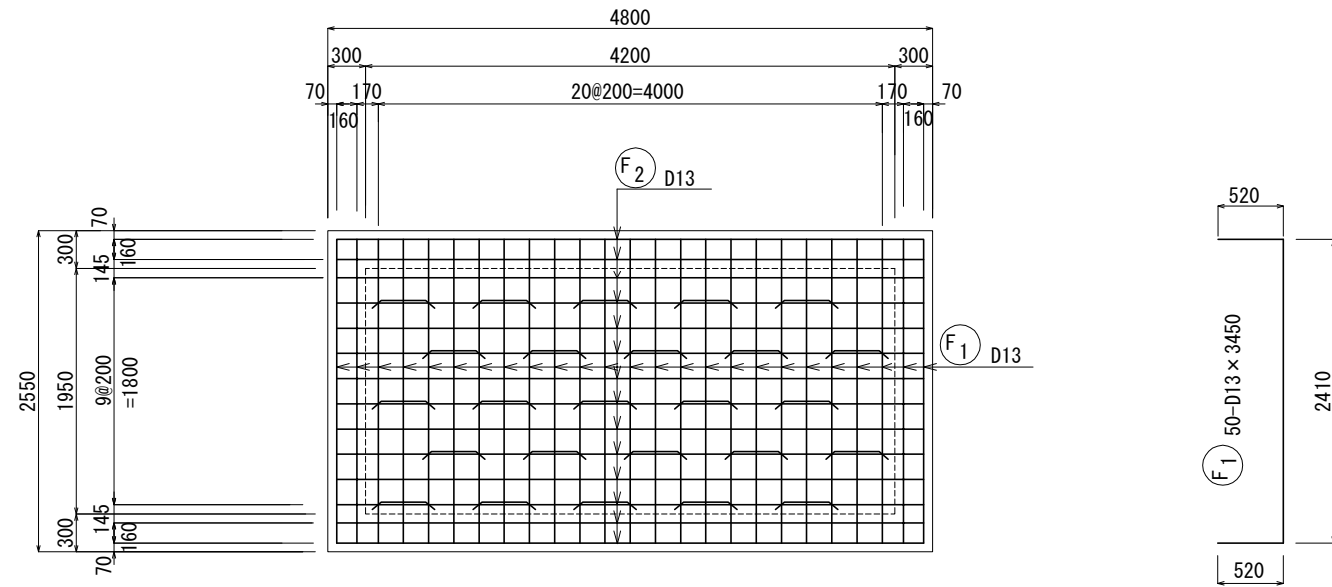
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下燃料タンク配筋図(3)		
縮尺	1/30	単位 mm	図面番号 C-06
事業主	松戸市水道部		C-10

地下燃料タンク配筋図(4) S=1/30

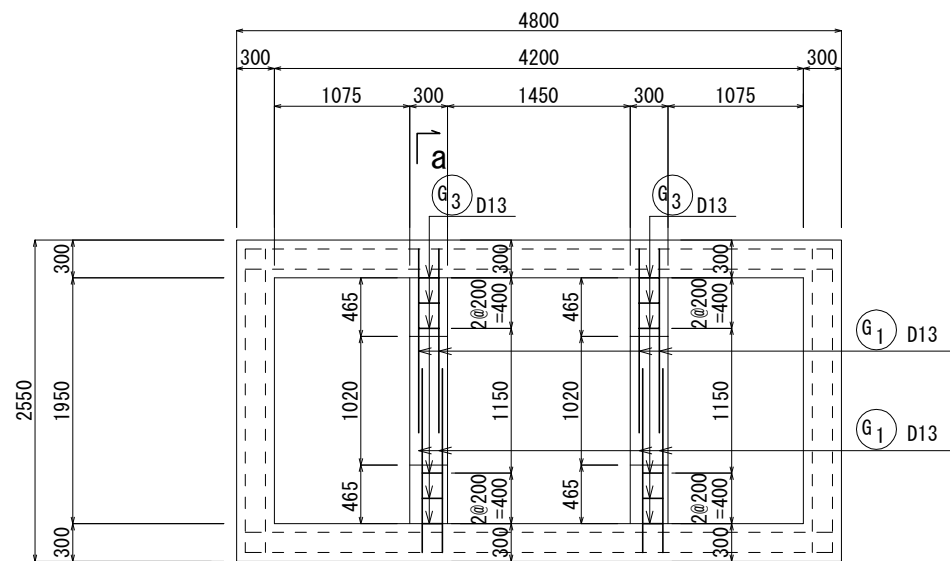
底版上面図



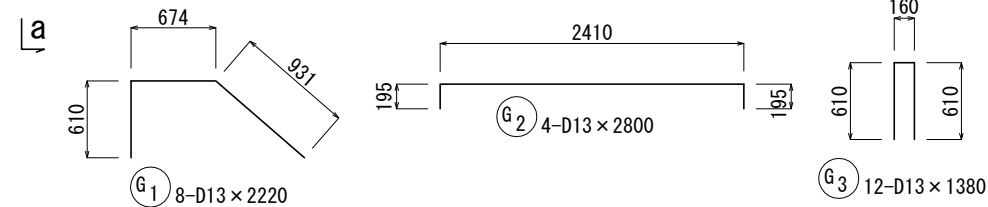
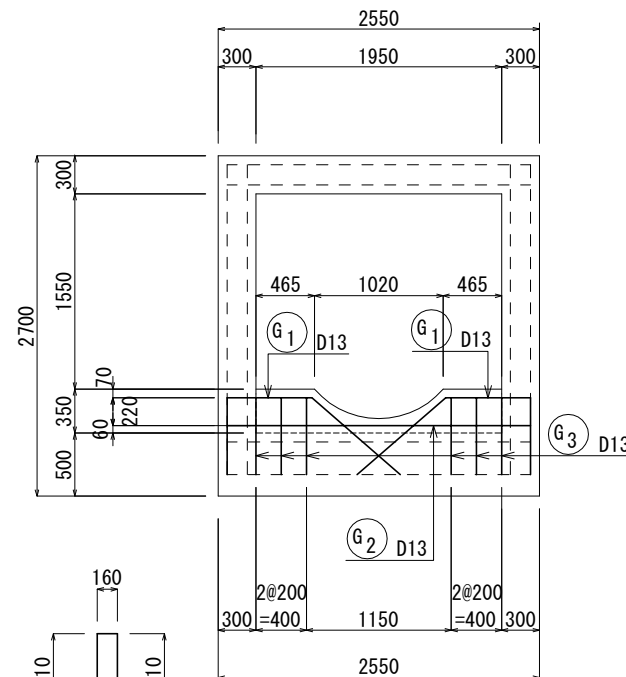
底版下面図



基礎台補強筋図



a-a断面図



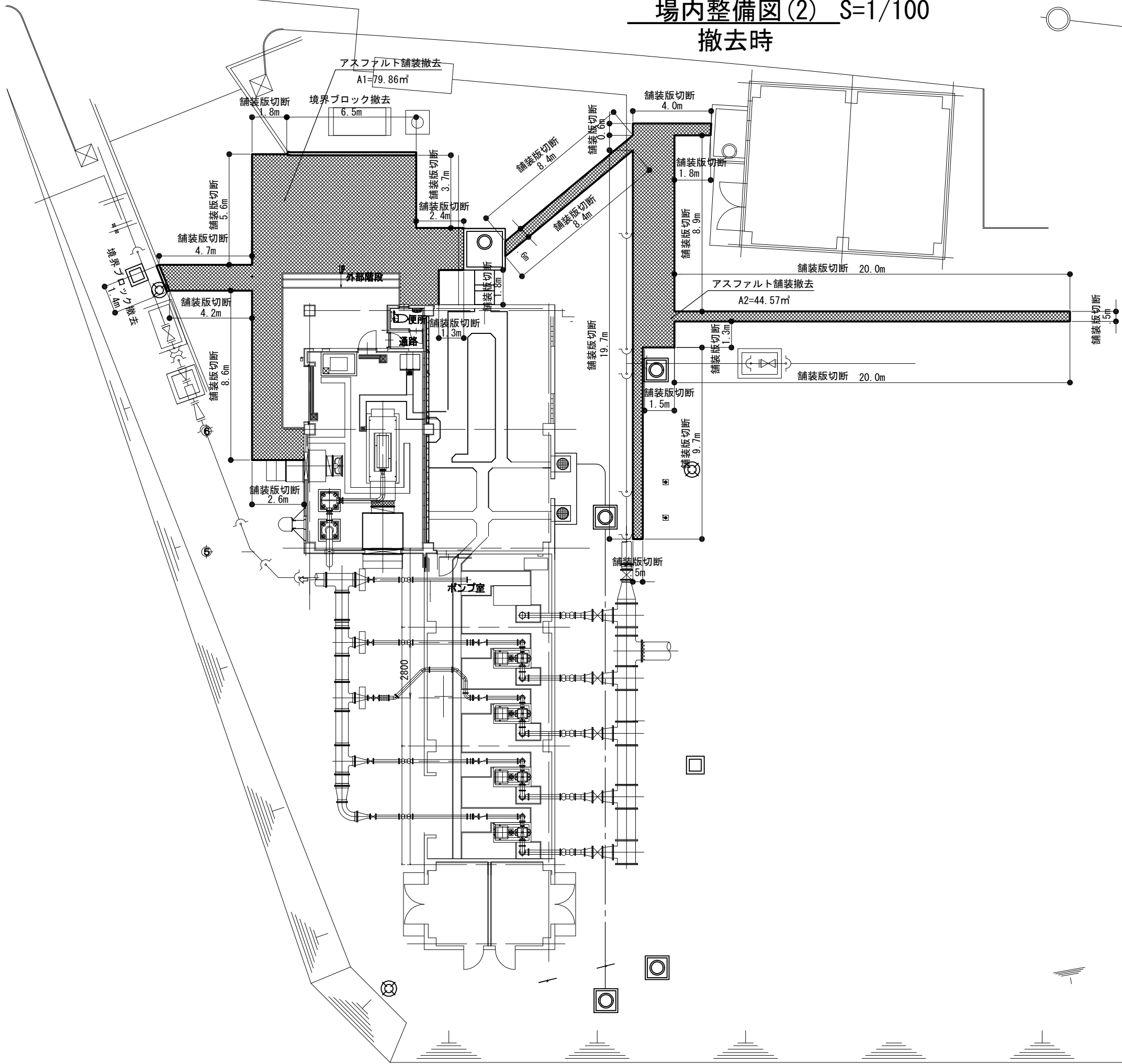
鉄筋質量表

符号	径	長さ(mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り 質量(kg)	質量 (kg)	摘要
頂版							
S1	D13	3,450	32	0.995	3.433	109.856	
S2	D13	1,400	16	0.995	1.393	22.288	
S3	D13	1,420	20	0.995	1.413	28.260	
S4	D13	5,700	20	0.995	5.672	113.440	
S5	D13	1,950	8	0.995	1.940	15.520	
S6	D13	340	8	0.995	0.338	2.704	
S7	D13	1,890	8	0.995	1.881	15.048	
S8	D13	1,000	19	0.995	0.995	18.905	組立筋
開口補強筋							
H1	D13	1,820	8	0.995	1.811	14.488	
H2	D13	2,640	4	0.995	2.627	10.508	
H3	D13	2,880	4	0.995	2.866	11.464	
H4	D13	1,980	8	0.995	1.970	15.760	
側壁							
W1	D13	3,500	140	0.995	3.483	487.620	
W2	D13	5,050	40	0.995	5.025	201.000	
W3	D13	2,800	40	0.995	2.786	111.440	
W4	D13	360	156	0.995	0.358	55.848	組立筋
底版							
F1	D13	3,450	50	0.995	3.433	171.650	
F2	D13	5,700	28	0.995	5.672	158.816	
F3	D13	1,200	25	0.995	1.194	29.850	組立筋
基礎台補強筋							
G1	D13	2,220	8	0.995	2.209	17.672	
G2	D13	2,800	4	0.995	2.786	11.144	
G3	D13	1,380	12	0.995	1.373	16.476	
				D13		1,639.757	kg

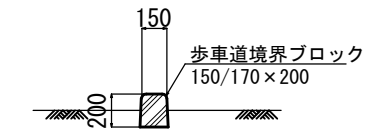
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下燃料タンク配筋図(4)		
縮尺	1/30	単位	mm
事業主	松戸市水道部	図面番号	C-07 / C-10

場内整備図(2) S=1/100

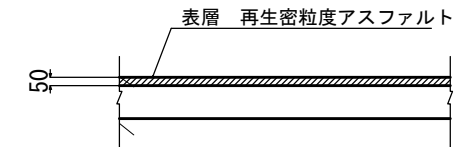
撤去時



境界ブロック撤去 S=1/20

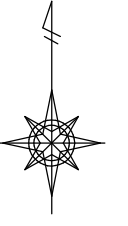


アスファルト撤去 S=1/20



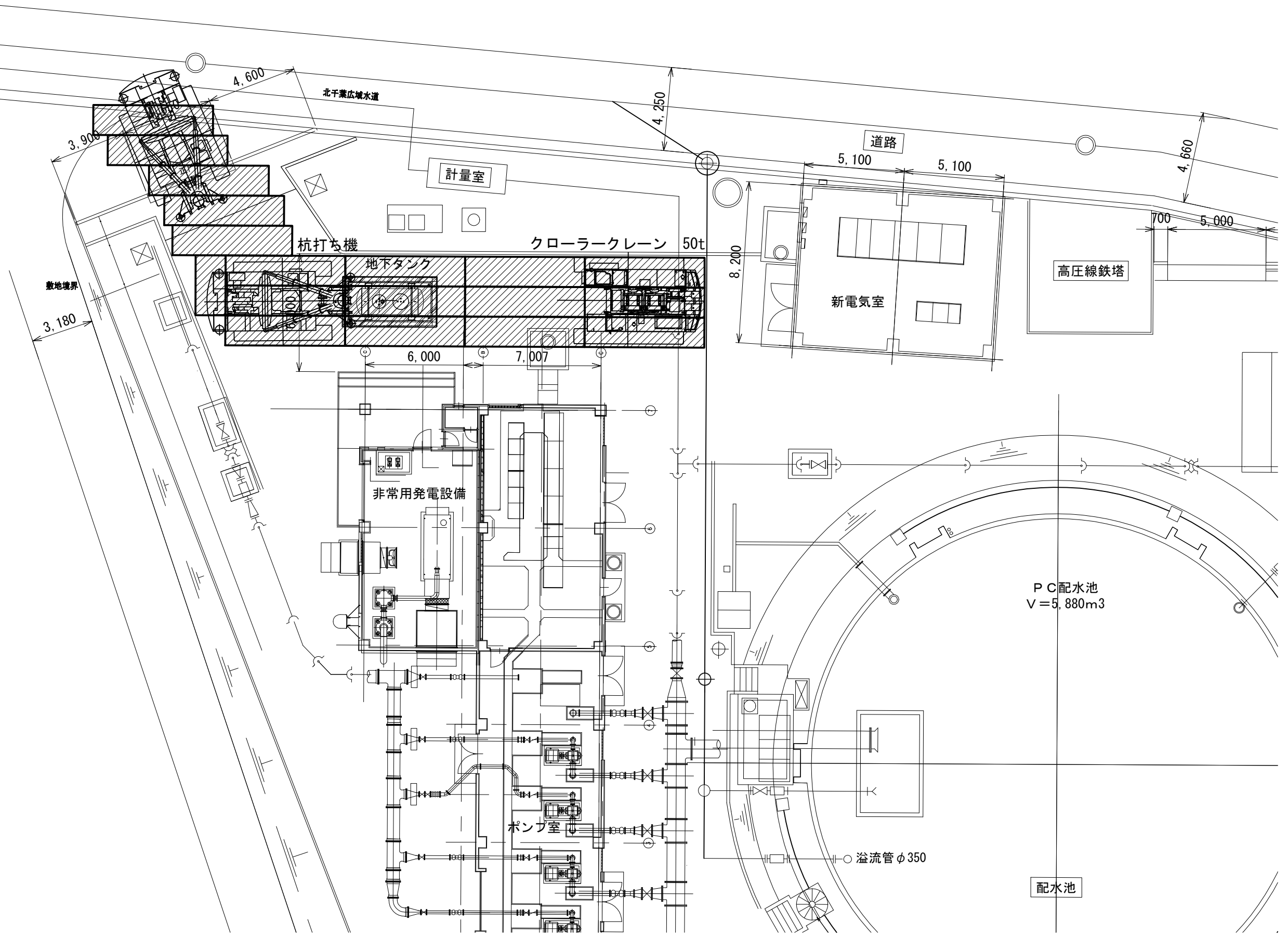
業務名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	場内整備図(2)撤去時		
縮尺	1/100	単位 mm	図面番号 C-09
事業主	松戸市水道部		C-10

地下燃料タンク仮設計画図 (参考) S=1:100



敷鉄板
22 × 1524 × 3048 N = 1枚

敷鉄板
22 × 1524 × 6096 N = 17枚



工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	地下燃料タンク 仮設計画図 (参考)		
縮尺	1/100	単位 mm	図面番号 C-10
事業主	松戸市水道部		C-10

<p>幸田配水場自家発電機設備設計業務委託 工事設計図</p> <p>令和 年 月 (全 校)</p>		<p>1 一般共通事項</p>																																																																
<p>仕様書</p> <p>I 工事概要</p> <p>1. 工事場所 千葉県松戸市幸田五丁目16番地 (幸田配水場)</p> <p>2. 敷地面積 2,854.18 m²</p> <p>3. 工事種目 ポンプ室棟 鉄筋コンクリート造 平屋建て 建築面積 280.87 m² 延べ面積 280.87 m² 対象面積 65.04 m² 建物高さ 5.120 m</p> <p>4. 工事内容 建築改修工事一式 建築電気設備改修工事一式 建築機械設備改修工事一式</p> <p>5. 工事範囲 ※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。 ※「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>工事種目</th> <th>工事範囲</th> <th>工事範囲</th> <th>工事範囲</th> <th>工事範囲</th> </tr> <tr> <td>2 仮設工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 防水改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外壁改修工事 ※張り仕上げ外壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 建具改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 内装改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 塗装改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 環境配慮改修工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>II 建築改修工事仕様</p> <p>1. 共通仕様 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下「改修仕様」という。)により、また、改修仕様に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下「仕様」という。)による。</p> <p>2. 特記仕様 (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と○印の付いた場合は、ともに適用する。 (3) 特記事項に記載の[...]内表示番号は、改修仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 特記事項に記載の[...]内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (5) 特記事項に記載の(別2-)は、標仕の「別図2 ポルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の該当項目を示す。 (6) □印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」の特定調達品目を示す。</p>		工事種目	工事範囲	工事範囲	工事範囲	工事範囲	2 仮設工事					3 防水改修工事					4 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁					外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁					外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁					外壁改修工事 ※張り仕上げ外壁					5 建具改修工事					6 内装改修工事					7 塗装改修工事					8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事					耐震改修工事					9 環境配慮改修工事				
工事種目	工事範囲	工事範囲	工事範囲	工事範囲																																																														
2 仮設工事																																																																		
3 防水改修工事																																																																		
4 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁																																																																		
外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁																																																																		
外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁																																																																		
外壁改修工事 ※張り仕上げ外壁																																																																		
5 建具改修工事																																																																		
6 内装改修工事																																																																		
7 塗装改修工事																																																																		
8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事																																																																		
耐震改修工事																																																																		
9 環境配慮改修工事																																																																		
<p>項目 特記事項</p> <p>① 通用基準等 ●建築工事標準詳細図(国土交通大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版改定) ●建築物解体工事共通仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版) ●宮繕工事写真撮影要領(国土交通大臣官房官庁営繕部監修 令和3年版) ※適用する</p> <p>2 工事実績情報の登録 [1.1.4]</p> <p>3 品質計画等 [1.2.2] ・建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V₀ = () m/s (平12建令第1454号第2) ※地表面粗度区分 ・I ・II ・III ・IV ・積雪区分 平12建令第1455号 別表()</p> <p>4 電気保安技術者 [1.3.3] 工事現場における電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ・要 ・不要</p> <p>5 施工条件 [1.3.5] 下記以外は現場説明書による。 ・工事用車両の駐車場所 ※図示 ・資機材置場 ※図示 ・建設発生土仮置場 ※図示 ※図示</p> <p>⑥ 発生材の処理等 [1.3.12] ・発注者に引渡しを要するもの (・金属類 ・) [1.3.12] ・特別管理産業廃棄物 (・廃石棉 ・PCB含有物 ・) [1.3.12] ・現場において再利用を図るもの () [1.3.12] ・再資源化を図るもの () [1.3.12] ・PCB含有シーリングの処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する 採取箇所数 計 箇所 採取箇所 ※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析箇所数 計 箇所</p> <p>⑦ 環境への配慮 [1.4.1] (1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生量が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性剤を除く)が追加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないが、発生量が極めて少ない材料を使用したものとする。 (2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>⑧ 材料の品質等 [1.4.2] (1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 (3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 (4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料(外部機関[一社]公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価事業」の評価書の写し等)を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。 (5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 床型特用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、押出し成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材、陶磁器瓦、既設合モルタル、既設合目地材、ルーフドレン、吸水調整材、アルミニウム製建具、樹脂製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類、クローザ類、自動昇降機、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバヘッドドア、ガラス、防水剤、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切り、移動間仕切り、トイレブース、煙突用成形ラインング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、エポキシ樹脂、外装タイル張り用有機接着剤、ポリマーセメントモルタル、</p> <p>⑨ 特別な材料の工法 改修仕様及び仕様に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p> <p>⑩ アスベスト含有建材の調査 [1.5.1] 分析によるアスベスト含有の調査 ※あらかじめ関係法令等に基づき、アスベスト含有建材の事前調査を行う。 調査範囲 ※工事対象範囲全て ※調査者は調査に先立ち、既存の設計図書及び、石綿含有建材の調査報告書など事前調査に必要な資料について、発注者に貸与を求めること。 分析方法 「建材中の石綿含有率の分析方法について」(平成18年8月21日 基発第0821002号、最終改正 令和3年12月22日 基発1222第17号)に基づき行うものとする。 調査内容 ※定性分析 ・ 定量分析</p>																																																																		
<p>⑪ 施工数量調査 [1.6.2] [1.6.3] 調査範囲及び調査方法 ※図示 ○図面との照合確認を行う 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示</p> <p>⑫ 技能士 [1.7.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>通用工事種別</th> <th>技能検定作業</th> </tr> <tr> <td>防水改修工事</td> <td>・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系透膜防水工事作業 ・アクリルゴム系透膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>外壁改修工事</td> <td>○左官作業 ・タイル張り作業 ○建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具改修工事</td> <td>○ビニル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業</td> </tr> <tr> <td>内装改修工事</td> <td>・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ○ボード仕上げ工事作業 ・壁張作業 ・大工工事作業 ・鋼製下地工事作業 ○左官作業 ・タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>塗装改修工事</td> <td>○建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>耐震改修工事</td> <td>○鉄筋組立作業 ○配筋工事作業 ○コンクリート圧送工事作業 ・構造物鉄工作業 ・とび作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリートブロック</td> <td>・コンクリートブロック工事作業</td> </tr> <tr> <td>ALCパネル工事</td> <td>・エーエルシーパネル工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>・石張り作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>・造園工事作業</td> </tr> </table> <p>13 化学物質の濃度測定 [1.7.9] 施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告する。 測定はパッシブ型採取機器により行う。 着工前の測定 ・行う 測定対象室 ・図示 測定箇所数 ・図示 報告の様式等については、現場説明書による。</p> <p>⑬ 完成時の提出図書 [1.9.1~3] [表1.9.1] ○完成図 ○既存図面修正 ※作成する 提出部数 ○各2部 ○2部 (A3版第二原図及び電子媒体(CD-R)) 種類 ※改修仕様表1.9.11による。ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。 ※施工計画書 提出部数 ※1部 ・ 部 ※施工図面 提出部数 ※1部 ・ 部 ○保全に関する資料 提出部数 ※2部 ・ 部</p> <p>⑭ 設備工事との取合い [1.7.9] 設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 ※ 図示</p> <p>15 設計G/L</p>		通用工事種別	技能検定作業	防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系透膜防水工事作業 ・アクリルゴム系透膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業	外壁改修工事	○左官作業 ・タイル張り作業 ○建築塗装作業	建具改修工事	○ビニル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業	内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ○ボード仕上げ工事作業 ・壁張作業 ・大工工事作業 ・鋼製下地工事作業 ○左官作業 ・タイル張り作業	塗装改修工事	○建築塗装作業	耐震改修工事	○鉄筋組立作業 ○配筋工事作業 ○コンクリート圧送工事作業 ・構造物鉄工作業 ・とび作業	コンクリートブロック	・コンクリートブロック工事作業	ALCパネル工事	・エーエルシーパネル工事作業	石工事	・石張り作業	舗装工事	・造園工事作業																																											
通用工事種別	技能検定作業																																																																	
防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系透膜防水工事作業 ・アクリルゴム系透膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業																																																																	
外壁改修工事	○左官作業 ・タイル張り作業 ○建築塗装作業																																																																	
建具改修工事	○ビニル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業																																																																	
内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ○ボード仕上げ工事作業 ・壁張作業 ・大工工事作業 ・鋼製下地工事作業 ○左官作業 ・タイル張り作業																																																																	
塗装改修工事	○建築塗装作業																																																																	
耐震改修工事	○鉄筋組立作業 ○配筋工事作業 ○コンクリート圧送工事作業 ・構造物鉄工作業 ・とび作業																																																																	
コンクリートブロック	・コンクリートブロック工事作業																																																																	
ALCパネル工事	・エーエルシーパネル工事作業																																																																	
石工事	・石張り作業																																																																	
舗装工事	・造園工事作業																																																																	
<p>2 仮設工事</p> <p>① 足場その他 [2.2.1] 外部足場 ※「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 防護シート ※設置する ・設置しない 内部足場 種別 ※きやつ、足場板等 [2.2.1] 材料、撤去材等の運搬方法 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1] [表2.2.1] 既存部分の養生 ※ビニルシート等 [2.3.1] 既存家具等の養生 ※ビニルシート等 固定家具等の移動 ※行わない ・行う(図示)</p> <p>3 仮設間仕切り [2.3.2] [表2.3.1] 仮設間仕切り等の種別 種 別 下 地 仕上材(厚さ mm) 充填材 塗 装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0) 厚さ mm ※なし ・B種 ・木下地 ※せつこうボード(※9.5) ・片面 ※C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ※合板張り程度 ※なし ・鋼製扉 ※片面フラッシュ程度 ・あり</p> <p>② 既存部分の養生 [2.4.1] ・設ける ・構内に新設する(規模及び仕上げの程度は現場説明書による) ・既存建物内の一部を使用する ○設けない 構内既存の施設 ・利用できない ○利用できる(・有償 ※無償)</p> <p>③ 工事用水 [2.4.1] 構内既存の施設 ○利用できない ・利用できる(・有償 ・無償)</p> <p>④ 工事用電力 [2.4.1] 構内既存の施設 ○利用できない ・利用できる(・有償 ・無償)</p>																																																																		
<p>3 防水改修工事</p> <p>1 既存防水層の処理 [3.2.3] [3.2.4] 既存保護層(平場)の撤去 ・行う(範囲 ・図示 ・) [3.2.3] 既存防水層(平場)の撤去 ・行う(範囲 ・図示 ・) [3.2.4] 立上り部の防水層撤去 [表3.1.1] ・行う(・POS(機械) ・POS I(機械) ・M4S ・M4S I ・S4S(機械) ・S4S I(機械))</p> <p>露出防水層表面の仕上げ塗装除去 [3.2.6] ・行う(・M4AS ・M4AS I ・M4C ・M4D I ・L4X)</p> <p>改修用ドレン [3.2.5] ・設ける(・POAS ・POAS I ・POD ・POD I ・POS ・POS I ・POX)</p> <p>2 既存下地の補修 [3.2.2] [3.2.6] アスファルト補修の材料 ※JIS K 2207による3種 [3.2.2] 既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示 [3.2.6]</p> <p>3 アスファルト防水 [3.3.2.3] [表3.1.1] [表3.3.3~10]</p> <table border="1"> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>新規防水層の種類</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>保護防水</td> <td>・PIB工法 ・PIB I工法 ・TIB I工法 ・P2A I工法 ・P2A工法 ・M4C工法 ・M3D工法 ・POD工法 ・POD I工法 ・M3D I工法 ・M4D I工法</td> <td>・B-1 ※B-2 ・B-3 ・B1-1 ※B1-2 ・B1-3 ・A1-1 ※A1-2 ・A1-3 ・A-1 ※A-2 ・A-3 ・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4 ・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4 ・D I-1 ※D I-2</td> </tr> <tr> <td>露出防水</td> <td>・PIE工法 ・P2E工法 ・E-1 ※E-2 (保護層は図示による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>アスファルトの種類 ※3種 ・4種 [3.2.2] [3.3.2] M3D、POD、POD I、M3D I及びM4D I工法の脱気装置 ※設ける ・設けない [3.3.3] 断熱工法の断熱材 [3.3.2] ※押出法ポリスチレンフォーム3種bAスキン層付き□厚さ(mm) ※25 ・発泡プラスチック 厚さ(mm)</p>		防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	保護防水	・PIB工法 ・PIB I工法 ・TIB I工法 ・P2A I工法 ・P2A工法 ・M4C工法 ・M3D工法 ・POD工法 ・POD I工法 ・M3D I工法 ・M4D I工法	・B-1 ※B-2 ・B-3 ・B1-1 ※B1-2 ・B1-3 ・A1-1 ※A1-2 ・A1-3 ・A-1 ※A-2 ・A-3 ・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4 ・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4 ・D I-1 ※D I-2	露出防水	・PIE工法 ・P2E工法 ・E-1 ※E-2 (保護層は図示による)																																																									
防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所																																																																
保護防水	・PIB工法 ・PIB I工法 ・TIB I工法 ・P2A I工法 ・P2A工法 ・M4C工法 ・M3D工法 ・POD工法 ・POD I工法 ・M3D I工法 ・M4D I工法	・B-1 ※B-2 ・B-3 ・B1-1 ※B1-2 ・B1-3 ・A1-1 ※A1-2 ・A1-3 ・A-1 ※A-2 ・A-3 ・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4 ・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4 ・D I-1 ※D I-2																																																																
露出防水	・PIE工法 ・P2E工法 ・E-1 ※E-2 (保護層は図示による)																																																																	
<p>4 改質アスファルトシート防水 [3.4.2.3] [表3.1.1] [表3.4.1~3]</p> <table border="1"> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>新規防水層の種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・M4AS工法 ・M3AS工法 ・POAS工法 ・M3AS I工法 ・M4AS I工法 ・POAS I工法</td> <td>・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3 ・AS I-T1 ・AS I-J1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>M3AS I、M4AS I及びPOAS I工法の防湿層 ・設ける ・設けない [表3.4.3] M3AS、POAS、M3AS I、M4AS I及びPOAS Iの脱気装置 [3.4.3] ※設けない ・設ける [3.5.2.3] [表3.1.1] [表3.5.1.2、3]</p> <table border="1"> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>新規防水層の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上げ塗料塗り</th> <th>使用分類</th> </tr> <tr> <td>・POS工法 ・S4S工法 ・POS I工法 ・S4S I工法 ・S3S工法 ・S3S I工法 ・M4S工法 ・M4S I工法 ・PIS工法</td> <td>・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3 ・S I-F1 ・S I-F2 ・S I-M1 ・S I-M2 ・S-F1 ・S-F2 ・S I-F1 ・S I-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3 ・S I-M1 ・S I-M2</td> <td></td> <td>・シルバー ・カラー</td> <td>※非歩行</td> </tr> </table> <p>脱気装置 ・設ける ・設けない [3.5.3] 目地処理 PCコンクリートの場合() [3.5.4] S I-M1及びS I-M2の防湿用フィルム ・設ける ・設けない [表3.5.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>新規防水層の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上げ塗料塗り</th> </tr> <tr> <td>・POX工法 ・L4X工法</td> <td>※X-1 ・X-2 ※X-1 ・X-2</td> <td></td> <td>・シルバー ・カラー</td> </tr> </table> <p>脱気装置 ・設けない ※設ける [3.6.3] PIV及びP2Pの保護層 ・適用する ・適用しない [3.3.3] [3.4.3] [3.5.3] [3.6.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>材 質</th> <th>設置数量</th> </tr> <tr> <td>・平場部脱気型 ・立上り部脱気型</td> <td>・ポリエチレン樹脂 ・ステンレス鋼 ・鋼鉄 ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス鋼 ・銅</td> <td>() m²当たり1箇所 () m²当たり1箇所</td> </tr> </table> <p>シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [表3.1.2] ○シーリング充填工法 ○シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 シーリング材の種類 ※下表以外は、改修仕様表3.7.11による [3.7.2] [表3.7.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>シーリング材の種類(記号)</th> </tr> <tr> <td>金属建具周囲</td> <td>変性シリコン系</td> </tr> <tr> <td>外部コンクリート打継部</td> <td>ポリウレタン系</td> </tr> </table> <p>ブリッジ工法 ボンドプレーカー張り ・適用する [3.7.7] エッジング材張り ・適用する 接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験(部位:) [3.7.8] この材質 [3.8.2] [表3.8.1] ・配管用銅管 ・硬質塩化ビニル管(・VP ・RF-VP) □</p> <p>銅管製といの防露巻き [3.8.2.3] [表3.8.4] ※行う(施工箇所 ※改修仕様表3.8.4による) 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 この除露口 ※あり(図示) ・なし [3.8.2.3] (13.5.3) ※図示 ・仕様13.5.3 (4) (イ)による ルーフドレン [3.8.3] [表3.8.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ろく屋根用(・たて形 ・横形) ・バルコニー中継用 ・バルコニー用</td> <td>屋根</td> </tr> </table> <p>[3.9.2] [表3.9.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>最小呼称肉厚(mm)</th> <th>表面処理</th> <th>固定間隔</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>・250形 ・300形 ・350形 ・100形</td> <td>1.6 1.8 2.0</td> <td>※A-1又はB-1種 めっき鋼板及び銅板 (GLOCR-20-AZ150) ※0.6・0.8</td> <td>※固定方法及び間隔は図示による。</td> <td>コーナ部、突当り部等の役物は本体製造所の仕様による。</td> </tr> </table> <p>1.1 折板葺 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 [3.9.3] (13.3.2.3) [表13.2.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>形 式</th> <th>形状(mm)</th> <th>材料(規格等)</th> <th>軒先面戸板</th> <th>断熱材</th> <th>耐火性能</th> </tr> <tr> <td>※重ね形 ・はせ締め形 ・かん合形</td> <td>山高() 山ピッチ() () 板厚 ※0.6・0.8</td> <td>※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金 めっき鋼板及び銅板 (GLOCR-20-AZ150)</td> <td>※あり ・なし</td> <td>※あり 種別() () 厚さ() mm 耐火性能() 時間 ・なし</td> <td>※30分 ・なし</td> </tr> </table>		防水改修工法の種類	新規防水層の種類	厚さ(mm)	施工箇所	・M4AS工法 ・M3AS工法 ・POAS工法 ・M3AS I工法 ・M4AS I工法 ・POAS I工法	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3 ・AS I-T1 ・AS I-J1			防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類	・POS工法 ・S4S工法 ・POS I工法 ・S4S I工法 ・S3S工法 ・S3S I工法 ・M4S工法 ・M4S I工法 ・PIS工法	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3 ・S I-F1 ・S I-F2 ・S I-M1 ・S I-M2 ・S-F1 ・S-F2 ・S I-F1 ・S I-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3 ・S I-M1 ・S I-M2		・シルバー ・カラー	※非歩行	防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上げ塗料塗り	・POX工法 ・L4X工法	※X-1 ・X-2 ※X-1 ・X-2		・シルバー ・カラー	種 類	材 質	設置数量	・平場部脱気型 ・立上り部脱気型	・ポリエチレン樹脂 ・ステンレス鋼 ・鋼鉄 ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス鋼 ・銅	() m ² 当たり1箇所 () m ² 当たり1箇所	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	金属建具周囲	変性シリコン系	外部コンクリート打継部	ポリウレタン系	種 別	施工箇所	・ろく屋根用(・たて形 ・横形) ・バルコニー中継用 ・バルコニー用	屋根	種 類	最小呼称肉厚(mm)	表面処理	固定間隔	備 考	・250形 ・300形 ・350形 ・100形	1.6 1.8 2.0	※A-1又はB-1種 めっき鋼板及び銅板 (GLOCR-20-AZ150) ※0.6・0.8	※固定方法及び間隔は図示による。	コーナ部、突当り部等の役物は本体製造所の仕様による。	形 式	形状(mm)	材料(規格等)	軒先面戸板	断熱材	耐火性能	※重ね形 ・はせ締め形 ・かん合形	山高() 山ピッチ() () 板厚 ※0.6・0.8	※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金 めっき鋼板及び銅板 (GLOCR-20-AZ150)	※あり ・なし	※あり 種別() () 厚さ() mm 耐火性能() 時間 ・なし	※30分 ・なし	
防水改修工法の種類	新規防水層の種類	厚さ(mm)	施工箇所																																																															
・M4AS工法 ・M3AS工法 ・POAS工法 ・M3AS I工法 ・M4AS I工法 ・POAS I工法	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3 ・AS I-T1 ・AS I-J1																																																																	
防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類																																																														
・POS工法 ・S4S工法 ・POS I工法 ・S4S I工法 ・S3S工法 ・S3S I工法 ・M4S工法 ・M4S I工法 ・PIS工法	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3 ・S I-F1 ・S I-F2 ・S I-M1 ・S I-M2 ・S-F1 ・S-F2 ・S I-F1 ・S I-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3 ・S I-M1 ・S I-M2		・シルバー ・カラー	※非歩行																																																														
防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上げ塗料塗り																																																															
・POX工法 ・L4X工法	※X-1 ・X-2 ※X-1 ・X-2		・シルバー ・カラー																																																															
種 類	材 質	設置数量																																																																
・平場部脱気型 ・立上り部脱気型	・ポリエチレン樹脂 ・ステンレス鋼 ・鋼鉄 ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス鋼 ・銅	() m ² 当たり1箇所 () m ² 当たり1箇所																																																																
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																	
金属建具周囲	変性シリコン系																																																																	
外部コンクリート打継部	ポリウレタン系																																																																	
種 別	施工箇所																																																																	
・ろく屋根用(・たて形 ・横形) ・バルコニー中継用 ・バルコニー用	屋根																																																																	
種 類	最小呼称肉厚(mm)	表面処理	固定間隔	備 考																																																														
・250形 ・300形 ・350形 ・100形	1.6 1.8 2.0	※A-1又はB-1種 めっき鋼板及び銅板 (GLOCR-20-AZ150) ※0.6・0.8	※固定方法及び間隔は図示による。	コーナ部、突当り部等の役物は本体製造所の仕様による。																																																														
形 式	形状(mm)	材料(規格等)	軒先面戸板	断熱材	耐火性能																																																													
※重ね形 ・はせ締め形 ・かん合形	山高() 山ピッチ() () 板厚 ※0.6・0.8	※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金 めっき鋼板及び銅板 (GLOCR-20-AZ150)	※あり ・なし	※あり 種別() () 厚さ() mm 耐火性能() 時間 ・なし	※30分 ・なし																																																													
<p>工事名 幸田配水場非常用発電設備新設工事</p> <p>図 面 名 称 建築改修工事特記仕様書(その1)</p> <p>縮 尺 FREE 単位 mm 図 面 番 号 AA-01 / AA-22</p> <p>事業主 松戸市水道部</p>																																																																		

5 建具 改修 工事	① 改修工法	[5.1.3] 建具の種類 かぶせ工法 撤去工法 適用箇所 ・アルミニウム製建具 ・鋼製建具 ・鋼製軽量建具 ・ステンレス製建具
	2 見本の製作等	[5.1.5] ・特殊な建具の仮組 (建具符号:)
	3 防犯建物部品	[5.1.7] ・適用する (適用箇所は建具表による)
	4 アルミニウム製建具	[5.2.2] [表5.2.1] 性能等級等 外部に面する建具 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み (mm) 施工箇所 ・A種 S-4 A-3 W-4 ※70 ※図示 ・B種 S-5 W-5 ・C種 S-6 A-4 W-5 100 防音ドアセット、防音サッシ 断熱ドアセット、断熱サッシ 耐震ドアセット 表面処理 外部に面する建具 ※B-1種 B-2種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー) 屋内建具 ※C-1種 C-2種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー) 網戸 防虫網の材質 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316) 形式 ※外部可動式 ・固定式 結露水の処理
	5 樹脂製建具	[5.3.2] [5.3.3, 4] [表5.3.1] [表5.3.2] 性能等級等 外部に面する建具 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み (mm) 遮音性 断熱性 ガラス ・A種 S-4 A-4 W-4 T-1 H-4 ※複層 ・B種 S-5 W-5 T-2 H-5 ・C種 S-6 W-6 H-6
	6 鋼製建具	[5.4.2] [表5.4.1] 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による 外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による
	7 鋼製軽量建具	[5.5.2] 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
	8 ステンレス製建具	[5.6.2] [表5.4.1] [表5.2.1] 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による 外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による 表面仕上げ ※HL ・鏡面 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり)
	9 木製建具	[5.7.2] [表5.7.3] かまち戸の樹種 かまち () 鏡板 () ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 (押入等の表面は除く) ・鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材 (合板) 及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種
	10 建具用金物	[5.8.4] 鍵 マスターキー ・製作する ※製作しない 鍵箱 市販品 形式 ・30組用 ・60組用 ・120組用
11 自動ドア開閉装置	[5.9.2.3] [表5.9.1~3] ドアの種類 センサーの種類 ※スライディングドア ※マットスイッチ ※光線 (反射) スイッチ 種類 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・DSL-1 ・DSL-2 ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・スイングドア ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ 種類 ・SWD-1 ・SWD-2 ・ペダルスイッチ ・多機能便所スイッチ 凍結防止措置 (適用箇所は建具表による)	
12 自閉式上吊り引戸装置	[5.10.2] [表5.10.1] 材料 ※SUS304、アルミニウム製等防錆性能を有するもの ・製造所標準仕様による 性能 ※改修仕様5.9.3Iによる ・製造所標準仕様による	
13 重量シャッター	[5.11.2] シャッターの種類 性能 ・一般重量シャッター 耐風圧性能 () N/m ² ・外壁用防火シャッター 耐風圧性能 () N/m ² ・屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター 開閉機能 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式 危害防止機構 ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) 一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない	
14 軽量シャッター	[5.12.2] [表5.12.1] [表5.12.2] [表5.12.4] [表5.12.2] 開閉形式 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) スラット 材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) 又はJIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯) ・鋼板 形状 ※インターロック形 ・オーバラッピング形 ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304 (厚さ1.5mm) 耐風圧性能 () N/mm ²	

15 オーバ ーヘッ ドドア	[5.13.2, 3] セクション材料 開閉方式 収納形式 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バランス式 ・スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ・ステンレス鋼板 ・ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・ハイリフト形 ・パーチャル形
	耐風圧性能 () N/mm ²
	[5.14.2] [5.14.5] 板ガラスの種類、厚さは建具表による ・ガラスブロック 表面形状 呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) 色 調 防火認定 ・正方形 ※クリア ・熱線反射 ※なし ・長方形 ・乳白色 ・カラー () ・あり
	[5.14.2] [5.14.2] 複層ガラスの厚さ ※建具表による ・図示 複層ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分 ※U3-1 ・U3-2
	[5.14.2] ガラス留め材 建具の種類 材 種 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガスケット (FIX部はシーリング材) 鋼製及び鋼製軽量 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材 防火戸のガラス留め材は、防火戸が建築基準法に基づき定められ又は認定を受けた条件による。
	[5.14.3] 板ガラスをはめ込む溝の大きさ 改修仕様5.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は (社) 日本建築学会 JASS17 ガラス工事「納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員 に提出する。
	ガラス用フィルム 名 称 種 類 張り面 性能値 ※ガラス飛散防止フィルム 第2種 ※内張り ・外張り 飛散防止率 D1 品質JIS A 5759による
	16 ガラス

6 内装 改修 工事	1 改修範囲	[6.1.3] 既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修 ※既存のまま ・図示の範囲
	2 既存床の撤去並びに 下地補修	[6.2.2] ビニル床シート等の除去 ・仕上材のみ (接着剤共) ・下地モルタル共 (※図示の範囲 ・除去範囲すべて) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法 (床一式撤去 (砕石込)) 改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内
	3 既存壁の撤去並びに 下地補修	[6.3.2] [4.3.10] 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※モルタル差り (差厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・行わない) ・図示
	4 木材	[6.5.1] 表面仕上げの程度 機械加工 ・A種 ※B種 (自動機械かんな掛け仕上げ) ・C種 手加工 内部造作材 ・H-A種 ※H-B種 (さか目、かんなくれが地でないもの) ・H-C種 下地材 ・H-A種 ・H-B種 ※H-C種 現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・B種 保存処理木材 ・使用する (使用箇所:) 構造材及び下地材の品質の基準 ※改修仕様6.5.2(2) (ア) による 造作材の材面の品質の基準 ※A種 ・B種 代用樹脂を使用しない箇所 ()
	5 集材等	[6.5.2] 集材材及び単板積層材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 構造用集材材 施工箇所 品 名 強度等級 材面の品質 接着性能 樹種名 寸法 (mm) ・1種 ・使用環境A ※2種 ・使用環境B ・3種 ・使用環境C 構造用単板積層材 施工箇所 接着性能 曲げ性能 樹種名 寸法 (mm) ・使用環境1 ・使用環境2 造作用集材材 施工箇所 樹種名 見付け材面の品質 寸法 (mm) 張り縁 米紺 ※1等 ・2等 36×45 化粧ばり造作用集材材 施工箇所 化粧薄板の 化粧薄板の 見付け材面の 寸法 (mm) 樹種名 厚さ (mm) 品質 ※1等 ・2等 単板積層材 施工箇所 表面の品質 防虫処理 寸法 (mm) ※天然木化粧加工 ・する ・塗装加工 ・しない ・化粧加工しない (・1等・2等・3等)
	6 床張り用合板及び その他の合板	[6.5.2] [6.13.2] 合板のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 普通合板 施工箇所 厚さ (mm) 表板の 接着の 板面の品質 防虫処理 その他の 樹種名 程度 処理 (床) 5.5 ※1種 広葉樹 ・1等 ※2等 ・する ・2種 針葉樹 ※C-D ・しない (壁、天井) ・ラワン ・1種 ・しな ・2種 ・する ・しない 難燃処理 ・防炎処理 構造用合板 施工箇所 厚さ (mm) 表板の 接着の 等級 板面の品質 防虫処理 樹種名 程度 (床) 12.0 ・特類 ・1級 ※C-D ・する ※1種 ※2級 ・しない 天然木化粧合板 施工箇所 厚さ (mm) 化粧板の 接着の 防虫処理 その他の処理 樹種名 程度 (壁、天井) ・3.2 ・なら ・1種 ・する ※4.2 ・しおじ ・2種 ・しない ・6.0 特殊加工化粧合板 施工箇所 厚さ (mm) 化粧加工 表面性能 加工面 接着の 防虫処理 その他の の方法 処理 (壁、天井) ※4.0 ・オーバレー ・F ・表面 ・1種 ・する ・プリント ・II ・両面 ・2種 ・しない ・塗装 ・SW
	7 防塵、防蟻処理	[6.5.5] [6.5.5] 防塵処理 ※行う () 防蟻処理 ・行う (※図示) 防塵、防蟻処理剤の種類及び品質 表面処理用木材保存剤 (防塵・防蟻剤) は監督職員の承諾するものとする。

7 接着 剤 (内装改修工事全般)	[6.5.2] [6.8.2] [6.9.3] [6.11.5] [6.13.2] [6.14.2] [6.16.4] 壁紙施工用でんぶ系接着剤、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂 (以下「ユリア樹脂等」という) 又はホルムアルデヒド系防霉剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。	
	9 軽量鉄骨天井下地	[6.6.2] [表6.6.1] 野縁等の種類 屋外 (・19形 ※25形) 屋内 (※19形 ・25形) あも施工アウターの引抜き試験 ・行う ・行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等 野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※図示 野縁の間隔 ※図示 耐風圧性を考慮した補強 ※図示 ・行う (補強箇所 ※図示 補強方法 ※図示)
	10 軽量鉄骨下地	[6.7.3] [表6.7.1] [表6.7.1] スタッド、ランナーの種類 ※改修仕様表6.7.1Iによる ・図示 スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示
	11 ビニル床シート、 ビニル床タイル及び ゴム床タイル張り	[6.8.2] ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能 帯電防止 ・帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上~3.2未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ⁷ ~1×10 ¹⁰ Ω程度 耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り試験、摩耗性試験、 層間はく離強度試験 (発泡剤のあるビニル床シートのみ) 及びキャスター性試験等の試験後、異常がないこと ビニル床シート 種 類 記号 施工箇所 色 柄 厚さ (mm) 特殊機能 ※発泡剤のないもの ※FS ※無地 ・マーブル柄 ※2.0 ・帯電防止 ・発泡剤のあるもの ・ ※柄物 ・無地 ・ 帯電防止 ・耐動荷重 工法 ※熱溶接工法 ・突付け (施工箇所:) ビニル床タイル 種 類 記号 施工箇所 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 特殊機能 ・コブシタイル KT ※無地 ・300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・ビニル床タイル (半硬質) ・柄物 ・450×450 ・ 耐動荷重 ・コブシタイル GTS ※無地 ・300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・ビニル床タイル (軟質) ・ 450×450 ・ 耐動荷重 ・ビニル床タイル HT ※無地 ・300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・置敷きビニル床タイル HTL ※無地 ・500×500 ・ 帯電防止 ・耐動荷重 ビニル幅木 材質 ※軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ・75 ・100 厚さ (mm) ※2.0 ゴム床タイル 色柄 () 厚さ (mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法 () 織じゅうたん 種 別 バイル形状 織り方 色柄等 帯電性 備 考 ・A種 ・カトパイル ・ウルトカベット ※無地 ※人体帯電圧 ・B種 ・ループパイル ・ダブダブカベット ・柄物 3kV以下 ・C種 ・カトパイル併用 ・ワタジカベット (標準品) ・ 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm タフテッドカーベット バイル形状 バイル長さ (mm) 工 法 帯電性 備 考 ・カットバイル ※5~7 ※全面接着工法 ※人体帯電圧 ・ループバイル ※4~6 ・グリッパー工法 3kV以下 ・レペループバイル ※4 ・カット、ループ併用 ・ 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm ニードルパンチカーベット 厚さ (mm) ※人体帯電圧3kV以下 備考 タイルカーベット バイル形状 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 帯電性 備 考 ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ※人体帯電圧3kV 以下 (7リットル) ・カットバイル ・第二種 ・ 707敷設範囲) ・カット、ループ併用 ・ タイルカーベットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 見切り、押え金物 ・適用する (材質、形状等 ※図示) 種 別 施工箇所 仕上げの種類 ・弾性ウレタン塗床材 ※平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・つや消し仕上げ ○エポキシ樹脂塗床材 発電機室 ・薄膜流し膜べ仕上げ (※平滑 ・防汚) ・厚膜流し膜べ仕上げ (※平滑 ・防汚) ・樹脂モルタル仕上げ (※平滑 ・防汚) ○防汚仕上げ ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種
	12 カーベット敷き	[6.9.2, 3] [表6.9.1] 織じゅうたん 種 別 バイル形状 織り方 色柄等 帯電性 備 考 ・A種 ・カトパイル ・ウルトカベット ※無地 ※人体帯電圧 ・B種 ・ループパイル ・ダブダブカベット ・柄物 3kV以下 ・C種 ・カトパイル併用 ・ワタジカベット (標準品) ・ 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm タフテッドカーベット バイル形状 バイル長さ (mm) 工 法 帯電性 備 考 ・カットバイル ※5~7 ※全面接着工法 ※人体帯電圧 ・ループバイル ※4~6 ・グリッパー工法 3kV以下 ・レペループバイル ※4 ・カット、ループ併用 ・ 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm ニードルパンチカーベット 厚さ (mm) ※人体帯電圧3kV以下 備考 タイルカーベット バイル形状 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 帯電性 備 考 ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ※人体帯電圧3kV 以下 (7リットル) ・カットバイル ・第二種 ・ 707敷設範囲) ・カット、ループ併用 ・ タイルカーベットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 見切り、押え金物 ・適用する (材質、形状等 ※図示)
	13 合成樹脂塗床	[6.10.2, 3] [表6.10.1~8] 種 別 施工箇所 仕上げの種類 ・弾性ウレタン塗床材 ※平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・つや消し仕上げ ○エポキシ樹脂塗床材 発電機室 ・薄膜流し膜べ仕上げ (※平滑 ・防汚) ・厚膜流し膜べ仕上げ (※平滑 ・防汚) ・樹脂モルタル仕上げ (※平滑 ・防汚) ○防汚仕上げ ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事			
図 面 名 称	建築改修工事特記仕様書 (その3)			
縮 尺	FREE	単 位	mm	図 面 番 号 AA-03
事業主	松 戸 市 水 道 部			AA-22

8 5 鉄骨工事	13 耐火被覆	種別等	[8-16 2~9]
		種別	所要性能及び適用箇所
		・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール
		・耐火材巻付け	・半乾式吹付けロックウール
		・耐火材張り	・湿式吹付けロックウール
		・耐火材巻付け	・
		・ラス張りモルタル塗り	1時間耐火、柱・梁
		耐火被覆面への錆止め塗装	・行わない ・行う (適用箇所:)

8 6 グラウト工事	①モルタル及びグラウト材	構造体用モルタル	[8. 2. 12]
		※ [8. 2. 12] 及び [8. 5. 10] による	
		柱底均しモルタル	[8. 2. 12]
		※無収縮モルタル	
		グラウト材	[8. 2. 12]
		※無収縮グラウト材 (セメント、混和材、砂は無収縮モルタルに準ずる)	
		無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は次による	
		無収縮モルタルの材料及び配合	
		混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。
		セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
		砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
		配合比	(各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1
		無収縮モルタルの品質及び試験方法	[表8. 2. 10]
		コンシステンシー	J-ロートによる落下時間
		ブリーディング	練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒
		凝結時間	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2. 0%以下
		無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと
		圧縮強度	材齢 3日 25. 0 N/mm ² 以上
		付着強度	材齢 28日 45. 0 N/mm ² 以上
		塩化物量	材齢 28日 3. 0 N/mm ² 以上
		試験方法	0. 30kg/m ³ 以上
		試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9. 6塩化物含有量の試験方法による。
		無収縮グラウト材の材料 (プレミックス及び現場調合形)	
		混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。
		セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
		砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。
		無収縮グラウト材の品質及び試験方法 (現場調合形においては標準使用量・配合値)	
		コンシステンシー	J-ロートによる落下時間
		ブリーディング	練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒
		凝結時間	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2. 0%以下
		無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと
		圧縮強度	材齢 3日 20. 0 N/mm ² 以上
		付着強度	材齢 28日 40. 0 N/mm ² 以上
		塩化物量	材齢 28日 2. 5 N/mm ² 以上
		試験方法	0. 30kg/m ³ 以上
		試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 なお、プレミックス形と現場調合形と混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9. 6塩化物含有量の試験方法による。

8 7 連続繊維補強工事	1 連続繊維補強工法	連続繊維補強工法	[8. 24. 6]
		・「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」(財) 日本建築防災協会発行) の第4章[補強工事の施工]による工法又は同等の性能を有する工法	
		・(財) 日本建築防災協会の評価を受けた工法	
		② 連続繊維シート	
		連続繊維の材料	[8. 2. 13]
		炭素繊維 ・ アラミド繊維 ・ ガラス繊維	
		連続繊維の材質	[8. 2. 13]
		引張強度 (含浸硬化後)	() N/mm ²
		ヤング係数 (含浸硬化後)	() N/mm ²
		繊維目付付量	() g/m ²
		シート厚さ	() mm
		シート張り方向	※図示
		定着方法	※図示
		含浸接着樹脂	・低臭型
		プライマー	・低臭型
		下地処理	[8. 24. 6]
		仕上げモルタルの除去	※行う ・行わない
		下地処理の範囲	※図示
		下地処理の程度	※図示
		柱の隅角部の面取り	
		箇所	※図示
		大きさ	※図示
		下地調整	※行う
		ひび割れ部改修	・行う ・行わない
		種類及び部位	※図示
		引張強度試験	・行う ・行わない
		試験数量	※図示
		付着強度試験	・行う ・行わない
		試験数量	※図示

8 8 耐震スリット新設工事	1 スリットの施工	既存撤去部の配管等の探査	[8. 25. 2]
		※鉄筋探査機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う	
		・はつり出しによる	[8. 25. 2]
		スリットの幅及び深さ	※図示
		耐火材の使用箇所及び仕様	※図示
		遮音材の使用箇所及び仕様	※図示

8 9 免震改修工事	1 支承材及び減衰材	材質及び種元	※図示 [8. 26. 7]
		性能確認試験の項目及び数量	※図示 [8. 26. 7]
		製品検査における項目、内容、判定基準、検査頻度等	※図示 [8. 26. 7]
		防錆処理	※図示 [8. 26. 10]
		設置位置の寸法許容差	※図示 [8. 26. 10]
		仕上げ	※図示 [8. 26. 13]
		耐火被覆の適用及び仕様	※図示 [8. 26. 14]
		エキスパンションジョイントの仕様、工法等	※図示 [8. 26. 15]
		検査の項目及び数量	※図示 [8. 26. 16]
		維持管理要領に記載する項目	※その他 () [8. 26. 17]
		※維持管理の目的、点検種別 (定期点検、応急点検、詳細点検)、実施時期	
		※点検種別 (定期点検、応急点検、詳細点検)、実施時期	
		※点検項目	
		※統括管理体制	
		※点検、検査結果の保管	
		・その他 ()	
		維持管理に必要な計測機器等の設置の有無及び仕様	※図示 [8. 26. 17]

8 10 制振改修工事	1 既存部分の撤去	既存鉄骨の撤去範囲及び撤去方法	※図示 [8. 27. 2]
		既存鉄骨の処理	※図示 [8. 27. 2]
		2 減衰材	
		材質及び種元	※図示 [8. 27. 4]
		性能確認試験の項目及び数量	※図示 [8. 27. 4]
		製品検査における項目、内容、判定基準、検査頻度等	※図示 [8. 27. 4]
		防錆処理	※図示 [8. 27. 6]
		設置位置の寸法許容差	※図示 [8. 27. 6]
		割製補強筋の適用	※図示 [8. 27. 6]
		仕上げ	※図示 [8. 27. 8]
		検査の項目及び数量	※図示 [8. 27. 9]

8 11 土工事及び地業工事	1 既存杭	既存杭の撤去等	[8. 28. 2]
		既存杭の一部を撤去する場合の撤去範囲及び撤去方法	※図示
		既存杭の杭頭部等の処理	・する ・しない
		・既存杭の杭頭部等の処理方法	※図示
		既存杭の補強	・する ・しない
		・既存杭の補強方法	※図示
		既存杭の健全性を確認する試験	・行う ・行わない
		エキスパンションジョイントの仕様、工法等	※図示
		2 埋戻し及び盛土	[8. 28. 3] [表8. 28. 1]
		埋戻し及び盛土の種類	
		・A種 適用場所 ()	
		・B種 適用場所 ()	
		・C種 適用場所 ()	土質 () 受凍場所 ()
		・D種 (細砂分 (75μm以下) の含有率 (重量百分率) の上限を50%未満とする。)	
		適用場所 ()	
		3 建設発生土の処理	[8. 28. 3]
		※現場説明書による	
		・構外搬出適切処理	
		・構内指定場所に堆積	
		4 山留めの存置	[8. 28. 3]
		存置範囲 (※図示)	()

8 12 地業工事	1 試験及び報告	試験杭	[8. 28. 4]
		試験杭の位置、本数及び寸法	※図示
		試験杭の施工方法	※図示
		杭の載荷試験	[8. 28. 4]
		載荷試験	・行う ・行わない
		施工方法	※図示
		位置、本数及び載荷荷重	※図示
		報告書の記載事項等	※図示
		地盤の載荷試験	[8. 28. 4]
		載荷試験	・行う ・行わない
		載荷試験の方法	※図示
		位置、本数及び載荷荷重	※図示
		報告書の記載事項等	※図示

② 杭地業	杭工法	※図示による ()	[8. 28. 4]
		支持地盤の位置及び土質、杭の根入れ長さ及び水平方向位置ずれの精度	
		※図示による ()	
		技能資格者の技量及び溶接部の確認	
		※図示による ()	
		記録する施工状況等	
		※図示による ()	
③ 砂利及び砂地業	材料	・再生クラッシュラン	・切込砂利及び切込砕石
		砂利厚さ	
		・60mm ※150mm	
		適用箇所	
		※図示による ()	
④ 捨コンクリート地業	捨コンクリートの厚さ	※50mm	[8. 28. 4]
		施工範囲	
		・基礎梁下、土に接するスラブ下	
		※図示による ()	
		設計基準強度	
		※18N/mm ²	
		スラブ	
		※15cm又は18cm	

9 環境改修工事	① 一般事項	石綿等の取扱については、大気汚染防止法 (昭和43年10月10日法律第97号) (以下、「大防法」という。) 及び石綿障害予防規則 (平成17年2月24日厚生労働省令第21号) (以下、「石綿則」という。) を遵守すること。	[1. 5. 1]
		事前調査 (※調査済)	
		・行う (大防法第18条の17により、同法の特定工事に該当するか事前調査を行うこと。調査結果は、図面等に記録し、書面により発注者に説明の上、提出すること。特定工事に該当する場合、受注者は大防法第18条の15による届出書の案を作成し、監督職員に提出すること。調査の結果、設計図書と異なる場合は監督職員と協議する。)	
		調査事項	
		※石綿含有建材等の使用部位	
		※石綿含有建材等の種類、厚さ、面積	
		※施工範囲と工事範囲区分	
		※排出等作業の方法	
		調査結果を公衆に見やすいよう掲示すること。	
		※事業場の名称	※調査結果
		※建築物の種類	※調査者及び所属
		※調査方法	※調査終了年月日
		※発注者からの通知	
		石綿含有分析	[1. 5. 1]
		・行わない	
		○ 行う (分析結果は監督職員に提出する。)	
		調査箇所	※図示 (施工調査が必要と思われる箇所)
		分析方法	※ JIS A 1481 「建材製品中のアスベスト含有測定法」による。

材 料 名	定性分析	定量分析		
・外壁仕上げ材	・ (試験数:)	・ (試験数:)		
・外巾木仕上材	・ (試験数:)	・ (試験数:)		
・シーリング材	・ (試験数:)	・ (試験数:)		
石綿粉じん濃度測定	[9. 1. 1 (5)]			
○ 行わない				
※ 行う (測定する時期、場所等は下表による)				
「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法-第1部- : 光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差、分散顕微鏡法による。				
測定名称	測定時期	測定場所	測定点	室 名 等
・測定1	処理作業前	処理作業室内 (注1)	※2点 ・点	(各施工箇所ごと)
・測定2		施工区画周辺又は敷地境界	※2点 ・点	
・測定3	処理作業中	処理作業室内 (注1)	※2点 ・点	
・測定4		セキュリティゾーン入口 (空気の流れを確認)	※1点 ・点	
・測定5		負圧・粉じん装置の排出吹出口 (除じん装置の性能確認)	※1点 ・点	
・測定6		施工区画周辺又は敷地境界	※2点 ・点	
・測定7	処理作業後シート	処理作業室内	※2点 ・点	
・測定8	撤去前	施工区画周辺又は敷地境界	※2点 ・点	
・測定9	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	※2点 ・点	
測定点総計				点

注1: 周囲状況により上記よりがたい場合は、監督職員と協議する。

(例) 石綿粉じん濃度測定方法

測定点	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5
計数機器	位相差・分散顕微鏡	4. 7mm
メンブレンフィルタの直径	2. 5mm	
試料の吸引流量	1 L/min	5 L/min
試料の吸引時間	5min	1. 2 Omin
試料の透明化	アセトン固定-有機物灰化-屈折率浸漬法	2. 4 Omin
計数条件	総合倍率400倍、アスベスト繊維総数、通常50視野	
計数アスベスト	幅3μm未満、長さ6μm以上、アスペクト比(長さ/幅)	3以上
定量限界	5. 0本/L	0. 47本/L
		0. 3本/L

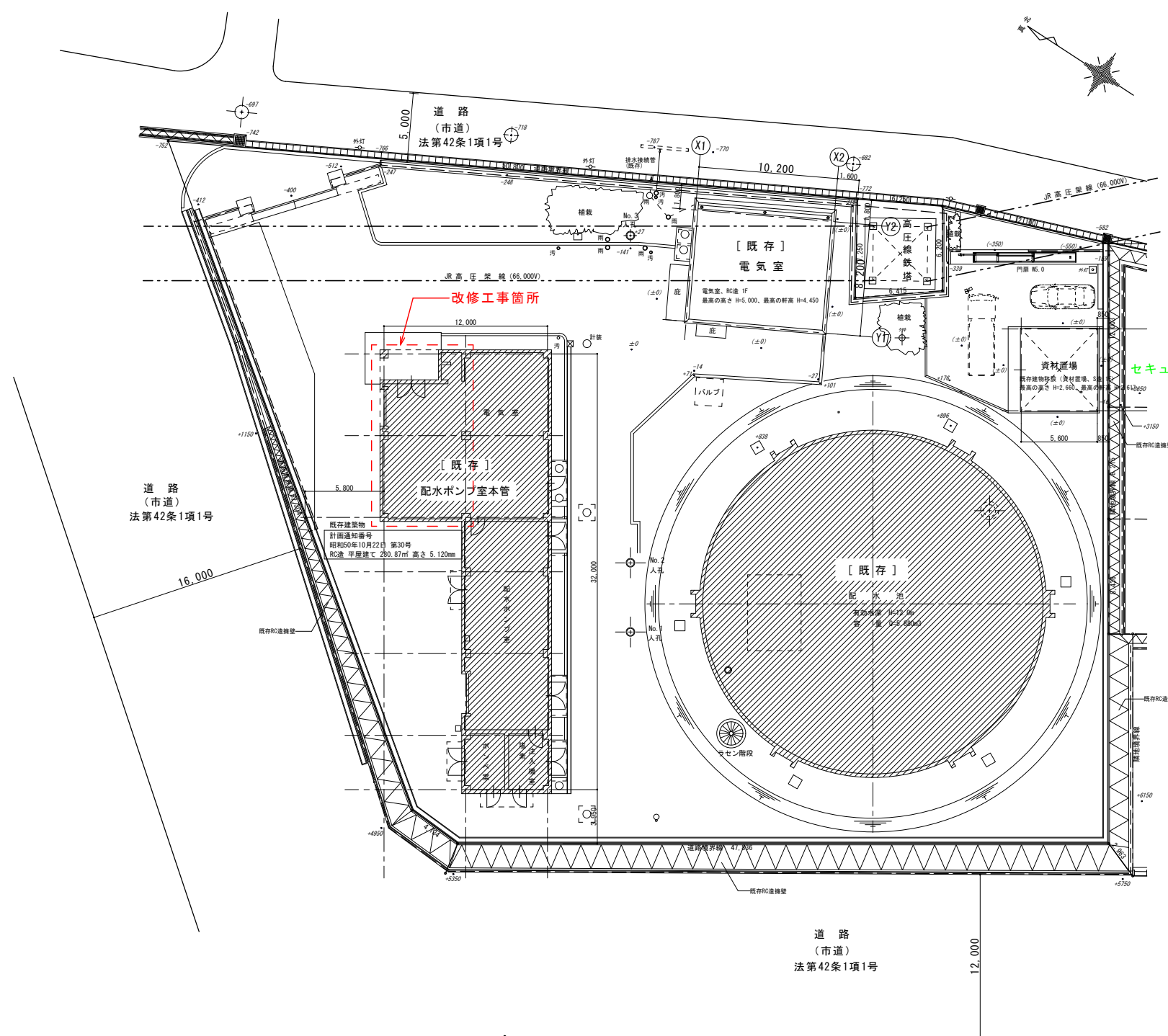
記録する項目	ア. 測定結果	イ. 測定時間	ウ. 測定位置 (測定高さとともに図面に記載する。)	エ. サンプリング条件 (メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量)	オ. マウンティング法	カ. 顕微鏡視野面積、計数視野数	キ. 測定時 (各測定場所ごと) の天候、温度、湿度、外気の風速及び風量
測定機関	都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関						
専門工事業者	石綿含有建材の除去を直接行う専門業者については、工事に相応した技術を有することを証明する書類を監督職員に提出する。						
作業主任者の選出	石綿作業主任者技能講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を終了したものの中から、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。						
除去作業者の教育	作業者は、就業時に石綿則第27条に基づく教育を受けた者とする。また、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受診した者とし、肺機能に異常のない者とする。						

② 除去工事 共通事項	5 石綿成形板の除去	除去工法	[9. 1. 2 (1)]
		石綿含有建材の除去を直接行う専門業者については、工事に相応した技術を有することを証明する書類を監督職員に提出する。	
		作業主任者の選出	[9. 1. 2 (2)]
		石綿作業主任者技能講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を終了したものの中から、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。	
		除去作業者の教育	[9. 1. 2 (3)]
		作業者は、就業時に石綿則第27条に基づく教育を受けた者とする。また、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受診した者とし、肺機能に異常のない者とする。	

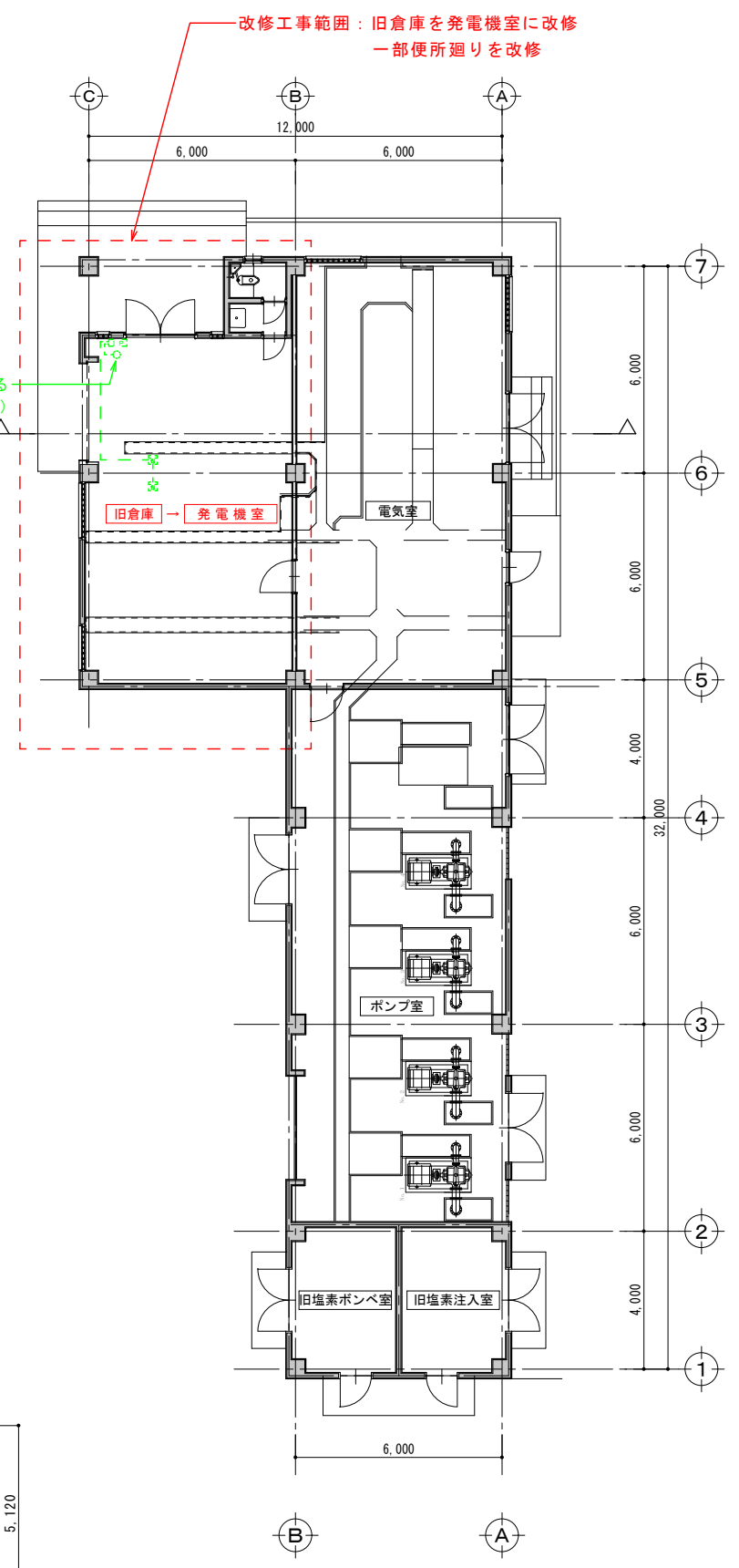
⑥ 石綿含有仕上塗材の除去	石綿含有仕上塗材の除去工事	○ 行う (適用範囲) ※図示	[9. 1. 6]
		・行わない	
		汚泥としての処理が必要な場合	[9. 1. 6]
		運搬	
		処分	

3 石綿含有材の除去	特別管理産業廃棄物管理責任者の選出	排出業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理しなければならない。	[9. 1. 2 (4)]
		ただし、石綿含有成形板の処理工事を除く。	
		表示及び掲示	[9. 1. 2 (6)]
		更衣室など見やすい箇所に次の表示及び掲示を行う。	
		※石綿作業主任者名と職務内容	
		※関係者以外立入禁止	
		※喫煙・飲食の禁止	
		※「石綿除去作業中」の表示	
		※石綿の有害性	
		※取り扱い上の注意事項	
		※使用するべき保護具	
		周辺住民の見やすい箇所に以下の表示を行う。	
		※「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ (労働基準監督署への届出内容、粉じん飛散抑制装置、場露防止措置等)」	
		保護具、保護衣	[9. 1. 2 (8), (9)]
		作業内容に応じた、呼吸用保護具、保護めがねを使用すること。	
		除去した石綿含有物の保管、運搬等	[9. 1. 3 (3)] [9. 1. 4 (3)] [9. 1. 5 (3)] [9. 1. 6 (4)]
		※他の内装材、廃棄物等と分別保管	
		※保管場所での飛散防止を施す。また、石綿含有成形板を運搬する場合は、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。	
		※廃石綿等の保管場所である旨の表示を行う。	
		石綿含有吹き付け材の除去工事	[9. 1. 3]
		・行う (適用範囲) ※図示	()
		・行わない	
		作業場等の隔離等	[9. 1. 3]
		※作業場は以下によるものとし負圧除じん機にて負圧状態により飛散防止をすること。	
		隔離シートの性能	
		※床面	※0. 15mm以上のプラスチックシート等で二重
		※壁面	※0. 08mm以上のプラスチックシート等
		ただし、(一財) 日本建築センターの「建設技術審査証明書」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術 (除去)」の審査証明書 (以下、「審査証明書」という。) を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督職員の承諾を得ること。	
		セキュリティゾーンの設置	[9. 1. 3]
		※下表による	
		適用	室名
		※更衣室	※更衣ロッカー
		※洗浄室	※呼吸用保護具保管箱
		※前室	※エアシャワー (温水シャワー)
		※養生室	※高性能真空掃除機
		※養生室	※使用済み保護衣保管ご
		ただし、(一財) 日本建築センターの「建設技術審査証明書」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術 (除去)」の審査証明書 (以下、「審査証明書」という。) を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督職員の承諾を得ること。	
		除去物及び汚染等	[9. 1. 3]
		処理方法	
		※密封処理 (二重袋梱包)	
		※隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空	

改修キープラン

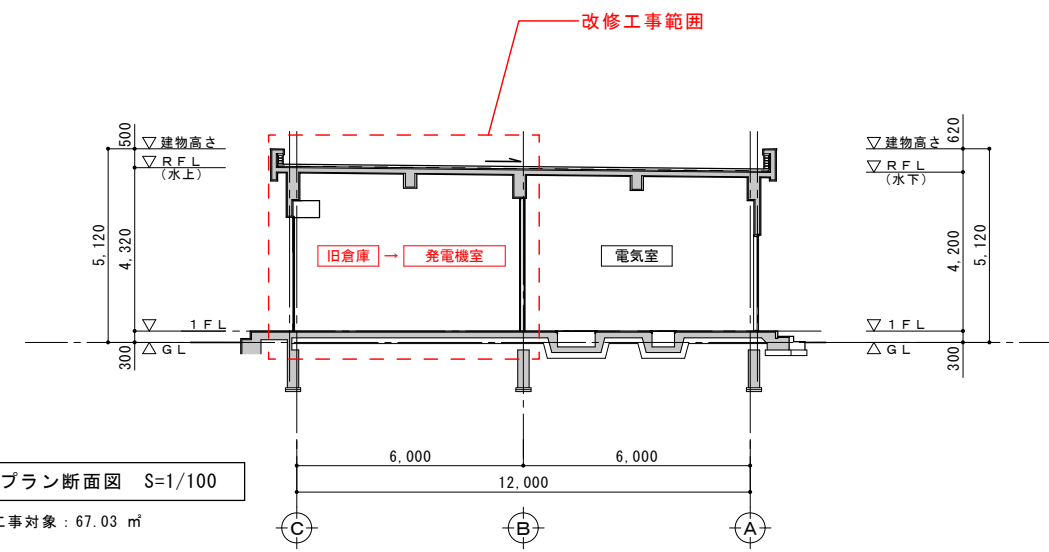


改修キープラン配置図 S=1/200



改修キープラン平面図 S=1/100

工事対象：67.03 m²



改修キープラン断面図 S=1/100

工事対象：67.03 m²

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修キープラン		
縮尺	1/100・200	単位 mm	図面番号 AA-07
事業主	松戸市水道部		AA-22

内部改修仕上表

室名	床		H	巾木		H	壁		天井		C・H	備考
発電機室 (旧倉庫)	改修前	仕上 モルタル金ゴテt=30の上、塗床 ※2	±0	塗装 ※2	※1	100	塗装 ※2	白セメント吹付 ※2	直天 ≒4,150	※2	2,350	腰壁：壁と同じ、梁型・柱型：壁と同じ、化粧石綿スレート板は塩ビジョイント共に撤去 ※2
	下地 土間コンクリートt=150 ※2	モルタル金ゴテ ※1		木毛セメント板t=25の上、化粧石綿スレートt=6.3 ※3 ※2			木毛セメント板t=20 ※2					間仕切耐火壁：FP060NP-0483(1)(吉野石膏S12)、消火器10型(既存流用)
	改修後	仕上 合成樹脂塗床	±0	合成樹脂塗床		100	グラスウールボード(t=50ガラスクロス巻)貼	グラスウールボード(t=50ガラスクロス巻)貼	直天 ≒4,100		2,350	配線ビッド、機械基礎、排油側溝・溜槽、防油堤、10型消火器、大型消火器、内装材更新 一部建具閉塞、土間下補強(砕石t150転圧の上、コマ工法330型均しコンクリート共)、室名札
	下地 スタイロフォームt=合計300 + 土間コンクリートt=150~180直押え	既存モルタルケレン掛け										
通路 (旧洗面)	改修前	仕上 モザイクタイル貼 ※1	±0	—		—	75角タイル貼(一部撤去) ※1	大平板t=5.0 ステップル模様 ※1	直天 ≒2,350	※1	2,350	SD-3、沓摺(御影石)、鏡一式撤去、ドア設置用壁解体 ※2
	下地 モルタル下地 ※1	—		モルタル下地(一部撤去) ※1			—					洗面器撤去<建築設備工事>・鏡上照明撤去<建築電気設備工事>
	改修後	仕上 モザイクタイル貼	±0	—		—	75角タイル貼(一部更新)	大平板t=5.0 ステップル模様	直天 ≒2,350		2,350	壁閉塞部：モルタル下地の上、75角タイル貼、SD-2新設、室名札
	下地 モルタル下地	—		モルタル下地(一部更新)			—					
便所	改修前	仕上 モザイクタイル貼(一部撤去) ※1	±0	—		—	75角タイル貼(一部撤去) ※1	大平板t=5.0 ステップル模様 ※1	直天 ≒2,350	※1	2,350	大便器廻り床一式撤去 ※2
	下地 モルタル下地(一部撤去) ※1	—		モルタル下地(一部撤去) ※1			—					大便器一式撤去<建築設備工事>
	改修後	仕上 モザイクタイル貼(一部更新)	±0	—		—	75角タイル貼(一部更新)	大平板t=5.0 ステップル模様	直天 ≒2,350		2,350	ライニング・鏡新設 洋風便器・洗面器新設<建築設備工事>
	下地 モルタル下地(一部更新)	—		モルタル下地(一部更新)			—					

※1：既存のままを示す ※2：撤去、又は改修を示す ※3：アスベスト含有(クリソタイル)を示す

発電機室改修概要

部位	改修前	記号	撤去工事・下地処理	その他・備考
外部開口部	外部ドア：スチール製両開き扉 外部窓：ガラスブロック及びガラスブロック枠	①	建具撤去(外部) カッター入れ+建具撤去の上、外壁鉄筋コンクリート閉塞(t=120+30)	建具廻りシール及び吹付タイル：アスベスト含有 各設備小開口向け外壁アスベスト除去(立面図参照)
室内開口部 (RC部)	スチール製片開き扉	②	建具撤去(室内RC部) カッター入れ+建具撤去の上、内壁鉄筋コンクリート閉塞(t=120)	
室内開口部 (LGS部)	スチール製片開き扉	③	建具撤去(室内LGS部) カッター入れ+建具撤去の上、乾式耐火壁(既存と同じ)閉塞	既存耐火壁：吉野石膏S12WI(千鳥柱) 新設耐火壁：ALCt=100 立上基礎：W150-H100共
外壁	外部：モルタル刷毛引きt=30の上、吹付タイル 内部：木毛セメント板t=25の上、化粧石綿スレートt=6.3塗装	④	設備・建具開口用外壁解体 カッター入れ+外壁解体(小口はモルタル金ゴテ補修)	吹付タイル：アスベスト含有
床	土間コンクリートt=150の上、モルタル金ゴテt=30	⑤	床解体撤去(配線ビッド共) 土間コンクリート(配線ビッド共)+砕石を必要な深さまで一式撤去	撤去配線ビッド：D420 編鋼板t=4.5 SOP塗(枠共) 新設土間補強：砕石t=150転圧、コマ工法330型
内部壁 (梁型・柱型共)	木毛セメント板t=25の上、化粧石綿スレートt=6.3塗装	⑥	壁下地撤去 既存下地材撤去の上、下地調整	化粧石綿スレートt=6.3：アスベスト含有 (※木毛セメント板は非不燃の為、残置不可)
天井	木毛セメント板t=20の上、白セメント吹付	⑦	天井下地撤去 既存下地材撤去の上、下地調整	(※木毛セメント板は非不燃の為、残置不可)
室内開口部	木製扉(スチール枠)OP塗装	⑧	WD-1：障子撤去 スチール枠残置の上、障子(ドア)撤去	建具スチール枠に新規錠穴加工
⑨～⑮ は非該当				
便所床	モザイクタイル貼	⑯	和式便器床廻り撤去 和式便器廻り床コンクリート・タイル一式撤去	衛生設備撤去は建築設備工事

※ 特記無き鉄筋コンクリート壁はt=120 ※新設床仕様 - コマ基礎一式 + スタイルフォームt=300 ※建具撤去は原則としてカッター入れを行う
※ 木毛セメント板撤去は手解体+グラインダー処理とする。
<建築電気設備工事> 照明器具撤去(SW・配線・レースイ共) <建築機械設備工事> 洗面器撤去・和式便器撤去

改修後仕上記号表

記号	改修内容
①	外壁閉塞の上、外壁塗装(一部建具設置) : 発電機室廻り外壁 複層塗材REローラー塗、建具は建具表参照
②	室内壁(RC)閉塞の上、内部仕上 : 発電機室内壁 グラスウールボード(t=50ガラスクロス巻)貼/背面タイル貼
③	ALC壁新設(※1)/耐火壁閉塞の上、内部仕上 : 発電機室B通り壁 グラスウールボード(t=50ガラスクロス巻)貼/背面EP塗
④	設備・建具用開口部設置 : 発電機室廻り外壁 設備貫通用・建具用開口設置、その他は外壁閉塞
⑤	床廻り一式新設(合成樹脂塗床共) : 発電機室床 スタイロフォームt=300+土間コンクリート直押え(勾配)の上、合成樹脂塗床(1#杉系)
⑥	壁廻り吸音板貼付 : 発電機室内壁(柱型・梁型共) グラスウールボード(t=50ガラスクロス巻)貼
⑦	天井廻り吸音板貼付 : 発電機室天井 グラスウールボード(t=50ガラスクロス巻)貼
⑧	建具障子更新(開き勝手変更) : 便所出入口 木製扉W620×H1800 ポリ合板
⑨	発電機基礎(杭共)・消音機基礎(マ基礎共)新設 : 発電機・機械設置部 発電機基礎：合成樹脂塗床、外部消音機基礎：コンクリート直押え
⑩	配線/配管ビッド新設(グレチング蓋・枠共) : 発電機室床廻り 蓋：細目垂鉛メッキグレーチングT2仕様/内部：合成樹脂塗床
⑪	防油堤新設(移送ポンプ槽廻り) : 移送ポンプ廻り W120×H200 鉄筋コンクリートの上、合成樹脂塗床(釜場・床勾配共)
⑫	排油側溝・溜槽新設(グレチング蓋・枠共) : 外部ドア手前 蓋：細目垂鉛メッキグレーチングT2仕様/内部：合成樹脂塗床(勾配共)
⑬	大型消火器 新設 / 10型消火器 既存移設 : 発電機室 大型消火器×1新設、ABC10型加消火器×1(既存流用)
⑭	屋上点検ラック新設(アルミ・背面ガード付) : 発電機室外部 昇降高≒5,100
⑮	室名札新設 : 発電機室出入口、通路出入口 アクリル樹脂製(乳白) W300×H75×t=5(雑詳細参照)
⑯	大便器廻り床 / 壁・ライニング工事 : 大便器更新部分床・壁 / ライニング 床壁：タイル補修、ライニング天端：ポリフォーム(雑詳細図参照)

※1：上下定規アングルL65×65×t=6、上端耐火シールとする
<建築電気設備工事> 照明器具更新(SW・配線・レースイ共)
<建築機械設備工事> 給気口新設、換気扇新設、ウェザーカバー(FD付)、手洗器新設

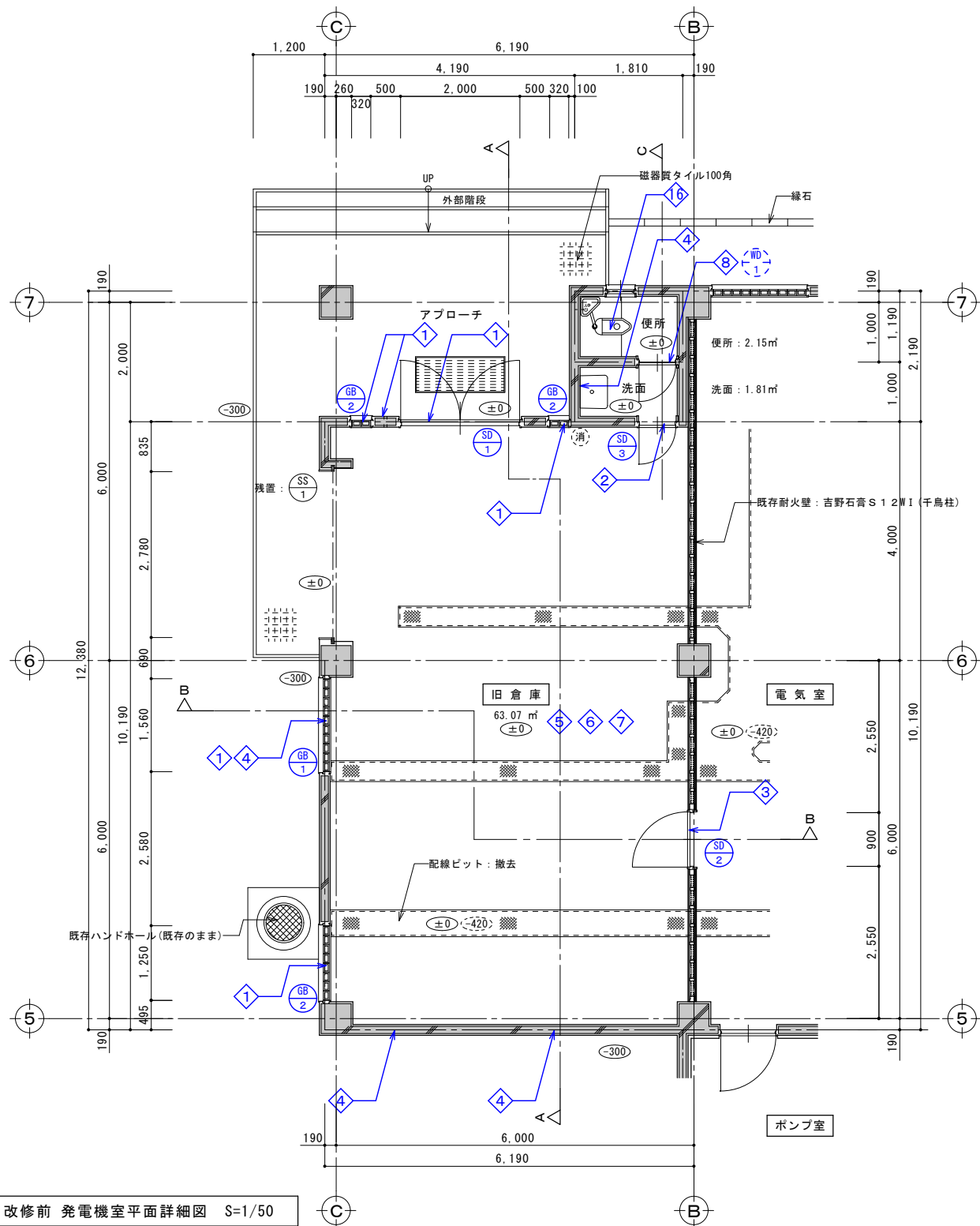
外部改修仕上表

名称	外壁廻り	たたき廻り
改修前	外壁：モルタル刷毛引きの上、吹付タイル ※3(一部撤去)、※1 巾木：モルタル刷毛引きの上、吹付タイル ※3(一部撤去)、※1 軒裏：リシン吹付 ※3、※1 建具廻りシーリング ※3(一部撤去)、※1 既存室名札撤去 ※2	床・階段：磁器質100角タイル貼 ※1
改修後	外壁：モルタル刷毛引きの上、吹付タイル 開口閉塞部：コンクリート打放し(増打30)の上、複層塗材REローラー塗 屋上点検ラック新設(アルミ・背面ガード付) 室名札(発電機室、便所) 軒裏：リシン吹付 ※1 建具廻りシーリング	床・階段：磁器質100角タイル貼 ※1

※1：既存のままを示す ※2：撤去、又は改修を示す ※3：アスベスト含有(クリソタイル)を示す

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事			
図面名称	改修項目表・改修仕上表			
縮尺	FREE	単位	mm	図面番号
事業主	松戸市水道部			AA-08 / AA-22

改修前

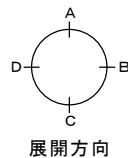


改修前 発電機室平面詳細図 S=1/50

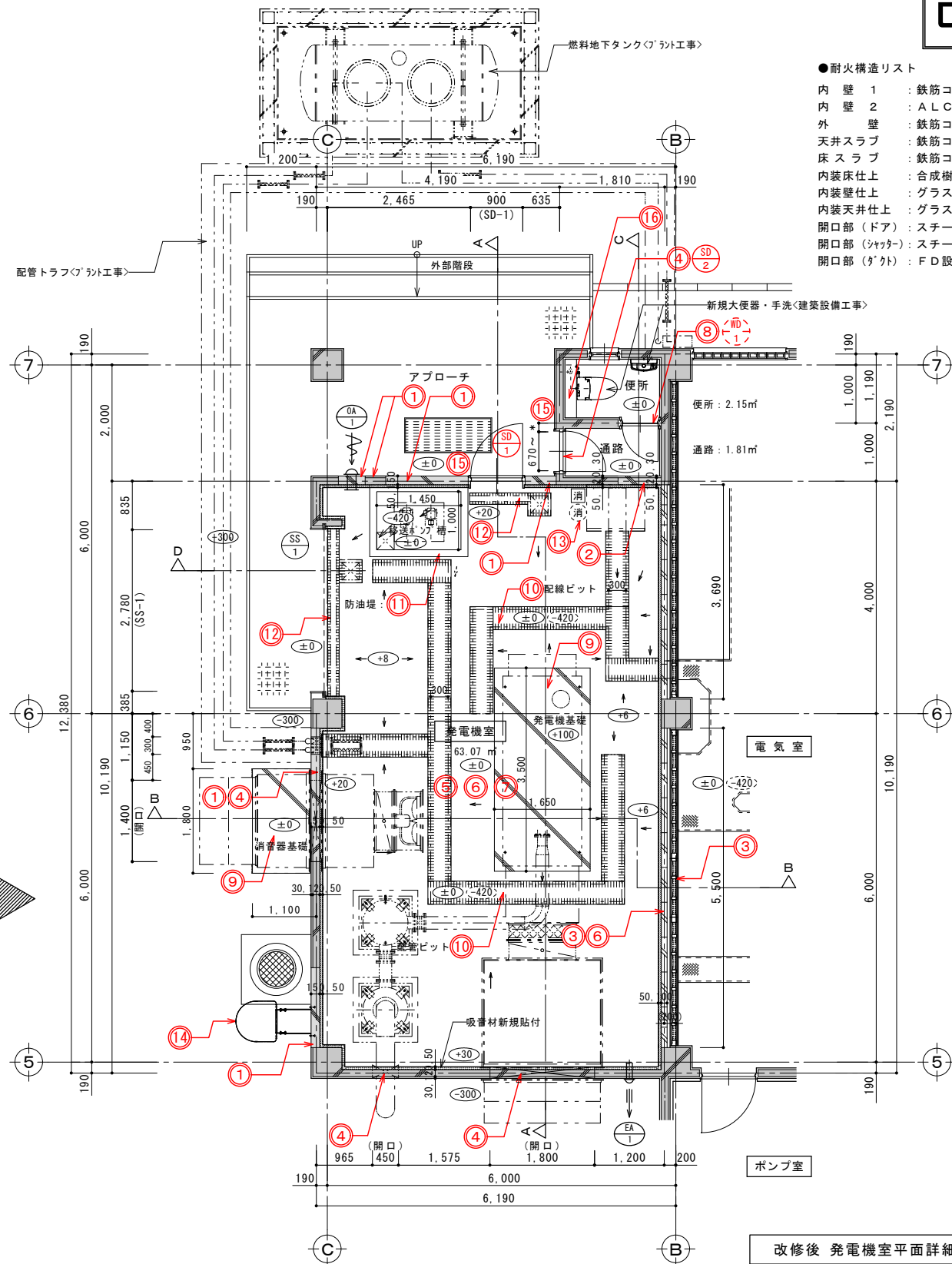
外壁：鉄筋コンクリート壁t=120 + モルタルt=30

発電機更新に関する建築撤去解体工事

- ① 建具撤去(外部)
- ② 建具撤去(室内RC部)
- ③ 建具撤去(室内LGS部)
- ④ 設備・建具開口用外壁解体
- ⑤ 床解体撤去(配線ピット共)
- ⑥ 壁下地撤去
- ⑦ 天井下地撤去
- ⑧ WD-1: 障子撤去
- ⑨ ~ ⑮ は非該当
- ⑯ 和式便器床廻り撤去



改修後

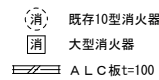


改修後 発電機室平面詳細図 S=1/50

発電機更新に関する建築改修工事

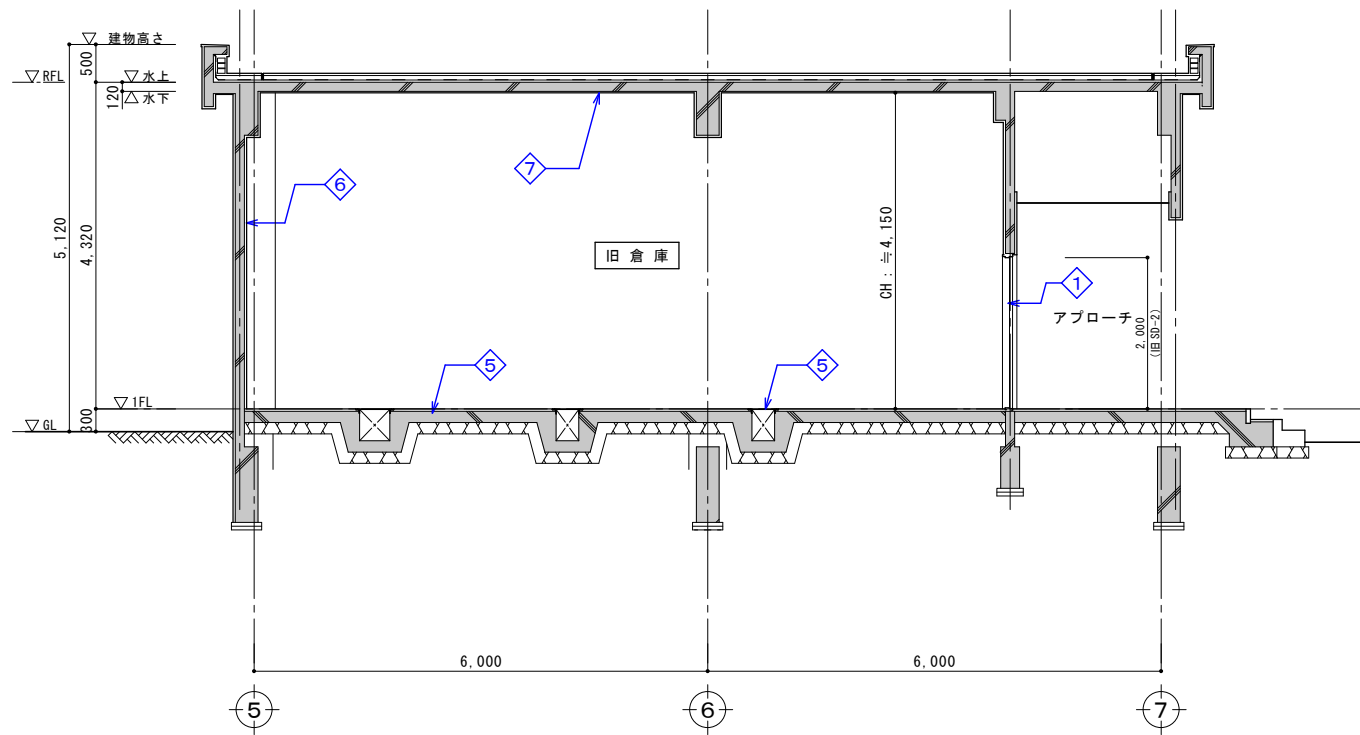
- ① 外壁閉塞の上、外壁塗装(一部建具設置)
- ② 室内壁(RC)閉塞の上、内部仕上
- ③ ALC壁新設/耐火壁閉塞の上、内部仕上
- ④ 設備・建具用開口部設置
- ⑤ 床廻り一式新設(合成樹脂塗床共)
- ⑥ 壁廻り吸音板貼付
- ⑦ 天井廻り吸音板貼付
- ⑧ 建具障子更新(開き勝手変更)
- ⑨ 発電機基礎(杭共)・消音機基礎(コマ基礎共)新設
- ⑩ 配線/配管ピット新設(グレーチング蓋・枠共)
- ⑪ 防油堤新設(移送ポンプ槽廻り)
- ⑫ 排水側溝・溜枳新設(グレーチング・枠共)
- ⑬ 大型消火器 新設 / 10型消火器 既存移設
- ⑭ 屋上点検タフ新設(7M・安全カゴ付)
- ⑮ 室名札新設
- ⑯ 大便器廻り床 / 壁・ライニング工事

- #### ●耐火構造リスト
- 内 壁 1 : 鉄筋コンクリートt=120(耐火構造)
 - 内 壁 2 : ALCパネル t=100 (耐火構造)
 - 外 壁 : 鉄筋コンクリートt=120(耐火構造)
 - 天井スラブ : 鉄筋コンクリートt=120(耐火構造)
 - 床スラブ : 鉄筋コンクリートt=150(耐火構造)
 - 内装床仕上 : 合成樹脂塗床
 - 内装壁仕上 : グラスウール吸音板t=50 (不燃材)
 - 内装天井仕上 : グラスウール吸音板t=50 (不燃材)
 - 開口部(ドア) : スチール製自閉式特定防火設備
 - 開口部(シャッター) : スチール製常時閉鎖式特定防火設備
 - 開口部(ダクト) : F/D設置(煙突部除く) <プラント工事>

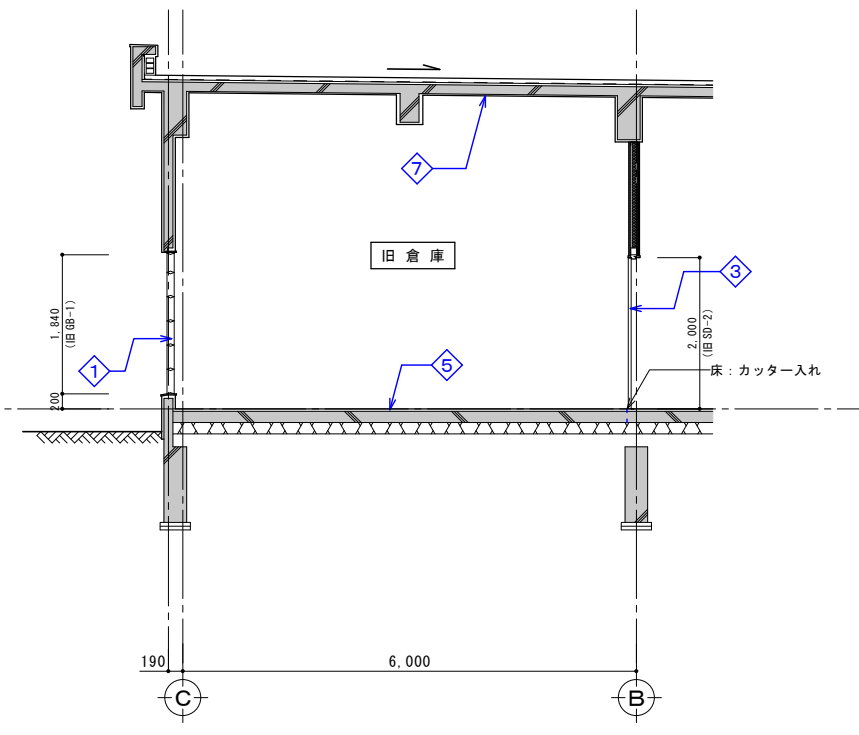


工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修平面図		
縮尺	S=1/50	単位	mm
図面番号	AA-09	図面番号	AA-22
事業主	松戸市水道部		

改修前



改修前 A-A断面図 S=1/50

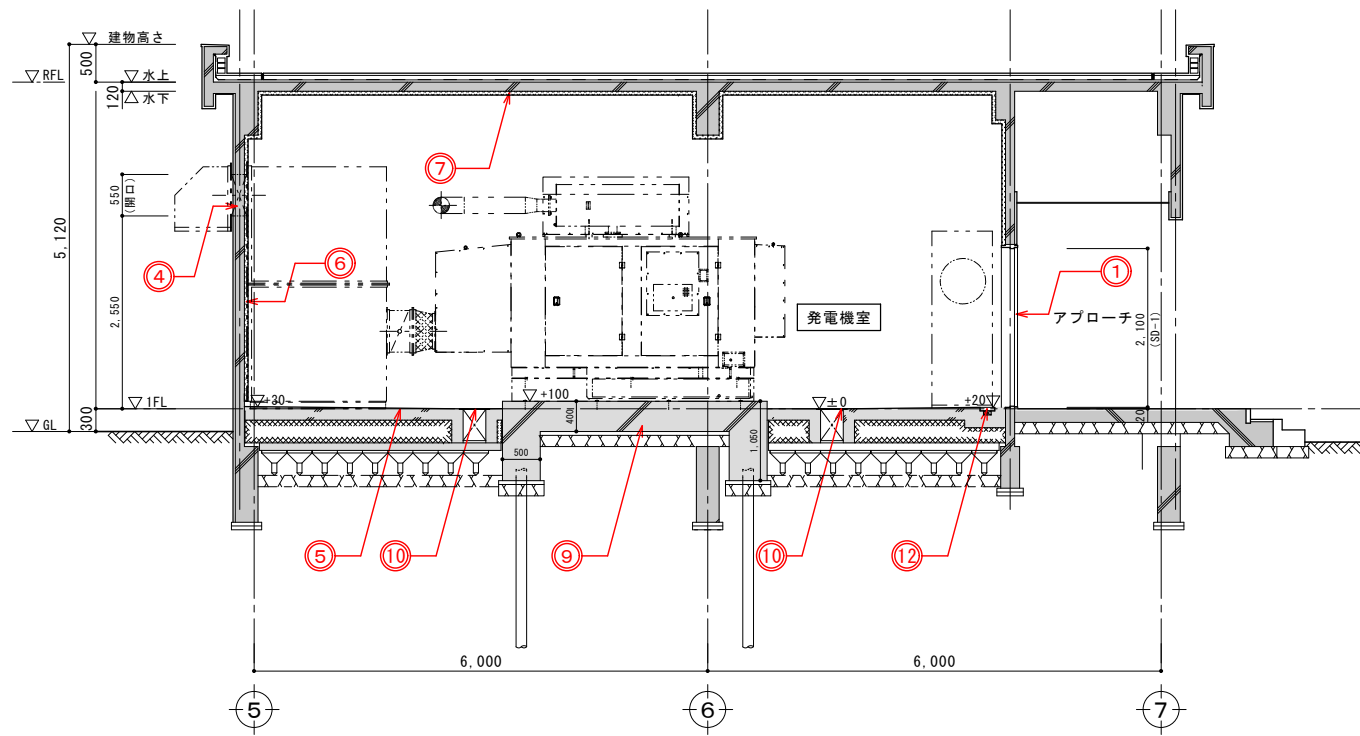


改修前 B-B断面図 S=1/50

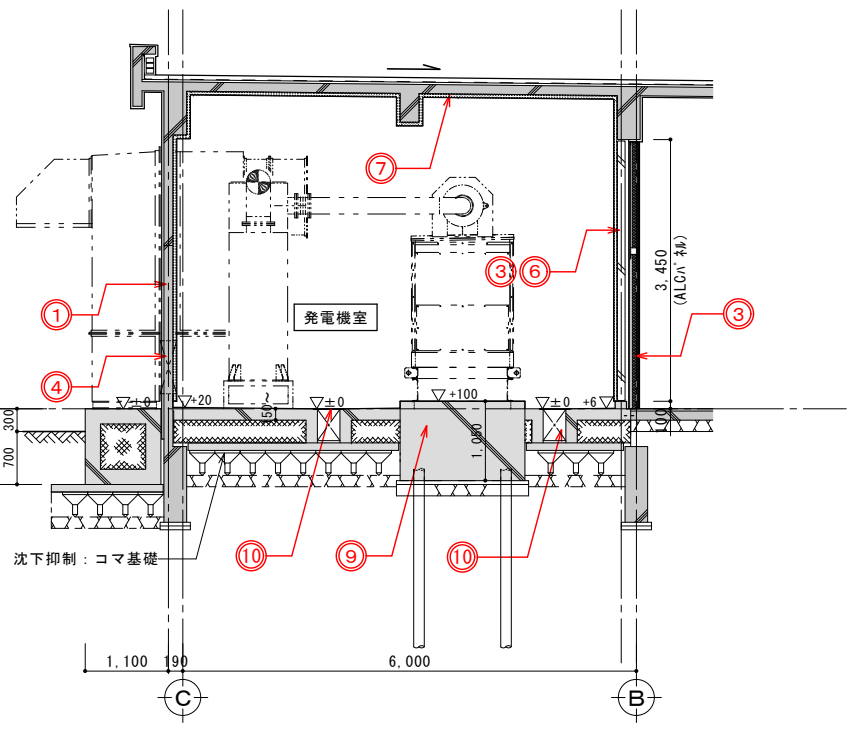
発電機更新に関わる建築撤去解体工事

- ① 建具撤去(外部)
- ② 建具撤去(室内RC部)
- ③ 建具撤去(室内LGS部)
- ④ 設備・建具開口用外壁解体
- ⑤ 床解体撤去(配線ビット共)
- ⑥ 壁下地撤去
- ⑦ 天井下地撤去
- ⑧ WD-1: 障子撤去
- ⑨ ~ ⑮ は非該当
- ⑯ 和式便器床廻り撤去

改修後



改修後 A-A断面図 S=1/50



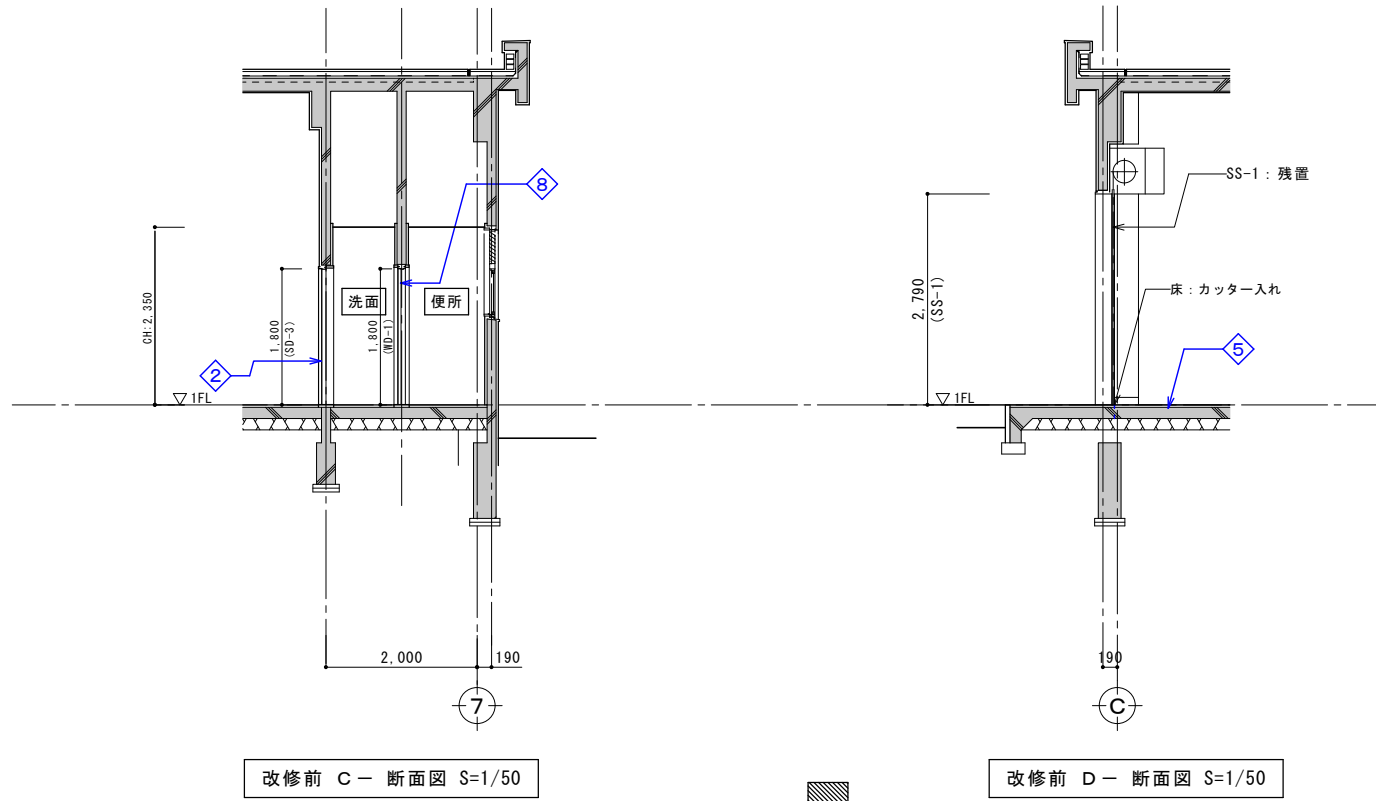
改修後 B-B断面図 S=1/50

発電機更新に関わる建築改修工事

- ① 外壁閉塞の上、外壁塗装(一部建具設置)
- ② 室内壁(RC)閉塞の上、内部仕上
- ③ ALC壁新設/耐火壁閉塞の上、内部仕上
- ④ 設備・建具用開口部設置
- ⑤ 床廻り一式新設(合成樹脂塗床共)
- ⑥ 壁廻り吸音板貼付
- ⑦ 天井廻り吸音板貼付
- ⑧ 建具障子更新(開き勝手変更)
- ⑨ 発電機基礎(杭共)・消音機基礎(コマ基礎共)新設
- ⑩ 配線/配管ビット新設(グレーチング・蓋・枠共)
- ⑪ 防油堤新設(移送ポンプ槽廻り)
- ⑫ 排油側溝・溜槽新設(グレーチング・枠共)
- ⑬ 大型消火器 新設 / 10型消火器 既存移設
- ⑭ 屋上点検タフ新設(アルミ・安全カゴ付)
- ⑮ 室名札新設
- ⑯ 大便器廻り床 / 壁・ライニング工事

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修断面図 1		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-10
事業主	松戸市水道部		図面番号 AA-22

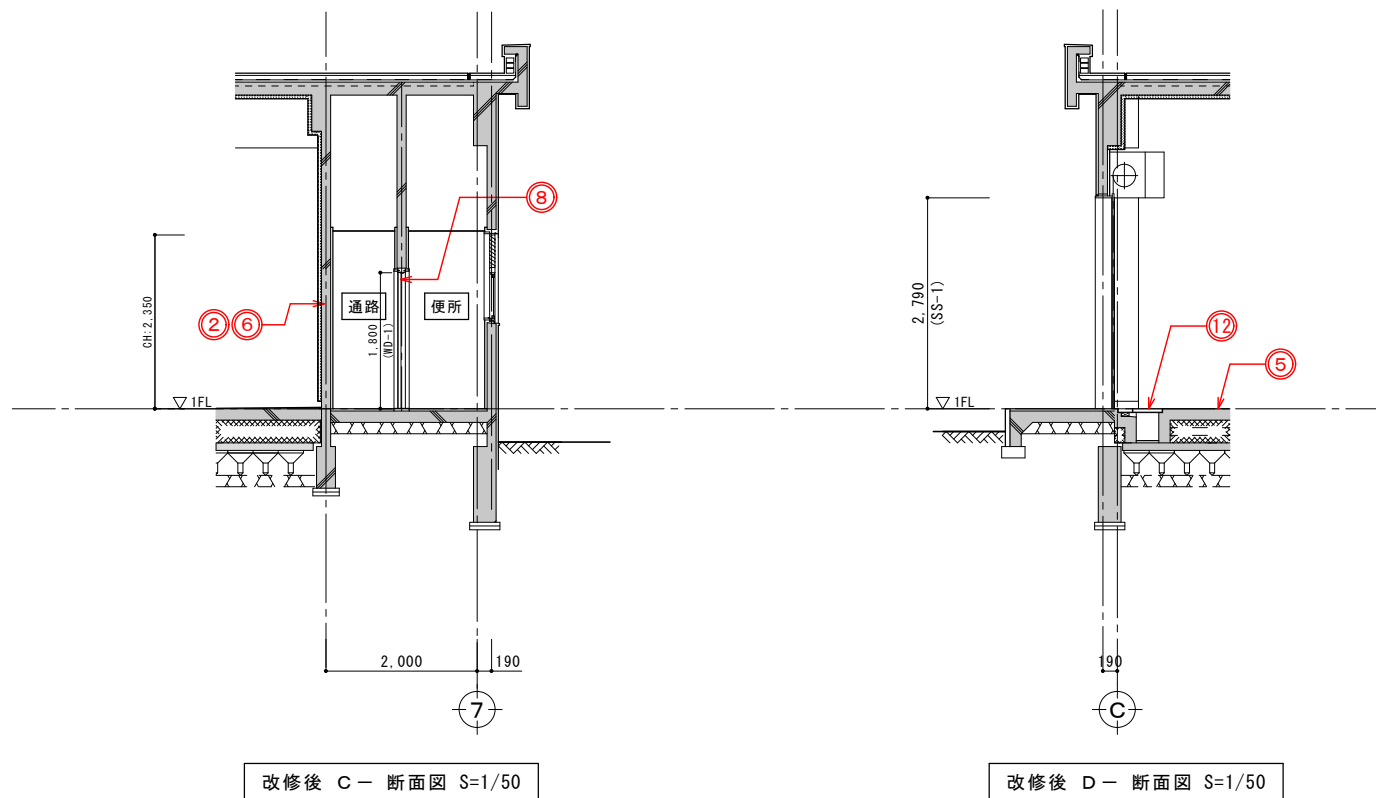
改修前



発電機更新に関わる建築撤去解体工事

- ① 建具撤去(外部)
- ② 建具撤去(室内RC部)
- ③ 建具撤去(室内LGS部)
- ④ 設備・建具開口用外壁解体
- ⑤ 床解体撤去(配線ピット共)
- ⑥ 壁下地撤去
- ⑦ 天井下地撤去
- ⑧ WD-1:障子撤去
- ⑨ ~ ⑮ は非該当
- ⑯ 和式便器床廻り撤去

改修後

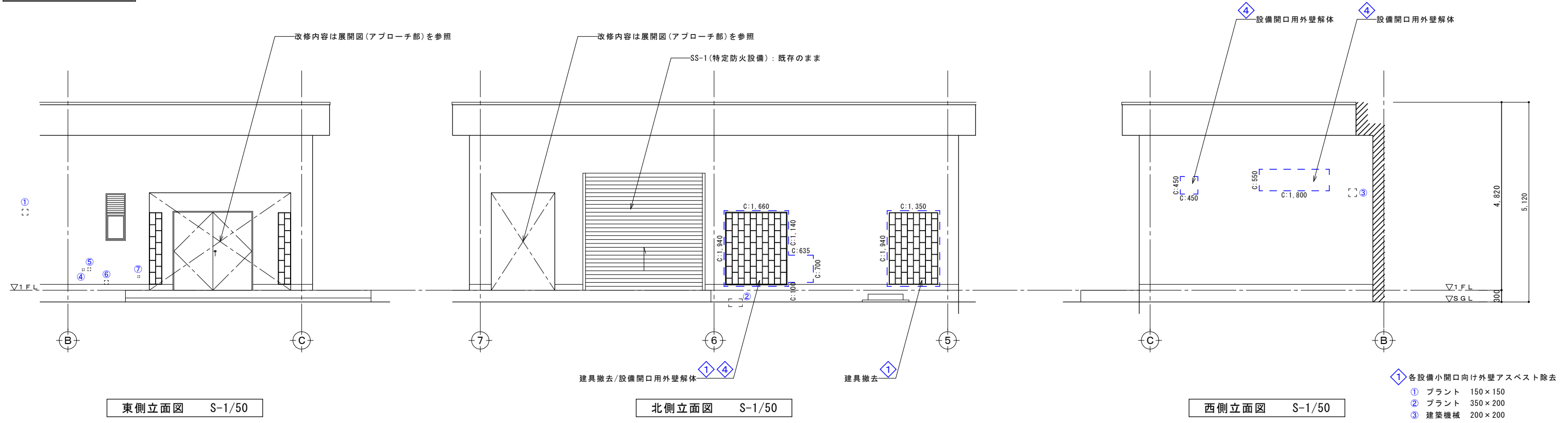


発電機更新に関わる建築改修工事

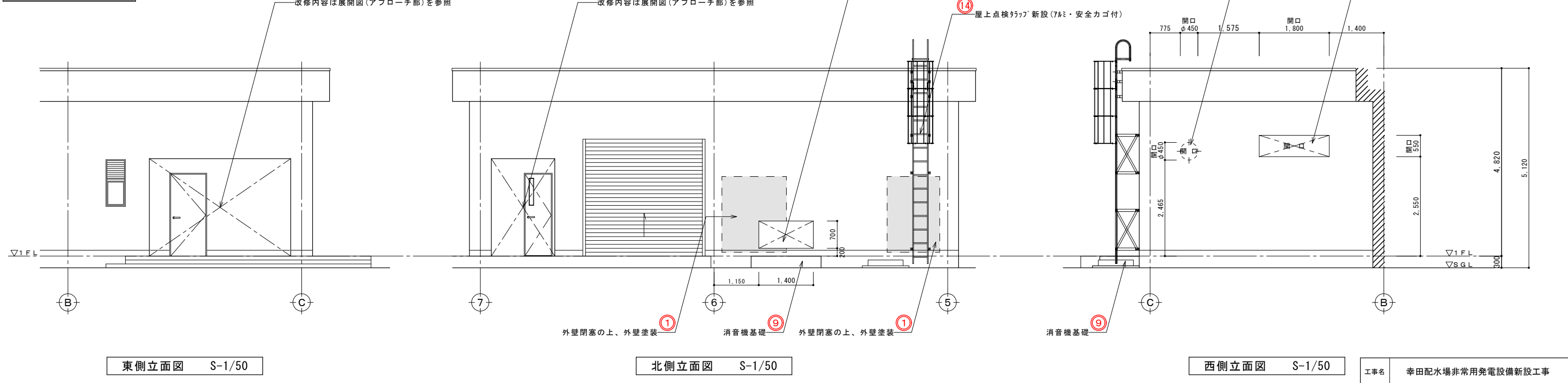
- ① 外壁閉塞の上、外壁塗装(一部建具設置)
- ② 室内壁(RC)閉塞の上、内部仕上
- ③ ALC壁新設/耐火壁閉塞の上、内部仕上
- ④ 設備・建具用開口部設置
- ⑤ 床廻り一式新設(合成樹脂塗床共)
- ⑥ 壁廻り吸音板貼付
- ⑦ 天井廻り吸音板貼付
- ⑧ 建具障子更新(開き勝手変更)
- ⑨ 発電機基礎(杭共)・消音機基礎(コマ基礎共)新設
- ⑩ 配線/配管ピット新設(グレーチング蓋・枠共)
- ⑪ 防油堤新設(移送ホップ槽廻り)
- ⑫ 排油側溝・溜槽新設(グレーチング・枠共)
- ⑬ 大型消火器 新設 / 10型消火器 既存移設
- ⑭ 屋上点検トラップ新設(アルミ・安全カゴ付)
- ⑮ 室名札新設
- ⑯ 大便器廻り床 / 壁・ライニング工事

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修断面図 2		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-11
事業主	松戸市水道部		AA-22

改修前

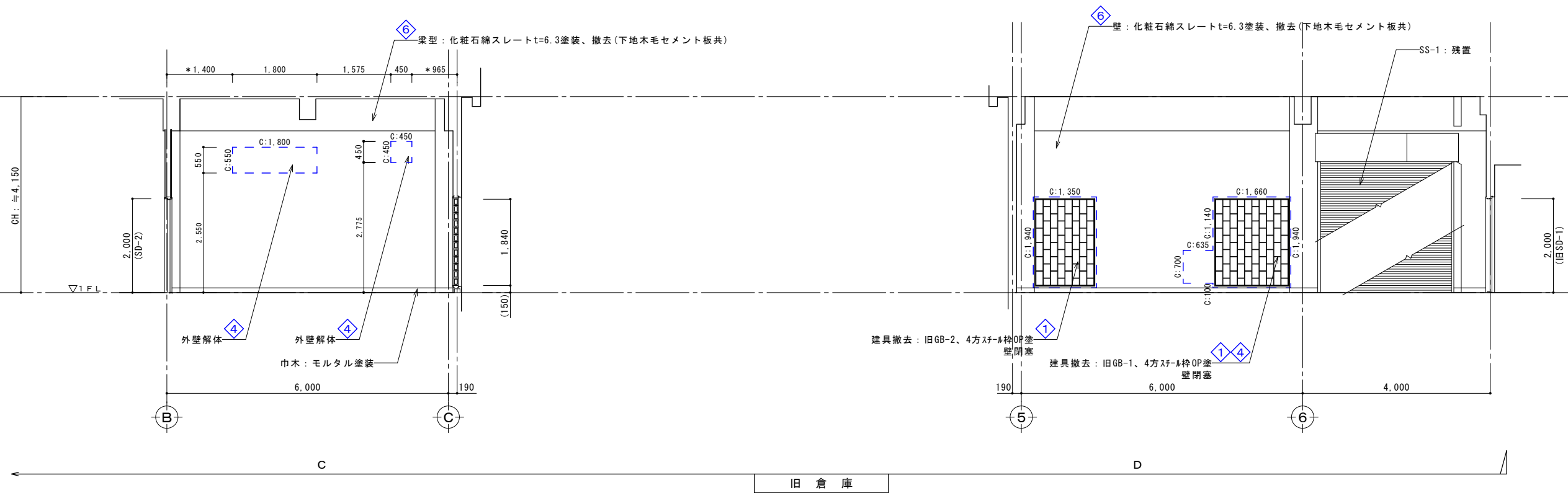
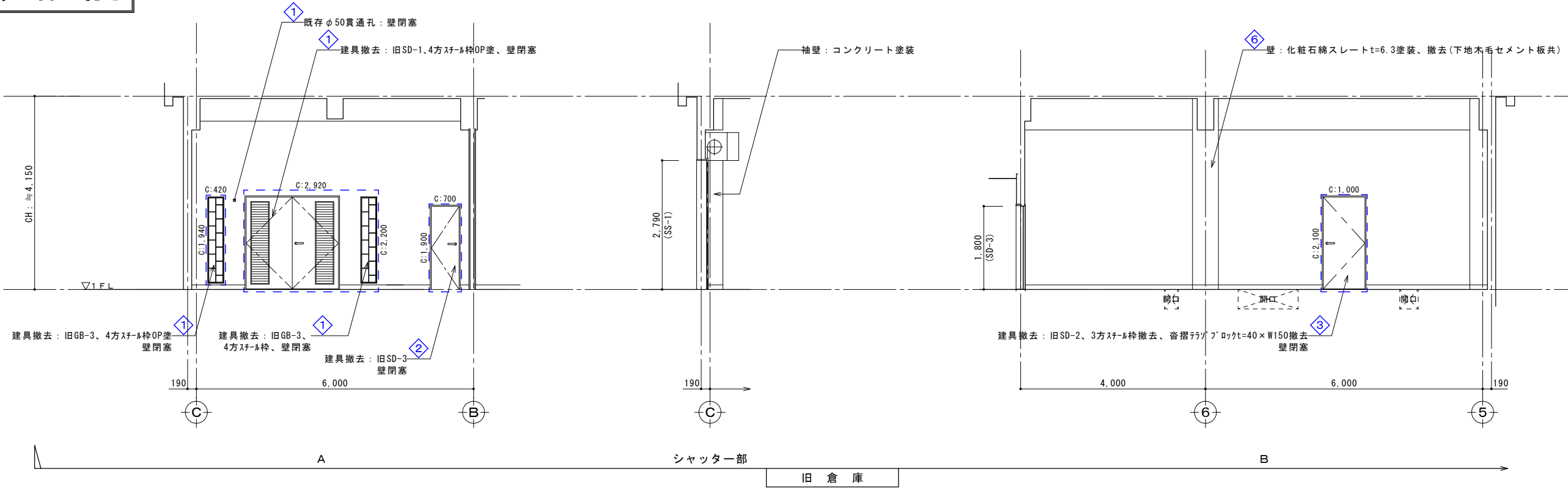


改修後



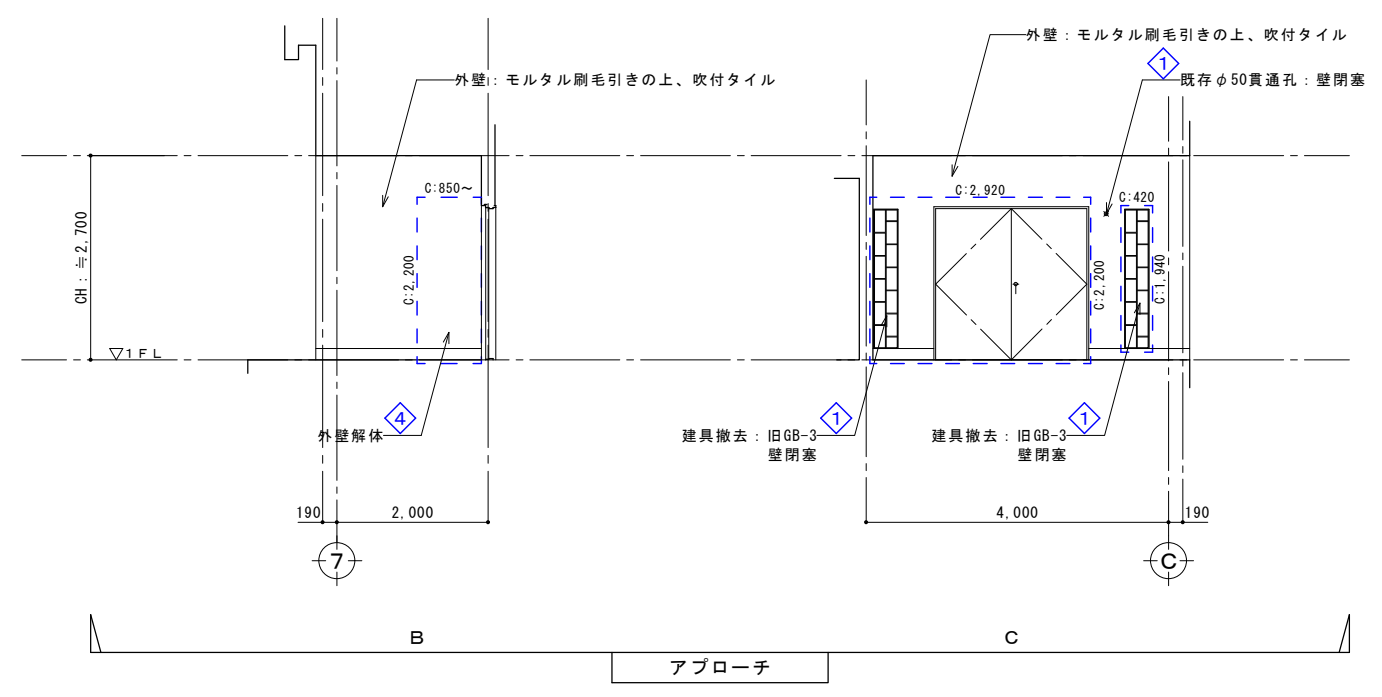
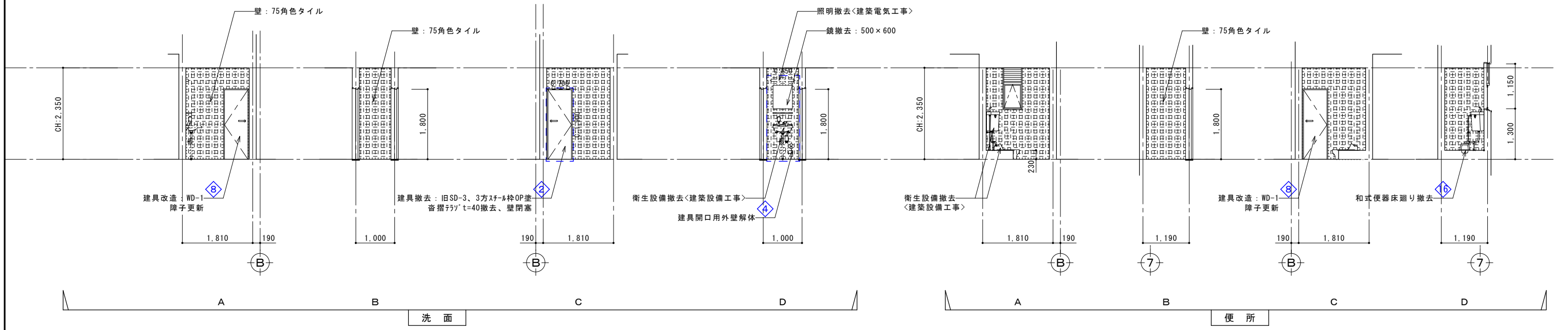
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修立面図		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-12
事業主	松戸市水道部		図面番号 AA-22

改修前



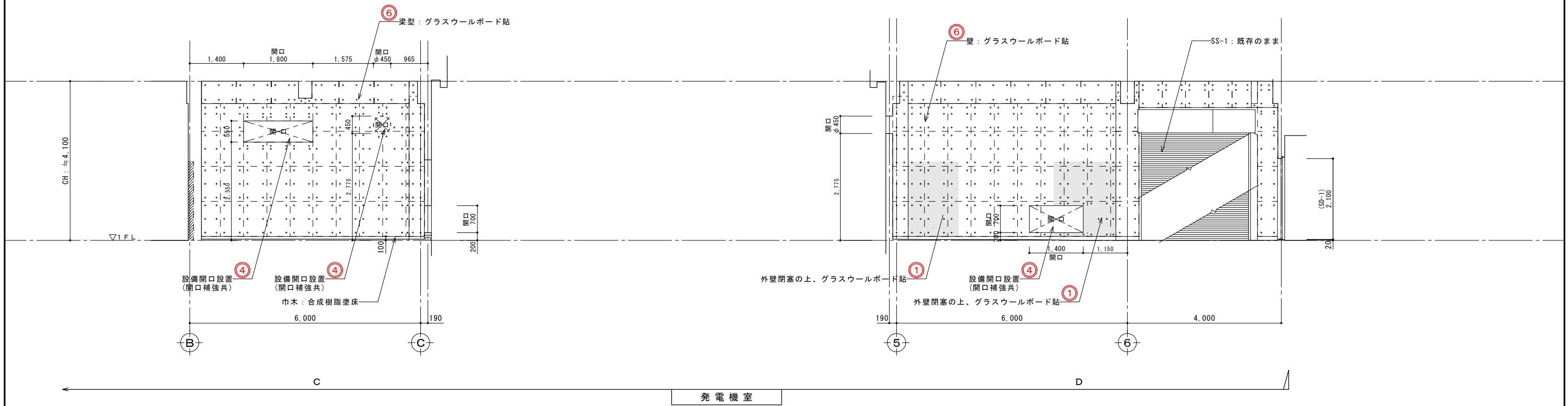
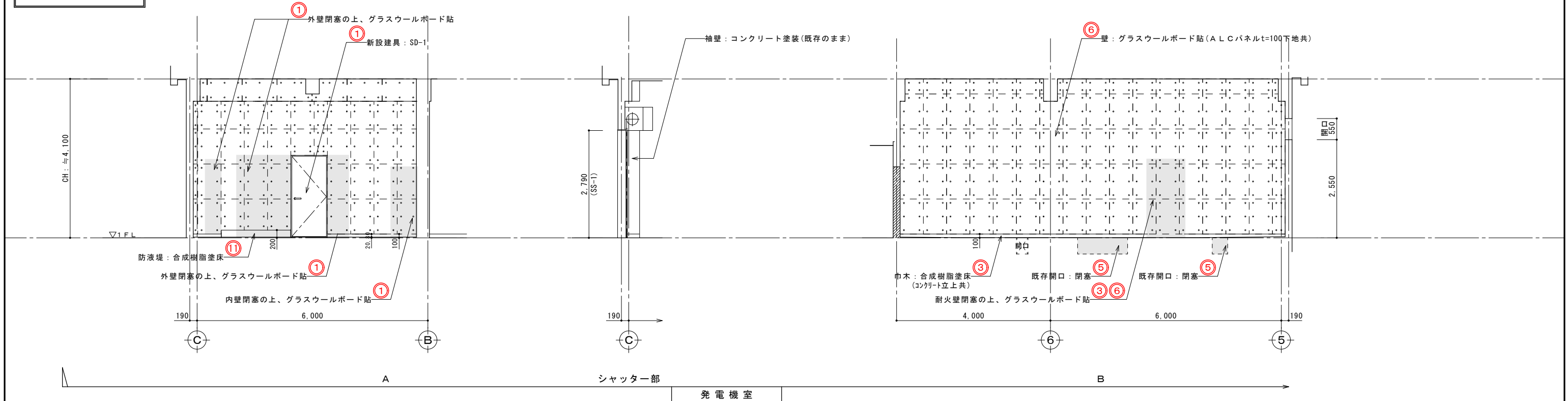
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修展開図1 (改修前)		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-13
事業主	松戸市水道部		AA-22

改修前



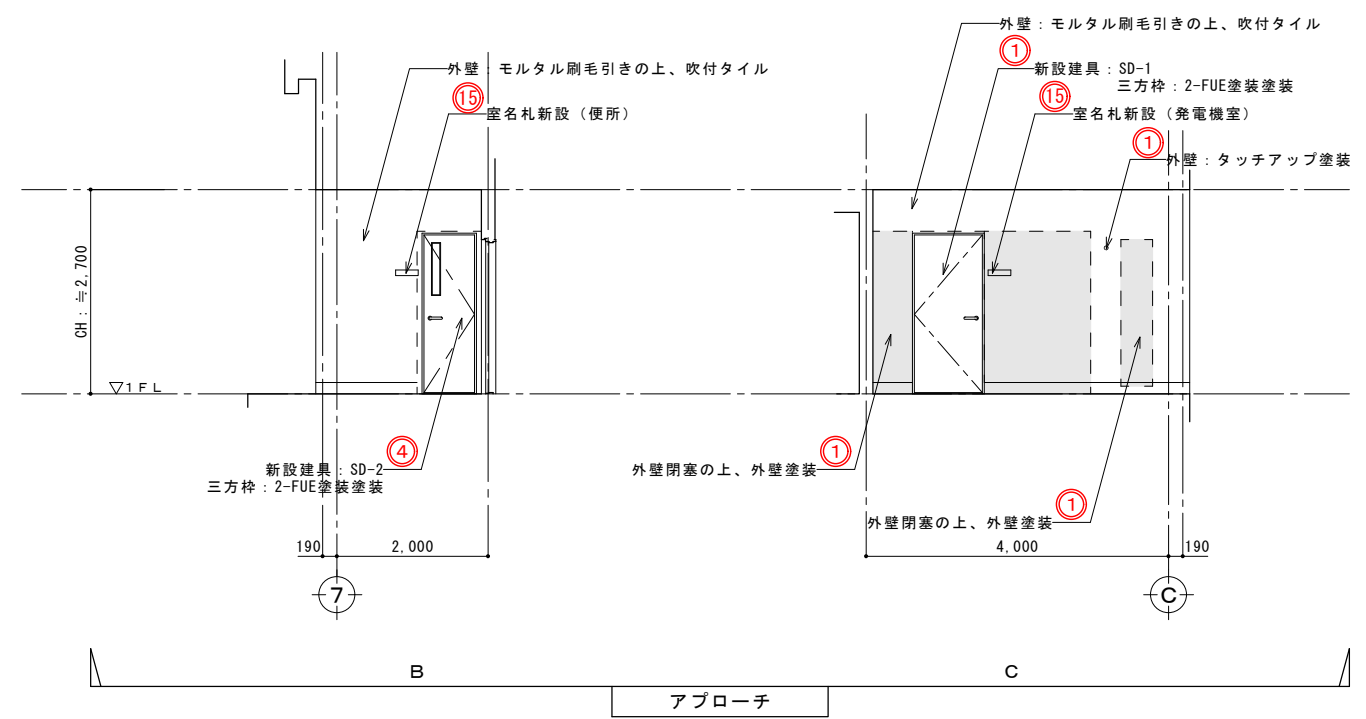
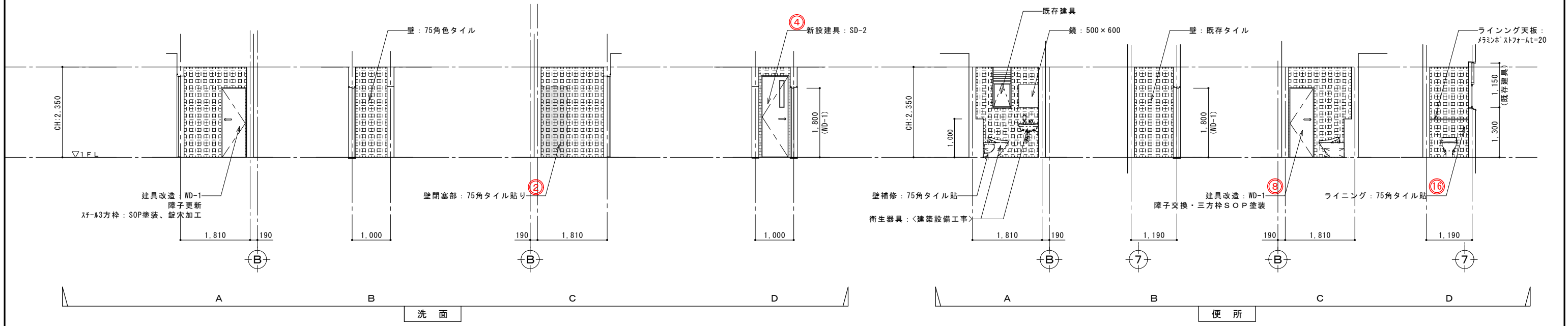
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修展開図2 (改修前)		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-14
事業主	松戸市水道部		AA-22

改修後



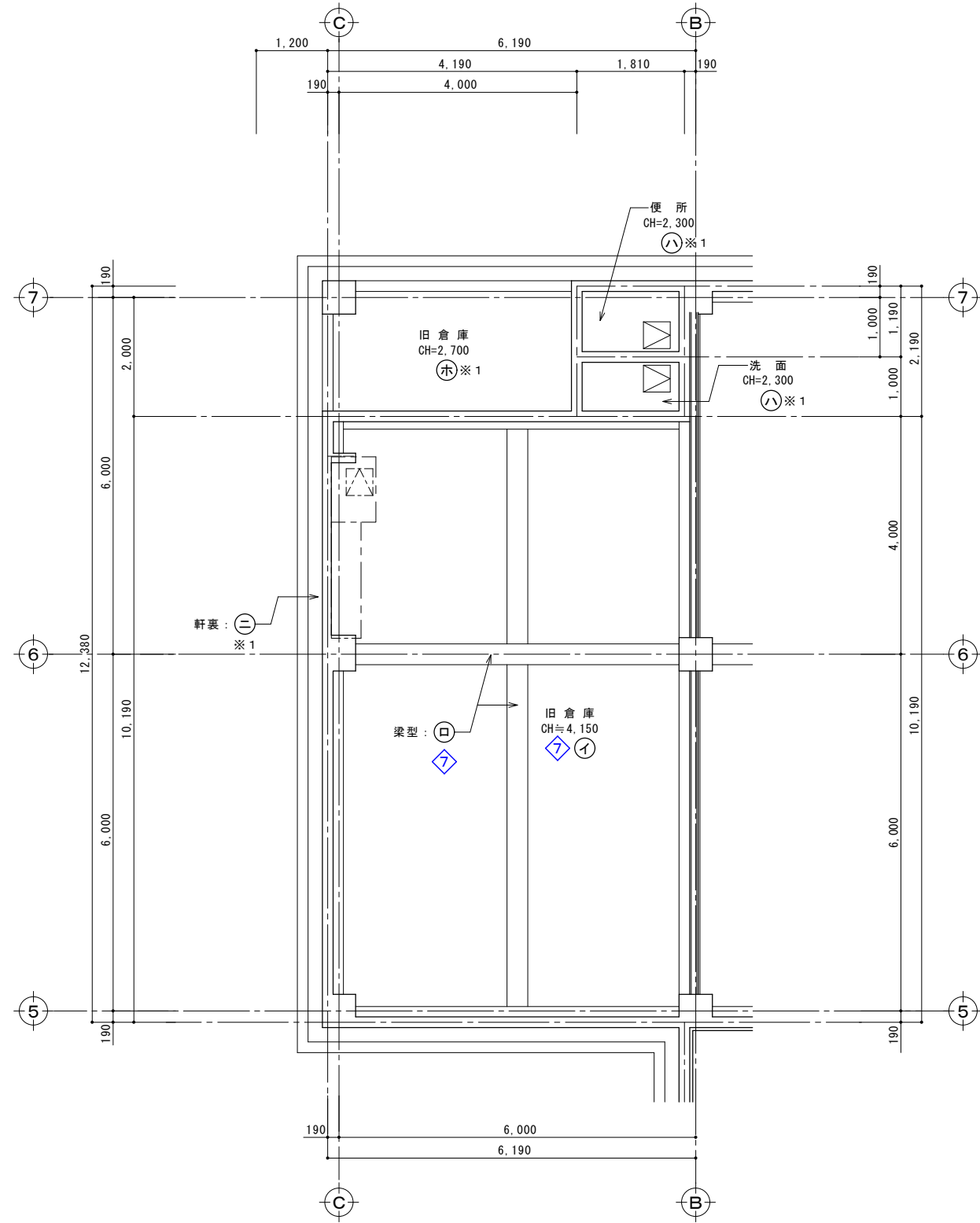
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修展開図3 (改修後)		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-15
事業主	松戸市水道部		AA-22

改修後



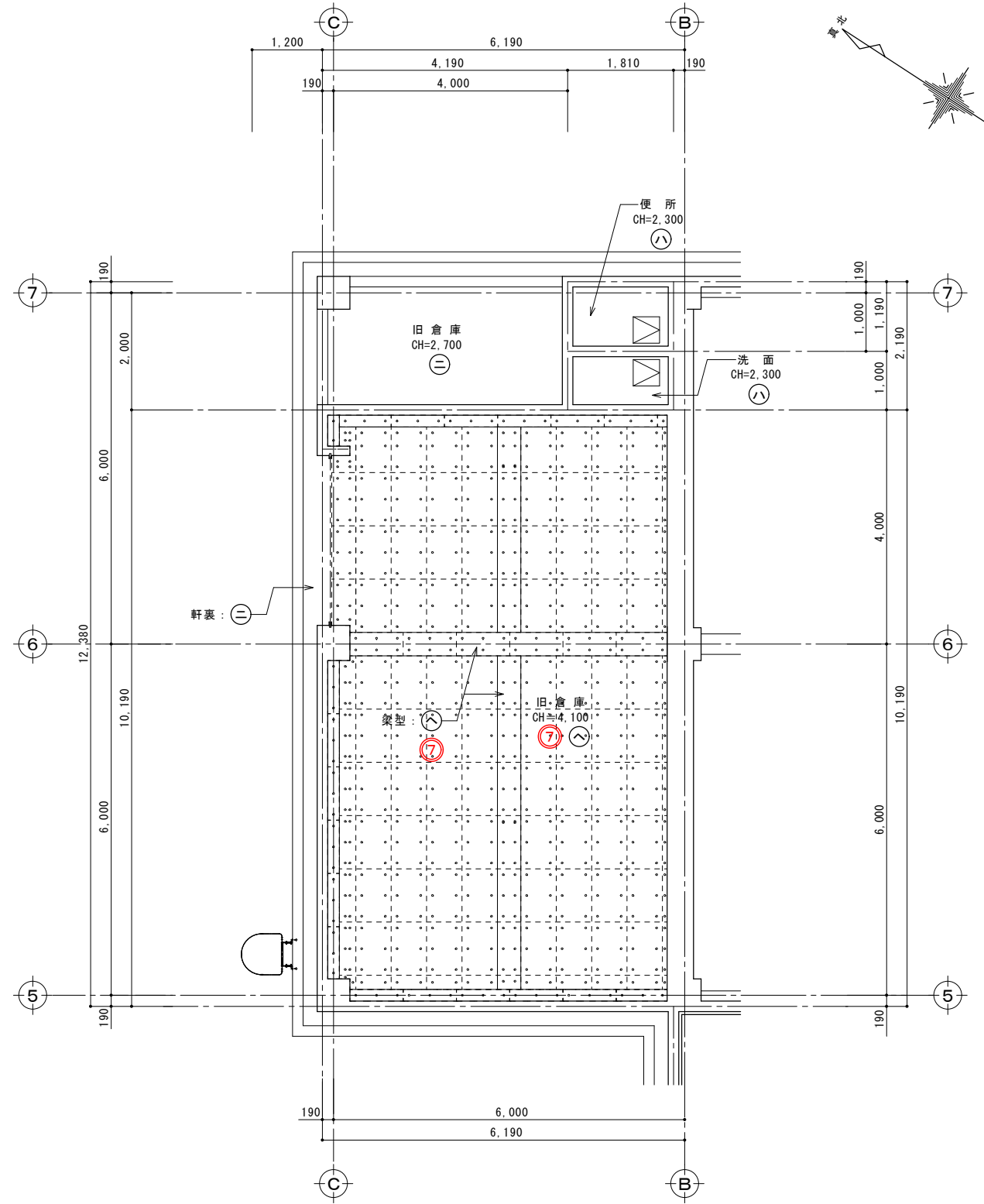
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修展開図4 (改修後)		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-16
事業主	松戸市水道部		図面番号 AA-22

改修前



改修前 発電機室天井伏図 S=1/50

改修後



改修後 発電機室天井伏図 S=1/50

仕上凡例

①	木毛セメント板t=20の上、白セメント吹付	撤去
②	木毛セメント板t=25の上、化粧石綿スレートt=6.3	撤去
③	大平板t=5.0 ステップル模様	※1
④	リシン吹付	※1
⑤	アルミモールディング	※1
⑥	ガラスウールボードガラスクロス巻ピン止め t=50	新設

※1 : 既存のままを示す

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修天井伏図		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AA-17
事業主	松戸市水道部		番号 AA-22

型式・数量	SD1 スチール両開きフラッシュドア 1箇所	SD2 スチール製片開きフラッシュドア 1箇所	SD3 スチール製片開きフラッシュドア 1箇所	GR1 スチール製ガラスブロック枠(室内のみ) 1箇所	GR2 スチール製ガラスブロック枠(室内のみ) 1箇所	GR3 スチール製ガラスブロック枠(室内のみ) 2箇所
形状						
使用箇所	発電機室-外部	発電機室-電気室	発電機室-洗面	非常用発電機室-外部	非常用発電機室-外部	非常用発電機室-外部
材料仕上	スチール t=1.6 OP塗装	スチール t=1.6 OP塗装	スチール t=1.6 OP塗装	スチール4方枠(室内のみ)OP塗装	スチール4方枠(室内のみ)OP塗装	スチール4方枠(室内のみ)OP塗装
見込	扉40	枠100・扉40	扉40	95	95	95
ガラス	-	-	-	ガラスブロック145×295×95 (カスミ)	ガラスブロック145×295×95 (カスミ)	ガラスブロック145×295×95 (カスミ)
金物	ガラリ、付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
備考						

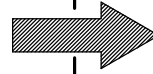
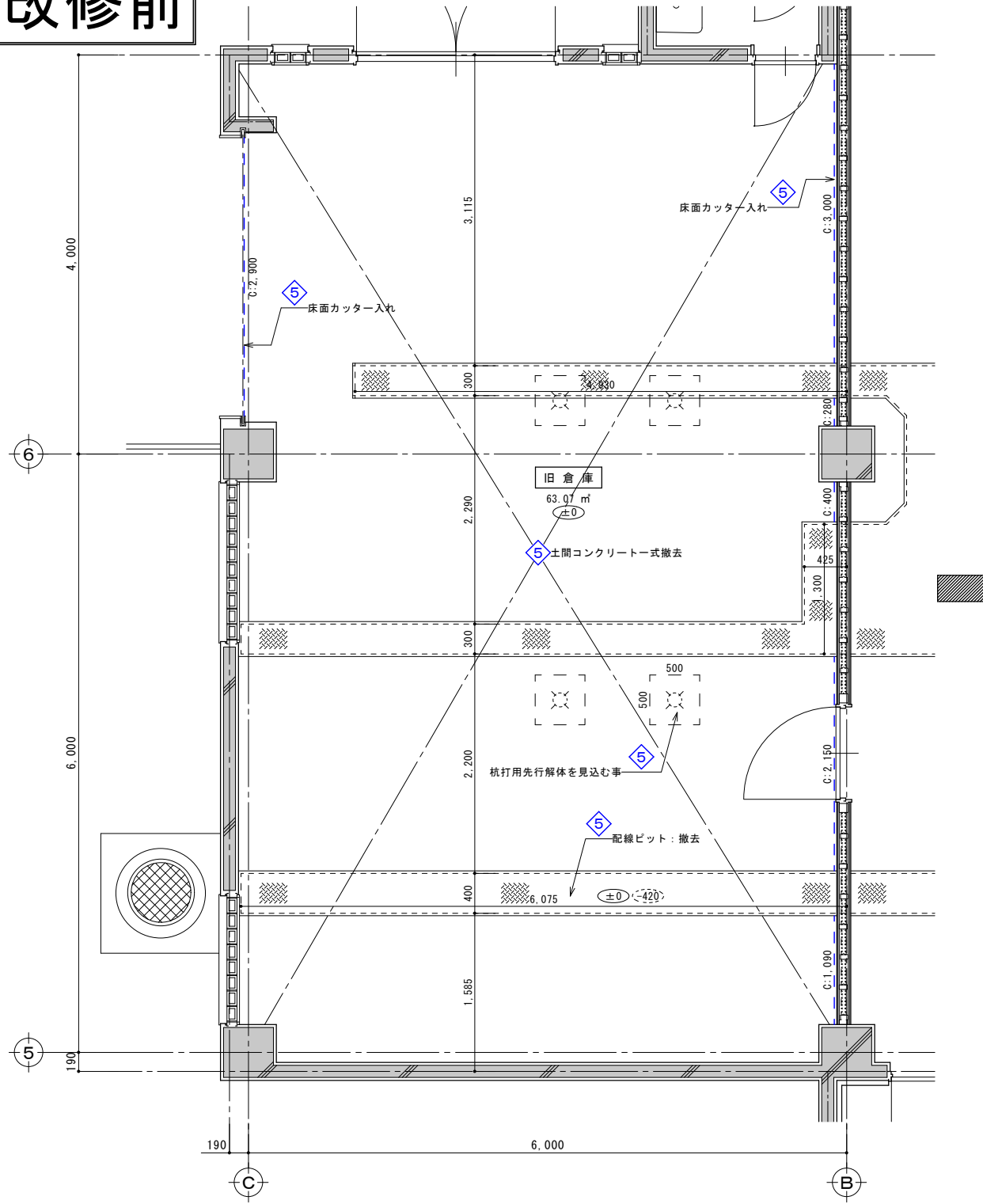
型式・数量	SS1 手動式重量シャッター 1箇所
形状	
使用箇所	発電機室 - 外部
材料仕上	スチールt=1.6 SOP塗装
見込	-
ガラス	-
金物	非常時安全装置、付属金物一式
備考	特定防火設備

型式・数量	SD1 スチール枠木製フラッシュドア 1箇所
形状	
使用箇所	洗面 - 便所
材料仕上	枠: スチール t=1.6 OP塗装 障子: 木製ボリ合板
見込	扉30
ガラス	-
金物	レバーハンドル、表示錠、サムターン、付属金物一式
備考	

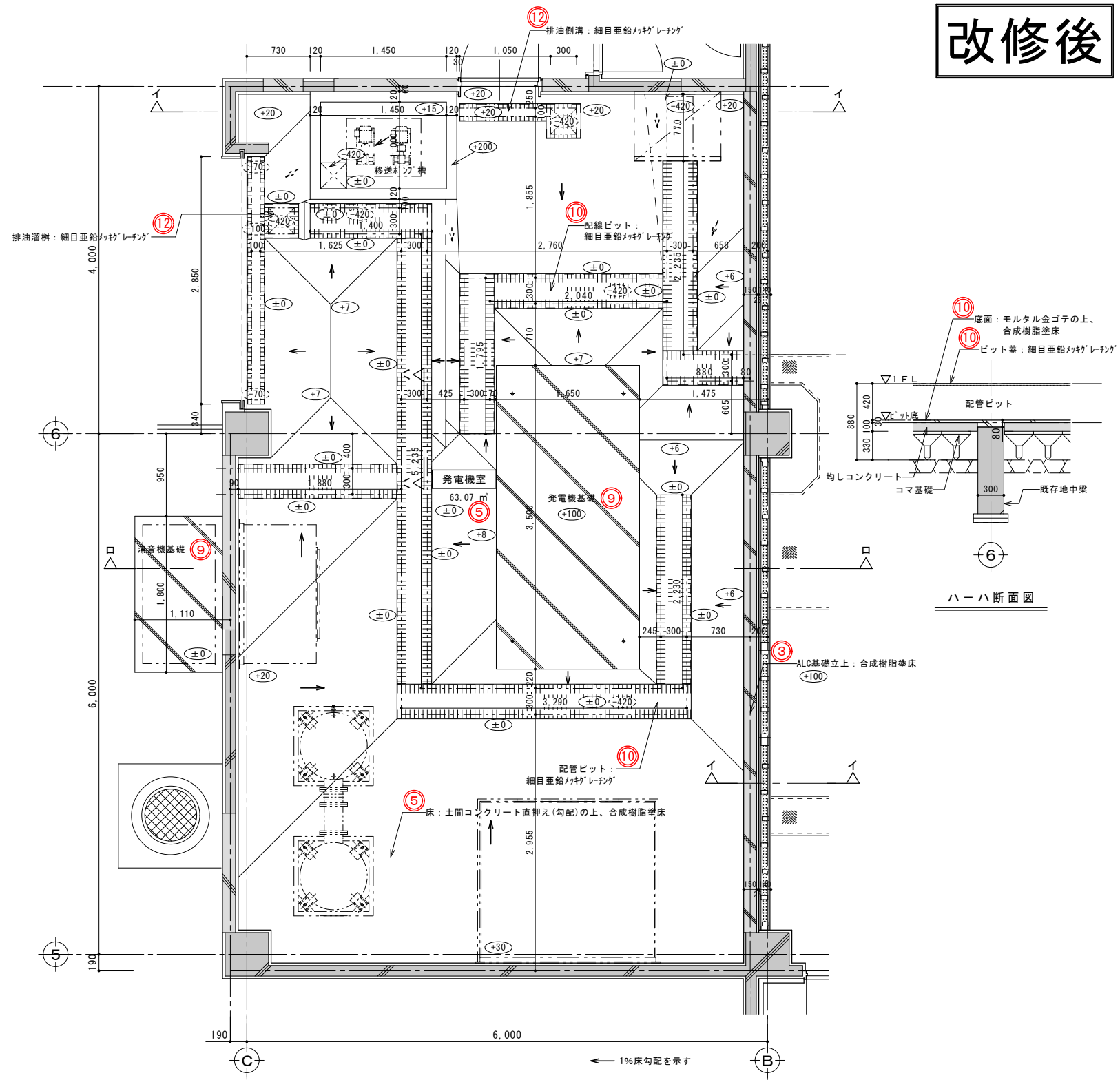
型式・数量	SD2 スチール製片開きフラッシュドア(AT) 1箇所	SD2 スチール製片開きフラッシュドア(内開き) 1箇所
形状		
使用箇所	発電機室-外部	通路 - アプローチ
材料仕上	スチールt=1.6 耐候性塗料塗 DP (A種)	スチールt=1.6 耐候性塗料塗 DP (A種)
見込	枠220・扉40(ロックウール充填)	枠220・扉40
ガラス	-	型板ガラスt=6.0
金物	丁番3枚用・ケースロック・レバーハンドル シリンダー錠、ドアクローザー・SUS沓摺・戸当り 3方枠、付属金物一式	丁番3枚用・ケースロック・レバーハンドル シリンダー錠、ドアチェック・SUS沓摺・戸当り 3方枠、付属金物一式
備考	特定防火設備(自閉式)、ロックウール充填(T2相当) 機械警備設置予定	

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事			
図面名称	改修建具表			
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号	AA-18
事業主	松戸市水道部			AA-22

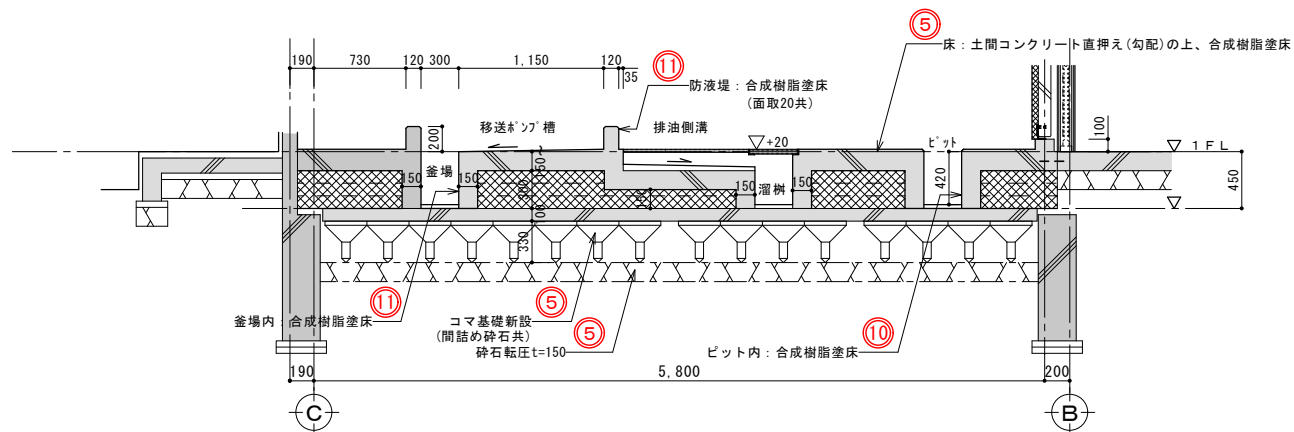
改修前



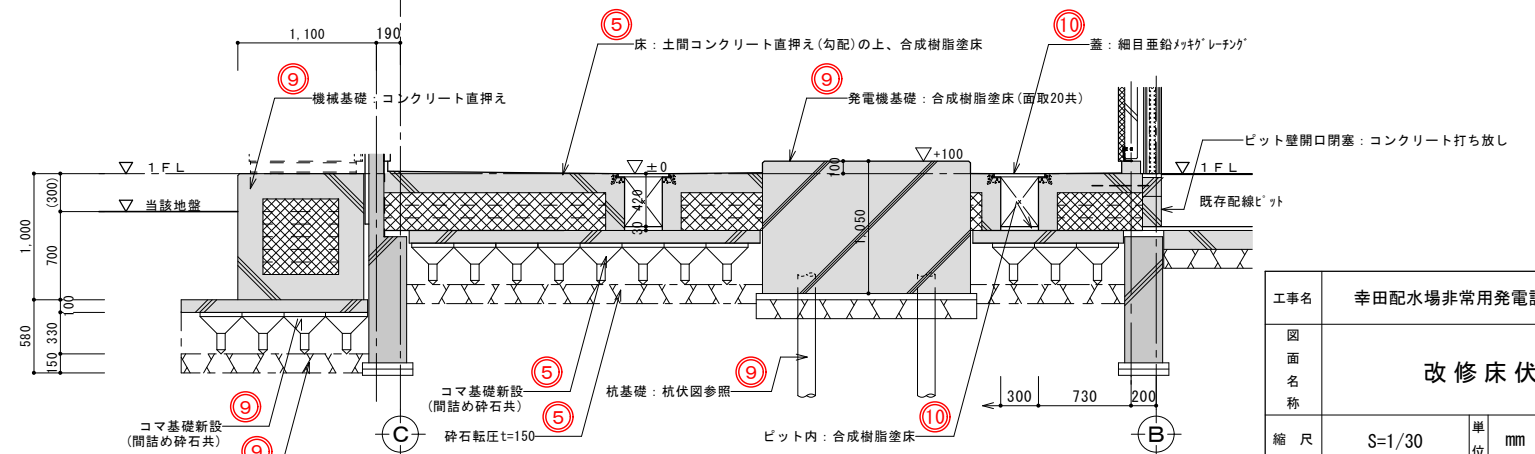
改修後



ハ－ハ断面図



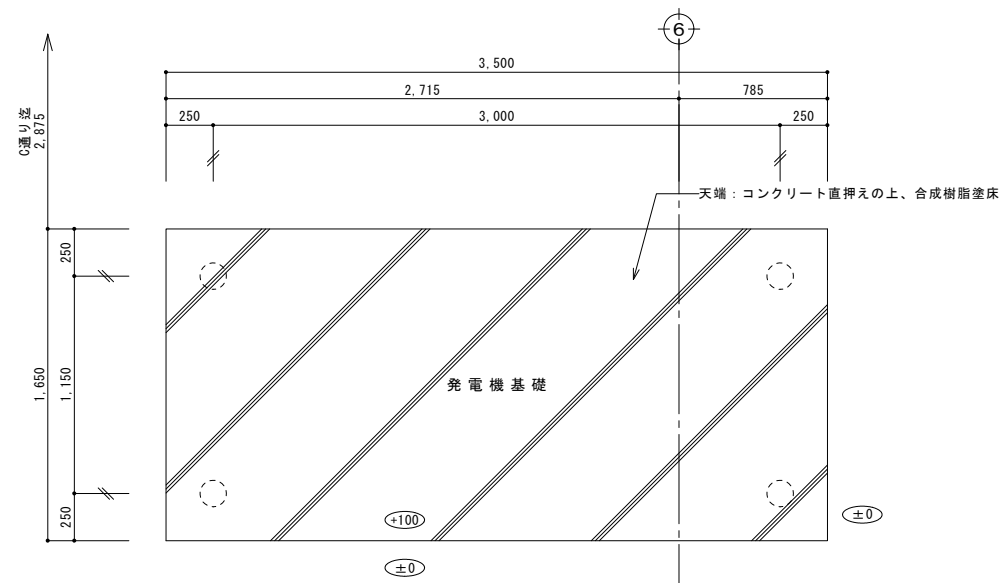
I-I 断面図



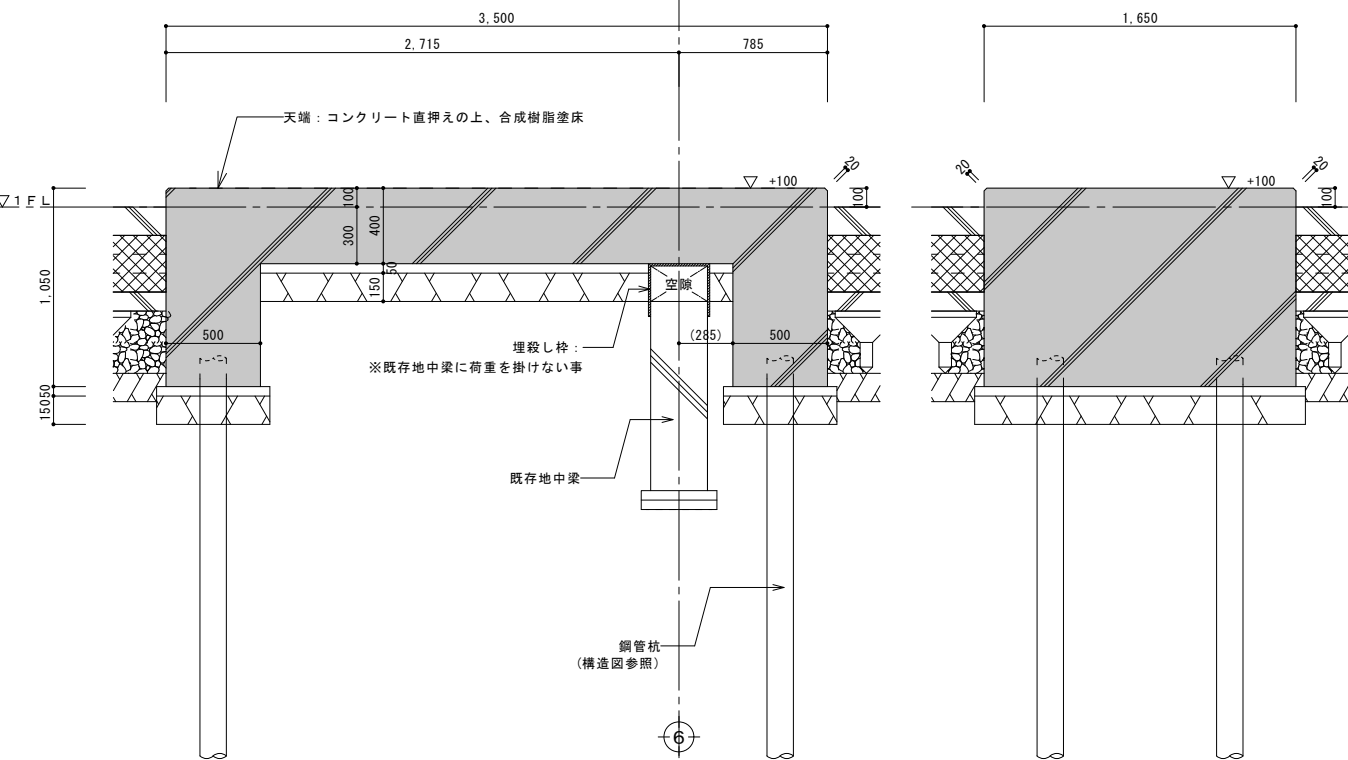
O-O 断面図

-- 差筋：D10 @400 L400

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	改修床伏図		
縮尺	S=1/30	単位	mm
図面番号	AA-19	図面番号	AA-22
事業主	松戸市水道部		

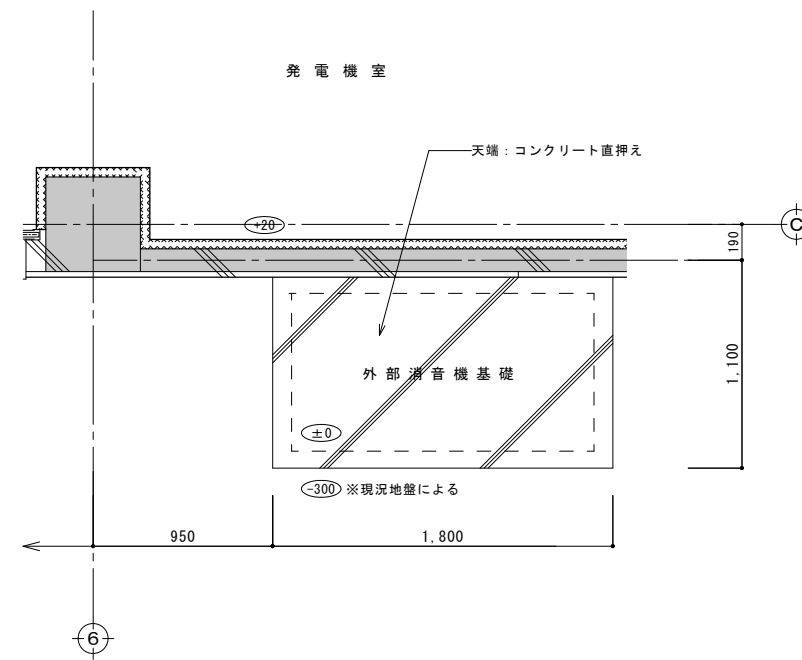


平面図 S=1/20

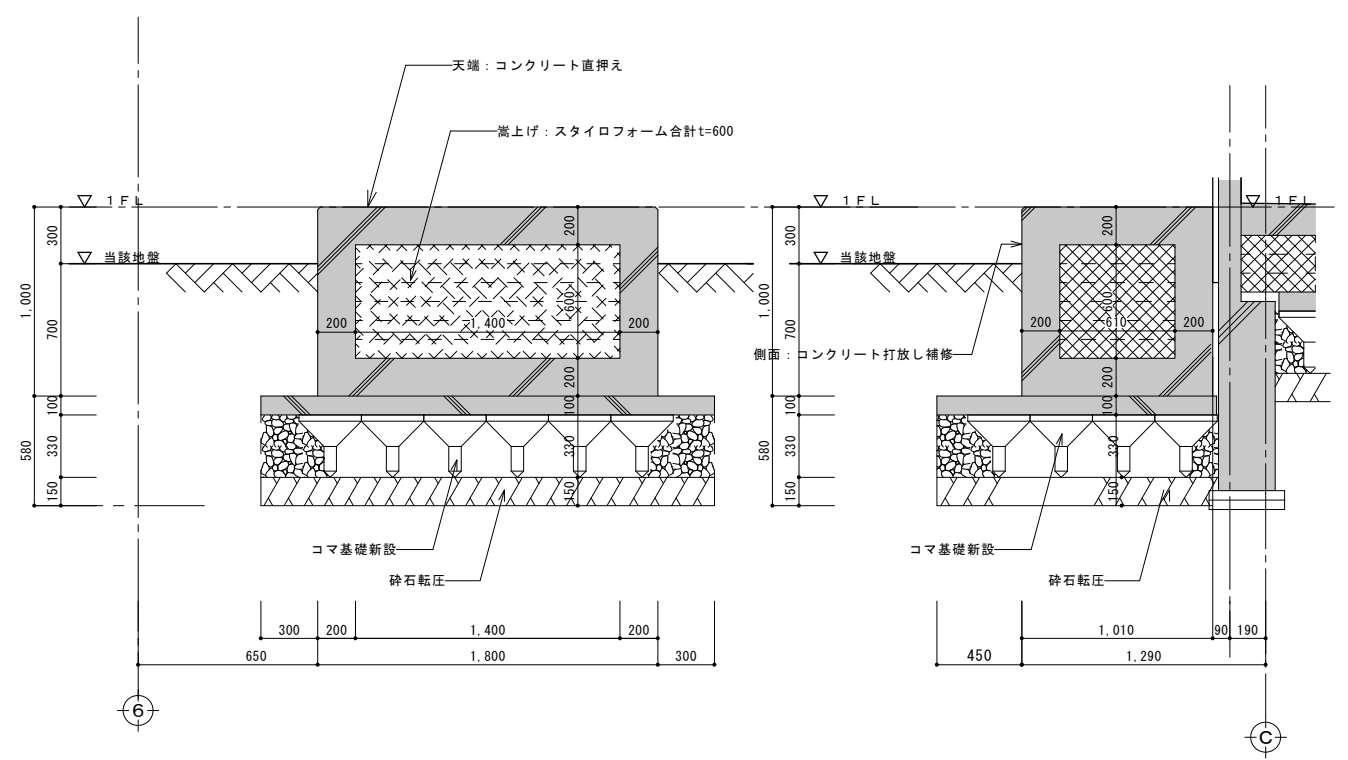


断面図 1 S=1/20

断面図 2 S=1/20



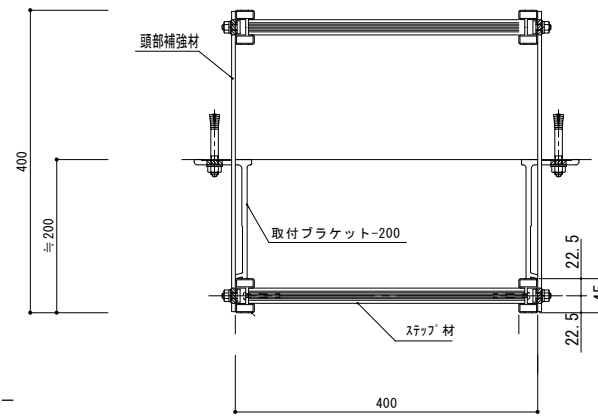
平面図 S=1/20



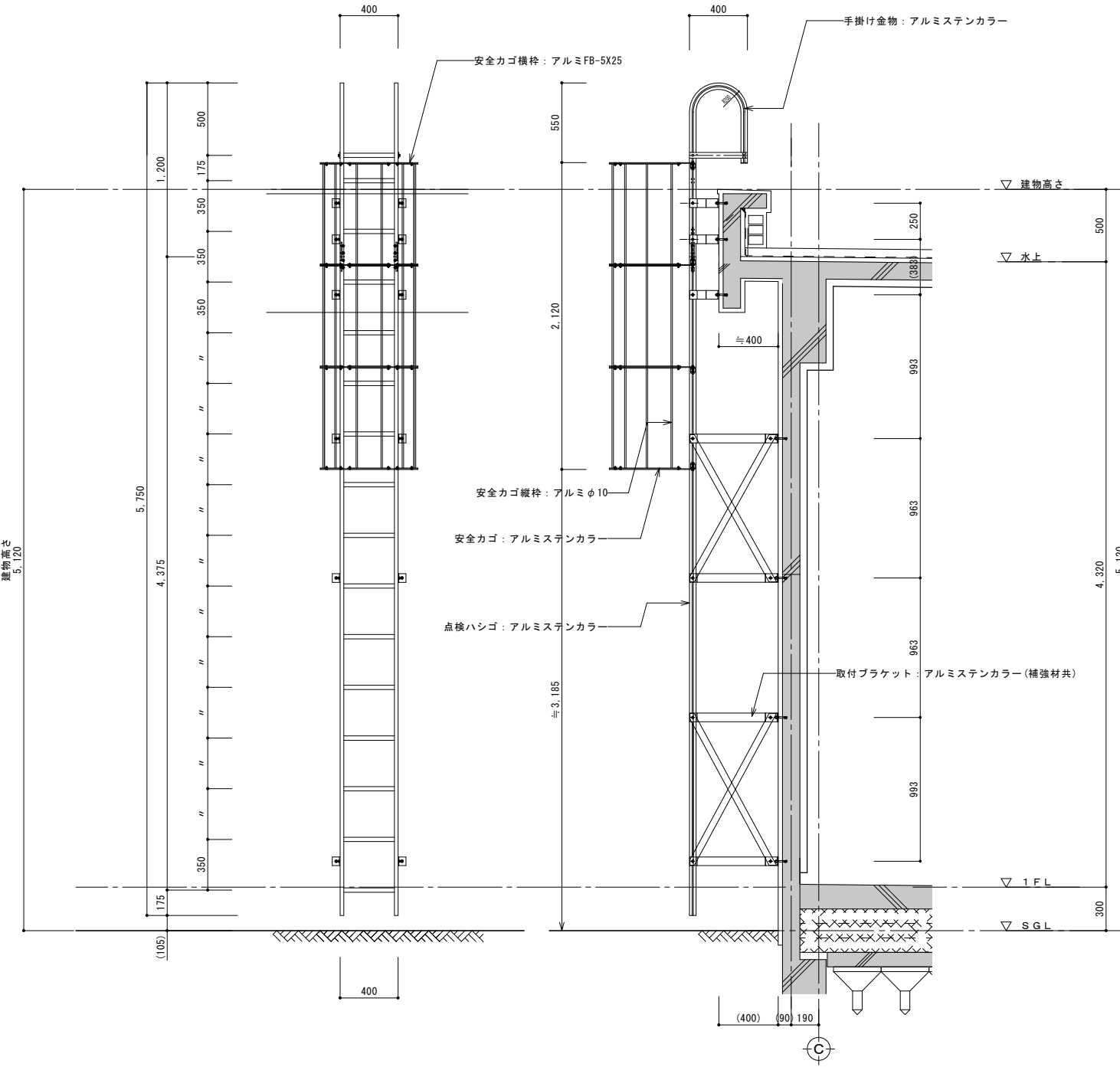
断面図 1 S=1/20

断面図 2 S=1/20

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	雑詳細図 1		
縮尺	S=1/20	単位 mm	図面番号 AA-20
事業主	松戸市水道部		図面番号 AA-22

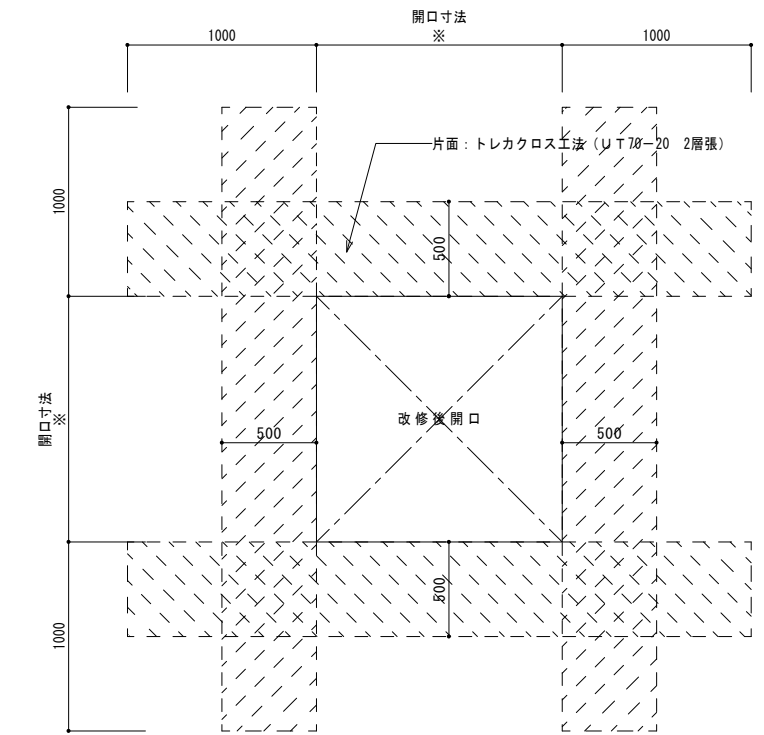


頭部手掛平面図 S=1/5

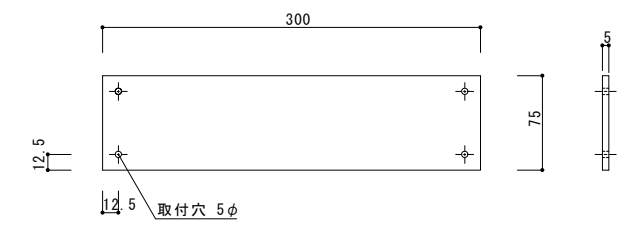


正面図 S=1/20

断面図 S=1/20

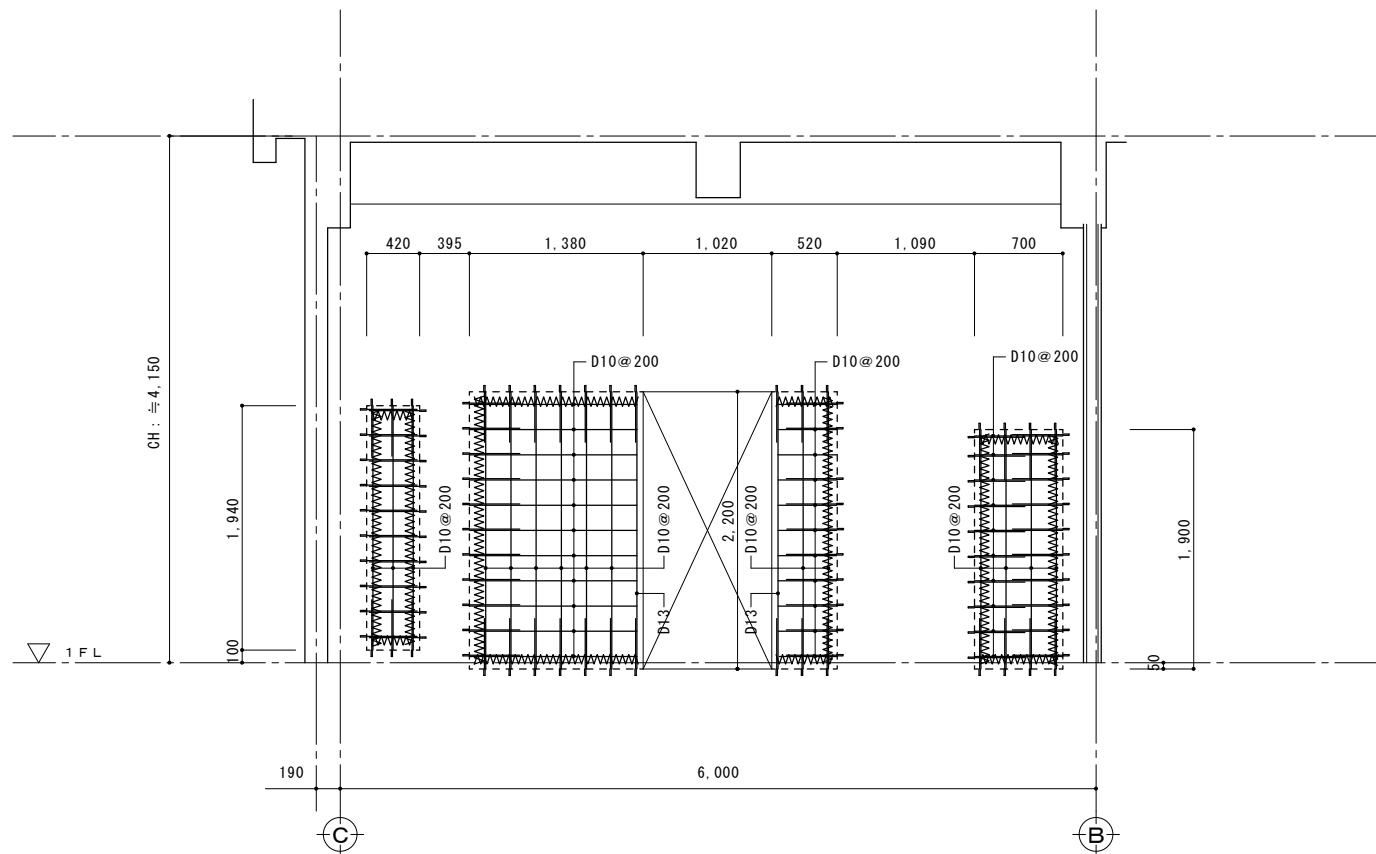


- ダクト1 : W1,800×H550(室内側片面施工)
- ダクト2 : W1,400×H700(室内側片面施工)
- ダクト3 : W 450×H450(室内側片面施工)

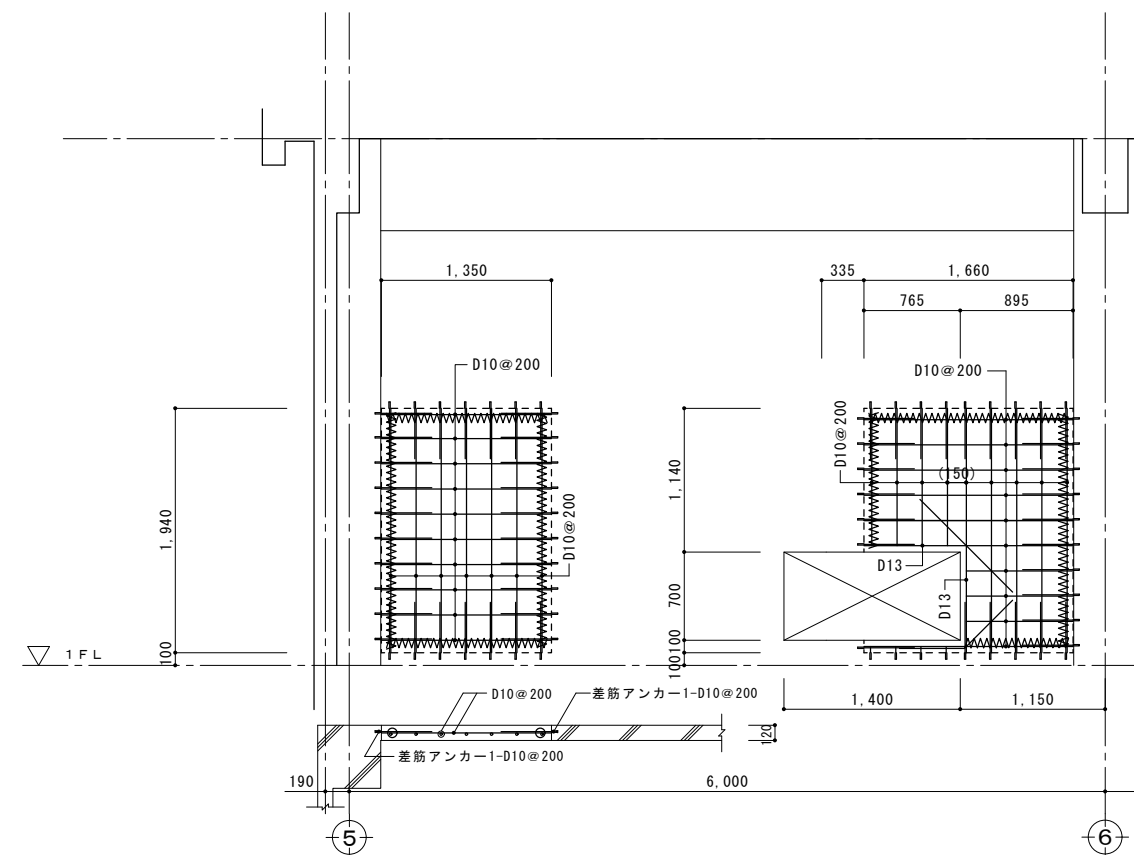


仕様	材質	仕上
平付型	アクリル樹脂 5.0mm (乳白)	溶融系インクジェット印刷 又は屋外設置対応印刷

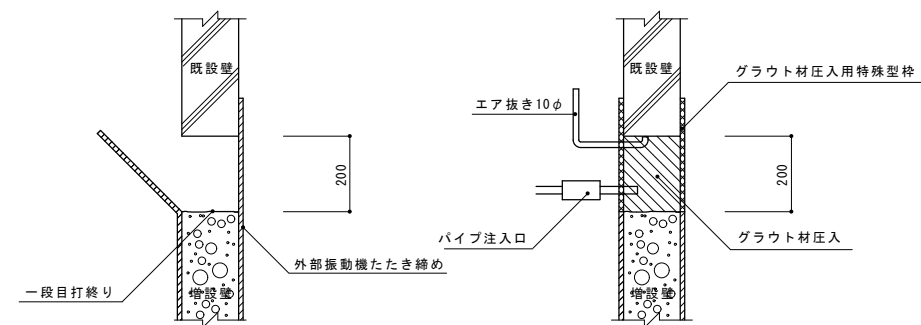
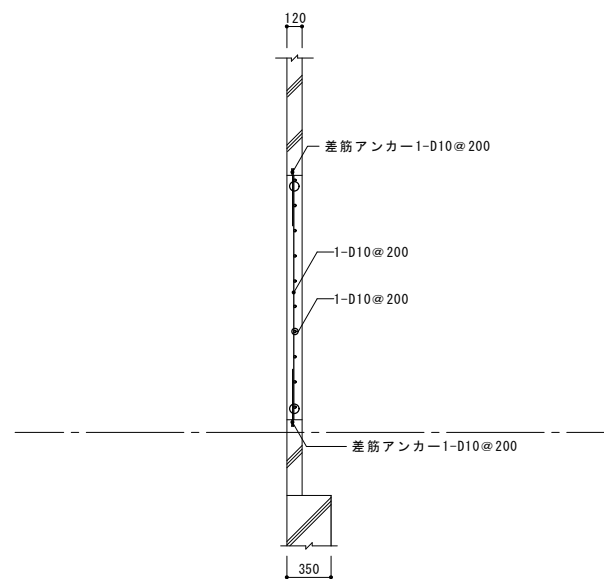
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	雑詳細図 3		
縮尺	S=1/5・20	単位 mm	図面番号 AA-22
事業主	松戸市水道部	図面番号	AA-22



7通り-2,000壁塞ぎ配筋要領図 S-1/30



C通り壁塞ぎ配筋要領図 S-1/30



壁塞ぎのコンクリート流し込み工法詳細図 1:10

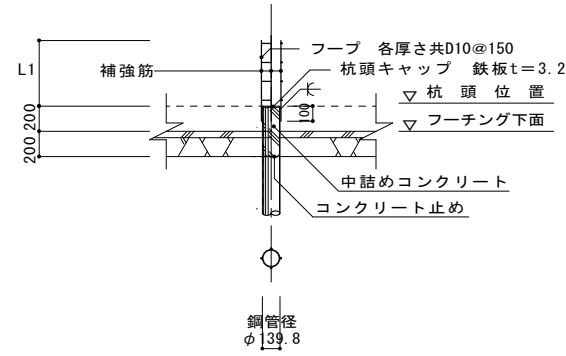
- 一般事項
- 1 コンクリート $F_c=21+(3) N/mm^2$
スラブ 18cm
 - 2 鉄筋 SD295A : D10、D13
 - 3 スパイラル筋6φ (スパイラル径75φ) @50

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	壁塞ぎ配筋要領図		
縮尺	S=1/30	単位 mm	図面番号 AS-01
事業主	松戸市水道部		AS-04

杭の種類	杭名称	杭径	上杭 (m)	中杭 (m)	下杭 (m)	杭先端 (m)	拡翼部	設計杭長 (m)	搬入杭長 (m)	本数	採用N値	長期支持力
e-pile next	P1		2.000	3.00 × 2 = 6.00m	3.00	0.200	Dw: 350mm	11.20	11.20	4	15	75 KN
		φ139.8	t=4.5mm	t=4.5mm	t=4.5mm	t=9.5mm	t=16.0mm					
		STK400	STK400	STK400	STK400	SS400						
									合計	4		

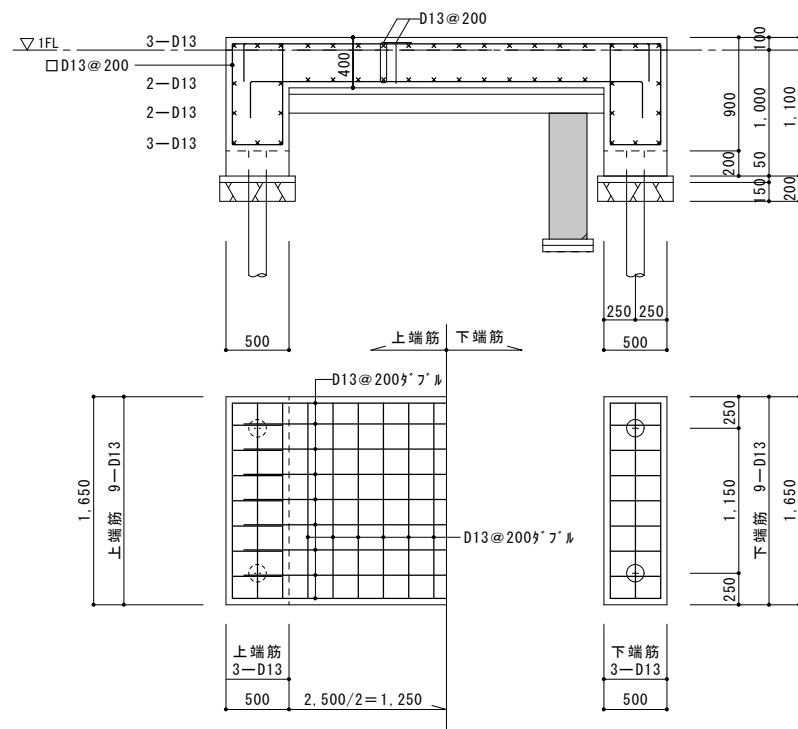
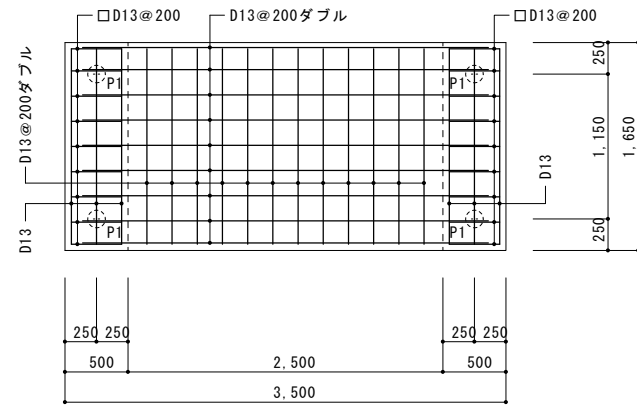
補強筋本数表

鋼管径 (mm)	鋼管厚 t (mm)	本数	L1 (mm)
φ139.8	4.5	4- D13	520

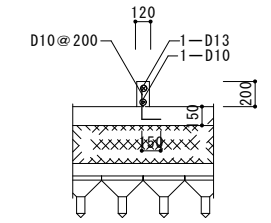
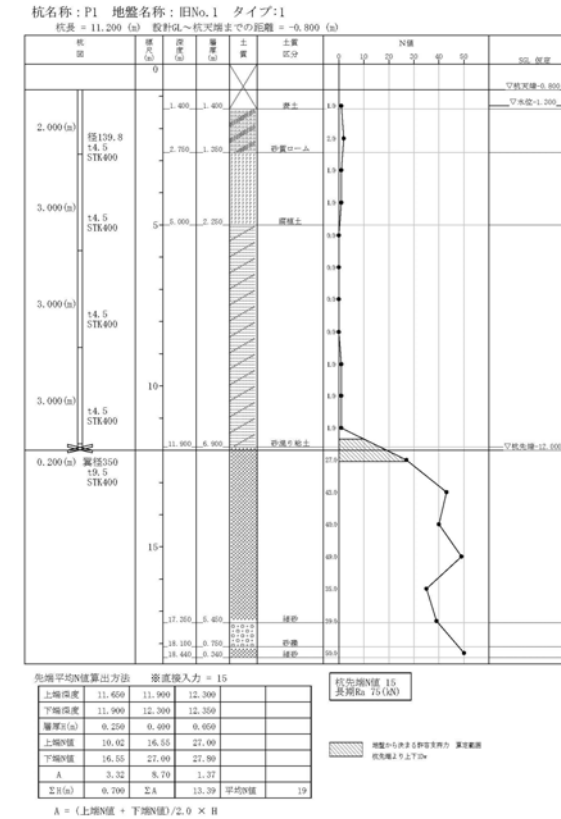


杭頭部連結法 1/30

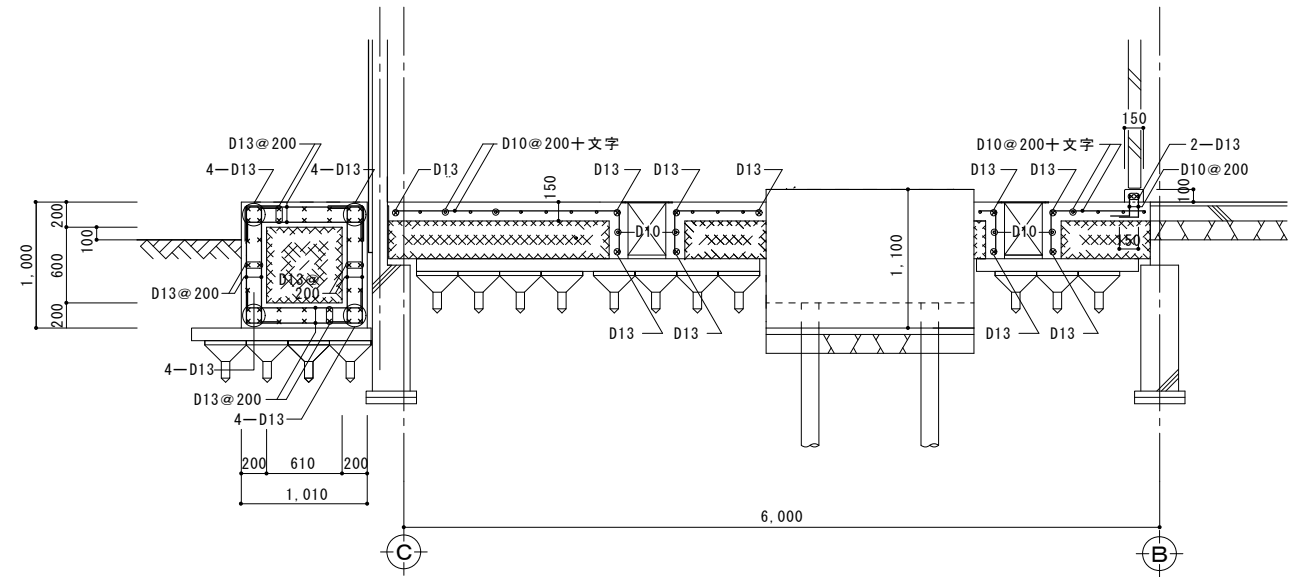
※杭の継手 : 杭の継手工法は、アーク溶接によって行う。



発電機基礎配筋図 S-1/30



防液堤配筋図 S-1/30



消音器基礎配筋図 S-1/30

土間・ピット配筋図 S-1/30

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	杭伏図・床廻り雑配筋図		
縮尺	S=1/30	単位 mm	図面番号 AS-02
事業主	松戸市水道部	図面番号	AS-04

コマ基礎構造特記仕様書・基礎工事

基礎名称 トップベース工法

1. 設計条件

設計荷重	長期	kN/m ²	短期	kN/m ²	地質	
許容支持力	長期	kN/m ²	短期	kN/m ²	強度	
地質調査						

2. 材 料

2-1 コマ型ブロック 構造物基礎として用いるコマ型ブロック（マイ独案）6連型は330型及び500型の二種類である

□ 500型 □ 330型
個数 個 面積 m²（間詰め砕石）

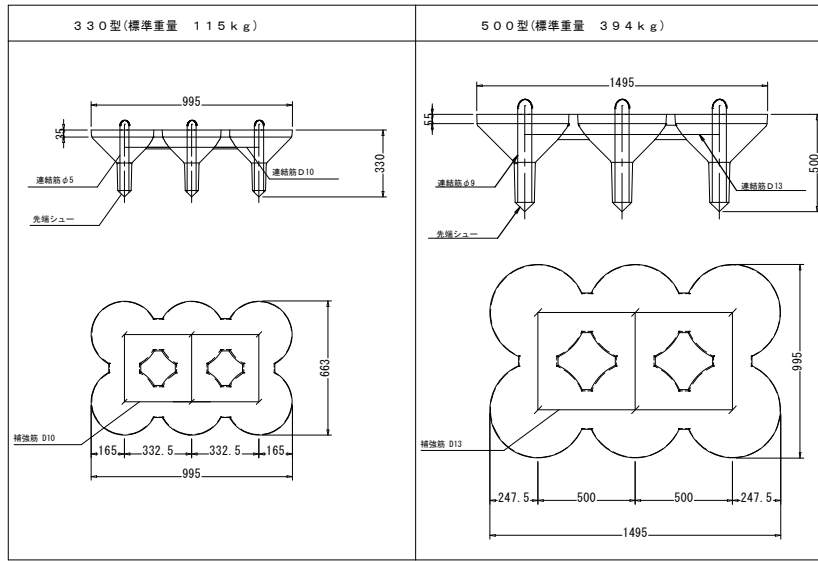


図2-1 コマ型ブロック（6連型）の形状寸法

連結筋： コマ型ブロックを吊上げるために上面に突起した円弧状の鉄筋

仕様	コマ型ブロック 330型	φ 5mm
鉄筋径	コマ型ブロック 500型	φ 9mm

補強筋： コマ型ブロックを連結するための内部補強筋

仕様	コマ型ブロック 330型	D10mm
鉄筋径	コマ型ブロック 500型	D13mm

筏ユニオン： コマ型ブロックを、相互に固定するため

仕様	コマ型ブロック 330型	D10mm
鉄筋径	コマ型ブロック 500型	D13mm

2-2 間詰め砕石

（一般例）

間詰め砕石は、原則として充填締め固めに有利な切り込み

砕石 40~0mm（記号C-40）または粒度調整砕石 40~0mm（記号M-40）、再生砕石40~0mm（記号RC-40）を使用する

（参考図）

工事名	
路線名	
施工箇所名	
図面の種類	コマ基礎特記仕様書
縮尺	
図面番号	

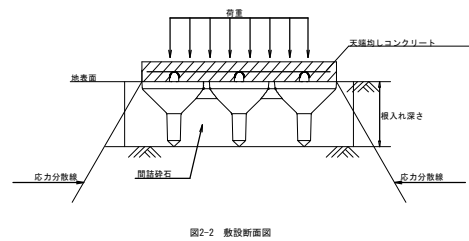
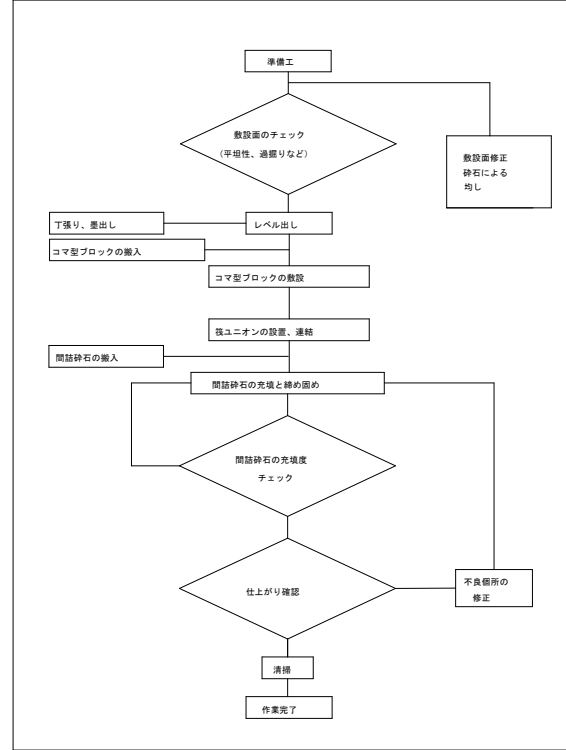


図2-2 敷設断面図

3. 標準施工法

トップベース工法施工手順フローチャート



3-1 施工手順

- 位置設定 丁張りを設置し、正確にレベルを出し行い、コマ型ブロックの設置位置を決定する。
- 振り方 標準振り方は、天端均しコンクリート下面よりコマ型ブロックのH（高さ）の寸法とする。地盤が柔らかい場合は、まきだし砕石等を行う。コマ型ブロックのH（高さ）×1/2の寸法まで、砕石を均等に敷く。
- コマ型ブロックの敷設 ラフテレーンクレーン等を用いてコマ型ブロックを垂直に設置、または圧入して正確な位置に据え付ける。（図3-2、図3-3）
- 筏ユニオンの連結 標準として筏ユニオンをコマブロック上部の連結筋の中に通し結束する。必要な場合には溶接または連結筋折曲工法による事ができる。（図3-1）筏ユニオンのラップ長は、（土木150mm以上；建築250mm以上）とする。
- 間詰め砕石の充填 間詰め砕石の充填は最大密度が得られるよう砕石を要所に小運搬してコマ型ブロックの隙間に投入して締め固める。締め固めには、パール、鉄棒、電動ピック、パイプレータ等の道具を用いて行う。根切り床と円錐部下端周辺は間詰め砕石の充填が不足がちとなるから入念に行なう。

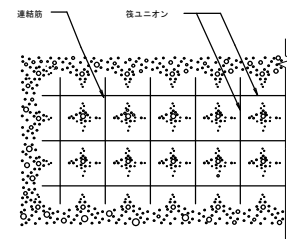


図3-1 筏ユニオンの配置

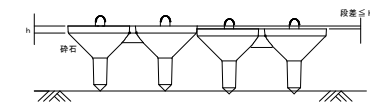


図3-2 隣接するコマ型ブロックの段差の境界

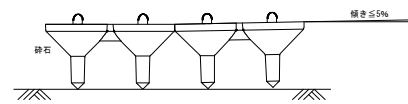


図3-3 隣接するコマ型ブロックの積みの境界

4. 特殊施工法

4-1 曲線部の施工

曲線部の施工に当たっては、基礎伏せの形態及びその組み合わせを考慮する。この場合筏ユニオンは、接続、オーバーラップ補強を行う。

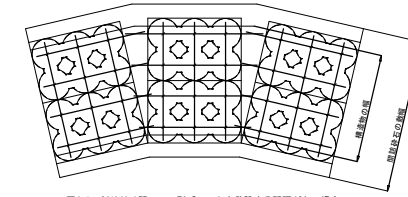


図4-1 割り付け時にコマ型ブロックを敷設する間隔がない場合

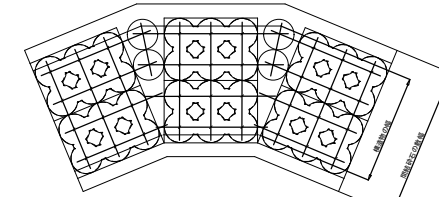


図4-2 割り付け時にコマ型ブロックを部分的に敷設する間隔がある場合（同型のコマ型ブロックを使用する）

4-2 砕石まきだし工法

足場の軟弱な地盤にコマ型ブロックを敷設する場合は、コマ型ブロックの脚部先端まで掘り下げ、脚部長さ分（H×1/2）まで砕石をまきだし水平にならした後施工する。

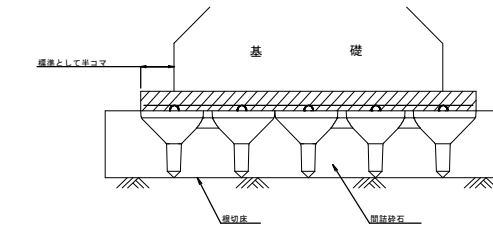


図4-3 コマ型ブロック脚部先端まで砕石をまき出した例

4-3 二層工法

二層工法は、下図を参照として施工する。

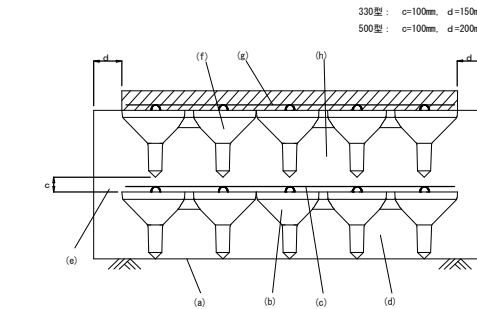


図4-4 コマ型ブロック二層工法の例並びに施工順序
(a) 根切床 (b) 一層目コマ型ブロック敷設 (c) 筏ユニオン設置、結束 (d) 一層目部分砕石充填締め固め (e) 二層目砕石まきだし (f) 二層目コマ型ブロック敷設 (g) 筏ユニオン設置、結束 (h) 二層目部分砕石充填締め固め

5. 検査・試験

製品検査

検査試験方法は、（財）日本建築センター コマ型コンクリートブロックを用いた地盤改良工法「トップベース工法」による。

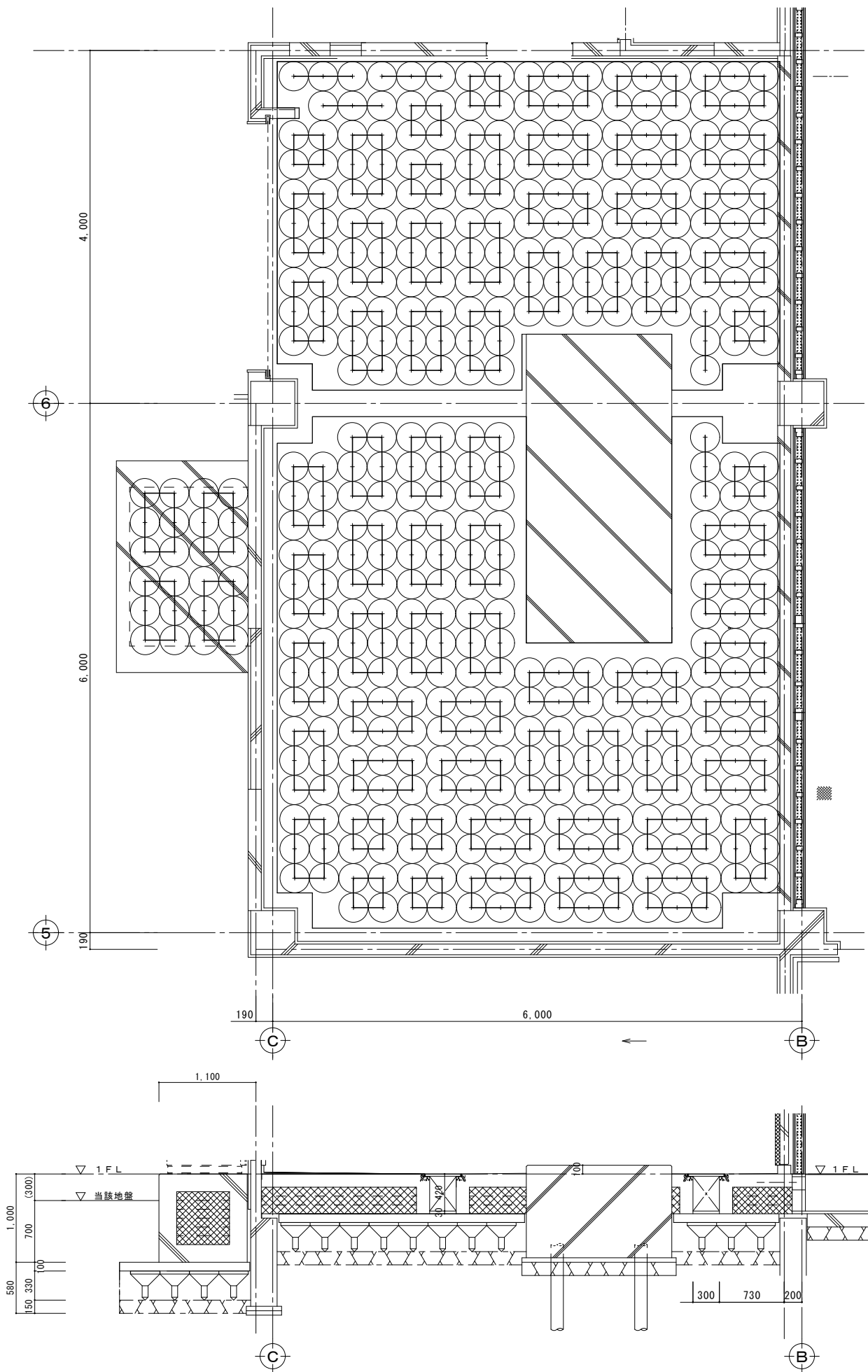
間詰め砕石締め固め試験

間詰め砕石が適切に充填されていることを確認する試験

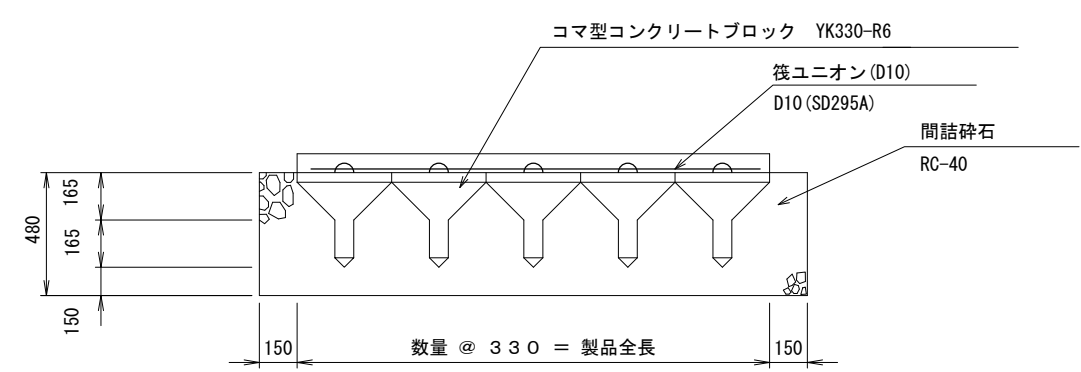
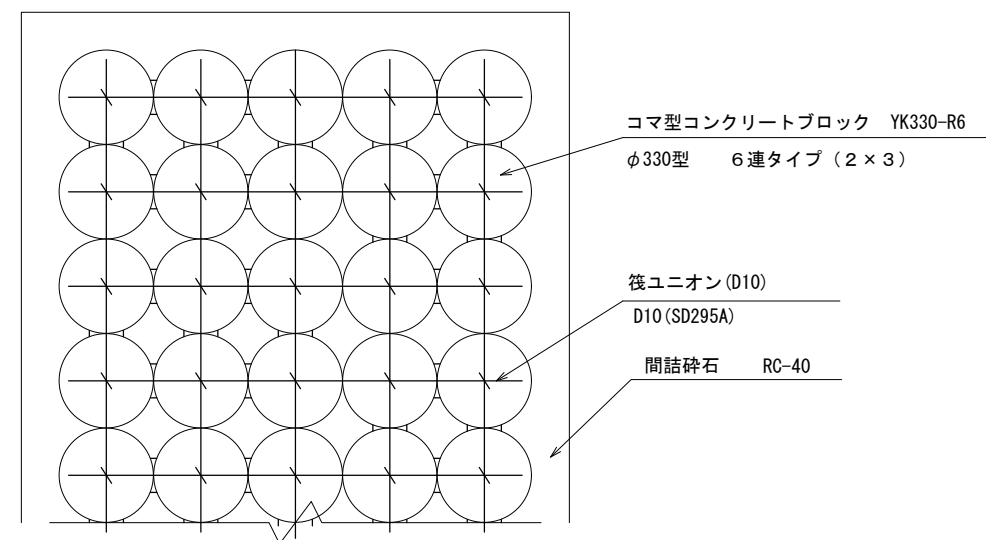
6. 施工指導

■有： □無。
施工においては、必ずトップベース工法施工管理技士の資格を有する施工指導員の指示の下、もしくは事前講習を受けた現場施工責任者の下で施工を行う。

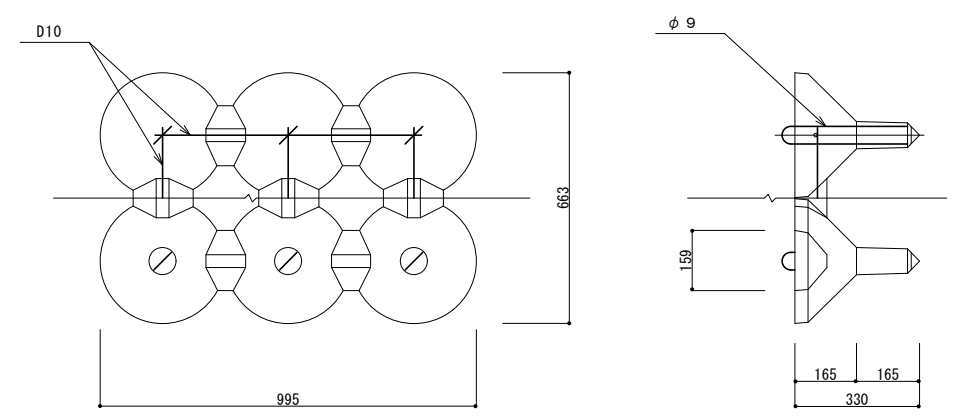
工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	コマ基礎構造特記仕様書		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 AS-03
事業主	松戸市水道部		AS-04



コマ型コンクリートブロック 標準構造図



コマ型コンクリートブロック (330型-6連タイプ) 質量115kg



材料表

品名	規格	数量	計算式
コマ型 コンクリートブロック	φ330型 (6連タイプ)	62	基 参考質量=115kg/
	φ330型 (4連タイプ)	10	基 参考質量= 76kg
	φ330型 (3連タイプ)	5	基 参考質量= 58kg
筏ユニオン	D10 (JIS G 3112)	157.90	kg 427個×0.560kg/m
間詰碎石	C-40 (JIS A 5021) 道路用碎石に相当するもの	19.20	m ³ 余盛碎石部含まず

特記事項

- 掘削工事及び捨てコンクリート打設は、トップベース工法施工範囲外
- コマ型コンクリートブロックの配置は、現場状況により変更する場合があります。
- 間詰碎石は原則として充填締固めに有利な切込砕石C-40 (JIS A 5021)

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	コマ基礎配列図		
縮尺	S=1/10・30	単位 mm	図面番号 AS-04
事業主	松戸市水道部	図面番号	AS-04

幸田配水場非常用発電設備新設工事		工事設計図		令和 年 月 (全 校)	
------------------	--	-------	--	--------------	--

特記仕様書

1. 工事概要

1. 工事場所 松戸市幸田5丁目16番地

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
配水ポンプ棟 (新築工事)	R C 造	1 階建 (地下 階 塔屋 階)		15項	

(注) 延べ面積は建築基準法による表記)

3. 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

建物外及び屋外	工 事 種 別				
工 事 種 目	工 事 種 別				
● 電灯設備	一 式				
○ 動力設備	一 式				
○ 電気自動車充電設備	一 式				
○ 電熱設備	一 式				
○ 雷保護設備	一 式				
○ 受変電設備	一 式				
○ 電力貯蔵設備	一 式				
○ 発電設備	一 式				
○ 構内情報通信網設備	一 式				
○ 構内交換設備	一 式				
○ 情報表示設備	一 式				
○ 映像・音響設備	一 式				
○ 拡声設備	一 式				
○ 誘導支援設備	一 式				
○ テレビ共同受信設備	一 式				
○ 監視カメラ設備	一 式				
○ 駐車場管制設備	一 式				
○ 防犯・入退室管理設備	一 式				
○ 火災報知設備	一 式				
○ 中央監視制御設備	一 式				
○ 構内配電線路					一 式
○ 構内通信線路					一 式
○					
○					
○					
○					
○					
○					

4. 指定部分 ○ 無 ○ 有 (対象部分 指定部分工期 年 月 日)

II. 工事仕様

1. 共通仕様

1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。

- 『公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版)』(以下「標準仕様書」という。)
- 『公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版)』(以下「改修標準仕様書」という。)
- 『公共建築設備工事標準図 (電気設備工事編) (令和4年版)』(以下「標準図」という。)

2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、機械設備工事の特記仕様書は (/) 図、建築工事の特記仕様書は (/) 図による。

2. 特記仕様

項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。

項 目	特 記 事 項
○ 適用区分	<p>建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 風圧力 <ul style="list-style-type: none"> 風速 (V=) 地表面粗度区分 () ○ 積雪荷重 <ul style="list-style-type: none"> 建設省告示第1455号における区域 別表 ()
○ 発生材の処理等について	○ 引渡しを要するもの以外は、構外に搬出し適切処理とし、搬出処理費は別途とする。
● 環境への配慮	<p>(1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針 (平成28年2月閣議決定)」による特定調達品目の場合は、判断の基準等を満たすものとする。</p> <p>(2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性 (フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性剤を除く。) が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 <p>(3) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。ただし、設計図書に規定がない場合は、監督職員と協議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

項 目	特 記 事 項																																										
● 機材の品質等	<p>(1) 本工事に使用する機材は、設計図書に定める品質及び性能他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。</p> <p>(2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること。 																																										
● 足場その他	<p>● 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。</p> <p>○ 本工事で設置する。</p> <p>「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。</p> <p>○ 内部足場 (○ 種 ○ 種) ○ 外部足場 (○ 種 ○ 種)</p> <p>既存部分の養生は、改修標準仕様書第1編第1章による。</p> <p>本工事で作成する施工図のうち、次の原因及びその様写図 (1部) を監督職員に提出する。ただし、製作図等て原因として提出ができないものは、原因に代わるものとしてよい。</p> <p>なお、施工図等の著作権に係る当該建築物に限り使用権は、発注者に移譲する。</p> <p>(機 器 製 作 図 一 式) (制 御 シ ス テ ム 図 一 式) (試 験 成 績 書 一 式) (機 器 ・ 配 管 固 定 の 施 工 図 一 式)</p>																																										
○ 養生																																											
● 施工図等	<p>● 提出部数 (原図サイズ ● A1 ○、複写図 2部) CADデータの提出 (● 要 (2部) ○ 不要) 要の場合、オリジナルファイルも提出する。 ○ 既存完成図 (CADデータ) の修正を行う。</p> <p>● 保全に関する資料 A4ファイル縦じ 2部</p> <p>● 建築物等の利用に関する説明書 A4ファイル縦じ 2部</p> <p>事前調査 (● 本工事 ○ 別途) 調査項目 (○ 既存資料調査 ○) 調査範囲 (○ 図示 ○) 調査方法 (○ 図示 ○)</p>																																										
● 完成図等																																											
● 施工調査	<p>50Hz</p> <p>設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。</p> <p>(1) 設計用水平地震力 機器の重量 [kN] に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。</p> <p>設計用標準水平震度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">○ 特定の施設</th> <th colspan="2">● 一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階、 屋上及び塔屋</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>水槽類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下、1階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【備考】上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は3階、13階以上の場合は上層4階とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの</p> <p>重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置 (防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視制御装置 ○</p> <p>(2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>はつり工事は、事前に以下の調査を行い、監督職員に報告を行うこと。 (○ 定置型設備調査 ○ X線調査 (費用は別途とする。))</p> <p>() 書きの室名は直天井の室を示し、それ以外は二重天井の室を示す。</p> <p>最大電力が500 [kW] 以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。</p>	機器種別	○ 特定の施設		● 一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5	中間階	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0	機器	1.5	1.0	1.0	0.6	地下、1階	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
機器種別	○ 特定の施設		● 一般の施設																																								
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																							
上層階、 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0																																						
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																						
中間階	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0																																						
	機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																						
地下、1階	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																						
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																						
○ はつり																																											
○ 天井仕上区分																																											
● 電気工事士																																											

項 目	特 記 事 項																														
○ 仮設備工事	<p>仮電源 (○ 受変電) (○ 発電) 仮設備期間 (○ 図示)</p>																														
● 配管本数、管路等	<p>分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は、図面と相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督職員の承認を受ける。</p>																														
● フラッシュプレート	<p>フラッシュプレートは、図面に記載がない場合、(● 金属製 (ステンレス、新金属をきむ) ○ 樹脂製) とする。</p>																														
○ 金属管の塗装	<p>下記の露出配管は塗装を行う。 (○ 屋外の配管 ○)</p>																														
○ インバータ装置の規約効率	<p>三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。</p> <table border="1"> <tr> <td>電動機出力 (kW)</td> <td>0.4</td> <td>0.75</td> <td>1.5</td> <td>2.2</td> <td>3.7</td> <td>5.5</td> <td>7.5</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>18.5</td> <td>22</td> <td>30</td> <td>37</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>規約効率 (%)</td> <td>86.0</td> <td>88.5</td> <td>92.0</td> <td>93.0</td> <td>94.0</td> <td>94.5</td> <td>94.5</td> <td>95.0</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> </tr> </table> <p>【備考】(1) 規約効率は、JEM-TR 245 「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。 (2) 規約効率は、JIS C 4212 「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、1P4K、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。</p>	電動機出力 (kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45	規約効率 (%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5
電動機出力 (kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45																	
規約効率 (%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5																	
● 機器取付高さ	<p>図面に記載がない場合は、表-1 「機器標準取付高さ」による。</p>																														
○ 接地極	<p>図面に記載がない場合は、表-2 「接地極一覧表」による。</p>																														
● 他工事又は他工種との 取り合い	<p>図面に記載がない場合は、工事区分表による。</p>																														

表-1 機器標準取付高さ

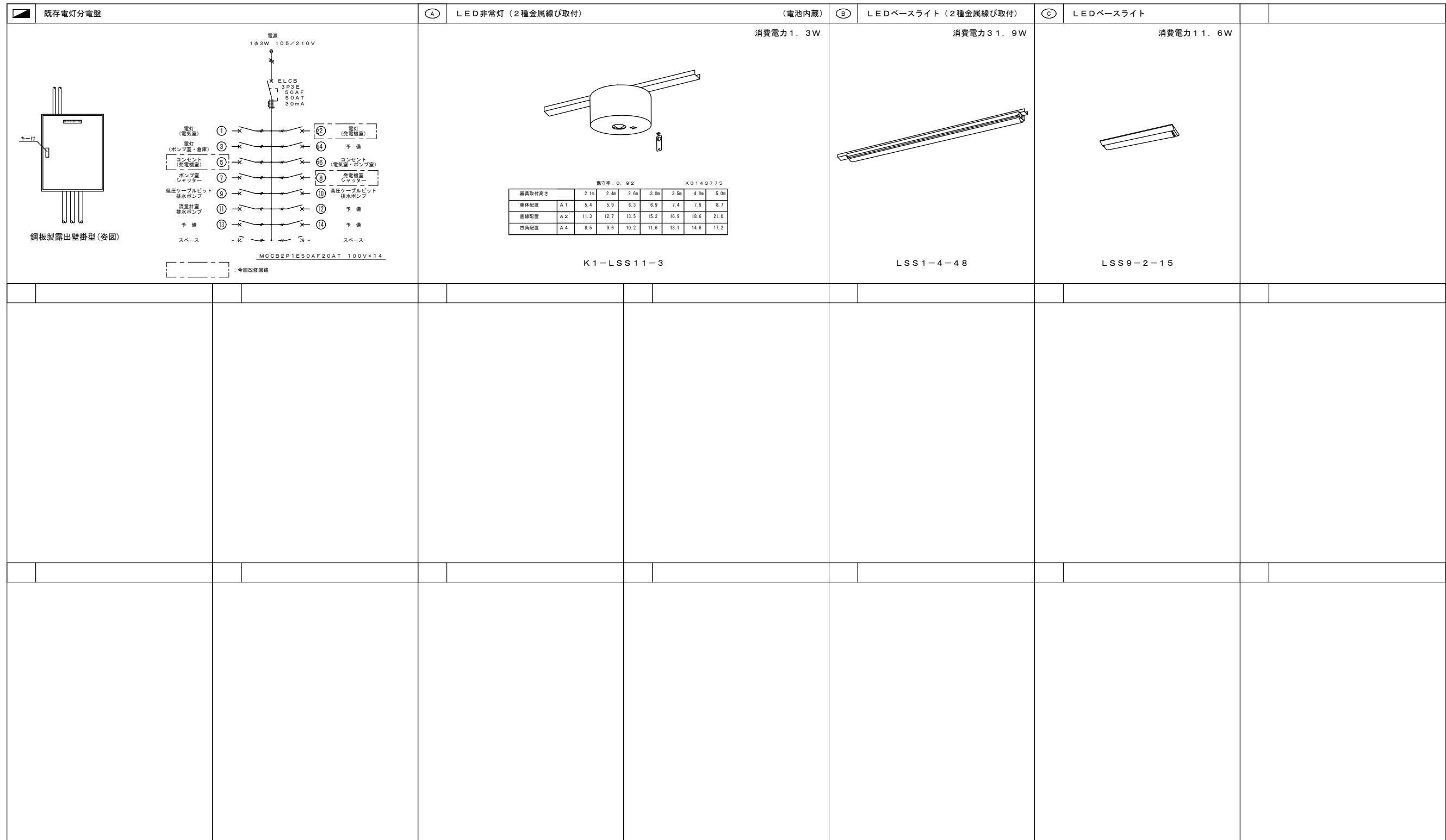
名称	測点	取付高 [mm]	名称	測点	取付高 [mm]		
積算計器	地上～窓中心	1,800～2,000	壁掛形時計	床下～中心	1,500 (上端1,900以下)		
引込開閉器	地上～中心	1,800～2,200	子時計	"	1,300 (天井高)×0.9		
分電盤	床下～中心	1,500	壁掛形スピーカ	"	(天井高)×0.9		
		(上端1,900以下)	壁付アツチネータ	"	1,300		
電力共通	拡声	スイッチ	床下～中心	1,300			
		" (多機能トイレ)	"	1,100	情報表示盤	床下～中心	(天井高)×0.9
		コンセント (一般)	"	300	壁付発信機	"	1,300
		" (和室)	"	150	ベル、プザー、チャイム	"	2,300
		" (台坐)	台上～中心	150～200	壁付押しボタン (一般)	"	1,300
		" (車椅子用)	床下～中心	900			
		ブラケット (一般)	"	2,100～2,300			
		" (鏡箱)	"	2,000～2,500			
		" (鏡上)	鏡上端～中心	150			
					外部受付用インターホン (子機)	「標準図」による。	
動力	誘導支援		壁付インターホン (上記以外)	床下～中心	1,300		
			壁付押しボタン (多機能トイレ)	"	900		
機内交換	自動火災報知	壁掛形制御盤	床下～中心	1,500 (上端1,900以下)	機器収容箱	天井下～上端	200
		開閉器箱	"	1,500	テレビ端子直列ユニット (一般)	床下～中心	300
		制御用スイッチ	"	1,300	" (和室)	"	150
		端子盤 (室内)	床下～下端	300			
		集合保安器箱	天井下～上端	200			
		壁付電話機 (一般)	床下～中心	1,300	受信機・副受信機	床下～操作部	800～1,500
					機器収容箱	"	800～1,500
					発信機	床下～中心	800～1,500
					警報ベル	"	2,300
					表示灯	"	2,100
			液化石油ガス検知器	床下～上端	300		

注) 天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。

表-2 接地極一覧表

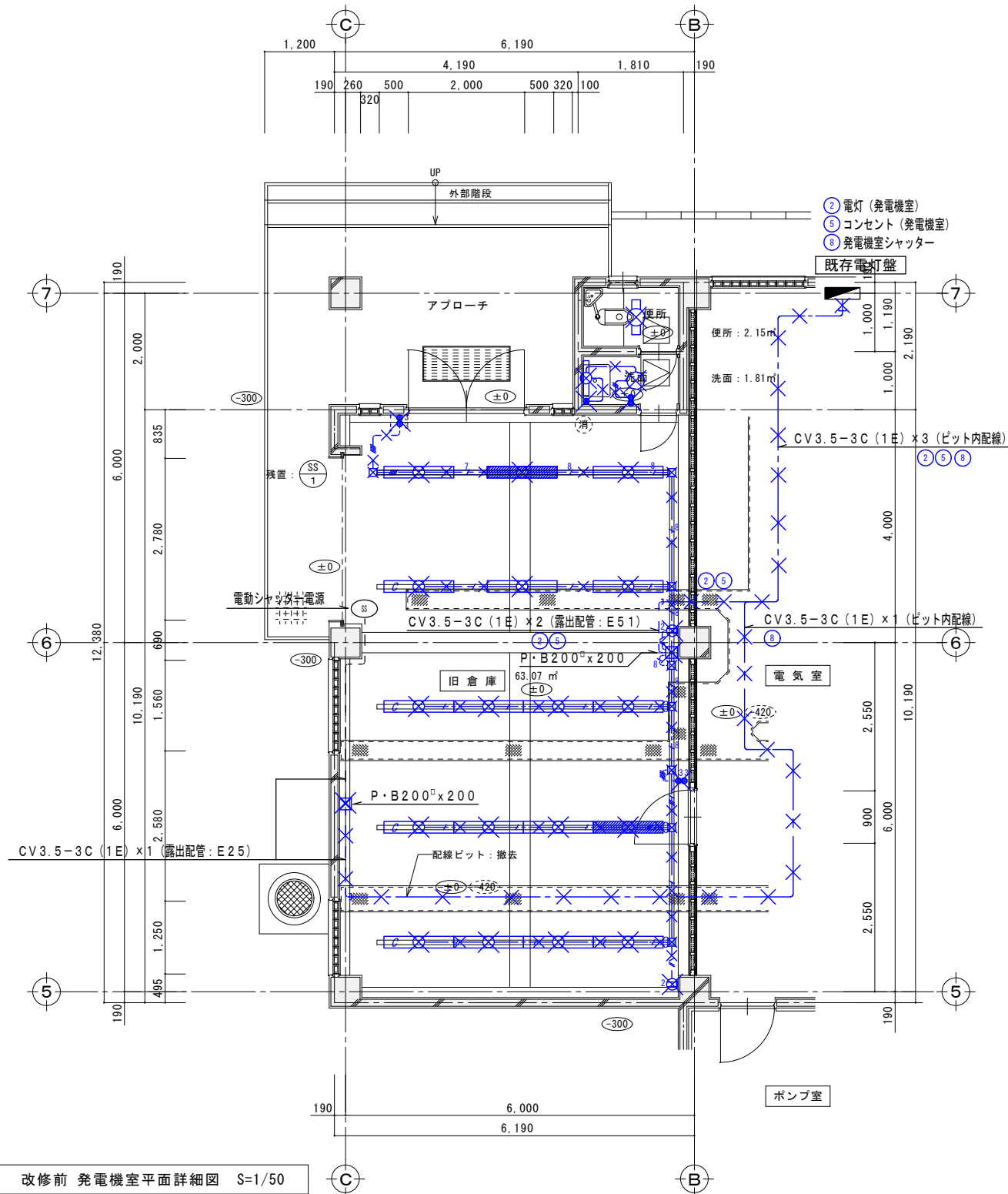
接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
○ 共同接地	E _A ・B・C・D	Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 共同接地	E _A ・C・D	10Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ A種	E _A	10Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ B種	E _B	Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ C種	E _C	10Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ D種	E _D	100Ω 以下	EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1
○ D種	E _D	100Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 高圧避雷器用	E _{LH}	10Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 交換装置用	E _L	10Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 通信用 (10Ω)	E _A	10Ω 以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 通信用 (100Ω)	E ₀	100Ω 以下	EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1
○ 電話引込口の保安器	E _L	100Ω 以下	EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1
○ 測定用	E ₀	Ω 以下	EB (D=10, L=1,500 又は W=30, L=1,200) ×1

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事				
図面名称	建築電気設備特記仕様書				
縮尺	FREE	単位	mm	図面番号	AE-01 / AE-03
事業主	松戸市水道部				



工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	建築電気設備工事 照明器具図		
縮尺	FREE	単位 mm	図面番号 AE-02
事業主	松戸市水道部		AE-03

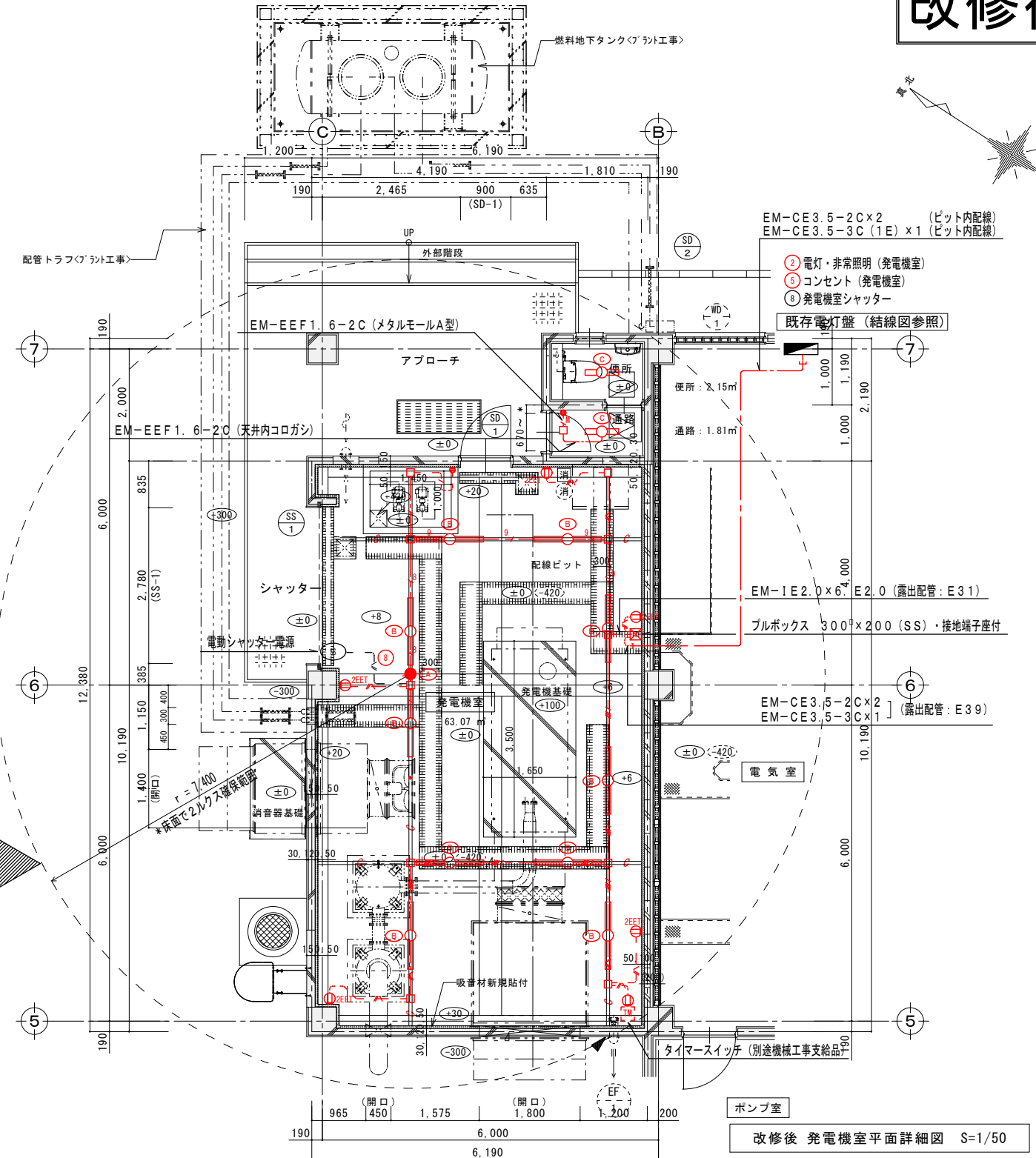
改修前



改修前 発電機室平面詳細図 S=1/50

(注記)	(凡例)
1・照明器具、配線器具及び配線の撤去を行う。	⊗ : 蛍光灯 FL40W-1 (笠付・金属線び取付) 16台
⊗ : 1V2.0×2. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 同上器具 非常照明付 2台
⊗ : 1V2.0×3. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 直付蛍光灯 FL20W-1 1台
⊗ : 1V2.0×5. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 壁付蛍光灯 FL15W-1 (笠付) 1台
⊗ : 1V2.0×7. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : シーリングライト(天井付) 1台
⊗ : 1V2.0×8. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 埋込スイッチ(1P15A×1) 1個
⊗ : 空配管 (2種金属線び40×30)	⊗ : 埋込スイッチ(1P15A×2) 1個
⊗ : 1V2.0×5 (露出配管:E25)	⊗ : 埋込スイッチ(3W15A×2) 2個
⊗ : 1V2.0×2. E2.0 (露出配管:E19)	⊗ : 埋込コンセント(2P15A×2) 2個
⊗ : 1V2.0×8. E2.0 (露出配管:E31)	

改修後

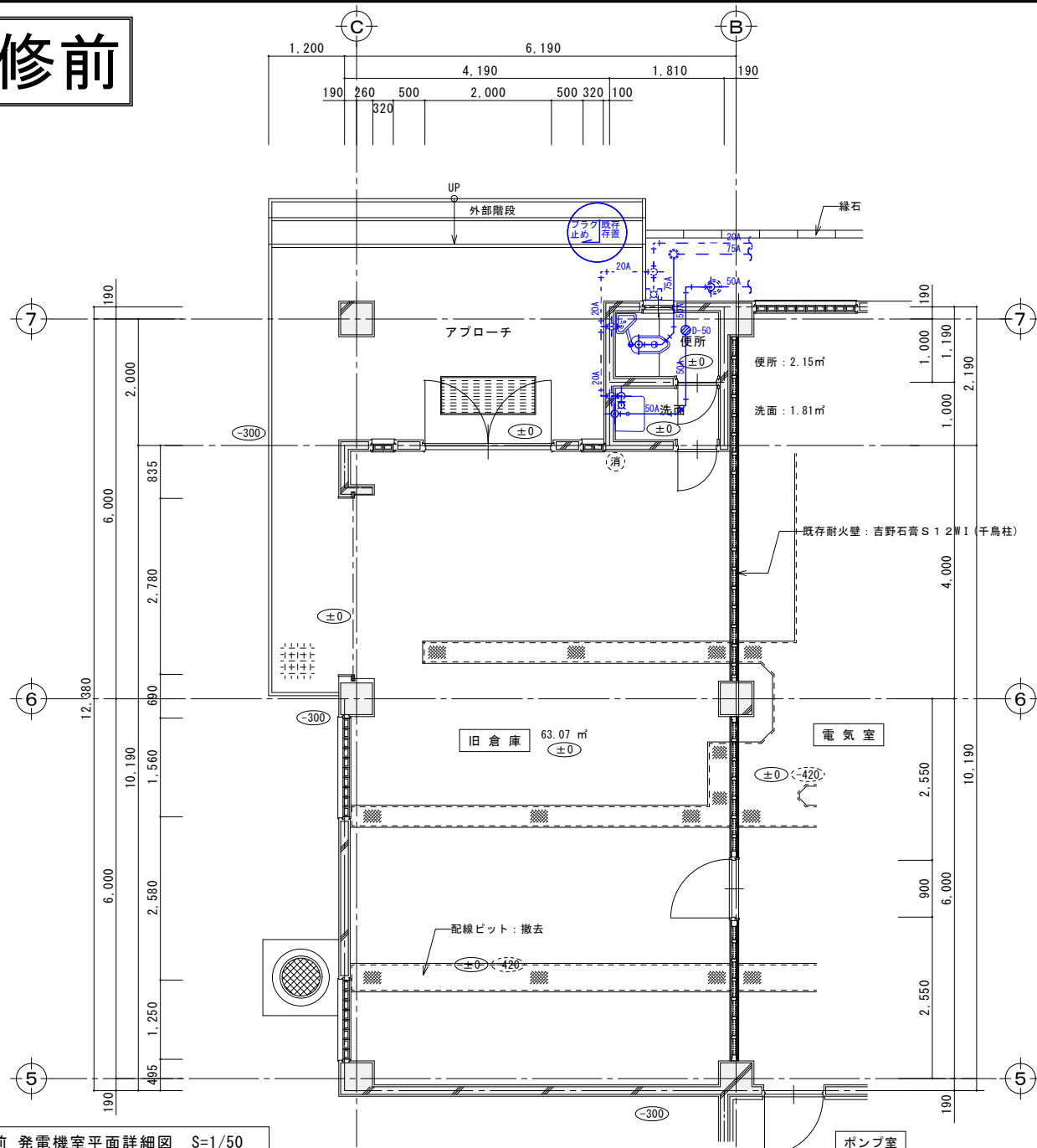


改修後 発電機室平面詳細図 S=1/50

(注記)	(凡例)
1・特記なき配管配線は下記による。	⊗ : LED非常照明(金属線び) 取付高さFL+3500 1台
⊗ : EM-IE2.0×2. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : LEDベースライト(金属線び) 取付高さFL+3500 10台
⊗ : EM-IE2.0×2. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : LEDベースライト 2台
⊗ : EM-IE2.0×4. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 残置ダウンライト(防水型) 3台
⊗ : EM-IE2.0×6. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 埋込スイッチ(1P15A×1) 2個
⊗ : EM-IE2.0×7. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 埋込コンセント(2P15A×1) 1個
⊗ : EM-IE2.0×8. E2.0 (2種金属線び40×30)	⊗ : 埋込コンセント(2P15AE極付×2+接地端子) 5個
⊗ : 空配管 (2種金属線び40×30)	⊗ : タイマースイッチ (別途機械工事支給品)
⊗ : EM-IE2.0×2 (露出配管:E19)	⊗ : コーナーボックス(金属モールA型)
⊗ : EM-IE2.0×3. E2.0 (露出配管:E25)	⊗ : 2種金属線び40×30(溶融亜鉛メッキ鋼板製)
⊗ : EM-IE2.0×2. E2.0 (露出配管:E19)	⊗ : 同上ジャンクションボックス

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	建築電気設備工事 改修平面図		
縮尺	S=1/50	単位	mm
図面番号	AE-03	図面番号	AE-03
事業主	松戸市水道部		

改修前

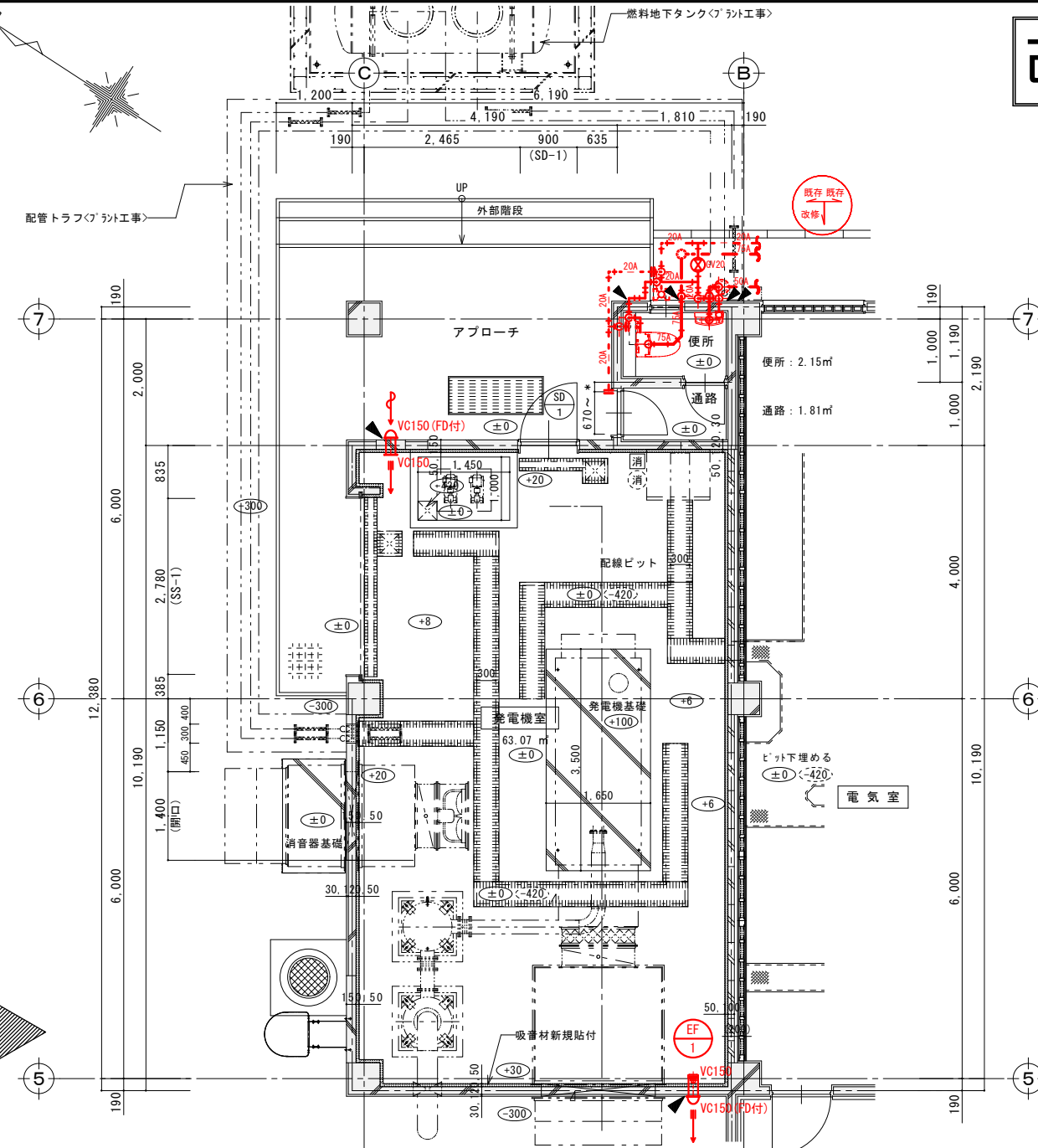


改修前 発電機室平面詳細図 S=1/50

器具表 (改修前)

機器名	形式仕様	便所	洗面	合計	備考
和風大便器	洗浄タンク大便器	1	1	1	撤去
洗面器	壁掛洗面器		1	1	撤去

改修後



改修後 発電機室平面詳細図 S=1/50

器具表 (改修後)

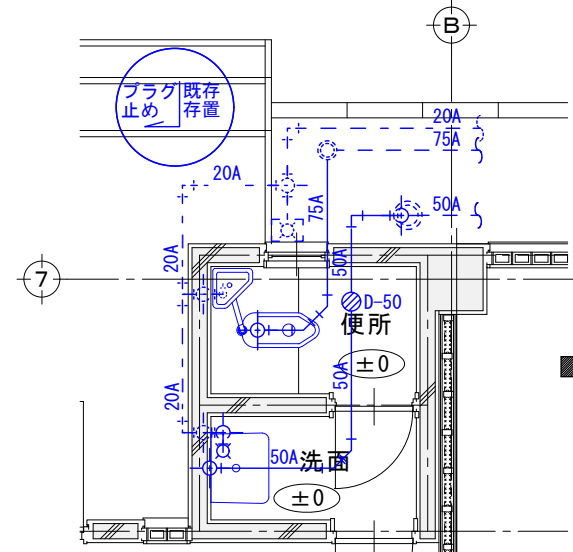
機器名	形式仕様 (参考: TOTO)	便所	合計	備考
洋風大便器	洗浄タンク大便器 (CS232B+SH232BA) 普通便座 (TC301)	1	1	
手洗器	壁掛手洗器 (LSL870APR) その他標準付属品共	1	1	

機器表 (改修後)

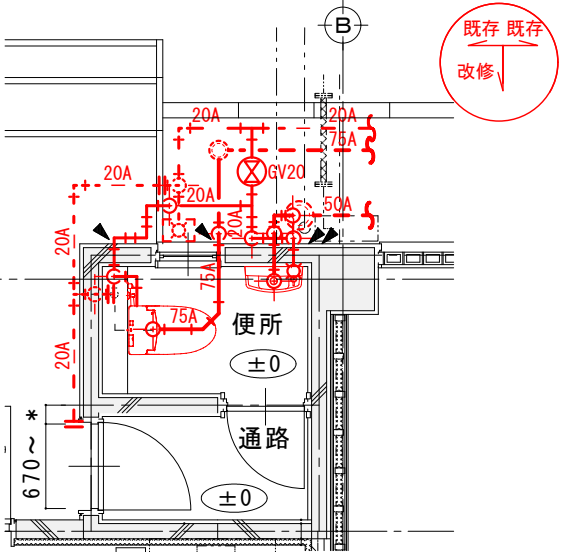
記号	機器名称	仕様	電気容量		台数	設置場所		
			相	電圧 (V)		出力 (W)	階	室名
EF-1	排気ファン	形式: パイプ用ファン (丸型グリル) 能力: 150φ × 60m³/h × 3Pa 付属品: タイマー付コントロールスイッチ 電源コード その他標準付属品共	1	100	5.9	1	1	発電機室

- 注記
 1. 機器能力は表示能力以上とする。
 2. ▲部をはつり補修部とする。

工事名	幸田配水場非常用発電設備新設工事		
図面名称	建築機械設備工事 改修平面図		
縮尺	S=1/50	単位 mm	図面番号 AM-02
事業主	松戸市水道部	図面番号	AM-02



水廻り拡大図 (改修前) S=1/30



水廻り拡大図 (改修後) S=1/30